

秋田県文化財調査報告書第326集

松 木 台 Ⅲ 遺 跡

— 日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ —

2 0 0 1 ・ 1 2

秋 田 県 教 育 委 員 会

まつ 松 木 き だい 台 III 遺 跡

— 日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IX —

2001・12

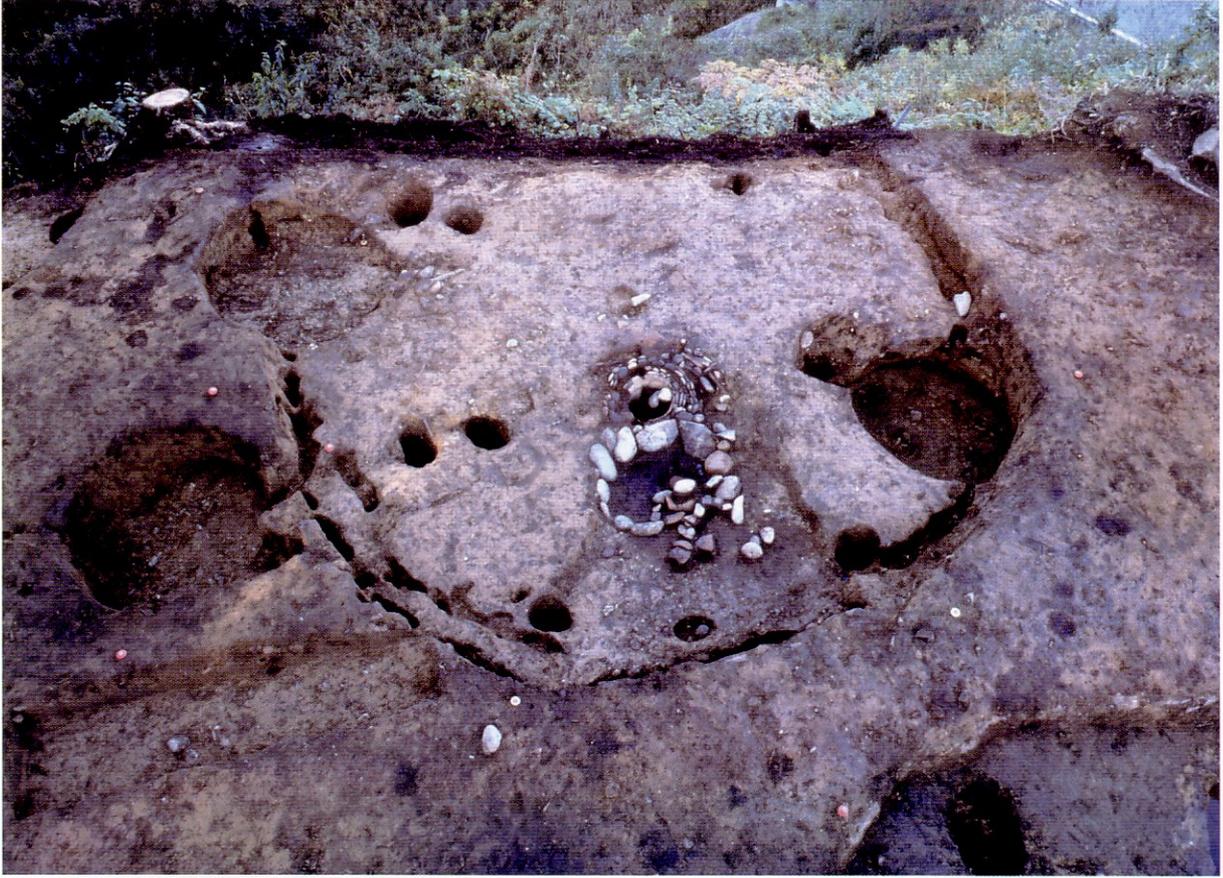
秋田県教育委員会



1. 空中写真—調査後の様子（中央がA区、上がB区、右が岩見川）



2. 空中写真—A区の調査後の様子



1. S I 152 竪穴住居跡 完掘後 (南から)



2. S I 152 竪穴住居跡 複式炉構築状況 (北から)



1. 出土土器 右S I 126豎穴住居跡（A区） 器高 34.5cm
左S I 5054豎穴住居跡（B区） 器高 25.2cm



2. A区出土土器 右S I 152豎穴住居跡 器高 36.2cm 左S I 140豎穴住居跡 器高 25.5cm



1. A区出土靴形土器 S I 86 竪穴住居跡 長さ 9.6cm 高さ 5.4cm



2. A区出土斧状土製品
S I 57 竪穴住居跡 長さ 12.4cm



3. A区出土石製品

序

秋田県には先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されており、これまでに約4,500箇所の遺跡が発見・周知されております。これらの埋蔵文化財は、歴史や伝統文化を理解し、より良き文化を創造する上で欠くことのできないものであり、また現代に生きる私たちの責任で保護し、未来へと継承していくべきものであります。

このほど、秋田県の高速度交通体系の整備に伴い、平成9年7月に開通した秋田自動車道に続き、日本海沿岸東北自動車道の工事が進められており、この計画路線内に多くの遺跡が存在することが確認されました。この工事に先立ち、河辺町に所在する松木台Ⅲ遺跡の記録保存を図るために発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代には広場を囲むように竪穴住居跡や掘立柱建物跡が配置されたムラがあったこと、平安時代にも竪穴住居跡があったことがわかりました。

本書は、平成9・10年度に実施した発掘調査成果をまとめたものであります。埋蔵文化財に対する理解と歴史研究の上で役立つことを期待いたします。

最後に、本調査の実施と報告書の刊行に際し、御協力をいただいた日本道路公団東北支社秋田工事事務所、河辺町教育委員会、雄和町教育委員会をはじめ関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成13年12月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

例 言

- 1 本書は平成9年度と10年度に発掘調査を実施した、日本海沿岸東北自動車道河辺～岩城間の建設事業に係る松木台Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。なお本遺跡は、昭和60年にも秋田県埋蔵文化財センターで発掘調査を実施しており、秋田県教育委員会から『秋田県文化財調査報告書第150集 東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ 1986』として刊行されている。
- 2 調査の内容については、既にその一部が公表されているが、本報告書を正式なものとする。
- 3 本書の挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1997年版』を使用した。
- 4 鉄滓については穴沢義功氏から実見して頂き、コメントを賜った。記して感謝申し上げる。
- 5 第5章の自然科学分析は下記の機関に委託した。
放射性炭素年代測定、火山灰の屈折率測定、出土炭化材の樹種同定 ……株式会社 古環境研究所
残存脂肪酸分析 ……帯広畜産大学 中野益男、ズコウシャ 中野寛子、門 利恵、星山賢一
黒曜石産地同定 ……京都大学原子炉実験所 藁科哲男
石器石質鑑定 ……パリーノ・サーヴェイ株式会社
- 6 遺物（土器・石器）の実測図作成の一部と、遺物写真撮影はシン技術コンサル株式会社に委託した。
- 7 本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「羽後和田」（第1図）と50,000分の1「羽後和田」（第2図）、日本道路公団提供の1,000分の1「日本海沿岸東北自動車道河辺工事」平面図である。日本道路公団提供の地図は、グリッド杭打設成果品とを合成して作成した（付図1）。
- 8 本書の原稿執筆は、第4章の遺構に関しては各担当から提出された「遺構略図カード」と提出後に計測したデータを基に、竪穴住居跡は項目を一部再構成し、加筆・修正し、完成稿とした。それ以外の遺構については遺構観察表にまとめて掲載した。これらの作業は柴田陽一郎が行った。以上の遺構の草稿前段階における各種データの収集・集計と竪穴住居跡遺物分布図作成は黒澤幸子が行った。遺物の分類と草稿執筆は、石器については小西秀平が行い、それを柴田が加筆・修正した。
第2章の「遺跡の位置と立地」は松本昌樹が、「遺跡の位置と立地」は泉田健が執筆し、『秋田県文化財調査報告書295集 上野遺跡—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財文化財発掘調査書Ⅰ—2000 秋田県教育委員会』に掲載されたものを、一部加筆・修正して再掲載したものである。
第2章の「歴史的環境」は藤原司が執筆し、『秋田県文化財調査報告書305集 奥椿岱遺跡—秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財文化財発掘調査書— 2000 秋田県教育委員会』に掲載されたものを、一部加筆・修正して再掲載したものである。
執筆分担をまとめると以下のとおりである。
第1章第2節 小西秀平、第2章第1節泉田健、第2章第2節 松本昌樹、第2章第3節 藤原司、
第3章第2・3節 藤澤昌、第4章第1節石器の分類基準 小西秀平、
第1章第1節・第3章第1節・第4章第1節土器の分類基準・第4章第2節～第4節、第6章 柴田陽一郎
本報告書の本文・挿図と写真図版の選択・レイアウト、全体の編集は柴田が行なった。
- 9 本遺跡調査において出土した資料、整理作業で生じた各種のデータ類は、秋田県埋蔵文化財センターが一括保管している。
- 10 本書を成すにあたり、以下の方々からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げる。

(五十音順、敬称略)

荒川隆史 荒木 隆 井上喜久男 岩見誠夫 小島幸夫 岡村道男 川村 正 坂井秀弥
鈴鹿良一 富樫秀之 能登谷宣康 藤原姫敏 宮本康男 森 幸彦 八木光則 綿田弘実
渡辺 均

凡 例

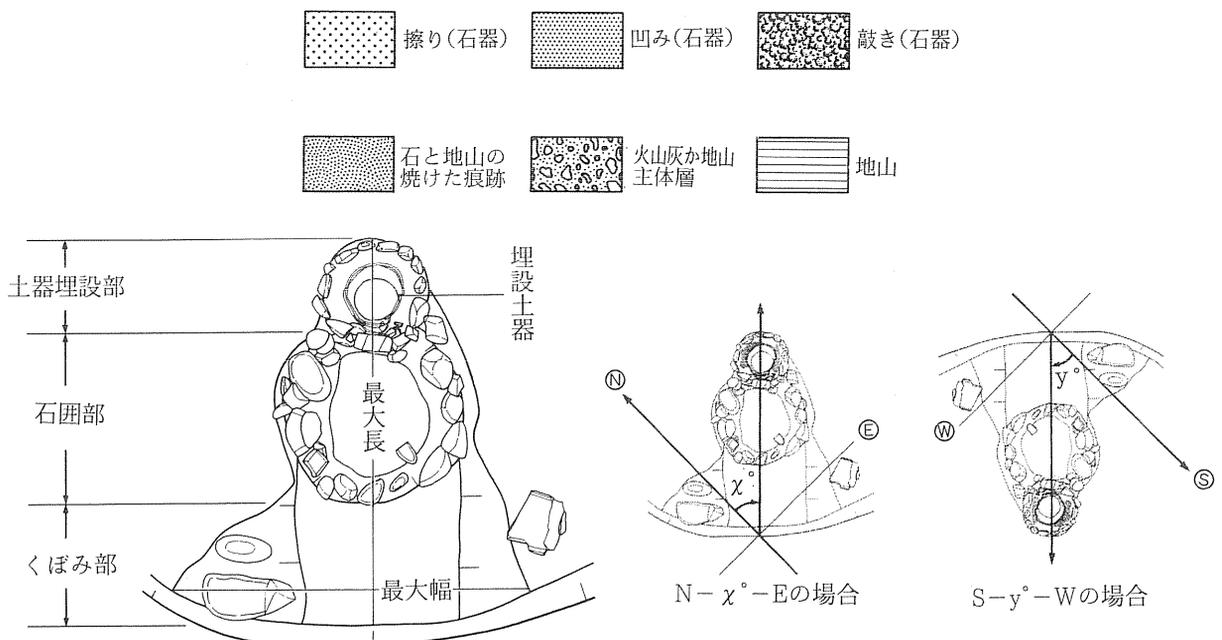
- 1 本報告書に収載した遺跡実測図に付した方位は座標北である。
- 2 土層注記は基本層位にローマ数字を、各遺構堆積土には算用数字を用いた。
- 3 各遺物の記載(本文・挿図・表・写真共)にあたり、例えば56-10としているものは、第56図10であることを指す。
- 4 遺構の遺物分布図の記号は土器は「●」、石器は「▲」、ミニチュア土器は「□」、円盤状土製品は「■」、他の土製品は「○」、石製品は「△」である。遺物分布図中の遺物番号は挿図中の遺物番号と同じである。

遺構の略号は以下に示すとおりである。

SI 竪穴住居跡 SB 掘立柱建物跡 SA 柱列 SK 土坑 SKF フラスコ状土坑
SD 溝跡 SR 土器埋設遺構 SN 焼土遺構 SKP (あるいは「P」と略記) 柱穴

なお土層断面図の註記における「K」とは攪乱層(土)を指す。遺構断面図下のスクリーントーンは地山(第IV層)を指す。

挿図中における遺構・遺物に係る凡例と炉の計測基準は以下のとおりである。複式炉の各部分名称は、煩雑さを避けるため下図のように記述した。また、複式炉の軸線方向については、炉の最大長を示す軸線と、南北の方位が交わる角度を右下図のように計測し、その値を $N-X^\circ-E$ や $S-y^\circ-W$ のように表した。



目 次

卷頭図版	第3節 B区の調査の記録……………57
序	(1) 検出遺構と出土遺物
例言	①縄文時代の遺構と遺物
凡例	②平安時代の遺構と遺物
第1章 はじめに	③時期不明の遺構
第1節 発掘調査に至るまで…………… 1	(2) 遺構外出土遺物
第2節 調査の組織と構成…………… 1	第4節 D・E・G区の調査の記録……………60
第2章 遺跡の立地と環境	第5章 自然科学的分析
第1節 遺跡の位置と立地…………… 3	第1節 松木台Ⅲ遺跡(A区)における
第2節 周辺の地形…………… 3	放射性炭素年代測定 ……………318
第3節 歴史的環境…………… 4	第2節 松木台Ⅲ遺跡(A区)における
第3章 発掘調査の概要	屈折率測定 ……………322
第1節 遺跡の概観……………12	第3節 松木台Ⅲ遺跡(A区)出土
第2節 調査の方法……………12	炭化材の樹種同定 ……………324
第3節 調査の経過……………12	第4節 松木台Ⅲ遺跡から出土した
第4章 調査の記録	土坑に残存する脂肪の分析 ……327
第1節 土器・石器の分類基準……………18	第5節 松木台Ⅲ遺跡出土の
第2節 A区の調査の記録……………25	黒曜石製遺物の原材産地分析 ……344
(1) 検出遺構と出土遺物	第6節 松木台Ⅲ遺跡出土
①旧石器時代の遺物	石器石質鑑定報告 ……………358
②縄文時代の遺構と遺物	第6章 まとめ
③平安時代の遺構と遺物	図 版
④近世以降の遺構と遺物	抄 録
(2) 遺構外出土遺物	

挿図目次

第1図	遺跡位置図	7	第41図	A区検出遺構SI(37)	97
第2図	松木台Ⅲ遺跡周辺の遺跡分布図	8	第42図	A区検出遺構SI(38)	98
第3図	岩見川流域段丘面分布図	9	第43図	A区検出遺構SI(39)	99
第4図	基本土層図	13	第44図	A区検出遺構SI(40)	100
第5図	A区検出遺構SI(1)	61	第45図	A区検出遺構SI(41)	101
第6図	A区検出遺構SI(2)	62	第46図	A区検出遺構SI(42)	102
第7図	A区検出遺構SI(3)	63	第47図	A区検出遺構SI(43)	103
第8図	A区検出遺構SI(4)	64	第48図	A区検出遺構SI(44)	104
第9図	A区検出遺構SI(5)	65	第49図	A区検出遺構SI(45)	105
第10図	A区検出遺構SI(6)	66	第50図	A区検出遺構SI(46)	106
第11図	A区検出遺構SI(7)	67	第51図	A区検出遺構SI(47)	107
第12図	A区検出遺構SI(8)	68	第52図	A区検出遺構SI(48)	108
第13図	A区検出遺構SI(9)	69	第53図	A区検出遺構SK(1)	109
第14図	A区検出遺構SI(10)	70	第54図	A区検出遺構SK(2)	110
第15図	A区検出遺構SI(11)	71	第55図	A区検出遺構SK(3)	111
第16図	A区検出遺構SI(12)	72	第56図	A区検出遺構SK(4)	112
第17図	A区検出遺構SI(13)	73	第57図	A区検出遺構SK(5)	113
第18図	A区検出遺構SI(14)	74	第58図	A区検出遺構SK(6)	114
第19図	A区検出遺構SI(15)	75	第59図	A区検出遺構SK(7)	115
第20図	A区検出遺構SI(16)	76	第60図	A区検出遺構SK(8)	116
第21図	A区検出遺構SI(17)	77	第61図	A区検出遺構SK(9)	117
第22図	A区検出遺構SI(18)	78	第62図	A区検出遺構SK(10)	118
第23図	A区検出遺構SI(19)	79	第63図	A区検出遺構SK(11)	119
第24図	A区検出遺構SI(20)	80	第64図	A区検出遺構SK(12)	120
第25図	A区検出遺構SI(21)	81	第65図	A区検出遺構SK(13)	121
第26図	A区検出遺構SI(22)	82	第66図	A区検出遺構SK(14)	122
第27図	A区検出遺構SI(23)	83	第67図	A区検出遺構SK(15)	123
第28図	A区検出遺構SI(24)	84	第68図	A区検出遺構SK(16)	124
第29図	A区検出遺構SI(25)	85	第69図	A区検出遺構SN(1)	125
第30図	A区検出遺構SI(26)	86	第70図	A区検出遺構SN(2)	126
第31図	A区検出遺構SI(27)	87	第71図	A区検出遺構SN(3)	127
第32図	A区検出遺構SI(28)	88	第72図	A区検出遺構SB(1)	128
第33図	A区検出遺構SI(29)	89	第73図	A区検出遺構SB(2)	129
第34図	A区検出遺構SI(30)	90	第74図	A区検出遺構SB(3)	130
第35図	A区検出遺構SI(31)	91	第75図	A区検出遺構SB(4)	131
第36図	A区検出遺構SI(32)	92	第76図	A区検出遺構SB(5)	132
第37図	A区検出遺構SI(33)	93	第77図	A区検出遺構SB(6)	133
第38図	A区検出遺構SI(34)	94	第78図	A区検出遺構SB(7)	134
第39図	A区検出遺構SI(35)	95	第79図	A区検出遺構SB(8)	135
第40図	A区検出遺構SI(36)	96	第80図	A区検出遺構SB(9)	136

第81図	A区検出遺構SB(10)	137	第125図	A区遺構内出土土器類(38)	190
第82図	A区検出遺構SB(11)	138	第126図	A区遺構内出土土器類(39)	191
第83図	A区検出遺構SB(12)	139	第127図	A区遺構内出土土器類(40)	192
第84図	A区検出遺構SKT(1)	140	第128図	A区遺構内出土土器類(41)	193
第85図	A区検出遺構SKT(2)	141	第129図	A区遺構内出土土器類(42)	194
第86図	A区検出遺構SKT(3)	142	第130図	A区遺構内出土土器類(43)	195
第87図	A区検出遺構SKT(4)	143	第131図	A区遺構内出土土器類(44)	196
第88図	A区遺構内出土土器類(1)	153	第132図	A区遺構内出土土器類(45)	197
第89図	A区遺構内出土土器類(2)	154	第133図	A区遺構内出土土器類(46)	198
第90図	A区遺構内出土土器類(3)	155	第134図	A区遺構内出土土器類(47)	199
第91図	A区遺構内出土土器類(4)	156	第135図	A区遺構内出土土器類(48)	200
第92図	A区遺構内出土土器類(5)	157	第136図	A区遺構内出土土器類(49)	201
第93図	A区遺構内出土土器類(6)	158	第137図	A区遺構内出土土器類(50)	202
第94図	A区遺構内出土土器類(7)	159	第138図	A区遺構内出土土器類(51)	203
第95図	A区遺構内出土土器類(8)	160	第139図	A区遺構内出土土器類(52)	204
第96図	A区遺構内出土土器類(9)	161	第140図	A区遺構外出土土器類(1)	205
第97図	A区遺構内出土土器類(10)	162	第141図	A区遺構外出土土器類(2)	206
第98図	A区遺構内出土土器類(11)	163	第142図	A区遺構外出土土器類(3)	207
第99図	A区遺構内出土土器類(12)	164	第143図	A区遺構外出土土器類(4)	208
第100図	A区遺構内出土土器類(13)	165	第144図	A区遺構外出土土器類(5)	209
第101図	A区遺構内出土土器類(14)	166	第145図	A区遺構外出土土器類(6)	210
第102図	A区遺構内出土土器類(15)	167	第146図	A区出土土製品・石製品(1)	211
第103図	A区遺構内出土土器類(16)	168	第147図	A区出土土製品・石製品(2)	212
第104図	A区遺構内出土土器類(17)	169	第148図	A区出土土製品・石製品(3)	213
第105図	A区遺構内出土土器類(18)	170	第149図	A区出土ミニチュア土器(1)	214
第106図	A区遺構内出土土器類(19)	171	第150図	A区出土ミニチュア土器(2)	215
第107図	A区遺構内出土土器類(20)	172	第151図	A区出土ミニチュア土器(3)	216
第108図	A区遺構内出土土器類(21)	173	第152図	A区出土円盤状土製品(1)	217
第109図	A区遺構内出土土器類(22)	174	第153図	A区出土円盤状土製品(2)	218
第110図	A区遺構内出土土器類(23)	175	第154図	A区出土円盤状土製品(3)	219
第111図	A区遺構内出土土器類(24)	176	第155図	A区出土円盤状土製品(4)	220
第112図	A区遺構内出土土器類(25)	177	第156図	A区遺構内出土石器類(1)	221
第113図	A区遺構内出土土器類(26)	178	第157図	A区遺構内出土石器類(2)	222
第114図	A区遺構内出土土器類(27)	179	第158図	A区遺構内出土石器類(3)	223
第115図	A区遺構内出土土器類(28)	180	第159図	A区遺構内出土石器類(4)	224
第116図	A区遺構内出土土器類(29)	181	第160図	A区遺構内出土石器類(5)	225
第117図	A区遺構内出土土器類(30)	182	第161図	A区遺構内出土石器類(6)	226
第118図	A区遺構内出土土器類(31)	183	第162図	A区遺構内出土石器類(7)	227
第119図	A区遺構内出土土器類(32)	184	第163図	A区遺構内出土石器類(8)	228
第120図	A区遺構内出土土器類(33)	185	第164図	A区遺構内出土石器類(9)	229
第121図	A区遺構内出土土器類(34)	186	第165図	A区遺構内出土石器類(10)	230
第122図	A区遺構内出土土器類(35)	187	第166図	A区遺構内出土石器類(11)	231
第123図	A区遺構内出土土器類(36)	188	第167図	A区遺構内出土石器類(12)	232
第124図	A区遺構内出土土器類(37)	189	第168図	A区遺構内出土石器類(13)	233

第169図	A区遺構内出土石器類 (14) ……	234	第212図	B区検出遺構 (3) ……	277
第170図	A区遺構内出土石器類 (15) ……	235	第213図	B区検出遺構 (4) ……	278
第171図	A区遺構内出土石器類 (16) ……	236	第214図	B区検出遺構 (5) ……	279
第172図	A区遺構内出土石器類 (17) ……	237	第215図	B区検出遺構 (6) ……	280
第173図	A区遺構内出土石器類 (18) ……	238	第216図	B区検出遺構 (7) ……	281
第174図	A区遺構内出土石器類 (19) ……	239	第217図	B区検出遺構 (8) ……	282
第175図	A区遺構内出土石器類 (20) ……	240	第218図	B区検出遺構 (9) ……	283
第176図	A区遺構内出土石器類 (21) ……	241	第219図	B区検出遺構 (10) ……	284
第177図	A区遺構内出土石器類 (22) ……	242	第220図	B区検出遺構 (11) ……	285
第178図	A区遺構内出土石器類 (23) ……	243	第221図	B区検出遺構 (12) ……	286
第179図	A区遺構内出土石器類 (24) ……	244	第222図	B区遺構内出土土器類 (1) ……	288
第180図	A区遺構内出土石器類 (25) ……	245	第223図	B区遺構内出土土器類 (2) ……	289
第181図	A区遺構内出土石器類 (26) ……	246	第224図	B区遺構内出土土器類 (3) ……	290
第182図	A区遺構内出土石器類 (27) ……	247	第225図	B区遺構内出土土器類 (4) ……	291
第183図	A区遺構内出土石器類 (28) ……	248	第226図	B区遺構外出土土器類 (1) ……	292
第184図	A区遺構内出土石器類 (29) ……	249	第227図	B区遺構外出土土器類 (2) ……	293
第185図	A区遺構内出土石器類 (30) ……	250	第228図	B区遺構内出土石器類 (1) ……	294
第186図	A区遺構内出土石器類 (31) ……	251	第229図	B区遺構内出土石器類 (2) ……	295
第187図	A区遺構内出土石器類 (32) ……	252	第230図	B区遺構内出土石器類 (3) ……	296
第188図	A区遺構内出土石器類 (33) ……	253	第231図	B区遺構外出土石器類 (1) ……	297
第189図	A区遺構外出土石器類 (1) ……	254	第232図	B区遺構外出土石器類 (2) ……	298
第190図	A区遺構外出土石器類 (2) ……	255	第233図	B区遺構外出土石器類 (3) ……	299
第191図	A区遺構外出土石器類 (3) ……	256	第234図	B区遺構外出土石器類 (4) ……	300
第192図	A区遺構外出土石器類 (4) ……	257	第235図	B区遺構外出土石器類 (5) ……	301
第193図	A区遺構外出土石器類 (5) ……	258	第236図	B区遺構外出土石器類 (6) ……	302
第194図	A区遺構外出土石器類 (6) ……	259	第237図	B区遺構外出土石器類 (7) ……	303
第195図	A区遺構外出土石器類 (7) ……	260	第238図	B区検出遺構 (古代1) ……	304
第196図	A区遺構外出土石器類 (8) ……	261	第239図	B区検出遺構 (古代2) ……	305
第197図	A区遺構外出土石器類 (9) ……	262	第240図	B区検出遺構 (古代3) ……	306
第198図	A区遺構外出土石器類 (10) ……	263	第241図	B区検出遺構 (古代4) ……	307
第199図	A区遺構外出土石器類 (11) ……	264	第242図	B区遺構内出土土器類 (古代) ……	308
第200図	A区遺構外出土石器類 (12) ……	265	第243図	B区遺構外出土土器類 (古代) ……	309
第201図	A区検出遺構 (古代1) ……	266	第244図	B区遺構外出土 土製品・石器類 (古代) ……	310
第202図	A区検出遺構 (古代2) ……	267	第245図	B区遺構内出土土器類 (古代) ……	311
第203図	A区検出遺構 (古代3) ……	268	第246図	B区遺構内出土 鉄滓・石器類 (古代) ……	312
第204図	A区遺構内出土土器 (古代1) ……	269	第247図	D・E・G区検出遺構 (1) ……	313
第205図	A区遺構内出土土器 (古代2) ……	270	第248図	D・E・G区検出遺構 (2) ……	314
第206図	A区遺構外出土土器 (古代3) ……	271	第249図	D・E・G区検出遺構 (3) ……	315
第207図	A区遺構外出土土器 (古代4) ……	272	第250図	D・G区出土土器・石器 ……	316
第208図	A区出土遺物 鉄・銅製品・陶磁器・銭貨 ……	273	第251図	G区遺構外出土土器 ……	317
第209図	A区出土銭貨 ……	274	第252図	土壌試料の残存脂肪出量 ……	334
第210図	B区検出遺構 (1) ……	275			
第211図	B区検出遺構 (2) ……	276			

第253図	試料中に分布する コレステロールと シトステロールの割合 ……335	第259図	試料中に残存する 脂肪のステロール組成 ……341
第254図	試料中に残存する 脂肪の脂肪酸組成 ……336	第260図	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成樹状構造図 ……342
第255図	試料中に残存する 脂肪の脂肪酸組成 ……337	第261図	試料中に残存する脂肪酸組成による 種特異性相関 ……343
第256図	試料中に残存する 脂肪の脂肪酸組成 ……338	第263図	SI竪穴住居跡、 SB掘立柱建物跡の主軸方位 ……380
第257図	試料中に残存する 脂肪の脂肪酸組成 ……339	第264図	遺構変遷図 ……381
第258図	試料中に残存する 脂肪のステロール組成 ……340	付図1図	地形図 グリッド配置図
		付図2図	遺構配置図

図版目次

巻頭図版 1.		図版 3	A区 竪穴住居跡 (1) —SI01
1 空中写真		図版 4	A区 竪穴住居跡 (2) —SI14・15
—調査後の様子。中央がA区、上がB区		図版 5	A区 竪穴住居跡 (3) —SI15
2 空中写真—A区の調査後の様子		図版 6	A区 竪穴住居跡 (4) —SI16
巻頭図版 2.		図版 7	A区 竪穴住居跡 (5) —SI24・94・SK95
1 SI152竪穴住居跡完掘後(南から)		図版 8	A区 竪穴住居跡 (6) —SI24炉
2 SI152竪穴住居跡複式炉構築状況(北から)		図版 9	A区 竪穴住居跡 (7) —SI94・94炉・SK95
巻頭図版 3.		図版10	A区 竪穴住居跡 (8) —SI35・35炉・75
1 出土土器		図版11	A区 竪穴住居跡 (9) —SI38・38炉・43
右SI126竪穴住居跡 (A区) 器高 34.5cm		図版12	A区 竪穴住居跡 (10) —SI43・43炉・49炉
左SI5054竪穴住居跡 (B区) 器高 25.2cm		図版13	A区 竪穴住居跡 (11) —SI42・42炉
2 A区出土土器		図版14	A区 竪穴住居跡 (12) —SI51・51炉・88・88炉
右SI152竪穴住居跡 器高 36.2cm		図版15	A区 竪穴住居跡 (13) —SI53・68炉・74炉
左SI140竪穴住居跡 器高 25.5cm		図版16	A区 竪穴住居跡 (14) —SI55・55炉
巻頭図版 4.		図版17	A区 竪穴住居跡 (15) —SI57・57炉
1 A区出土靴形土器		図版18	A区 竪穴住居跡 (16) —SI58・58炉
SI86竪穴住居跡 長さ 9.6cm 高さ 5.4cm			
2 A区出土斧状土製品			
SI57竪穴住居跡 長さ 12.4cm			
3 A区出土石製品			
図版 1			
1 遺跡遠景(北から)			
—A・B区は工事により削平されている—			
2 A区調査後の様子(南から)			
図版 2			
1 A区調査の様子(北東から)			
2 竪穴住居跡完掘後の様子			

- 图版19 A区 竖穴住居迹 (17)
 —SI70·70炉·108·108炉
 图版20 A区 竖穴住居迹 (18)
 —SI79·79炉·83·151
 图版21 A区 竖穴住居迹 (19)
 —SI82·82炉·150·
 150炉·169
 图版22 A区 竖穴住居迹 (20)
 —SI83·83炉
 图版23 A区 竖穴住居迹 (21)
 —SI86·86新炉·旧炉
 图版24 A区 竖穴住居迹 (22)
 —SI96·96炉
 图版25 A区 竖穴住居迹 (23)
 —SI99·99炉
 图版26 A区 竖穴住居迹 (24)
 —SI113·113炉
 图版27 A区 竖穴住居迹 (25)
 —SI116·116炉
 图版28 A区 竖穴住居迹 (26)
 —SI126·126炉
 图版29 A区 竖穴住居迹 (27)
 —SI140·140炉
 图版30 A区 竖穴住居迹 (28)
 —SI142·142炉
 图版31 A区 竖穴住居迹 (29)
 —SI152·152炉
 图版32 A区 竖穴住居迹 (30)
 —SI154·186
 图版33 A区 竖穴住居迹 (31) —SI195
 图版34 A区 竖穴住居迹 (32) —SI207
 图版35 A区 竖穴住居迹 (33) —SI207炉
 图版36 A区 土坑 (1)
 —SK02·07·09·10
 图版37 A区 土坑 (2)
 —SK11·12·18·21
 图版38 A区 土坑 (3)
 —SK25·30·34·45
 图版39 A区 土坑 (4)
 —SK46·47·52·54
 图版40 A区 土坑 (5)
 —SK60·62·63·64
 图版41 A区 土坑 (6)
 —SK72·73·76·78
 图版42 A区 土坑 (7)
 —SK56·80·84·85·93
 图版43 A区 土坑 (8)
 —SK95·97·98·102
 图版44 A区 土坑 (9)
 —SK104·111·115·121·124
 125
 图版45 A区 土坑 (10)
 —SK127·131·133·137
 图版46 A区 土坑 (11)
 —SK138·139·149·156
 图版47 A区 土坑 (12)
 —SK161·164·166·167
 图版48 A区 土坑 (13)
 —SK170·178·179·183
 图版49 A区 土坑 (14)
 —SK168·184·185·188·190
 图版50 A区 土坑 (15)
 —SK196·197·200·201·202
 图版51 A区 土坑 (16)
 —SK203·204·206·208
 图版52 A区 土坑 (17)
 —SK210·214·217·218·221
 图版53 A区 土坑 (18)
 —SK236·238·239·240
 图版54 A区 烧土遺構 (1)
 —SN04·05·06
 图版55 A区 烧土遺構 (2)
 —SN81·105·128
 图版56 A区 掘立柱建物迹 (1) —SB03
 图版57 A区 掘立柱建物迹 (2)
 —SB13·20·130
 图版58 A区 掘立柱建物迹 (3)
 —SB26·135
 图版59 A区 掘立柱建物迹 (4)
 —SB177·219·242
 图版60 A区 掘立柱建物迹 (5)
 —SB233·237
 图版61 A区 掘立柱建物迹 (6)
 —SB246、陷穴状遺構 (1)
 —SKT50·125
 图版62 A区 陷穴状遺構 (2)
 —SKT153·柱列—SA160

- 図版63 A区 古代 堅穴住居跡(1)
—SI92
- 図版64 A区 古代 堅穴住居跡(2)
—SI144・焼土遺構—SN122
- 図版65 B区 堅穴住居跡—SI5061
- 図版66 B区 土坑(1)
—SK5008・5017・5072・5028
- 図版67 B区 土坑(2)
—SK5029・5031・5032・5033
- 図版68 B区 土坑(3)
—SK5034・5036・5058・5066
- 図版69 B区 土坑(4)
—SK5067・5071・5075・5078
- 図版70 B区 フラスコ状土坑
—SKF5045・5064・5065・5089
- 図版71 B区 焼土遺構
—SN5022・5035・5041
- 図版72 B区 陥穴状遺構—SKT5005・5056
- 図版73 B区 古代 堅穴住居跡
—SI5040・焼土遺構—SN5043
- 図版74 D区 陥穴状遺構—SKT6001・
E区 陥穴状遺構—SKT7001
- 図版75 G区 土坑
—SK03・04・06、陥穴状遺構
—SK T01・02
- 図版76 A区 出土遺物(1)
—SI01・15・16
- 図版77 A区 出土遺物(2)
—S24・38・42・51
- 図版78 A区 出土遺物(3)
—SI53・55・57・67・68・70
- 図版79 A区 出土遺物(4)
—SI79・82・83・86
- 図版80 A区 出土遺物(5)
—SI86・87・94・96・99
- 図版81 A区 出土遺物(6)—SI99・116
- 図版82 A区 出土遺物(7)—SI116
- 図版83 A区 出土遺物(8)—SI116
- 図版84 A区 出土遺物(9)
—SI126・140・142・152
- 図版85 A区 出土遺物(10)
—SI152・154・186・207・、
SK40・45・54
- 図版86 A区 出土遺物(11)
—SK54・60・80・102
- 図版87 A区 出土遺物(12)
—SK111・114・115・131・133・
137・193
- 図版88 A区 出土遺物(13)
—SK194・199・208・209、
SB136、遺構外
- 図版89 A区 出土遺物(14)—遺構外
- 図版90 A区 出土遺物(15)
—SI01・14・15・16・24・35
- 図版91 A区 出土遺物(16)
—SI38・41・42・43・49・51
- 図版92 A区 出土遺物(17)
—SI51・53・55・57・58・67
- 図版93 A区 出土遺物(18)
—SI69・70・74・79・82・83
- 図版94 A区 出土遺物(19)
—SI86・87・88・94・96・99・
108・113・116・126・142・
150・151・152
- 図版95 A区 出土遺物(20)
—SI152・154・186・195、他SK
- 図版96 A区 出土遺物(21)—SK
- 図版97 A区 出土遺物(22)
—SI24・35・38・41・43・51・
53・67・79・82・83・113・
126、他・SK、SN、SB、SKT
- 図版98 A区 出土遺物(23)
—SI01・16・24・57・86・87・
100・116・151・152 他SK、
SN、SB、SKP、遺構外
- 図版99 B区 出土遺物
—SI5040・5054・他SK、
SKF、SN、SKP
- 図版100 A区 SI86出土靴形土器
- 図版101 A区 出土炭化材の顕微鏡写真

第1章 はじめに

第1節 発掘調査に至るまで

日本海沿岸東北自動車道（以下「日沿道」と略す）は、新潟市から青森市にかけての日本海沿岸や秋田県内の高速交通体系の改善など、地域の生産活動と県民生活に必要な情報や資源の交流を促進することを目的として計画された高速道路である。平成9年2月に新潟市から青森市までの全区間が日沿道として路線指定され、同年11月には、秋田南ICから昭和男鹿半島ICまでの25.7kmについて共用が開始された。

日沿道は、東北横断自動車道秋田線秋田南ICの南側、河辺町をジャンクションとして岩城町方面に延びる。この河辺町－岩城町（17.1km）は平成5年に施行命令があり、翌年に路線指定となっている。これを受けて、秋田県教育委員会（担当：文化課、現生涯学習課文化財保護室）は、路線上（事業計画予定地内）の埋蔵文化財確認のため、平成8年6～7月に分布調査を実施している。その結果、周知の遺跡1箇所（松木台Ⅲ遺跡）と新発見の遺跡7箇所（井戸尻台Ⅰ遺跡・井戸尻台Ⅱ遺跡・上野遺跡・岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡・蟹沢遺跡）が工事区に存在することを確認した。

分布調査の成果を受けて、秋田県埋蔵文化財センターでは、平成8年11月～12月にかけて、上野遺跡・井戸尻台Ⅰ遺跡・井戸尻台Ⅱ遺跡の範囲確認調査を実施した。その後の平成9年には、昭和60年に東北横断自動車道秋田線の工事に先立って発掘調査した松木台Ⅲ遺跡の、主に西側の範囲確認調査を5月～7月まで実施した。この結果、A・B・D・Eの4区で遺構・遺物が確認されたので、同年6月～11月まで本調査を実施した。平成10年には、土地問題が難航し、未買収であったG区の本調査を8月～9月まで実施したものである。

第2節 調査の組織と構成

遺 跡 名	松木台Ⅲ遺跡（まつきだいさんいせき）	（遺跡略号 5 MK D Ⅲ）
所 在 地	秋田県河辺郡河辺町松淵字松木台56－1 外	
調 査 期 間	平成9年6月30日～11月14日（A・B・D・E区） 平成10年8月4日～9月18日（G区）	
調 査 目 的	日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業に係る事前発掘調査	
調 査 面 積	平成9年度調査 10,850㎡ 平成10年度調査 1,300㎡	
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会	
調 査 担 当 者	平成9年度 柴田陽一郎（秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科長） 藤澤 昌（秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科科学芸主事）	

榮 一郎 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
谷地 薫 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
松本 昌樹 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
藤原 司 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
小林 芳行 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
泉田 健 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科学芸主事)
三浦 良隆 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科文化財主事)
(由利町教育委員会派遣職員)
伊藤 攻 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)
松尾 睦子 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)
安原 誠 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)
斎藤 仁之 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)
工藤 直子 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)
黒澤 幸子 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)

平成10年度

柴田陽一郎 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科長)
小西 秀平 (秋田県埋蔵文化財センター調査課第2科非常勤職員)

総務担当者

平成9年度

藤肥 良清 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主査)
佐藤 幸嗣 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)
須田 輝樹 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)

平成10年度

菅原 晃 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主査)
佐藤 幸嗣 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)
八文字 隆 (秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)

調査協力機関

日本道路公団東北支社秋田工事事務所、河辺町教育委員会、雄和町教育委員会

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置と立地

松木台Ⅲ遺跡は、秋田県河辺郡河辺町松湊字松木台56-1外に所在する。秋田市の南東側に隣接する河辺町は主要交通網が集中している。遺跡は七曲工業団地に隣接し、JR奥羽本線和田駅から南1.4km、秋田自動車道秋田南ICから南東3.1km、秋田空港から北3.2kmにある。

国道13号線を秋田市中心部から15km程南下して河辺町和田集落に入り、秋田空港へ向かう県道秋田-御所野-雄和線へ折れると、正面に平坦な七曲台と呼ばれる台地の広がりが見えてくる。この台地は出羽山地の西端部にあたり、岩見川によって形成された各段丘面群で、遺跡はこのうち七曲台面と呼ばれる段丘面上に立地している。遺跡の北を西流する岩見川は、太平山(1170.6m)をはじめとした1,000m級の山々に源を発し、河辺町の北東部から中心に沿って南西に流れ、やがて雄物川と合流して日本海へと流れ込む。

遺跡は台地北端に立地するため北側の視界は広い。北西には秋田平野、遠く日本海を挟んで寒風山(354.8m)を臨むことができる。遺跡のすぐ北を西流する岩見川の対岸には和田集落を見下ろし、はるか北東には山岳信仰の対象ともなった太平山がそびえ立つ。なお、遺跡の中を秋田自動車道が横断している。

第2節 周辺の地形

岩見川の河谷には模式的な河岸段丘が発達し、その範囲も広く上流域から下流域まで及ぶ。現河道を含む岩見川低地が東西に長く広がり、その南側すなわち左岸には広く河岸段丘が形成されている。ここでは海拔高度120m・100m・80m・60m・45m・40m・30m・20mの格段丘面が展開している。しかし、北側すなわち右岸のそれはあまり発達せず、雄物川との合流点付近に近い御所野段丘地に50m・40mの段丘面が構成されているだけである(土地分類基本調査 秋田県1975)。段丘の形成されていない地域の右岸では、岩見川低地の北に和田丘陵、さらに北には太平山地が控えている。

岩見川左岸の段丘地は、戸島段丘地、その南は椿台段丘地と呼称されている。さらにその南には太平山丘陵地が続いているが、いずれの段丘面も段丘間も起伏は緩やかであり明確な差はない。しかし、岩見川低地と戸島段丘地の境など、沖積面とは大きな段差を持つ段丘崖となっていて明瞭な違いを示している。土地分類基本調査(秋田県1975)によると、段丘面の傾斜は0~3°が多く、段丘崖の傾斜は20~30°ないし30~40°となっている。局地的にかなり急傾斜となっている部分も多い。

岩見川と三内川の合流地点の岩見三内から大張野にかけての段丘は、現在でも岩見川の旧河道が識別できるような地形である。それより下流に下ると整備された水田が卓越し、旧河道は肉眼や地図上では判別しがたい。しかし、現河道から南側は広く河岸段丘が構築され、その段丘面の多さを見るとかなりの流路の変遷や地域全域に渡る隆起・沈降があったことが考えられる。

これらの段丘上には多くの遺跡が確認されており、本遺跡もその中の一つである。洪積台地が沖積

平野に入り込む形で張り出している部分は舌状を呈する場合が多いが、本遺跡も例外ではない。河川の流域に広範囲に地盤の隆起が起これば、河川の堆積物の量が増加し、氾濫原が発達する。氾濫原や自然堤防が段丘地の形成の基礎となる。逆に、沈降が起これば河川の侵食力は強まり河道付近は低地化するとともに氾濫原と段丘面との高度差が発生する。また、気温の変動による海水準の変化によっても河川の侵食力が変わり同様なことが起こる。このようにして、本遺跡ののる台地は、河川の流路の変化や地盤の隆起・沈降や海水準の変化によって形作られてきたものと考えられる。

遺跡ののる台地は戸島丘陵地の中でも七曲台面群と呼ばれ、沖積平野・河道と隣り合って存在している。七曲台面群は高位の上野台面と低位の七曲台面からなり、両面の段化は中・下流域では明瞭であるが、上流へ上ると比高が減じ上野台面のみが分布するようになる。七曲台面は基準面の低下に対応して上野台面から分岐した段丘と考えられる。遺跡ののる七曲台は段化が明瞭で、沖積面との比高は20mを超える。

土地分類基本調査羽後和田（秋田県1975）では、戸島段丘は4面に分類されており、七曲台はその中のGtII [Gravel Terrace(middle)]面に含まれる。これは、45m・40mの2面を含み、上野台、風無台などが含まれる。表土は黒ボク土で下に重粘の赤褐色土でわずかにpeat層をはさみ、径15~20cmのすべすべした花崗岩質の亜円礫を含み、下部ほどcobbleの多い水平層で、分級度もよく、imbricationも明瞭である。旧岩見川のもたらしたfill-top terraceである。

第3節 歴史的環境

太平山地に水源を有する雄物川の一支流岩見川沿いの段丘上には、旧石器時代から中世にいたる実に多くの遺跡の存在が確認されている。台地全体が本格的に発掘調査されるようになったのは、岩見川の北側にある和田丘陵の御所野台地からである。同台地にある遺跡群の発掘調査は、昭和56年から、秋田市がニュータウン構想として同地380haを開発するのに先駆けて、31遺跡を事前調査したことに始まる。その後、昭和53年新秋田空港建設計画に伴って、空港及びその周辺地域に対して、産業立地の視点から基調調査がなされ、その適地として、河辺町松淵集落の南側の岩見川左岸の河岸段丘に位置する七曲台地が選定された。工事に先立ち、昭和58、59年の2カ年にわたって11遺跡の事前調査が実施された。また、同地区ではその後、昭和60年に東北横断自動車道秋田線建設に伴う6遺跡の発掘調査を実施している。更にその後、平成9年、10年、11年の3カ年にわたって日本海沿岸東北自動車道秋田象潟線建設工事に伴って、6遺跡の発掘調査が事前に実施されている。この地域における遺跡の分布状況は、前述の調査された遺跡群のほか、平成9年の秋田空港アクセス道路整備事業の分布調査などにより、次第に明かにされてきている。昭和60年3月に刊行された「七曲台遺跡群発掘調査報告書」によれば「この地域における遺跡数は、未命名のものも含めて67ヶ所を数えるに至っている」と報告されており、また、翌昭和61年11月に刊行された「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書I」では更に8遺跡多い75遺跡と報告されている。そして近年確認されている遺跡を含めると100遺跡を超えるものと思われる。以下では、発掘調査の実施されている遺跡を中心として概観してみる。

遺跡の大部分が御所野台地と戸島丘陵の平坦面標高30~60m前後に立地していることが確認できる。和田丘陵には、その地形が急峻なせいもあってわずかに戸島館、和田城が確認されているに過ぎない。

県内における旧石器時代の調査例は、他の時代に比べ少ないのであるが、七曲台では、風無台Ⅰ遺跡、風無台Ⅱ遺跡、松木台Ⅱ遺跡、松木台Ⅲ遺跡の4遺跡、御所野台地では、下堤G遺跡、地蔵田B遺跡、下堤D遺跡の3遺跡が調査されているだけである。この内風無台Ⅱ遺跡及び松木台Ⅱ遺跡では、台形様石器を主とする石器群があり、県内で初めて旧石器時代の遺構が検出された下堤G遺跡では、米ヶ森型台形石器を中心としており、石器組成に大きな違いをみせているのは興味深い。岩見川を挟んで左右両岸における違いなのか今後の調査に注目したい。

縄文時代に入ると遺跡の数が一段と多くなる。時代は縄文時代前期から縄文時代晩期までであり、その中でも特に縄文時代中期の遺跡が多く、御所野丘陵部における当該期の遺跡数は25を数えるまでに至っている。その中で、中期後葉に属する住居跡は20遺跡で、約230軒検出されている。一方、戸島丘陵部における当該期の遺跡の中では本遺跡が注目される。

弥生時代になると遺跡の数は極端に減少する。御所野丘陵部では、地蔵田B遺跡、坂ノ上F遺跡、狸崎A遺跡、湯ノ沢A遺跡、湯ノ沢F遺跡、湯ノ沢I遺跡、大杉沢遺跡があり、戸島丘陵部では、風無台Ⅰ遺跡、風無台Ⅱ遺跡、石坂台Ⅰ遺跡、石坂台Ⅱ遺跡、松木台Ⅰ遺跡がある。この中で国の史跡に指定された地蔵田B遺跡は、集落を柵で囲んだと思われる遺構が検出され、秋田県における弥生時代の社会構造を知る手がかりを得たことになる。

古代においては、坂ノ上E、湯ノ沢F、野形、深田沢、下堤A、下堤B、下堤C、下堤D遺跡、大杉沢遺跡、風無台Ⅰ遺跡、松木台Ⅱ遺跡のみである。湯ノ沢F遺跡は、木棺を用いて埋葬された平安時代土坑墓が40基検出されており、鉄刀・帯金具・鉄鏃などが伴出している。

中世になると、先にも述べたように、戸島館、和田城跡の他畑谷館など七つの城館が確認されている。

以上、岩見川の河岸段丘－和田丘陵及び御所野丘陵にある遺跡を中心に述べてきた。ここ数年の間に、日本海沿岸東北自動車道建設工事に伴う緊急発掘調査など、この地域において再び大規模な開発が行われるようになった。平成9年度調査の井戸尻台Ⅰ遺跡、上野遺跡、平成10年度調査の奥椿岱遺跡、平成11年度調査の岱Ⅰ・岱Ⅱ・岱Ⅲ遺跡などの報告書が刊行され、今後更にこの地域における歴史の解明が進展することであろう。

参考文献

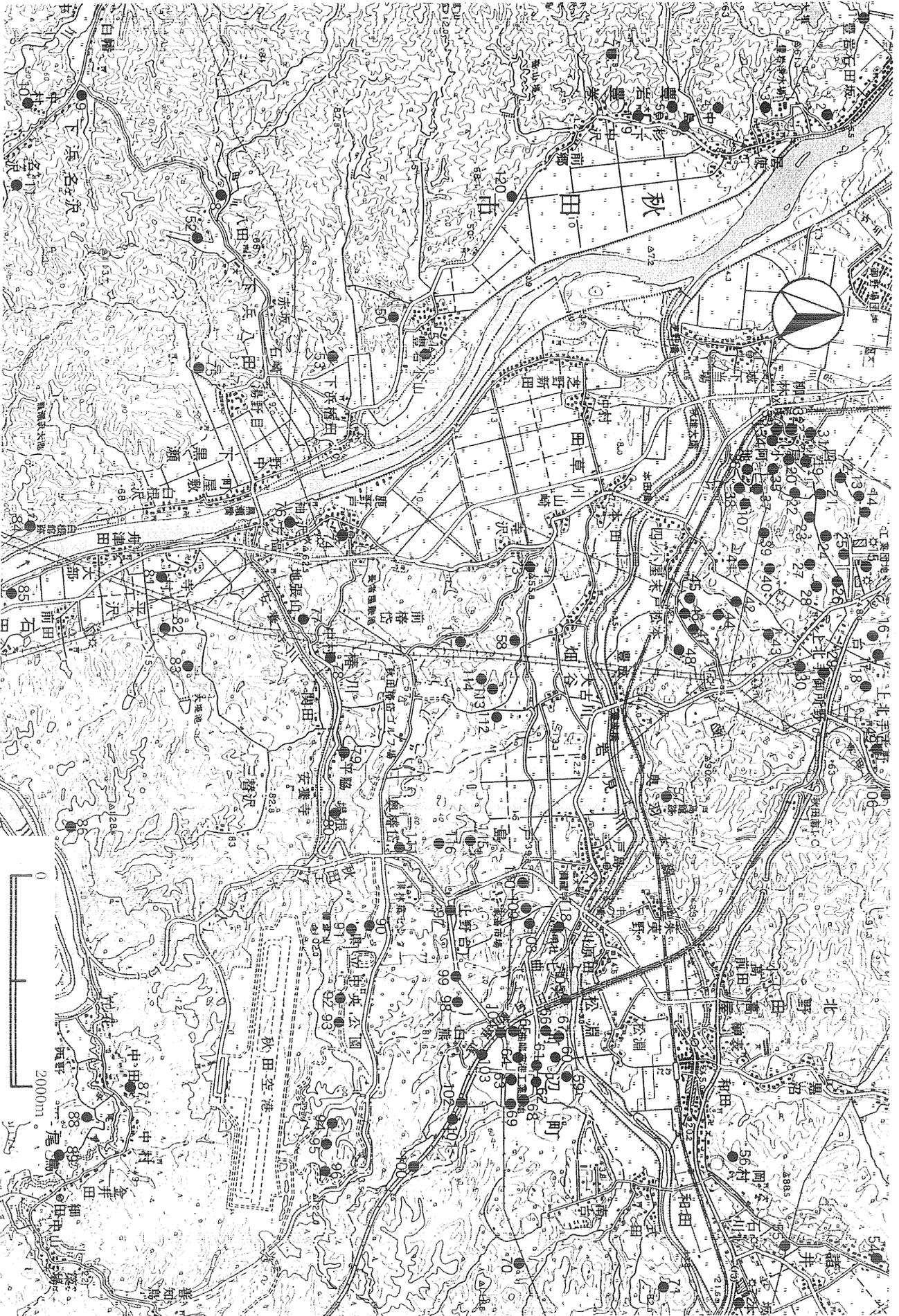
1. 秋田県教育委員会『七曲台遺跡群発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第125集1985・3
2. 秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第150集1986・11
3. 秋田市教育委員会『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤G遺跡 野畑遺跡 湯ノ沢B遺跡』1983・3
4. 秋田市教育委員会『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上E遺跡 湯ノ沢A遺跡 湯ノ沢C遺跡 湯ノ沢E遺跡 湯ノ沢F遺跡 湯ノ沢G 湯ノ沢H遺跡 野形遺跡』1984・3
5. 秋田市教育委員会『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤E遺跡 下堤F遺跡 坂ノ上F遺跡 狸崎A遺跡 湯ノ沢D遺跡 深田沢遺跡』1985・3
6. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田B遺跡 台A遺跡 湯ノ沢I遺跡 湯ノ沢F』1986・3
7. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地方遺跡 台B遺跡』1987・3
8. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤C遺跡』1987・9
9. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤A遺跡 下堤B遺跡』1988・3
10. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎B遺跡 秋大農場南遺跡』1992・3
11. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎B遺跡 地蔵田A遺跡』1993・3
12. 秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田A遺跡』1994・3
13. 秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集 1981・3
14. 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図』（中央版） 1990・3
15. 秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第270集 1997・3

第2章 遺跡の立地と環境

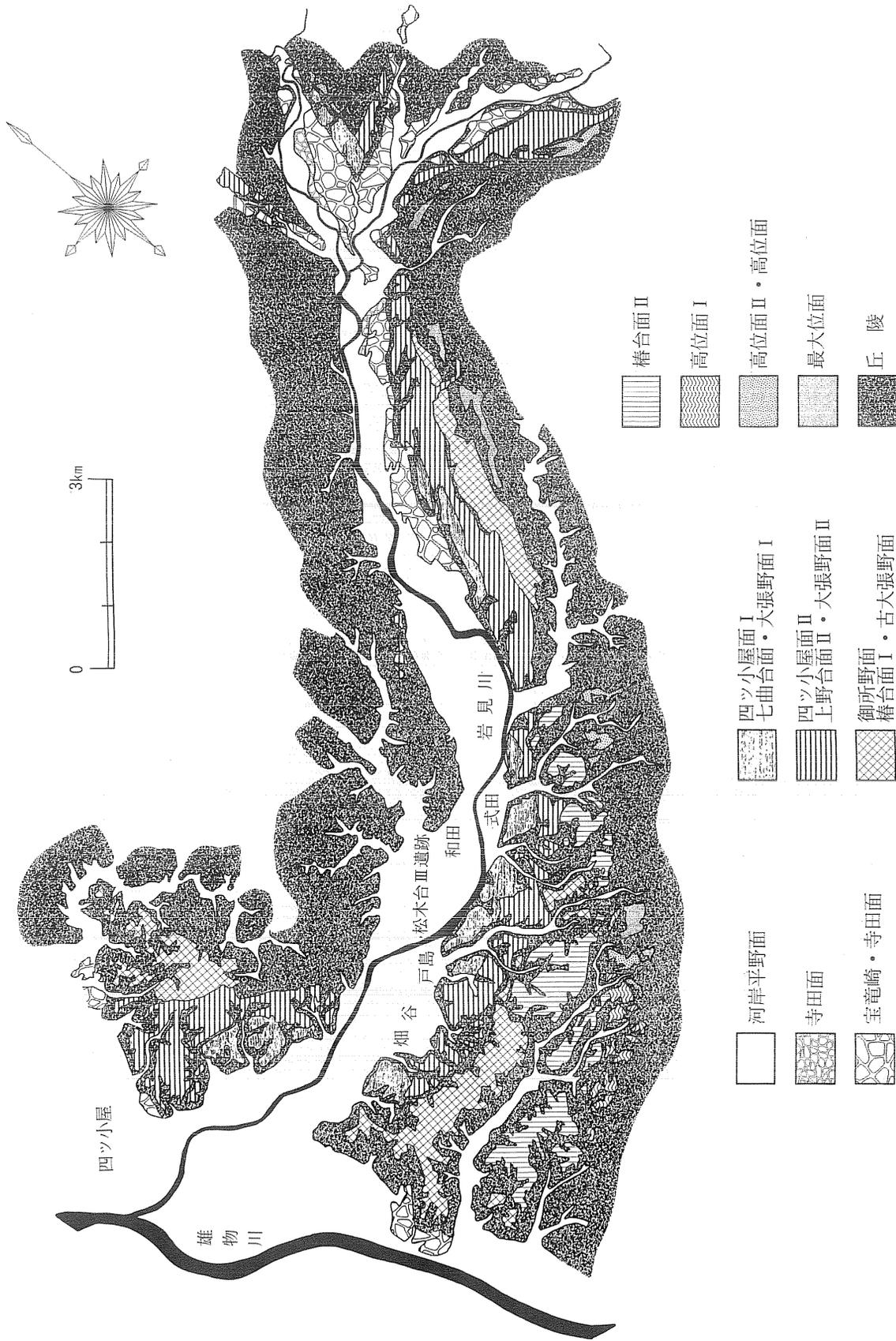
- 16.秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第281集 1998・3
- 17.秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第291集 1999・3
- 18.秋田県埋蔵文化財センター『秋田県埋蔵文化財センター年報15』 1997・3
- 19.秋田県埋蔵文化財センター『秋田県埋蔵文化財センター年報16』 1998・3
- 20.秋田県埋蔵文化財センター『秋田県埋蔵文化財センター年報17』 1999・3
- 21.秋田県教育委員会『高速交通関連道路整備事業（和田御所野）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 上祭沢遺跡
駒坂台Ⅰ遺跡 駒坂台Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第195集 1990・3
- 22.秋田県教育委員会『秋田県立中央公園スポーツゾーン地域内遺跡発掘調査報告書 滝ノ沢Ⅰ遺跡 滝ノ沢Ⅱ遺跡
駒坂岱Ⅰ遺跡 駒坂岱Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第92集 1982・3
- 23.秋田市教育委員会『大杉沢遺跡 携帯電話無線基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書』 1997・9
- 24.秋田市教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』 1989
- 25.秋田市教育委員会『小阿地 下堤遺跡 坂ノ上遺跡発掘調査報告書』 1976
- 26.秋田市教育委員会『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上C遺跡 坂ノ上D遺跡』1983
- 27.秋田市教育委員会『強清水遺跡 林道建設に伴う緊急発掘調査報告書』 1997・3
- 28.秋田県教育委員会『上野遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』
秋田県文化財調査報告書第295集 2000・3
- 29.秋田県教育委員会『奥椿岱遺跡－秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』
秋田県文化財調査報告書第305集 2000・3
- 30.秋田県教育委員会『井戸尻台Ⅰ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第313集 2001（平成13年）
- 31.秋田県教育委員会『岱Ⅰ遺跡 岱Ⅱ遺跡 岱Ⅲ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第314集 2001（平成13年）



第1図 遺跡位置図 (●印が松木台Ⅲ遺跡)



第2図 松木台Ⅲ遺跡周辺の遺跡分布図



(白石：1975「石見川流域の河岸段丘群」より)

第3図 岩見川流域段丘面分布図

第1表 松木台Ⅲ遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡地図登録番号	所在地	調査年など	内 容	文献
1	鎌塚	1-280	秋田市豊岩石田坂字鎌塚		須恵器・赤褐色土器	14・24
2	石田坂	1-281	秋田市豊岩石田坂字上野		縄文(土器・石器)	14・24
3	小友沢	1-323	秋田市豊岩豊巻字小友沢		須恵器・赤褐色土器	14・24
4	小勝田	1-324	秋田市豊岩豊巻字小勝田		フレーク・須恵器	14・24
5	内縄尻	1-325	秋田市豊岩豊巻字内縄尻		縄文(土器・石器)	14・24
6	諏訪	1-326	秋田市豊岩豊巻字諏訪		須恵器・赤褐色土器	14・24
7	白華城	1-329	秋田市豊岩豊巻字杉ノ下外		中世城館(主郭・郭・帯郭・空堀・堅郭・陶磁器)	13・14・24
8	柳沢館	1-339	秋田市下浜八田字柳沢		中世城館(郭・腰郭・空堀・堅郭)	13・14・24
9	坂本	1-342	秋田市下浜ヶ沢字坂本		製鉄炉・鉄滓・鑄羽口・炉壁	14・24
10	久五郎館	1-343	秋田市下浜ヶ沢字浦田坂本		中世城館(主郭・庭園跡)	13・14・24
11	フ館	1-344	秋田市下浜ヶ沢字蓬田坂本		中世城館	13・14・24
12	下堤B	1-282	秋田市四ッ小屋小屋小阿地字下堤	S 6 2	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、平安集落(竪穴住居跡・須恵器)	9・14
13	下堤A	1-283	秋田市四ッ小屋小屋小阿地字下堤	S 6 2	縄文中期集落(竪穴住居跡・フラスコ状ビット・土坑) 平安集落(竪穴住居跡・土師器)	9・14
14	下堤C	1-284	秋田市四ッ小屋小屋小阿地字下堤	S 6 1, 6 2	縄文(土器)、奈良・平安集落(竪穴住居跡・土師器・須恵器)	8・14
15	下堤D	1-286	秋田市四ッ小屋小屋小阿地字下堤	S 5 6	旧石器、縄文前期・中期集落、平安集落	14
16	地方	1-287	秋田市上北手猿田字堤ノ沢	S 6 1	縄文中期集落(竪穴住居跡・掘立柱建物跡) 縄文晩期(土坑墓)	7・14
17	台B	1-288	秋田市上北手猿田字堤ノ沢	S 6 1	縄文中期(竪穴住居跡・土坑)	7・14
18	台A	1-290	秋田市上北手古野字台	S 6 0	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑・土器・石器)	6・14
19	坂ノ上A	1-291	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上		縄文中期・後期集落(竪穴住居跡・土坑・配石遺構)	14・25
20	坂ノ上B	1-292	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上		縄文前期(土器・石棒)	14・25
21	坂ノ上E	1-293	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上	S 5 8	縄文中期集落(竪穴住居跡)、平安(製鉄炉・炭焼窯)	4・14
22	坂ノ上F	1-294	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上	S 5 9	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(住居跡) 古代(土師器・須恵器)	5・14
23	坂ノ上D	1-295	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上	S 5 7	縄文中期・晩期(土器・石器)	26・14
24	坂ノ上C	1-296	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ上	S 5 7	縄文中期・晩期(土器・石器)	26・14
25	下堤F	1-297	秋田市四ッ小屋小阿地字下堤	S 5 9	縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑)	5・14
26	下堤E	1-298	秋田市四ッ小屋小阿地字下堤	S 5 9	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	5・14
27	下堤G	1-299	秋田市四ッ小屋小阿地字下堤	S 5 7	旧石器、縄文前期、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	3・14
28	湯ノ沢D	1-300	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 9	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、平安(炭焼窯)	5・14
29	深田沢	1-301	秋田市上北手古野字深田沢	S 5 9	平安集落(掘立柱建物跡・竪穴住居跡・土師器・須恵器)	5・14
30	野形	1-302	秋田市上北手御所野字野形	S 5 8	平安(竪穴住居跡・竊跡・土坑)	4・14
31	坂ノ下館	1-303	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ下		中世城館	13・14
32	小阿地古墳	1-304	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ下		平安古墳(八花鏡・直刀・短手刀・鉄斧・勾玉・須恵器)	14
33	坂ノ下I	1-305	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ下		縄文(土器・石器)	14
34	坂ノ下II	1-306	秋田市四ッ小屋小阿地字坂ノ下		縄文(土器・石器)、奈良・平安(須恵器)	14
35	狸崎A	1-307	秋田市四ッ小屋小阿地字狸崎	S 5 9	縄文前期集落(竪穴住居跡・土坑)、縄文晩期(土坑墓) 弥生(住居跡)	5・14
36	狸崎B	1-308	秋田市四ッ小屋小阿地字狸崎	H 3, 4	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(土器)	10・11・14
37	秋大農場	1-309	秋田市四ッ小屋小阿地字狸崎			14
38	地藏田A	1-310	秋田市四ッ小屋未戸松本字地藏田	H 4, 5	旧石器、縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(土器)、平安(須恵器)	11・14
39	地藏田B	1-311	秋田市四ッ小屋未戸松本字地藏田	S 6 0, H 7	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑墓) 弥生集落(柵木列跡)	6・14
40	湯ノ沢C	1-312	秋田市四ッ小屋未戸松本字地藏田	S 5 8	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(土器)	4・14
41	湯ノ沢A	1-313	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 8	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(住居跡)	4・14
42	湯ノ沢B	1-314	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 7	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、平安(土師器・須恵器)	3・14
43	野畑	1-315	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 7	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	3・14
44	湯ノ沢I	1-316	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 6 0	弥生(土坑)、平安(土師器)	6・14
45	湯ノ沢E	1-317	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 8	縄文後期(土坑・石組遺構)	4・14
46	湯ノ沢F	1-318	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 8, 6 0	弥生(土坑・土坑墓)、平安(土坑墓・鉄製品・銭貨・鈿帯金具)	4・14
47	湯ノ沢H	1-319	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 8	縄文中期集落(土器・石器)、弥生(土器)	4・14
48	湯ノ沢G	1-320	秋田市四ッ小屋未戸松本字湯ノ沢	S 5 8	縄文後期(土器・石器)	14
49	古野館	1-321	秋田市上北手古野四枚田		中世城館(主郭・郭・腰郭・帯郭・空堀)	13・14
50	狐森	1-332	秋田市豊岩小山字狐森		縄文(土器・石器)	14・24
51	山ノ沢館	1-333	秋田市下浜八田字山野沢		中世城館(郭)	13・14・24
52	小山館	1-340	秋田市豊岩小山字袖ノ沢		中世城館(石鏡・フレーク)	13・14・24
53	強清水	1-341	秋田市下浜八田字強清水	H 8	縄文前期中葉(土坑・柱穴状遺構)	26・14
54	堂平	3 3 - 1 2	河辺町諸井字山根108外		土師器・須恵器・石斧	14
55	野田	3 3 - 1 3	河辺町諸井字中道206外			14
56	和田城	3 3 - 1 4	河辺町和田字岡村148外		中世城館(空堀・帯郭・土塁・陶片・刀・人骨)	13・14
57	戸島館	3 3 - 1 6	河辺町戸島字戸島館7 9 の 5		中世城館(空堀・帯郭・土塁・陶片・刀・人骨)	13・14
58	畑谷館	3 3 - 1 7	河辺町畑谷字蟹沢1 3 2		中世城館(空堀・土塁・土器片・石鏡)	13・14

59	風無台Ⅰ	33-18	河辺町松測字風無台127	S58	旧石器、縄文前期・後期（土器・円筒下層d式・石器）、縄文中期集落（竪穴住居跡・土器・石器）、古代（掘立柱建物跡・土坑）	1・14
60	風無台Ⅱ	33-19	河辺町松測字風無台110	S58	旧石器、縄文晩期（竪穴住居跡・土器・石器）、弥生（土器）	1・14
61	風無台Ⅲ	33-20	河辺町松測字風無台127	S59	土坑1基・剥片	1・14
62	風無台Ⅴ	33-21	河辺町松測字風無台72	S59	縄文中期・後期（土器・石器）	1・14
63	石坂台Ⅰ	33-22	河辺町戸島字石坂台14	S59	縄文中期集落（竪穴住居跡）、縄文前期・後期・晩期（土器・石器）、弥生	1・14
64	石坂台Ⅱ	33-23	河辺町戸島字石坂台52	S59	縄文中期（竪穴住居跡・土器・石器）、弥生（土器）	1・14
65	石坂台Ⅲ	33-24	河辺町戸島字石坂台232	S59	縄文中期・後期・晩期（土器・石器）	1・14
66	松木台Ⅰ	33-25	河辺町松測字松木台97	S59	縄文前期・中期・後期（土器・石器）、弥生（土器）	1・14
67	松木台Ⅱ	33-26	河辺町松測字松木台81	S59	旧石器、縄文後期・晩期（土器・石器）、古代（環）	1・14
68	餅田沢Ⅰ	33-27	河辺町松測字餅田沢58	S58	縄文（土器・石器）	1・14
69	餅田沢Ⅱ	33-28	河辺町松測字餅田沢56	S58	縄文中期集落（竪穴住居跡）、縄文後期（竪穴住居跡）	1・14
70	松沢城	33-29	河辺町和田字松沢59の1		中世城館（空堀・土塁）	13・14
71	長者森	33-30	河辺町和田字鶴沢183の1		須恵器	14
72	坂本館	33-31	河辺町和田字館脇18外		中世城館	13・14
73	山崎山	34-1	雄和町田草川字山崎山		須恵器	14
74	長者屋敷	34-2	雄和町椿川字長者屋敷38-1外		須恵器・石器	14
75	岩の沢	34-3	雄和町下黒瀬字湯野目岩の沢1		須恵器	14
76	袖の沢	34-4	雄和町椿川字袖の沢87外		土器・石器	14
77	椿川館	34-5	雄和町椿川字地張山		中世城館（土器・石器）	13・14
78	地張山	34-6	雄和町椿川字地張山58		土器・石器	14
79	関田	34-7	雄和町椿川字関田75		土器	14
80	堤根	34-8	雄和町椿川字堤根45		土器	14
81	平沢	34-9	雄和町平沢字袖又11外		風字硯・須恵器	14
82	白山	34-10	雄和町平沢字白山70外		石器	14
83	平沢館	34-11	雄和町平沢字湯の沢73		中世城館	13・14
84	白根館	34-12	雄和町平沢字水沢125		中世城館（珠洲陶片・天目茶碗・空堀・井戸跡）	13・14
85	中大部	34-13	雄和町石田字中大部127外		須恵器・土師器	14
86	小平の柵	34-14	雄和町平尾鳥字小平87		湯治場跡	14
87	御倉館	34-15	雄和町平尾鳥字中田26		縄文土器・石器	14
88	菅生沢柵	34-16	雄和町平尾鳥字長田139、140		井戸跡	14
89	平尾鳥城	34-17	雄和町平尾鳥字細田27		中世城館（建物跡・井戸跡・土塁）	13・14
90	滝の沢Ⅰ		雄和町椿川字滝ノ沢	S56	縄文前期（土器・円筒下層d式）	22
91	滝の沢Ⅱ		雄和町椿川字滝ノ沢	S56	縄文土器・石器	22
92	駒坂袋Ⅰ		雄和町椿川字駒坂袋	S56	縄文中期集落（竪穴住居跡・土坑）、縄文前期・後期（土器・石器）	22
93	駒坂袋Ⅱ		雄和町椿川字駒坂袋	S56	縄文晩期（住居跡）、縄文中期（土器）	22
94	軽井沢A		雄和町椿川	S55 (分布のみ)	縄文土器・石器	
95	軽井沢B		雄和町椿川	S55	縄文土器・石器	
96	軽井沢C		雄和町椿川	S55	縄文土器・石器	
98	駒坂台Ⅰ		河辺町戸島字北ノ沢83	H1	縄文（土器・石器）	21
99	駒坂台Ⅱ		河辺町戸島字北ノ沢80	H1	縄文前期～後期（石組炉・組石遺構・土器・石器）	21
100	石坂台Ⅳ		河辺町戸島字七曲石坂台271外	S60	縄文前期・中期・後期（土器・石器）、近代（炭焼窯）	2
101	石坂台Ⅵ		河辺町戸島字七曲石坂台233外	S60	縄文晩期（土器・石器）、弥生（土器）	2
102	石坂台Ⅶ		河辺町戸島字七曲石坂台214外	S60	縄文前期・後期・晩期（土器・石器）、弥生（土器）	2
103	石坂台Ⅷ		河辺町戸島字七曲石坂台168-3外	S60	縄文中期・後期（竪穴住居跡・土器・石器）、弥生（土器）	2
104	石坂台Ⅸ		河辺町戸島字七曲石坂台281-1外	S60	縄文中期集落（竪穴住居跡）、縄文後期・晩期（土器・石器）	2
105	松木台Ⅲ		河辺町戸島字松木台57外	S60・H9	旧石器、縄文中期集落（竪穴住居跡）、縄文後期・晩期（土器・石器）、古代（竪穴住居跡）	2・19
106	古野		秋田市上北手吉野字向老方16外	H6		
107	秋大農場南		秋田市四ッ小屋未戸松本字地蔵田	H3	旧石器、縄文中期集落（竪穴住居跡・土坑）、平安（住居跡）	10
108	井戸尻台Ⅰ		河辺町戸島字井戸尻台49外	H9 H10（塚）	縄文中期集落（竪穴住居跡）、縄文晩期、弥生（土器）	19
109	井戸尻台Ⅱ		河辺町戸島字井戸尻台		縄文時代（石匙）	15
110	上野		河辺町戸島字上野119-3外	H9	縄文（土器・石器）、弥生、古代集落（竪穴住居跡）	19
111	奥椿岱		雄和町椿川字奥椿岱195-4B外	H10	縄文中期集落（竪穴住居跡・土坑）、縄文後期・晩期～弥生（土器）	20
112	岱Ⅰ		河辺町畑谷字岱217-1外	H11	縄文（土器・石器）	17
113	岱Ⅱ		河辺町畑谷字岱134外	H11	縄文中期（竪穴住居跡・土坑）	17
114	岱Ⅲ		河辺町畑谷字岱286外	H11	縄文（土器・石器）、弥生（土坑・土器）、古代（竪穴住居跡・土師器）	17
115	上野Ⅱ		河辺町戸島字上野32-1		縄文時代（土坑・土器）	15
116	大堤山		河辺町戸島字大堤山27-2		古代（溝跡・土器）	15
117	蟹沢Ⅰ		河辺町畑谷字蟹沢143-10	H11 (範囲のみ)	縄文時代（フレーク）	15
118	未命名		河辺町戸島			1
119	杉ノ下	1-330	秋田市豊岩豊巻字杉ノ下		須恵器	14
120	中山	1-355	秋田市豊岩豊巻字中山			14

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

松木台Ⅲ遺跡は河岸段丘堆積物によって形成された、標高約40mの台地の縁辺部にあり、北側の崖下には岩見川が西流し、その比高差は27mを計る。調査区はほぼ平坦であるが、A区、B区、G区はA区とB区間の沢に向かいわずかに傾斜している。調査前の現況は杉が植林されており、伐採後の杉株が広範囲に広がっていた。

この遺跡は、昭和60年に東北横断自動車道秋田線建設に先立って、A区とG区の間8,000㎡が発掘調査された。この時は旧石器時代の石器約3,250点、縄文時代中期の竪穴住居跡3軒の他、配石遺構4基など114遺構が調査され、さらに平安時代の竪穴住居跡1軒、焼土遺構7基など計31遺構が検出され、土師器・須恵器の他、鉄滓・韃の羽口・砥石なども出土している。年代は9世中半～後半を中心とした時期に比定されている。

遺跡の層序は、A区・B区・G区とも層厚の違いはあるものの、共通している。Ⅰ層の表土は黒褐色か黒色のシルトで、粘性・締まりが弱い。Ⅱ層は黒褐色か黒色のシルトで、黒褐色か黒色のシルトで、地山・焼土・炭化物の粒子が混入する。Ⅲ層は地山漸移層で、暗黒褐色かにぶい黄褐色のシルトで、地山粒子が混入し、場所によっては粘性・締まりが強かったり、弱かったりする。Ⅳ層は地山のローム層で黄褐色か橙色で、締まりが強い。遺構のほとんどはⅢ層かⅣ層で確認した（詳細は第4図）。

第2節 調査の方法

発掘調査はグリッド法を用いた。調査区に設置されている日本海沿岸自動車道象潟秋田線建設の道路中心杭(c)STA 2 +40、X = -40,114,56401、Y = 53,297.36679] をグリッド原点MA50として、この杭から国家座標X系座標北に合わせた南北基線とこれに直交する東西基線を設け、4 × 4 mのグリッドを設置した。また、南北基線には2桁の算用数字、東西基線にはアルファベット2文字の組み合わせを付し、各グリッドの名称は南東隅の交点の算用数字とアルファベットを組み合わせで呼称した。遺構等の実測は、各グリッド杭を利用して測量し、縮尺は原則として20分の1としたが、炬は10分の1とした。なお、遺構平面図と調査範囲図等から遺構配地図など必要な図面を作成した。

第3節 調査の経過

平成9年度 (A～E区)

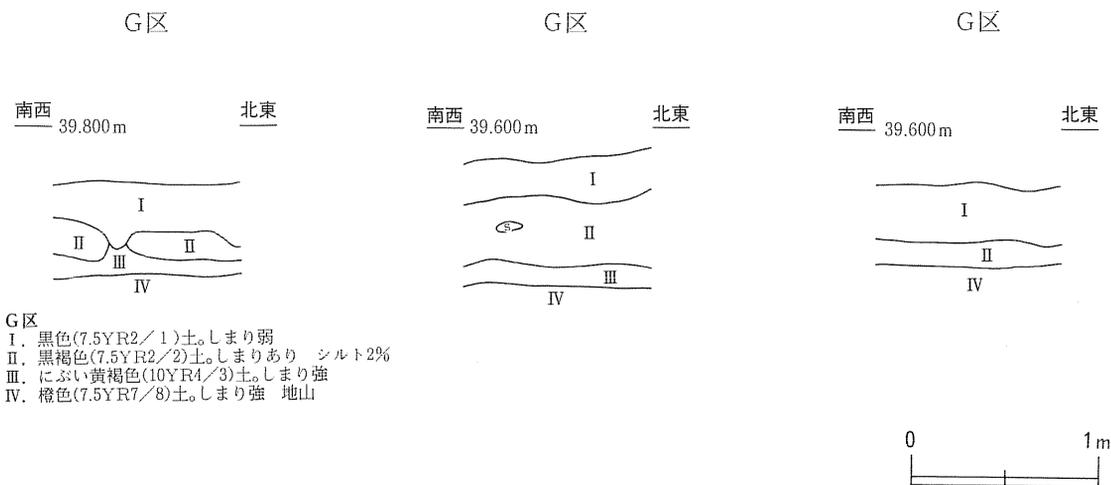
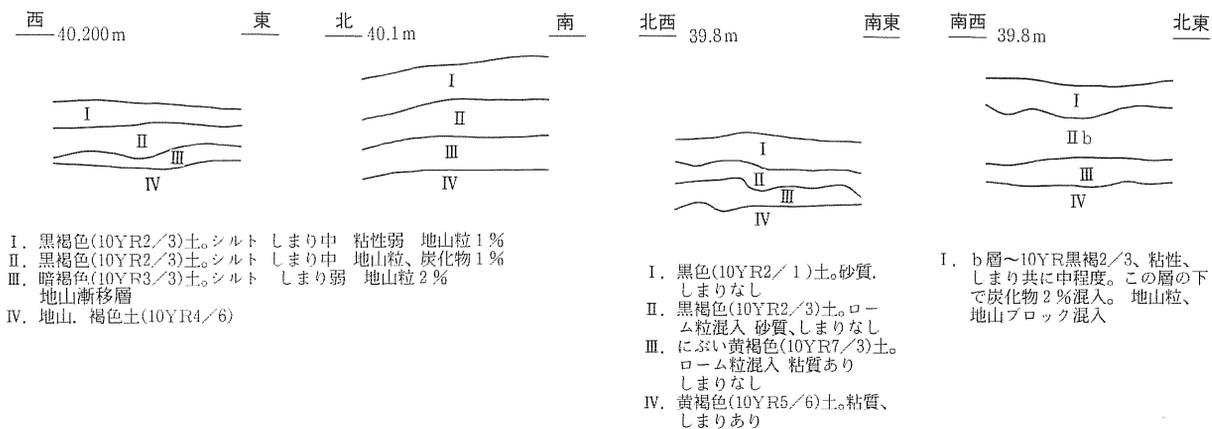
5月12日(月)～16日(金) コンテナハウス設置場所の範囲確認調査を行う。

5月27日(火) 上野遺跡で作業員説明会を行い、範囲確認調査を再開する。

5月28日(水) コンテナハウス(事務所・作業員休憩所・機材小屋・遺物収納小屋)の設置終了

5月29日(木) センターより発掘機材搬入。

A区 (KL85グリッド付近) A区 (KM91グリッド付近) B区 (KR72グリッド付近) B区 (KQ70グリッド付近)



第4図 基本土層図

6月13日(土) A区の範確終了。

6月23日(月)~26日(木) A区(2.0000㎡)のグリッド杭打設開始。

6月26日(木)~7月3日(木) B1区(北東部-2.700㎡)重機による排土除去。

〔調査第1週 6月30日(月)~7月4日(金)〕

6月30日 A区本調査開始。ベルトコンベアー設置・配線。上野遺跡より作業員10名合流。

7月1日 A区I層の粗掘りを北側より開始する。基本土層観察用ベルト設定。

7月4日~8日 B区(2.700㎡)杭打設開始。

〔調査第2週 7月7日(月)~7月11日(金)〕

7月8日 A区粗掘り終了。北側より粗掘を開始、縄文中期後半の土器片が多数出土した。

7月9日 作業員の健康診断を戸島ふるさとセンターで実施した。

7月10日 A区北側よりIII層地山漸移層掘り下げを開始し、遺構(SI・SK・SN)を検出する。

B1区の杉枝、草の除去及び調査前全景撮影。

第3章 発掘調査の概要

〔調査第3週 7月14日(月)～7月18日(金)〕 A区 SI(16)・SK(26)

7月14日 A区北側より地山精査を開始した。基本土層観察用ベルト断面精査及び写真撮影(KM88～91)。B1区(2.700㎡)本調査開始。ベルトコンベアー設置。基本土層観察用ベルト設定。作業員不足のため、雄和町・協和町教育委員会へ短期雇用の作業員手配を依頼する。

7月15日 A区の調査員を2班編成にして遺構精査を開始する。B1区北側よりI・II層の粗掘り開始。

7月18日 B1区で遺構(SK)検出する。B1区に小沢が入り込んでいることを確認した。

〔調査第4週 7月22日(火)～7月25日(金)〕 A区 SI(7)・SK(26)

竪穴住居跡を検出した(大木9式土器を埋設している)。地山面が不安定で遺構のプランが非常に確認しにくくて苦労した。

7月24日 北上市埋蔵文化財センター作業員現場見学。太田中大野憲司教頭が、体験学習の打ち合わせのため来跡。

〔調査第5週 7月28日(月)～8月1日(金)〕 A区 SI(9)・SK(24)

7月28日 B1区の調査を中断してA区の調査を集中して行うことにした。

8月1日 A区の粗掘及び杉根の抜根をほぼ終了した。

〔調査第6週 8月4日(月)～8月8日(金)〕 A区 SI(10)・SK(25)

8月4日～6日 太田中生徒5名、発掘体験学習。

8月8日 A区東西基本土層図作成終了。由利町文化財保護委員来跡。

〔調査第7週 8月18日(月)～8月22日(金)〕 A区 SI(13)・SK(26)・SKT(1)

8月18日 現場再開。B2・3区にベルトコンベアー配置。B1区、粗掘再開。上野遺跡より作業員20名合流。

8月20日 A区北側で複式炉のある竪穴住居跡が密集した状態で検出され、A区が大きな集落である可能性が強くなった。

8月21日 坂井秀弥文化庁文化財調査官来跡。

〔調査第8週 8月25日(月)～8月29日(金)〕

A区の遺構数 SI(21)・SK(36)。B区 SK(6)・SKT(1)

8月25日 B1区基本土層作成終了。

8月26日 遺物整理用コンテナハウス設置。

8月28日 B1区の小沢が予想以上に深く、重機による掘り下げをした。

8月29日 B区遺構精査開始。

〔調査第9週 9月1日(月)～9月5日(金)〕

A区の遺構数 SI(35)・SK(76)・SKT(1)。B区 SK(12)・SKT(1)

9月1日 A区の竪穴住居跡群が環状集落になる可能性がでてきた。さらに、竪穴住居内の複式炉が中央部を向くことが分かった。河辺町広報で整理作業員を募集する。

9月2日 河辺町教育委員遺跡見学。

9月4日 薬科哲雄氏(京都大学原子炉実験所助手)来跡。D区、Tピット精査終了(SK(T)6001)。

〔調査第10週 9月8日(月)～9月12日(金)〕

- A区の遺構数 SI(35)・SK(70)・SKT(3)。B区 SI(2)・SK(28)・SKT(2)
- 9月8日 調査課長・課長補佐・主査・科長来跡し、調査工程の見直しを行った。
- 9月10日 B1区SKF5045精査開始。
- 9月12日 B1区のSI5062の複式炉をもつ竪穴住居跡の精査開始。
- 〔調査第11週 9月15日(月)～9月19日(金)〕
- A区の遺構数 SI(36)・SK(57)・SKT(5)。B区 SI(2)・SK(28)・SKT(2)
- 9月16日 A区の調査員を5班に分け、調査終了期日を設定した。整理作業員を雇用し、遺物の洗浄を開始する。
- 9月17日 台風のため現場中止。
- 9月19日 A区沢頭よりで古代の竪穴住居跡を確認した。
- 9月25日 B区SKF5075精査開始。以後B1区の小沢の両側に6基のフラスコ状土坑があることが判明した。
- 〔調査第12週 9月22日(月)・24(水)～9月26日(金)〕
- A区の遺構数 SI(37)・SK(60)・SKT(5)。B区 SI(2)・SK(35)・SKT(2)
- 〔調査第13週 9月29日(月)～10月3日(金)〕
- A区 SI(40)・SK(61)・SKT(6)・SB(1) B区 SI(2)・SK(39)・SKT(2)
- 10月1日～3日 B2・3区抜根を集中的に行う。
- 10月3日 A区で焼土を伴う縄文時代の掘立柱建物跡を検出。SI86の埋土中より靴形の土器が出土した。
- 〔調査第14週 10月6日(月)～10月9日(木)〕 A区の遺構数 SI(42)・SK(60)・SKT(8)・SB(1)
- 10月8日 B区遺構精査終了。
- 〔調査第15週 10月13日(月)～10月17日(金)〕 A区の遺構数 SI(47)・SK(90)・SKT(2)・SB(2)
- 10月15日 共同通信取材、翌日松木台Ⅲ遺跡の記事が配信される。
- 10月16日 秋田魁新聞、河北新聞、ABS、AKT取材。同日TV放映。
- 10月17日 河辺中1年生100名遺跡見学。
- 〔調査第16週 10月20日(月)～10月24日(金)〕 A区の遺構数 SI(46)・SK(105)・SKT(8)・SB(3)
- 10月20日 岡村道雄文化庁主任調査官来跡。
- 10月22日 秋田市文化課職員来跡。B区地山レベリングを開始する。
- 10月24日 読売新聞取材。SI52の炉は今回検出した複式炉中でもっとも丁寧な作りである。
- B2・3区調査終了。
- 〔調査第17週 10月27日(月)～10月31日(金)〕 A区の遺構数 SI(46)・SK(123)・SKT(8)・SB(5)
- 10月28日 SI116の柱穴内から石棒が検出した。
- 10月31日 雄和町・河辺町文化財保護審議委員来跡。
- 〔調査第18週 11月4日(火)～11月7日(金)〕 A区の遺構数 SI(47)・SK(110)・SKT(8)・SB(15)
- 11月7日 竪穴住居跡の精査はほぼ終了した。建て替えのある竪穴住居跡の床面を再度掘り下げた結果、SI38・82・83・86から建て替え前の柱穴を地山で埋めた柱穴が検出された。
- 〔調査第19週 11月10日(月)～11月14日(金)〕 A区の遺構数 SI(47)・SK(111)・SKT(8)・SB(17)

- 11月10日 日本道路公団と現地打ち合わせを行い、11月14日で調査を終了することと、以後の安全対策についてお願いし、現場を引き渡した。A区地山レベリングを開始する。戸島小学校6年生遺跡見学。
- 11月11日 すべての遺跡精査を終了した。
- 11月12日 航空写真撮影。遺物をセンターヘトラックで搬送(～13日)
- 11月13日 河辺小学校遺跡見学。秋田南IC～昭和IC間開通。
- 11月14日 センターに発掘機材を搬送して、すべての調査を終了した。

平成10年度 (G区)

〔調査第1週 8月4日(火)～8月7日(金)〕

- 8月4日 G区本調査開始。埋蔵文化財センターから資材が到着し、搬入した。
- 8月6日 調査区西端から幅30cmのトレンチの掘り下げを行った。遺構・遺物は出土しなかった。

〔調査第2週 8月17日(月)～8月21日(金)〕

- 8月18日 調査区北端部から粗掘りを行った。南北のグリッド杭に沿い、2mおきに粗掘りし、遺構・遺物の確認をするが、出土しなかった。高速道路沿いの土層断面の写真撮影を行った。文化課の武藤学芸主事が来跡した。
- 8月20日 JJラインとJHラインを北端部から南側に粗掘りをした。遺構・遺物は出土しなかった。北端部崖の安全柵を再設置した。
- 8月21日 Tピット1基と土坑プランを確認した。土坑のプランから縄文土器が1点出土した。

〔調査第3週 8月24日(月)～8月28日(金)〕

- 8月24日 JC・JD92グリッドの土坑プランの周辺を精査し、土器6点が出土した。JE92・JF92グリッドでSKT01を検出し、その東側を拡張した。JI90グリッドで2基目の落とし穴を検出し、SKT02とした。
- 8月25日 JE92グリッドから土坑を確認し、SK02とした。JF89・90・91、JG87・88・89グリッドの粗掘りをした。SKT01・02を半截した。
- 8月26日 SK03を検出した。
- 8月27日 JD92・93、JE93グリッドで焼土・炭化物のプランとその周辺に柱穴プランを検出した。JE93グリッドを拡張した。土器が2点出土した。旧石器時代の遺構確認のため、IV層の幅1mでの掘り下げを開始した。

〔調査第4週 8月31日(月)～9月4日(金)〕

- 9月1日 JC92・93、JD92・93グリッドから土器片が10数点まとまって出土した。北端部で土坑プランを確認した。
- 9月2日 JE92・91グリッドの東に拡張を行い、土器片と石匙が出土した。SK03の完掘写真を撮影し、調査を終了した。
- 9月3日 MC92、MD92グリッドで検出した土坑をSK04とし、その北東側の焼土の精査を行った。この焼土をSN05とした。南端部、高速道路沿いに基本土層のためにサブトレンチを掘り下げた。

9月4日 SKT01・02の完掘平面図を作成し、この遺構の調査を終了した。SK04・SN05周辺を拡張し、その下に黒い落ち込みを検出した。住居跡か土坑と思われた。

〔調査第5週 9月7日（月）～9月11日（金）〕

9月7日 SK04・SN05周辺（JC92・93、JD92・93グリッド）の遺構検出作業を行った。

9月8日 SK04の完掘写真を撮影し、この遺構の調査を終了した。

〔調査第6週 9月14日（月）～9月18日（金）〕

9月14日 SN05を完掘し、その下のSK06の調査に入った。遺物は出土しなかった。

9月16日 強風のため、現場のローリングタワーや看板などを撤去した。

9月17日 道路公団東工事区に現場の引き渡しを行った。

9月18日 SK06の平面図作成を行い、この遺構の調査を終了し、調査区全景写真撮影を行った。資材をトラックに積み込み、全ての作業を終了した。

第4章 調査の記録

第1節 土器・石器の分類基準

(1) 土器の分類

遺構内・遺構外の土器を器形・文様焼成・胎土から以下のように分類した。

第Ⅰ群土器（第250図1089～1092）

縄文時代前期前葉の春日町式土器である。深鉢形土器で、底部と胴部の資料でG区遺構外から出土した。底部の外底面から胴部下端に角状の刺突文が連続的に横位に施される。

第Ⅱ群土器

縄文時代中期中葉の土器群である。

a類（第140図742～750、第226図1032～1034）大木8a式土器である。

口縁部が内湾するものと、口縁部が外反もしくは外反して口縁部文様帯を形成するものがある。文様は口縁部に細かい粘土紐貼付による小波状文や胴部に方形様の区画文を施文するものや、口縁部に平行に細い隆線や押圧縄文、肥厚する口縁部にやや深めの沈線を施文するものや、橋状把手に「S」字状の沈線を施文するものもある。器種は深鉢形土器と浅鉢形土器がある。

b類（第140図751～754、第226図1036～1038）大木8b式土器である。

縄文地に1～3条の細く浅い沈線で、渦巻文や、縦位・斜位の区画文を施文する土器である。器種は深鉢形土器と浅鉢形土器がある。

Ⅲ群土器 縄文時代中期後半～末葉の土器である。文様や器形で類別した。

a類（第140図755～759、第226図1040～1045）大木9式土器の古段階に属するものである。

明瞭な隆沈線によって渦巻文を施文している土器である。深鉢形土器と浅鉢形土器があり、深鉢形土器が主体を占める。橋状把手もみられる。口縁部がキャリパー形に内湾するものとやや外傾するものがある。

b類（第113図414、415、417、第140図760～767、第226図1047～1056）大木9式土器の新段階に属する土器である。

縄文地に沈線や隆沈線によって口縁部から胴部へ縦位の楕円形区画を基調として文様を施文する土器である。深鉢形土器と浅鉢形土器があり、深鉢形土器が主体を占める。口縁部がキャリパー形に内湾するものとやや外傾するものがある。

c類（第113図413、414、第114図418～423、第115図424、426、427、第116図428、429、431、433、第142図793～795、第227図1057）大木10式土器の古段階に属する土器である。

縄文地に沈線によって描かれたアルファベット状や波状の区画文が施され、縄文部外の縄文は磨消縄文手法によって磨消される。深鉢形土器と浅鉢形土器があり、深鉢形土器が主体を占める。口縁部がキャリパー形に内湾するものとやや外傾するものがあり、やや外傾するものが多い。まれに口縁部が小波状となるものもある。

d類（第116図430、432、436、第117図436～440、第142図784～791、第227図1058）c類の縄文部

によって描かれていた文様が、無文部もしくはやや肥厚して部分的に鱗状となった無文部によって描かれる土器である。c類よりやや後出の土器と思われる。器種は深鉢形土器で、器形は口縁部がキャリパー形でやや内湾するものと、やや外傾するものがあり、やや外傾するものが主体を占める。

やや肥厚した無文部をもつ土器の中には、大波状口縁で口縁部が肥厚し、胴部の無文部を画する沈線上に連続的に円形刺突文を施文するものもある。これらは口縁部内面が折り返し口縁様となっており、口縁部が外傾するものが多い。橋状把手で肥厚した無文部内に円形刺突文を施文する土器もこの類に含めた。

e類（第116図433、434）縄文を施文せずに、隆線によって曲線的な文様を施文する朱塗りの壺形土器である。全体の文様構成は不明である。

時期は、文様構成や胎土・焼成から中期後半と考えられる。

f類（第142図801～805、第143図806～818、第227図1060～1062）胴部に縦位の条線文や撚糸文が施文される土器である。口縁部は平縁の無文で、胴部上半から下の文様とを口縁部下の沈線で区画するものとししないものがある。

g類（第142図792）中期末葉の中の平3式に比定される土器である。胴部半ばから口縁部までの資料である。胴部下から上2/3ほどに最大径をもち、そこからゆるく内湾し、外反するゆるい波状口縁の深鉢形土器である。最大径となる胴部のやや上に1条の沈線を横位に巡らし、沈線下には縄文地に細かく、浅い1条の沈線で縦位の楕円形と思われる区画を施す土器である。

h類（第227図1063、1064）無文で、口縁部のやや下や胴部に、2条の低い降帯を作出し、その間に円形の刺突文を施文する土器である。

i類（第119図448、第142図796、800）器台形土器をこの類とした。

Ⅲ群土器 縄文時代後期前半に比定される土器である。

a類（第144図827、830、831）縄文地で胴部に斜めに沈線を施文する土器で、口縁部に1条の平行沈線で無文部と地文を画するものもある。

b類（第143図819～822、第144図823～826、828、第227図1065）口縁部が無文で、その下に撚糸文や縄文を施文する土器である。口縁部が外傾するものが多く、口縁部と地文の間には口縁部に平行する1条の沈線を施文するものとししないものがある。

Ⅳ群土器 縄文時代中期～晩期の土器である。

a類（第144図832～834）数条の細い沈線間に羊歯状文を施文する土器である。晩期前半の大洞BC式土器である。

b類（第145図842～844）無文の注口土器である。

c類（第144図840）無文の壺形土器である。

Ⅴ群土器 縄文時代末葉から弥生時代にかけての土器である。文様や胎土・焼成から2類に分けた。

a類（第227図1067、1071、1072）変形工字文を施文する浅鉢形土器である。

b類（第144図835、第227図1068、第145図848）平行沈線を施文する土器である。高台付土器の高台部である。

Ⅵ群土器 無文や縄文のみの鉢形・深鉢形・壺形土器を一括して本群とした。

a類（第118図444、第119図447）底部からややきつく外傾しながら丸味をもって立ち上がり、胴部

の上3/4ほどに最大径をもち、口縁部が内湾し縄文を施文する大形の深鉢形土器である。縄文時代中期後半の土器と思われる。

b類(第118図445、第119図446)底部から外傾しながら直線的に口縁部まで立ち上がり、胴部には縄文を施文する深鉢形土器である。小形のもの、中形のものがある。縄文時代中期後半の土器と思われる。

c類(第118図442)胴部の上半分だけの土器である。胴部上半に最大径をもち、口縁部が内湾する鉢か深鉢形土器である。口縁部に2条の平行沈線、その下には縄文を施文している。縄文時代中期後半か後期～晩期の土器と思われる。

d類(第118図445、第119図449、第144図838、839、841、第227図1070)胴部下半だけの土器である。底部からややすぼまりながら外傾して立ち上がる器形で、深鉢形土器と思われる。無文のものと縄文のみを施文したものがある。縄文時代晩期の土器と思われる。

e類(第118図441)胴部上半だけの土器で、丸味をもって外傾しながら口縁部にいたる器形で、注口土器の注口部の形状に似る。口縁部に横位に浅い沈線を巡らし、口縁部を無文部として、胴部に斜縄文を施文する土器で鉢形土器と思われる。縄文時代後期か晩期の所産かと思われる。

(2) 石器の分類

松木台Ⅲ遺跡の石器は479点出土している。これはA・B・D・E・G区全ての合計の数字であり、この中には旧石器や、B区から出土した鯨の骨も含まれている。剥片石器、礫石器に関しては上ノ山Ⅱ遺跡の分類を参考にしている。剥片石器は、二次調整や使用痕の有無で分類した。

分類は挿図中の各実測図の下に明記した。

①. 剥片石器・石器類

(ア). ナイフ形石器

旧石器時代のナイフ形石器が1点出土している。出土地点はA区のSI152である。

(イ) 石鏃

基部の形状により、大きくA、B、C、D、Eの5つに大別され、さらにそれが細分される。

A=平基無茎鏃：2種類に細分される。

A-a：両側辺が並行または基部に向かってすぼまるもの。

A-b：平面形が二等辺三角形を呈するもの。基部両端が角張るものと丸みを持つものがある。

B=凹基無茎鏃：2種類に細分される。

B-a：凹基ではあるが、凹み部分の弧の半径が、石器の最大幅よりも大きい。凹みは浅い。

B-b：凹基の凹み部分の弧の半径が、石器の最大幅よりも小さい。凹みは深い。

C=円基鏃：全体の形状が水滴の形状に似るもの。

D=尖基鏃：基部が尖っているもの。

E=凸基有茎鏃：凸基で有茎のもの。

この他に、破損しているために分類できなかったものもある。

(ウ) 尖頭器

槍先形の石器である。偏平縦長で一方の先端に鋭い尖頭部を持つ。3種類に分類される。

A = 大型

B = 小型

C = 基部が丸みをもつ。

(エ) 尖頭器状石器

形状的には尖頭器の仲間の一つと考えられるが、大きさなどから、尖頭器とは別に取り扱った。2種類に分類される。

A = 両面調整の大型の物。B区から2点出土しているが、1点は破損していた。

B = 表面は両側縁から急斜度でなされているが、裏面は尖頭部側周辺に集中しているもの。

(オ) 石錐

断面が菱形・三角形・凸レンズ状の尖頭部を持つ石器。3種類に分類される。

A = 表裏全体に調整が及び、一方の先端に鋭い錐部、その反対側につまみ部があるもの。

B = 棒状のもの。

C = 1端の幅が細くなる。剥片の両側辺にのみ2次調整を施して錐部としたもの。

(カ) 石匙

両側縁から抉りを入れて、つまみ部を作出し、片面からの加撃によって刃部が作られている。器中軸線あるいは刃部と、つまみ部の中軸線の交わる角度によって大きく3種類に分類される。

A = 縦型石匙：つまみ部の中軸線にほぼ平行する刃部を持つ物。

A - a : つまみ部の中軸線にほぼ平行する直線的な1~2の刃部を持つ。

A - a - 1 : 右側に刃部をもつ。

A - a - 2 : 左側に刃部をもつ。

A - a - 3 : ほぼ平行する直線的な2つの側縁をもつ。

A - a - 4 : つまみ部から先端側に末広りの刃部をもつ。

A - b : つまみ部の中軸線に平行する刃部を持たず、極端に内湾しない。

A - b - 1 : 器中軸線に対して外側に膨らむ左右対称の2側縁をもつ。

A - b - 2 : 2側縁が外側に膨らむ。

A - c : つまみ部を除く側縁が曲線を描き、器中軸線に対して左右非対称になる。

A - c - 1 : 側縁がゆるい勾配の曲線を描く。

A - c - 2 : 2側辺が同方向に曲がり全体の形状が「し」の字になる。

B = 斜型石匙：2~3の側辺の中で最も長い側辺の中心と、つまみ部の中軸線とが約45°で交わる石匙である。

C = 横型石匙：最も長い側辺と、つまみ部の中軸線とがほぼ直角に交わる石匙である。

(キ) 石篋

平面形が長方形、小判形等のいわゆる"ヘラ"状を呈し、一端に刃部が作出された石器。3種類に大別され、それぞれが細分される。その方法は以下のとおりである。①平面形状、②細部の形状、③二次調整のあり方、④刃部の平面形状で、このうち③・④は各類に共通で、③が両面調整、半両面調整、片面調整、④が丸刃、直刃、丸のみ形に細々分される。

A = 平面形が、基部側よりも刃部側で幅広、撥形。A区、B区で2点ずつ、合計4点出土している。

両面調整が1点のみで、あとは半両面調整である。

B = 両側縁が平行する。A区出土の隅丸長方形の1点は半両面調整で直刃である。

C = 基部・刃部ともに弧を描く物で、他の物よりも器長最大幅に対する器長率が大きい。

C - a : 平面形が長楕円形で、平面形が尖頭器に似ている。両面調整、丸刃の物がB区から1点。

同じく丸のみ形がA区から2点、片面調整、丸刃の物がA区から1点、合計4点出土している。

C - b : Bと同じく隅丸長方形だが、それに比べて非常に長い物をこの類にした。両面調整、丸刃の物がA区から2点出土している。

(ク) 削器

大小の剥片の側縁に連続的な二次調整によって刃部を作出した石器。刃部の形状・器の大きさによって5種類に分けられる。

A = 大型の剥片に直線的な刃部を作出したもの。

B = 比較的大型の剥片に弧状の刃部を作出したもの。

C = 小型の剥片に内湾した刃部を作出したもの。

D = 大型の剥片にU字形の刃部を作出したもの。

E = 大型の剥片にV字形の刃部を作出したもの。

(ケ) 搔器

厚い剥片の一端に片面調整による急斜度の刃部を作出した石器。出土数は破損品も含めて全部で51点と多い。裏面が反っているか否かで2つに大別される。

A = 裏面が反っている剥片の先端部に刃部を作出した物。平面形状によって3種類に細分される。

A - a : 刃部の平面形がゆるい弧を描くもの。

A - b : 刃部の平面形が直線的なもの。

A - c : 刃部の平面形が急な弧を描くもの。

B = 裏面が反らずに水平な剥片の一端に刃部を作出したもの。

(コ) 鋸歯状石器

縦長の比較的大きな剥片の1～2側縁に、粗い調整によって鋸歯状の刃部を作出した石器。

(カ) 楕円形石器

全体の平面形状が楕円形を呈する石器。A区で1点出土している。

(シ) 楔形石器 (ピエス・エスキーユ)

薄い剥片の上下端に調整を加えて、上下辺が平行になるように仕上げた石器。A区で1点出土している。

(ス) 石核

石器の剥片素材を剥ぎ取った痕跡をもつもの。

(セ) 磨製石斧

破損品も含めて、全部で25点出土している。(うち破損品16点) 全体の形状で5種類に大別した。

A = 乳棒状磨製石斧。断面は楕円形。A区で2点出土している。

B = 定角式磨製石斧。両側縁、基端が研磨されている。A区で3点出土している。

C = 定角式磨製石斧。偏平で直刃的な物。A区で2点出土している。

D = 比較的細長く側面の幅が狭い物。A区で1点出土している。

E = 基端がCに比べて劣る物。A区で1点出土している。

(ソ) 打製石斧

撥形や短冊形の礫に刃部を作出し、石斧とした物。破損品、未完成品と思われる物を含めて8点出土している。平面形状によって2種類に分けられる。

A = 礫の両端に剥離が加えられ、刃部周辺が研磨された物。A区で1点出土している。

B = 平面形が三角おにぎり状の礫の中央やや上部に抉りを入れ、全体の形状をダルマ形に仕上げた物。

D区で1点出土している。

(タ) 石剣

やや扁平で細長い石を加工したもので、断面は楕円形と推定されるもの。

(チ) 石棒

やや大きめの細長い石を加工して断面形を円形にしたもの。

(ツ) 有孔石製品

細長い石や軽石などを成形し、穴をあけたもの。

(テ) 石製品

薄く長方形様に成形したもの。

(ト) フレーク

2次調整の有無で2種類に分類した。

フレークⅠ：2次調整のある剥片石器。

フレークⅡ：2次調整のない剥片石器。使用痕（微小剥離痕）のある剥片を含む。

②. 礫石器類

(1) 磨石

円形や楕円形の礫の表裏や側面に擦りによって擦面が作出されているもの。この中には敲いた痕跡の混在するものもある。

(2) 敲石

円形や扁平な石に表裏もしくは側面に敲いた痕跡のあるもの。

(3) 石皿

やや大きめの板状の石に擦った痕跡をもつもので、縁辺部が盛り上がっているものや、脚のついたものもある。

(4) 石錘

円形の礫に抉りを入れて、錘としたもの。

(5) 凹み石

人工的な凹みのある礫。平面形状で4種類に分類した。

A = 円形の礫に人工的な凹みのあるもの。

B = 楕円形の礫に人工的な凹みのあるもの。

C = 棒状の礫に人工的な凹みのあるもの。

D = 欠損のため分類不能なもの。

(6) 砥石

やや大きめの板状の石に、人工的な溝をもつもの。石皿を転用したものもある。

③. 鯨の脊椎骨の化石

図化した物は、大きいものの一部で、所々に磨った痕跡が見られる。B区から出土した。

(3) 円盤状土製品

土器の破片を円形に打ち欠いたもので、遺構内外から67点出土（第152～155図）している。焼成・胎土・色調からほとんどが縄文時代中期後半のものである。径の大小で5類に分けた。

1類 径が20～29mmのもの2点

2類 径が30～39mmのもの13点

3類 径が40～49mmのもの25点

4類 径が50～59mmのもの20点

5類 径が20～29mmのもの7点

参考文献

秋田県教育委員会 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ -上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡-

秋田県文化財調査報告書第166集 1988・3

第2節 A区の調査の記録

遺構は各区のものを合わせると349基となり、柱穴（または柱穴状ピット）79基との総計は428基となる。

(1) 検出遺構と出土遺物

① 旧石器時代の遺物

A区のSI152竪穴住居跡からナイフ形石器が1点（第176図S233）出土した。

② 縄文時代の遺構と遺物

A区では住居跡（SI）44軒、土坑（SK）104基、焼土遺構（SN）121基、掘立柱建物跡（SB）18棟、Tピット（SKT）7基の294遺構、柱穴（または柱穴状ピット）68基を合わせると362遺構を検出した。

ア) 竪穴住居跡

SI01竪穴住居跡（第5図、図版3）

〔検出位置と確認面〕 KO90グリッドに位置し、IV層上面で確認した。

〔重複関係〕 重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、炉を有する。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩やかに立ち上がり、壁高は0.22mである。床面は平らで、非常に硬くしっかりしている。

〔規模〕 長軸2.95m×短軸2.78m 面積6.33㎡である。

〔柱穴〕 床面で5本、壁で1本の計6本（P1～P6）を検出した。主柱穴はP1～P4の4本と考えられ、径22m～31mの円形で、深さは9m～12mであるが、P4は56mと深い。北側の壁より内側20cmのところピットP6があり、SI01より新しい。

〔埋土〕 4層に分層した。

〔炉跡〕（第5図）

炉の位置 住居の南東側に位置する。

形態 土器埋設掘込炉である。

規模 全長0.77mで、土器埋設部の長軸0.37×短軸0.33m、くぼみ部 長軸0.4×短軸0.38mである。

埋土の状況 1層はII層下部に由来する自然堆積土、2・3層はIV層かIII層に由来する人為的埋土と考える。炉の埋土は、炉の中と炉の南東側掘込み部に地山と同じ土が埋められ、炉の中には同時に礫が入れられており、意識的な廃棄の様子がうかがえる。炉の中の礫は焼けていない。

〔出土遺物〕（第88、147、156図、図版70、96）

2層上部より比較的大きな土器片を検出した。出土遺物は2層の中程より上部の方に多い。

面的にはほぼ全面から検出している。縄文土器11点（1～11）、軽石製の有孔石製品1点（S1）、搔器1点（S8）、フレークI・IIが2点（S9）（S10）出土した。

本住居の構築時期は炉や埋土の土器から中期末葉の大木10式期古段階と考えられる。

SI14 竪穴住居跡（第5図、図版4）

〔検出位置と確認面〕 KL89・90、KM89・90のグリッドに位置し、IV層地山で確認した。

〔重複関係〕 南側のSB03と重複し本遺構が新しい。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、炉を有する。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩やかに立ち上がり、壁高は6cmである。床面は平らである。

〔規模〕 長軸3.77m×短軸3.50mで面積は10.76㎡である。

〔柱穴〕 確認されなかった。

〔埋土の状況〕 5層に分層した。

〔炉跡〕（第6図）

炉の位置 住居の中央部に位置する。

形態 石囲炉である。

規模 長軸0.73×短軸0.49mである。

埋土の状況 赤暗褐土のみで、焼土粒30%混入し、粘性・締まりが強い。

〔出土遺物〕（第88、89図、図版90）

遺物は総数で32点。大半は縄文土器であるが一部、剥片が混じる。縄文土器を10点図示(12～21)した。このうち炉内出土土器は3点である。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI15 竪穴住居跡（第6図、図版4、5）

〔検出位置と確認面〕 KO・KN89グリッドに位置し、IV層地山面で確認した。

〔重複関係〕 SB20と南西側で切り合うが、新旧は不明である。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 根による攪乱が大きい。平面形は円形プランで、中央よりやや東南に、炉を確認した。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩やかに立ち上がり、底・壁ともに凹凸が激しい。壁の高さは10cmである。床面は平らで、非常に硬くしっかりしている。

〔規模〕 長軸2.46×短軸2.32m、面積4.76㎡である。

〔柱穴〕 柱穴は炉を挟んで北東・南西方向に2基検出。径17～22cm、深さ17cmである。

〔埋土の状況〕 4層に分層した。埋土は大きく分けて3種類あり、床面に近い層ほど地山の混入が多くなる。壁の崩落が2度あった後、黒褐色土の堆積が見られる。全体的に根による攪乱がひどい。

〔炉跡〕（第6図）

炉の位置 住居の南東側に位置する。

形態 土器埋設掘込み炉である。

規模 長軸0.48m×短軸0.4m

埋土の状況 炉内は土器の周囲に非常に硬く締まった焼土がみられ、土器内には焼土粒を含む、暗褐色土が入り込んでいる。

〔出土遺物〕(第89、156、157図、図版76、90)

遺物は総数で51点。大半が縄文土器であり、他は石器の剥片である。その他に炉に伴い埋設された縄文土器(一部欠損・口縁・底部ともになし)、炉の東側に集中して裾えられていたと思われる縄文土器が検出された。縄文土器9点(22~30)、磨石1点(S11)、敲石1点(S12)、フレークⅡ(黒曜石製)が1点(S15)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI16竪穴住居跡(第7図、図版6)

〔検出位置と確認面〕KN89グリッドに位置し、IV地山上面で確認した。広範囲にわたり焼土が検出され、特に南東方向に集中していた。

〔重複関係〕重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形で、確認面で焼土が広範囲にわたりみられた。

〔壁・床面の状況、壁高〕床面はやや凹凸があり。壁はゆるやかに立ちあがり、壁高は8cmである。

〔規模〕長軸2.60m×短軸2.45mで面積4.88㎡である。

〔柱穴〕柱穴は炉脇の壁際で1基(P1)が検出された。径23cmで深さ21cmである。

〔埋土の状況〕13層に分層した。焼失の際に堆積したと考えられ焼土が広範囲に入り組んで混入する。また、壁際には焼失で崩落したとみられる層が検出され、その後暗褐色土が堆積する。

〔炉跡〕(第7図)

炉の位置 住居の南側に位置する。

形態 複式炉である。地山を硬く締めた土手状のものが周囲に巡る。

規模 全長1.3mでくぼみ部と土器埋設部からなる。土器埋設部は長軸0.36m×短軸0.27mである。

埋土の状況 10層に分層した。炉内は、土器を裾えた、掘込みでは土器の周りに火熱を受けた地山がめぐる。土器内部は底に焼土がみられその上は、黒褐色土が堆積する。

〔出土遺物〕(第89、90、91、147、156、157図、図版76、90)

炉内北側より口縁・底部のない縄文土器が出土した。遺物は総数57点。大半は縄文土器で特に集中する所が無く、全体に分布している。炉内の埋設土器は口縁・底部を欠損していた。外面は火熱を受け赤味を帯び、内面は底部に近い位置で煤が付着している。縄文土器は11点(31~41)、有孔石製品1点(S2)、石鏃1点(S13)、凹石が1点(S14)、フレークⅡが3点(S16~18-いずれも黒曜石製)出土した。

本住居跡の構築時期は炉内の埋設土器や埋土出土土器より中期後半の大木10式期の古段階に属すると推定される。

SI24竪穴住居跡(第8、9図、図版7、8)

〔検出位置と確認面〕KO87・88グリッドに位置し、IV地山で確認した。

〔重複関係〕暗褐色土の円形プラン。南側でSI94と切り合う。西側は調査区境界の壁に切られる。南側でSI94を切り南東側でSK124に切られる。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形である。中央より南東側に、炉を上下で検出した。

上部の炉は、石囲土器埋設複式炉で床面より高い位置に地山土を貼って作られている。

下部の炉は、住居構築時のもので石囲部（焼土）とくぼみ部で、上部の炉を石囲部のみ位置・規模を変えずに作り直したものと思われ、埋設土器は確認されなかった。周溝は途切れながらも全周し、幅7～22cm、深さ2～18cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、床・壁面とも凹凸はやや少ない。壁高は8cmで、床面は平らである。

〔規模〕長軸4.36m×短軸3.91（推定）mで、面積は（13.19m²）である。

〔柱穴〕南東側に、ピット状の凹みが検出された。柱穴は、6本検出された（P1～P6）。

〔埋土の状況〕11層に分層した。このうち支柱穴はP3～P5の3本と思われる。径は20cm～35cmで深さは19～26cmである。複式炉の壁際中央部には支柱と考えられるP1があり、径37cmで深さ10cmである。

〔炉跡〕（第8図）

炉の位置 住居の南東側に位置する。

形態 上部は石囲土器埋設複式炉である。

規模 上部の炉は全長2.00mで、石囲土器埋設部＋くぼみ部である。石囲土器埋設部は長軸0.82m×短軸0.78m。くぼみ部の長軸1.56m×1.22mである。

埋土の状況 5層に分層した。炉が上下で検出されたため、下部の炉埋土上に、地山を固めて敷いたかと思われる土があり、その上に、上部の炉を検出した。

〔出土遺物〕（第91、92、152、149、157図、図版79、90）

遺物は総数209点で、大半は縄文土器である。北東端では、覆土中より、大木9式のミニチュア土器が1点出土した。また、北東部床面から縄文土器を割った破片（約20cm程）が、意図的に、5段に積み重ねられた状態で出土した。他に、炉内の埋設土器がある。

縄文土器20点（41～61）、うち炉内より6点出土（42・46・47・49・54・58）した。他に円盤状土製品1点（893）、搔器1点（S19）、鋸歯状石器1点（S20）、磨石1点（S24）、フレークⅡ（黒曜石）1点（S21）、ミニチュア土器2点（862、863）が出土した。

本住居跡の構築時期は埋設土器より中期中葉の大木8b式期と考えられる。

SI35竪穴住居跡（第9図、図版10）

〔検出位置と確認面〕KM86・87・88、KN86・87・88グリッドに位置しIV層上面で確認した。

〔重複関係〕SK34と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕ほぼ円形で、IV層上面から砂礫を含む層まで掘っており、南東壁際に炉が存在する。壁溝はほぼ全周するが西側で部分的に途切れる。北側床面には長さほぼ3mの溝が存在することから本住居は建替え時に拡張されたものと判断する。壁溝の幅10～25cm、深さ4～18cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁の下方はしっかりしているが、上部は風化等の影響で下部よりもろい。床はしっかりした地山面非常に硬い。壁高は20～25cmである。

〔規模〕長軸6.53m×短軸6.00m、面積29.86㎡である。

〔柱穴〕柱穴は13本（P1～P13）検出した。径は14～30cm、深さは7～58cmでP5が深さ7cmと浅い。主柱穴はP1・2・7・8・12の5本と考えられる。径は20～30cmで深さは18～58cmである。P1・2が58cmと深い。炉の南西・北東にある柱穴は深さ50cmと深い。他の柱穴は10～15cmとほぼ同じ深さである。

〔埋土の状況〕3層に分層した。

〔炉跡〕（第10図）

炉の位置 住居の南東部に位置する。

形態 石囲複式炉である。

規模 全長2.77m 石囲部 長軸1.02m×短軸0.9m、くぼみ部 長軸1.87m×短軸1.59m

埋土の状況 炉はさらに地山を掘込んでいる。炉に埋設土器はない。3層はⅢ層もしくはⅣ層に由来する土で、炉の部分を埋めたもので2層との境はあまり明瞭ではない。1・2層は自然堆積と判断した。炉は共通して使用されたと思われる。埋設土器の抜き取り痕は見つからなかった。炉の周囲の礫には火を受けた痕があった。火を焚いたと思われる礫を含む地山面は深さ2～3cmにわたり赤変している。住居を廃棄する時、炉をきちんと埋めている。

〔出土遺物〕（第92、93、152、157、158図、図版90）

遺物は埋土の上半からほとんど出土し、床面に近くなるにしたがい少ない。炉の埋土からも少しであるが出土している。縄文土器20点（62～81—うち炉内より2点65・79）、円盤状土製品が炉内より1点（894）、石核1点（S25）、石皿1点（S31）、フレイクⅠ・Ⅱ4点（S26～30）、石鏃2点（S22、S23）が出土した。

本住居跡の構築時期は炉や埋土出土土器より中期中半の大木8b式期と考えられる。

SI75竪穴住居跡（第9図、図版10）

〔検出位置と確認面〕KM・KN88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。

〔重複関係〕SI35と重複しており、SI35より古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕SI35の北側で壁溝の一部のみを確認した。その規模は幅10～18cm、深さ2～8cmである。

SI38竪穴住居跡（第11、12図、図版11）

〔検出位置〕KK88・89グリッドに位置し、地山で検出した。

〔重複関係〕SI43、SK45・46・56と重複している。住居新旧関係は、SI38よりSI43が古い。他に、SI38南西部でSK46と、SI38北側床面でSK45と重複しておりSI38が古い。他に床面でSK56とも重複し、SI38が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は隅丸方形で、複式炉を有する。周溝はほぼ全周し幅7～40cm、深さ4～18cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は13cmである。床面は平らで非常に硬くしっかりしている。

〔規模〕長軸5.25(推定)m×短軸4.31m 面積は19.52㎡である。

〔柱穴〕支柱穴は5本と思われる。P3～P7はSK46の構築によって壊されたと考える。支柱穴は地山層下の礫層まで掘りこまれている。支柱穴の径は23～50cm、深さ37～49cmである。

〔埋土の状況〕19層に分層した。比較的3層中で小規模な焼土を検出した。土層はベルト面で東西14、南北ラインで13層に分層し(1～4層はそれぞれ対応)、3層、4層を掘りこんで構築したSK45の上部断面がきれいにベルトに観察できた。(南北ラインSPC-Dの11,12,13層)。堆積状況はSI38・43共に自然堆積である。なお埋土中に20～30cm程の自然石が6個あったが、いずれも堆積の際に入りこんだものと思われる。

〔炉跡〕(第13図)

炉の位置 住居の南西側に位置する。

形態 石囲土器埋設複式炉である。炉のくぼみ部に柱穴(P1)がある。規模は直径17cm、深さ26cmである。

規模 全長1.97m、土器埋設部 長軸0.46m×短軸0.41m、石囲部 長軸0.75m×0.75m、くぼみ部 長軸1.13m×短軸0.6mである。

埋土の状況 住居北部に地床炉、南壁面から中心に向かって逆扇形に複式炉がある。複式炉上位には多くの礫がある。炉廃棄の際これら多くの礫を入れたと考えられる。上位の礫は熱の影響を受けていない。複式炉は一部礫層まで掘りこんでおり、土器埋設部については礫層をさらに15cm程掘り下げて土器を設置している。複式炉の断面においては、複式炉に伴う柱穴の層、土器内の土層を含めて13層に分層した。複式炉埋設土器内の土は、上層がにぶい赤褐色土である他は、底部までの炭化物層である。複式炉内にある柱穴は(P1)3層下でプラン確認でき、3層下から掘込んでいることから、複式炉1～3層は、複式炉の覆土であると思われる。

〔出土遺物〕(第93、94、152、158、159図、図版77、91)

遺物の取り上げでは、330点を超え(小片を含む)、多めではあるが、この中には、SI43、SK46・45・56の切り合いによる遺物も含まれている。SI38では、複式炉の土器を除いてまとまって出土していない(小片多し)。石器は土器に較べ量が少ないが、石錐、敲石、黒曜石等出土している。支柱穴P1内からは、土器片出土、他に支柱穴P3より石器2点出土している。複式炉の埋設土器は、口縁部、土器底部が無いが、しっかりした土器である。

図示した遺物は、縄文土器23点(82～104、うち炉内より2点出土)、円盤状土製品(うち炉内より2点(895・896)、石鏃1点(S32)、石錐1点(S33)搔器2点(S34、36)、鋸歯状石器1点(S35)、石錘1点(S41)、磨製石斧1点(S40)、石核(黒曜石製)1点(S42)、フレークI・II(黒曜石製)3点(S37～39)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期の古段階と考えられる。

SI41竪穴住居跡(第13、14図、図版61)

〔検出位置と確認面〕KJ88・89グリッドに位置しⅢ層下面で確認した。

〔重複関係〕SI69、SI67、SB246と重複する。SI69より新しく、SI67より古い。SB246が一番新しい可能性があるが判然としない。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ楕円形と推定される。炉、壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、壁高は8cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸 残存部3.70m×短軸 残存部1.16mである。

〔柱穴〕床面で7本検出した。主柱穴は全体のプランが不明のため判然としない。規模は径12～20cm、深さ7～17cmである。

〔埋土の状況〕4層に分層した。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔出土遺物〕(第94、159図、図版91)

縄文土器14点(105～118)、磨石1点(S43)、フレークⅡ1点(S44)、円盤状土製品1点(897)が出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木9式期の新段階と考えられる。

SI67竪穴住居跡(第13、14図、図版61)

〔検出位置と確認面〕KJ88・89グリッドに位置し、Ⅲ層下でSI41掘り下げ中に床面で確認した。

〔重複関係〕SI41、SB246と重複している。SI41のための土層観察用ベルトの断面で、立ち上がりを確認したのもでSI41より新しい。SB246も本遺構より新しいと思われる。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕全体の1/4ほどの残存で全容は不明であるが、残存部の形から平面形はほぼ円形と推定される。SIのほぼ中央より南西方向に炉がある。壁溝の幅7～18cm、深さ4～12cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、壁高12cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸残存部3.05m×短軸3.34mで面積は8.89㎡である。

〔柱穴〕住居内で11本(P1～P11)検出した。大きさ、深さ、並びからP1・2・4・6・9・10の計7本を主柱穴と推定した。これらの規模は径20～40cm、深さ12cm～24cmである。

〔埋土の状況〕6層に分層した。

〔炉跡〕(第14、15図)

炉の位置 南西方向に位置する。

形態 土器埋設複式炉である。土器を埋設する際に大きめに掘り、土器を据えた跡に地山土で埋めてから掘込み部を構築している。

規模 全長1.45m、土器埋設部の長軸0.3m×短軸0.25m、石囲部の長軸0.58m×短軸0.52m、くぼみ部の長軸1.0m×短軸0.36mである。

埋土の状況 15層に分層した。炉の埋土から、黒曜石のフレークがやや多く出土している。

〔出土遺物〕(第99、100、101、152、161図、図版78)

埋設土器は二重にめぐり底部はないが、口縁を上にして土器片を敷いた状態で出土した。

縄文土器(うち炉内から5点出土)46点(192～237)、円盤状土製品1点(902)、フレークⅠ(黒曜石)・Ⅱ(黒曜石)14点(S60～74)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI69竪穴住居跡(第13、14図)

〔検出位置と確認面〕 KJ89グリッドに位置し、Ⅲ層下面で確認した。

〔重複関係〕 SI41と重複し本遺構が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 全体の1/4ほどの残存であるが、平面形はほぼ円形と推定される。炉、壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩く立ち上がり、壁の高さは12cmである。床面は平らで、断面ポイントC～C'上にSI41の壁の立ち上がりを確認したものである。

〔規模〕 長軸 残存部2.24m×短軸 残存部1.32m

〔柱穴〕 床面で3本を検出した。

〔埋土の状況〕 5層に分層した。

〔炉跡〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 (第102図、図版93)

当初SI41として、遺物を取り上げていたため、最後までSI41として取り上げ整理段階で分けた。縄文土器2点(241、242)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI42竪穴住居跡(第15図、図版13)

〔検出位置と確認面〕 KI86グリッドに位置し、Ⅲ層面上、Ⅳ層(地山)上面で確認した。

〔重複関係〕 西端の壁寄り(推定)にSI49の炉が、南東方向壁際にもう1基検出(炉のみ)した。出土土器からSI42は大木9式期の新段階、SI49は大木10式期の古段階であるからSI42の方が古い。SI42の西に小土坑状のP4～6があるが、本住居跡より新しい。SB242と重複しているが状況的には新旧不明である。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 西側の半分以上はプラン不明であるが平面形はほぼ円形であろう。炉を有する。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は東側の部分でわずかに立ち上がりが確認され壁高3cmである。床面は平らである。

〔規模〕 長軸 残存部3.23m×短軸 残存部3.07m推定 面積7.78㎡

〔柱穴〕 床面で6本検出した。このうち本住居跡に伴うと思われるものは三本(P1～P3)で径15～20cm、深さ7～12cmである。なお、西端部にある小土坑状の遺構を一応P4～6としているが土層断面によるとP4～6は本住居より新しい。

〔埋土の状況〕 8層に分層した。

〔炉跡〕 (第16図)

炉の位置 住居の中央からわずかに西寄りに位置する。

形態 石囲土器埋設炉で、埋設土器の西側に石囲部がある。

規模 長軸0.62m×短軸0.4mである。

埋土の状況 2層に分層した。土器の北西方向に焼土を含む。

〔出土遺物〕 (第94、95、159図、図版77、91)

縄文土器6点(119~124)、石鏃1点(S47)が出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期の新段階と考えられる。

SI43竪穴住居跡(第16図、図版11、12)

〔検出位置と確認面〕 KJ88・89グリッドに位置し、地山・漸移層に暗褐色土の広がりとして確認したものである。

〔重複関係〕 SI38の広がりとして認識していたが壁面及び床面の検出によって、SI38とは別の住居であると判断したものである。SI38に西側が切られて東側のみの検出である。西側半分以上がSI38で切られ、さらに北側床面にはSK56が重複している。SK56は晩期の遺構である。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 西側半分がSI38で削除されているが、ほぼ円形を呈していたものと思われる。南壁側で炉が確認された。壁溝は無い。

〔壁・床面の状況、壁高〕 床面はSI38との間に段差がみられ、SI43の床面がSI38より5cm程高い。床面は平坦で、壁高は20cmである。

〔規模〕 長軸4.00mで短軸の残存部1.24mである。

〔柱穴〕 炉の燃焼部がSI38の支柱穴P3で切られている。SI38支柱穴P3構築の時除去したものか、最初から無いものかは不明である。SI43の複式炉に3本の柱穴を検出したが、SI43の支柱穴は検出できなかった。3本の柱穴の径は13~20cm、深さは17~22cmである。

〔埋土の状況〕 3層に分層した。暗褐色土が主たる層で、上層と下層で2層に分かれ、さらに東側壁面に自然崩落のものと思われる層が確認できた。下層の層には、地山粒が多く混入している。

〔炉跡〕 (第17図)

炉の位置 住居の南西側に位置する。

形態 石囲複式炉である。

規模 全長1.64m 石囲部 長軸0.82m×短軸0.67m くぼみ部 長軸1.61m×短軸0.97m

埋土の状況 複式炉の覆土は3層に分かれ、自然崩落と思われる層(3層)も確認。

南側に複式炉があるが、炉断面には、土器を埋めたと思わせるような層は見あたらなかった。

〔出土遺物〕 (第95、152、159図、図版91)

床面までの覆土中で50点程出土している。しかし、まとまった土器はなく、いずれも小片である。複式炉からは、12点出土した。縄文土器10点(125~134うち炉内より9点)、円盤状土製品2点(898、899)、凹み石2点(S45、46)、尖頭器1点(S48)図示した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期の新段階と考えられる。

SI49竪穴住居跡(第17図、図版12)

〔検出位置と確認面〕 KI85・86グリッドに位置し、IV層上面で確認した。SI42を精査中、南東方向に配石の無い焼土を伴う埋設土器を確認。地山面での確認のためか壁は検出されなかった。

〔重複関係〕 炉埋設土器からSI42が大木9式期新段階、SI49が大木10式期古段階であるからSI49の炉が新しいと思われる。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 炉のみの確認で全体プランは不明である。

〔炉跡〕（第17図、図版12）

形態 土器埋設炉である。

規模 長軸0.42m×短軸0.34mである。土器は部分的に二重に埋設されていた。

埋土の状況 黒褐色土の中に焼土粒が混入している。

〔出土遺物〕（第95、96図、図版91）

炉の中の埋設土器は、内外2つ存在しており、土器の中に土器を押し入れたような状態で2つとも底が無い。埋設土器が6点（135～140）出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI51竪穴住居跡(第18、19図、図版14)

〔検出位置と確認面〕 KI84・85、KJ84・85グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認した。

〔重複関係〕 南東側でSI88とSB136が重複し、SI51よりSI88が古く、SB136が新しい。また南側にSI58がありSB136はこれよりも新しい。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、複式炉を有する。床面に3条の壁溝がみえることから二回建替が行われている。埋土や検出状態から拡張し、外側の壁溝が最後のものと思われる。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は急に立ち上がり、床面は平らである。壁高は12cmである。

〔規模〕 長軸5.13(推定)m×短軸4.25m 面積17.77㎡である。

〔柱穴〕 床面で14本検出した。

〔埋土の状況〕 15層に分層した。

〔炉跡〕（第19図）

炉の位置 土器埋設炉が東西に2基並びSIの西側にくぼみ部が位置する。

形態 土器埋設複式炉である。土器埋設部には土器が2個体埋設されている。炉確認面の土器周辺にある焼土の存在から土器は同時使用されていたものである。

規模 全長2.50m、土器埋設部+石囲部の長軸1.50m×短軸0.69m、くぼみ部 長軸1.0m×短軸1.02mである。

埋土の状況 24層に分層した。

〔出土遺物〕（第96、97、98、159、160図、図版77、91、92）

ベルトの交差部分、床面より、口縁部土器片が出土した。

縄文土器38点（うち炉内より6点）（141～178）、円盤状土製品1点（900）、石匙1点（S50）、削器1点（S53）、搔器1点（S52）、石皿2点（S51、54）、敲石1点（S56）、石鏃1点（S49）を図示した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期の新段階と考えられる。

SI88竪穴住居跡(図版14)

〔検出位置と確認面〕 KI83・84グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認した。

〔重複関係〕 北側でSI51と重複しており、SI88が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、SIの北西方向に、石囲炉が有る。壁溝は検出され

なかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁はやや急に立ち上がり、壁高は12cm、床面は平坦である。

〔規模〕長軸2.92m×短軸 残存部2.04mで面積5.88㎡である。

〔柱穴〕2本検出した。規模は径18～30cmで、深さ10～15cmである。

〔埋土の状況〕根による攪乱が著しいが、埋土には焼土や炭化物がやや混入している。

〔炉跡〕(第20図)

炉の位置 住居の北西側に位置する。中の凹みの北西側に焼土がみられる。

形態 石囲複式炉である。SI51によってくぼみ部が壊されたと判断した。中の凹みの北西側に焼土がみられる。

規模 長軸0.47m×短軸0.44mである。

埋土の状況 7層に分層した。地山粘土や焼土ブロックが多量に含まれる。

〔出土遺物〕(第110、168図、図版94)

縄文土器3点(384～386)、磨製石斧1点(S151)、石鏃1点(S149)、搔器1点(150)、フレークⅡが1点(S152)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木10式期の古段階と考えられる。

SI53竪穴住居跡(第20図、図版15)

〔検出位置と確認面〕KI82グリッドに位置し、IV層で確認した。炉のみの確認である。

〔重複関係〕SI68(炉のみ)と重複している。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕炉のみの確認で壁溝や壁の立ち上がりは無かった。

〔壁・床面の状況、壁高〕炉の西側に非常に固い凹凸があったが、床面と確認するには至らなかった。

〔炉跡〕(第20図、図版15)

形態 石囲炉である。石の下にはわずかに掘込みがあり、炉内には径24cmの焼土が検出された。

規模 長軸0.71m×短軸0.43mで深さは0.06mである。

埋土の状況 1層に分層した。

〔出土遺物〕(第98、152図、図版78、92、97)

縄文土器4点(179～182うち炉内より2点)、円盤状土製品1点(901)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の新段階と考えられる。

SI55竪穴住居跡(第20図、図版16)

〔検出位置と確認面〕KM84、KN84グリッドに位置し、地山面で確認した。

〔重複関係〕東端でSK72重複し、SI55が新しい。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形で、南側に炉を確認した。土器は埋設されている。周囲には石がめぐるが、半数程しか残っていない。炉の北側に地山をかたく粘土状に締めた盛り上がりが見られる。

〔壁・床面の状況、壁高〕床面・壁は凹凸が少ない。壁高は10cmである。

〔規模〕長軸2.60m×短軸2.50m 面積は5.24㎡である。

〔柱穴〕床面で5本検出した。規模は16～30cm、深さは9～18cmである。炉脇のP1、P2は柱穴と推定とされるが、他の3本は、配置からは特定できない。

〔埋土の状況〕3層に分層した。地山ブロックが多く混入している。

〔炉跡〕(第21図)

炉の位置 住居の南東側に位置する。

形態 石囲土器埋設複式炉である。埋設土器の周りには焼土が見られ、石の一部には煤が付着している。

規模 長軸0.59m×短軸0.38mである。

埋土の状況 2層に分層した。人為的に埋め戻されたとみられ、暗褐色土に地山ブロック、黒褐色土が見られる。

〔出土遺物〕(第98、160図、図版78、92)

遺物は総数で16点。大半は縄文土器であり他は剥片石器である。その他に、北側に一括の土器、炉内に埋設土器(報告書未掲載)がみられる。縄文土器4点(183～186)、搔器(S55)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI57竪穴住居跡(第21図、図版17)

〔検出位置と確認面〕KJ82・83,K K82グリッドに位置し、IV層上で確認した。

〔重複関係〕重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形で、複式炉をもつ。壁溝は確認されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、壁高は10cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸2.77m×短軸2.75mで面積は5.74㎡である。

〔柱穴〕床面で2本検出した。径は22～35cmである。

〔埋土の状況〕6層に分層した。1・4層に焼土・地山粒が多く混入している。土層断面の状況から自然堆積と思われる。

〔炉跡〕(第21図)

炉の位置 住居の北西側に位置する。

形態 土器埋設複式炉である。土器埋設部とくぼみ部、わずかな掘込みからなる。

規模 全長1.30m、土器埋設部 長軸0.34m×0.3m、掘込み部 長軸0.47m×短軸0.36m、くぼみ部 長軸0.8m×短軸0.6mである。

埋土の状況 8層に分層した。埋設土器の外面には焼土が巡る。

〔出土遺物〕(第99、146、161図、図版78、92、98)

炉内の土器は粗製土器である。縄文土器2点(187、188)、磨石1点(S57)、土製品1点(849)、石皿1点(S58)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI58竪穴住居跡(第22図、図版18)

〔検出位置と確認面〕 KI83・KJ83グリッドに位置し、IV層上面で黒褐色のプランを確認した。

〔重複関係〕 重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、炉と壁溝を有する。壁溝は幅8～22cm、深さ4～16cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は急に立ち上がり、床面は平らである。壁高は12cmである。

〔規模〕 長軸3.65m×短軸2.63mで面積7.20㎡である。

〔柱穴〕 床面で4基、壁で6本計10本を検出した。

〔埋土の状況〕 11層に分層した。9～10層には地山粒が多く混入している。

〔炉跡〕 (第22図)

炉の位置 住居の西壁に取り付く。

形態 複式炉である。石囲部とくぼみ部で構成されており、石囲部に焼土が見られる。

規模 全長1.67mで、石囲部 長軸0.65m×短軸0.46m、くぼみ部 長軸1.22m×短軸1.02mである。

埋土の状況 3層に分層した。

〔出土遺物〕 (第99、161図、図版92)

石器5点、土器20点が出土した。縄文土器3点(189～191)、石匙1点(S59)を図示した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期と推定する。

SI68竪穴住居跡(第23図、図版15)

〔検出位置と確認面〕 KI82グリッドに位置し、IV層で確認した。

〔重複関係〕 炉のみ確認された。SI53と西隣している。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 炉のみが検出されたもので壁や壁溝は検出されなかった。本遺構やSI53周辺はやや高くなっており、両遺構がこの場所ではその輪郭が判然としないことから、壁や柱穴が削平され、炉のみが残った可能性が高い。

〔炉跡〕 (第23図、図版15)

形態 土器埋設石囲炉である。土器は炉の南側に約45°斜めに埋設され、それから3方向に円形に石が配され、土器と石の中央には焼土が見られる。

規模 長軸0.67m×短軸0.62mである。

埋土の状況 7層に分層した。地山粒や炭化物粒子の混入層が多い。

〔出土遺物〕 (第101、102、162図、図版78)

埋設土器が二重(部分的に三重のところもあり)になっており、明らかに模様の異なる土器同志であり、同一の個体がつぶれて二重になったものではない。埋設された縄文土器3点(238～240)、凹石1点(S75)が出土した。

本住居跡の構築時期は炉出土土器より中期後半の大木10式期の新段階と考えられる。

SI70竪穴住居跡(第23、24図、図版19)

〔検出位置と確認面〕 KM81・KN81グリッドに位置し、IV層上面で確認した。

〔重複関係〕 SI108・87と重複する。又、SKなどとの重複も多く、西壁付近でSK104・SKP247東壁付近でSK121と、さらに床面でSK110・111と重複している。住居跡南東部床面にて検出した複式炉は、前庭部・埋設土器の方向が180°逆のため、もうひとつ別のSIがあることが判明(SI70の東側で切り合う)したのでSI87とした。SI70は、SI87・108より新しいく、他のSKやSKPより古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で、壁溝、炉は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩やかに立ち上がり、床面は平らで北側の床高が3～10cm程高く盛り上がっている。壁高は15cmである。

〔規模〕 長軸4.21m×短軸3.59mで面積12.88㎡である。

〔柱穴〕 柱穴は3本確認された。その内P3は壁面にあることから本遺構に伴う柱穴はP1・2である。その規模は径20～27cm、深さ39～43cmである。

〔埋土の状況〕 11層に分層した。

〔炉跡〕 検出されなかった。床面に小規模な焼土A・Bがあるが炉とは難しいものであり、炉はあるいはSK110により壊されたものかもしれない。

〔出土遺物〕 (第102、103、146、149、162、163図版78、93)

遺物の数は非常に多く、小片含めての取り上げ数は638を数える。遺物はSI70の中心より東側に集中する傾向がある。凹石や石鏃も各1点出土しているが、全体的に土器に比べて石器の出土が少ない。主柱穴P5内より中期の土器片3点出土。KM81,KN81付近(A区南谷側)に黒褐色土の落ちこみとして確認したもので、落ちこみの西側に一括土器があった。底部等露出していた。SI70が廃棄され、大部分が埋まった後に投棄又は流入した土器と推定される。縄文土器38点(243～280)、ミニチュア2点(864、865)、土製品1点(850)、石鏃1点(S76)、磨石1点(S82)、凹石1点(S83)、フレークII(うち1点黒曜石)、5点(S77～81、84)が出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI74竪穴住居跡(第25図、図版15)

〔検出位置と確認面〕 KN85、KO85グリッドに位置し、IV層下面で検出された。

〔重複関係〕 なし。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 炉のみを検出した。壁溝は検出されなかった。

〔柱穴〕 炉の周囲には柱穴(400・401・404遺構配置図参照)が検出されているが、その配置や規模から本遺構に伴うかどうか判然としない。しかし、炉は「複式炉」の形態をもつことから住居に構築された炉であったと判断した。

〔埋土の状況〕

〔炉跡〕 (第15図)

形態 石囲複式炉である。くぼみ部と石囲部で構成される。

規模 全長1.27m 石囲部 長軸0.6m×短軸0.51mでくぼみ部 長軸0.67m×短軸0.65mである。

埋土の状況 4層に分層した。IV層下面で約25cm×約30cmの石と、その周囲を黒褐色土が楕円形のプランを確認した。IV層上面まで下げたところ小さい石の配列が確認され住居の石囲炉と判断した。

〔出土遺物〕(第103図、図版93)

縄文土器片1点のみ(281)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI79竪穴住居跡(第26図、図版20)

〔検出位置と確認面〕KL・KM80グリッドに位置し、IV層地山上面で確認した。SI83と合わせ、暗褐色の中央がくびれた大きなひょうたん形のような広がりとして確認した。南側沢に落ち込む付近の境界は黒褐色となり不明瞭であった。

〔重複関係〕SI83、SK216・217と重複し、本遺構がSI83・SK216・217より古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕3/4位の残存であるが、平面形は円形を呈するものと思われる。炉と周溝を有する。周溝は炉の西側のみでの確認であるが規模は幅7～30cm、深さ7～13cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、床は平坦でSI83より30cm程高い床面をもつ。壁高は16cmである。壁は北側で検出されているが南(沢)側では壁は検出されなかった。

〔規模〕長軸 残存部3.24m×短軸4.14(推定)mで、推定面積(14.23㎡)である。

〔柱穴〕柱穴は規模や配置状況からP5～P8とした。規模は径18cm×22cmで、P7は削平されたためか深さ3cmと浅いが、他は11～22cmである。4本の可能性が高い。

〔埋土の状況〕2層に分層した。1層は地山ブロックで2層の堆積状況とも勘案し、一度に埋め戻されたものと判断した。

〔炉跡〕(第27図)

炉の位置 住居の北側に位置する。

形態 複式炉である。炉は完全に破壊された状態で検出された。炉中軸線壁際に深いPit(40cm×22cm、深さ56cm)がある。

規模 全長1.94m 石囲部 長軸0.82m×短軸0.8m くぼみ部 長軸1.20m×短軸1.14mで軸線方向はN-90-Wである。

埋土の状況 2層に分層した。被っていた土は床面とほぼ同じ地山

〔出土遺物〕(第103、104、152、163図、図版79、93、97)

縄文土器25点(282～306)、円盤状土製品4点(903～906)、石匙1点(S88)、搔器2点(S85、92)、石皿1点(S94)、フレークII1点(S89)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の新段階かと推定される。

SI83竪穴住居跡(第26図、図版22)

〔検出位置と確認面〕KK79・80, KL79・80・81グリッドに位置し、IV層地山上面で確認した。南側沢に落ち込む付近の境界は黒褐色となり解らなくなる。しかも、SK84, SK85も見えているため、ますます混沌としていた。

〔重複関係〕SI79, SI151と重複関係にあり、SI79, SI151より新しい。SI79, SI151の新旧はわからない。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕やや南北に長い隅丸方形状を呈する。壁溝は壁の周囲を巡るが北西部分だけに無い。ここは入口の可能性もある。壁溝は幅7～20cm、深さ2～24cmで炉を有する。壁溝は南東壁の内側に2列見られることから立て替えがあったと思われる。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は北・東・西側の壁で30～35cm、南(沢)側で10～15cmである。北・東・西側の壁は地山を掘込んでいてしっかりしているが南側は漸移層が壁となっていて締まりは良くない。床面は地山を掘込んでいて、非常に固く締まっている。壁際には30×25cm、深さ4cmのピット(P3)と規模の小さいP1・2(規模13×16cm、深さ7～15cm)がある。壁高は34cmで軸線方向はN-14°-Eである。

〔規模〕長軸5.55m×短軸5.01m、面積24.25㎡である。

〔柱穴〕柱穴は基本的に6本と思われる。それより多い分の柱穴は地山を埋め戻したりしているものがあるため、建て替え前のものかと思われる。柱穴は床面に11本検出したが、支柱穴は規模や配置状況からP4・5・8・9・12・15と想定される。その規模はP4・5は径22～24cm、深さ38～39、P8・9の32～49cm、深さ49cmで、P12・14は径40～54cm、深さ45～48cmである。P11・14を除く他のピットは径35～50cm、深さ29～43cmである。P12・15は17～25cm深さ7～30cmである。

〔埋土の状況〕9層に分層した。

〔炉跡〕(第27図)

炉の位置 住居の西側に位置する。

形態 土器埋設複式炉(新炉)で、中央部で旧炉を検出した。

規模 全長2.31mで土器埋設部 長軸0.36m×短軸0.3m、土器埋設部+石囲部 長軸1.48m×短軸0.73m、くぼみ部 長軸2.37m×短軸0.88mである。旧炉は地床炉で長軸1.0m、短軸0.44mである。

埋土の状況 8層に分層した。一括埋め戻しである。埋設土器は2つとも下半分に炭が詰まっていた。炉Aの土器(正位に埋まっている)は雨水等の影響か土器の内側にそって暗褐色土の流入がみられる。又、土器を蓋のように平に置いてあることから埋め戻しも丁寧に行なわれたものとする。炉のほぼ中軸線上に東側床面で見つかった炉がある。

〔その他〕

東側床面の旧炉にともなう住居の床面は、炉のレベルに比較すると、もっと高かったと考えられるため、新しいSI83を造る際に古い住居の床面を掘り下げたと推定される。

〔出土遺物〕(第106、107、149、153、165、166図、図版79、93、97)

埋設土器は2基で、炉Bは逆位、炉Aは正位に埋めたものである。炉Aの西側に大きな長い礫を置き、炉Bの1段低い所に底部の無い土器を逆位に埋めており、この煤付着部分と赤変部分を間にした中位から前述の礫より小さめの細長い礫を埋めている。縄文土器19点(330～348)で、このうち埋設土器は炉A1点(347)と炉B2点(330,348)がある。その他ミニチュア土器3点(867～869)、円盤状土製品4点(919～922)、石匙1点(S112)、搔器4点(S113～115、117)、石核(黒曜石)1点(S123)、フレイクII1点(S106、S116、S118～122)、黒曜石原石1点(124)を図示した。

本住居跡の構築時期は埋設土器より、中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI151竪穴住居跡(第26図)

〔検出位置と確認面〕 KK80グリッドに位置し、IV層地山上面で確認した。

〔重複関係〕 SI83と重複し古い。半分しか残っていない。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ楕円形と推定され、炉、壁溝の一部を検出した。壁溝は幅12～22cm、深さは9～17cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁は緩く立ち上がり、壁高は12cmである。床面は平らである。

〔規模〕 長軸4.00m×短軸で残存部1.35mである。

〔柱穴〕 柱穴は3本検出した。径20～33cm、深さ12～19cmである。

〔埋土の状況〕 7層に分層した。

〔炉跡〕 北西部で石囲部と思われる落ち込みを検出しているが、SI83との重複で壊されているため、詳細は不明である。推定軸線方向はN-25°-W。

〔出土遺物〕 (第123、150、175、176図、図版94、98)

縄文土器1点(465)、ミニチュア1点(878)、搔器1点(S231)、フレイクⅡ1点(S232)が出土している。

土器は中期中葉の大木8b式に比定される。

SI82竪穴住居跡(第28、29図、図版21)

〔検出位置と確認面〕 KK81・82, KL81・82グリッドに位置し、IV層上、IV層上面で暗褐色の大きな広がりとして確認する。この他に南側にも暗褐色の広がりがあり、初め重複関係のある二つ以上の住居跡と考えられた。

〔重複関係〕 SI150, SI169と重複し、旧SI150→SI169→SI82新という新旧関係である。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で北東辺、南西辺が少し直線的になり、炉を有する。壁溝は確認出来たのは炉の北東側にあり2条の短いものである。東の壁際に壁溝が断続的に続く。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁の深さは検出面まで30cm～40cmである。床面は地山面で固くしまっている。又、床面は住居の中央部に向かって少し低くなっている。壁高は24cmである。

〔規模〕 長軸5.81m×短軸5.27mで面積20.90㎡である。

〔柱穴〕 柱穴は11本検出した。このうち支柱穴はP2・3・5・13と推定され炉くぼみ部北壁際にP1を検出した。柱穴はSI169に伴うものもあるようで、地山で埋めたものもある。N-170°-Eである。

〔埋土の状況〕 炉は意識して埋めたと思われ、炉の部分はきっちりと締まりのある埋土である。中でも低い部分のくぼみ部は埋土に1番しまりがり、炉を埋めた後に住居を埋めている。炉には径約35cmの土器が埋められており、埋設土器の周囲は赤変している。すぐ北西側の凹みも火の影響を受けた様子が伺われる。埋設土器の中には埋土とともに土器が平らに置かれていたりしているので、丁寧に埋め戻したものと考えられる。

〔炉跡〕 (第28図)

炉の位置 KK81・82, KL81・82グリッドに位置する。

形態 土器埋設複式炉である。

規模 全長2.60m、土器埋設部 長軸1.43m×短軸0.92m くぼみ部 長軸1.85m×短軸1.17mである。

埋土の状況 SI169の炉と思われるものがSI82の炉埋設土器のすぐ南東側で見ついている。検出したのはSI82の炉を断ち割った時である。地山で被っていたため表面からは見えなかった。SI169の土器を抜き取り炉を埋めてからSI82の炉を構築したものと考えられる。

〔その他〕

炉に埋設された土器は、無文の土器であり火の影響か磨滅してもろくなっている。SI82はSI150を切って作り、SI169の上に作ったものと思われる。SI169と思われる古い炉の跡がありSI169を拡張して新しくしたものであろう。

〔出土遺物〕(第104、105、146、149、152、153、163、164、165図、図版79、93、97)

住居の埋土からは万遍なく検出されている。縄文土器23点(307～329)でそのうち炉内より2点(318、322)、ミニチュア1点(866)、円盤状土製品2点(907～918)、土製品1点(851)、搔器1点(S95～97)、石剣1点(S98)、磨石1点(S107)、石核(黒曜石)1点(S108)、フレークI・II(内3点黒曜石)、(S99～105、S109～111)、石鏃2点(S86、87)、石錐1点(S90、91)石筥1点(S93)出土した。

埋設土器は粗製で時期はわからないが、埋土中の土器から本住居跡の構築時期は中期後半の大木9式期と考えられる。

SI150竪穴住居跡(第28図、図版21)

〔検出位置と確認面〕KL81・82グリッドに位置し、IV地山層上面で確認した。暗褐色の大きな広がりとして確認する。

〔重複関係〕SI82、SI169と切り合っており、SI150が1番古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形と推定され、炉を有する。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は12cmで、床面は平らである。1/3弱が残っているに過ぎない。

〔規模〕長軸5.05m×短軸で、残存部1.40mである。

〔柱穴〕床面で4本、壁で2本の計6本を検出した。

〔埋土の状況〕3層に分層した。埋土は一括の埋め戻しである。床面が浅いこともあり埋土は暗褐色を主体にして、地山・焼土・炭化物粒子が混入している。

〔炉跡〕(第29図)

炉の位置 住居の南西側に位置する。

形態 焼土のみの確認であるが北に隣接して土器の抜き取り痕の可能性のある柱穴状の掘込みがある。南隣にはくぼみ部らしい痕跡を残す楕円形の凹みあることから複式炉であったと推定しておく。

規模 全長2.08m 土器埋設部 長軸0.45m×短軸0.38mである。焼土 長軸0.72m×短軸0.46m、くぼみ部 長軸0.98m×短軸0.52mである。

埋土の状況 3層に分層した。炉は、SI82の西側の床下で検出されている。よって炉の最深

部が残っているに過ぎない。それもSI82構築時、地山土を被せたらしく、始めはぼんやりと赤変部分が見える程度であった。被せたとと思われる地山を削るとはっきりした赤変部分が表れた。主軸方向はN-8°-Eである。

〔出土遺物〕(第123、175図、図版94)

縄文土器2点(463、464)、石鏃1点(S228)、搔器1点(S229)、フレイクI1点(S230)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI169竪穴住居跡(第28、29図、図版21)

〔検出位置と確認面〕KL81・82グリッドに位置し、SI82の炉を断ち割っている時に埋設土器の掘り方の南東側下部に焼土と炭化物の入っている層を検出して、SI82より古い住居跡があったことを確認した。

〔重複関係〕SI82より古く、SI150よりは新しい。SI169を拡張してSI82を作ったものと推定する。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕部分的な残存で平面は不明で、壁溝、炉は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁はやや急に立ち上がり、壁高は7cmである。床面は平らである。

〔柱穴〕地山土で埋められた柱穴も見つかっているが、詳細は不明である。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔出土遺物〕なし

重複状況や遺構配置状況から時期は中期後半で、SI82を一回り小さくしたような住居と推定しておく。

SI86竪穴住居跡(第30、31図、図版23)

〔検出位置と確認面〕KI・KJ・KK79グリッドに位置し、KI79～KK80グリッド付近に黒褐色土・暗褐色土の落ちこみとして確認した。

〔重複関係〕単独の住居跡であるが北方向へ拡張している。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形で、炉を有する。周溝は幅8～25cm、深さ3～13cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は28cmで床面は平らである。

〔規模〕長軸5.10m×短軸5.02m、面積19.73㎡である。

〔柱穴〕新住居は6本の柱穴(P2・3、P8～11)、特に炉南隣のP2柱穴が54cmと特に深い。くぼみ部中央にピットが有る。くぼみ部壁ぎわに周溝あり。旧SIの周溝にかさなるように柱穴を掘っている。旧住居：太くしっかりした周溝がめぐる。新SIにくらべ小規模の柱穴2本検出。新炉同様くぼみ部壁ぎわに周溝が有る。

〔埋土の状況〕18層に分層した。埋設土器は廃棄の際に土器上部のみ除去している(底部有り)。廃棄の際地山土の混じったしっかりとした土で硬く埋めている。

〔炉跡〕(第31、32図)

炉の位置 住居の北西側に新炉、西側に旧炉が位置している。

形態 どちらも土器埋設複式炉である。どちらもくぼみ部にpitがある。新SIのものは21×25cm、深さ25cm旧SIのものは径16cmで深さ18cmである。くぼみ部は硬くしまっている。

規模 【新炉】全長1.85m、土器埋設部 長軸0.80m×短軸0.50m、くぼみ部 長軸1.40m×短軸1.05mである。【旧炉】全長1.80m、土器埋設部 長軸0.37m×短軸0.28m、石囲部 長軸0.65m×短軸0.45m、くぼみ部 長軸0.98m×短軸0.87mである。

埋土の状況 旧炉は8層、新炉は9層に分層した。新炉は礫が伴わない複式炉で、くぼみ部が硬く締まっている。焼土は広く硬くしまっており、長期にわたって使用されている。旧炉は複式炉であるが、焼土が小さく薄い、旧炉には新炉と異なり礫2個使用している。旧炉埋設土器内の土も抜かれていた。覆土上層に焼土Aが有る。SIが埋まる過程で入ったものと思われる、自然堆積である。

〔出土遺物〕(第108、146、149、153、166、167図、図版80、94、97、98)

本住居跡の西側をサブトレで精査中、床に近い埋土より"靴型土器"が出土した。上下逆の状態出土し、他に伴う遺物は無い。縄文土器18点(349~366—うち新炉内より5点)、ミニチュア土器3点(870~872)、円盤状土製品4点(923~926)、土製品1点(852)、搔器1点(S125)、磨石3点(S131~133)、磨製石斧1点(S126)、石核(黒曜石)1点(S134)、フレークI(うち1点黒曜石)、フレークII(うち10点黒曜石)15点(S127~130、S135~145)が出土した。

旧炉の埋設土器は中期後半の大木9式土器で、新炉の埋設土器は大木9式土器の新段階のものである。

SI87竪穴住居跡(第33図)

〔検出位置と確認面〕KM・KN87グリッドに位置し確認した。炉のみ確認。SI70調査後、SI70の南東床面にある複式炉の方向が180°逆であること、また、この炉の両サイドに柱穴が1本づつ対称的に配置されていることも判明した。このためSI87として独立させることとした。SI108との新旧は不明であるが、他の切り合いのある住居跡の複式炉の変遷から推測すると、SI87よりSI108が古いように思われる。

〔重複関係〕明確なプランが判明しないため断定できないが、大部分SI70で切られ、東側はSK121、南側はSK229で切られており、本遺構が最も古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕炉1基のみ確認した。壁溝は検出されなかった。複式炉の規模、柱穴の位置より推測し、くぼみ部が北東を向く、円形の住居跡であると推測した。

〔壁・床面の状況、壁高〕

〔規模〕径2.5mと推測した。

〔柱穴〕炉をはさむように柱穴が東西に2本位置している。径は15~26cm、深さ18~28cmである。

〔埋土の状況〕

〔炉跡〕(第34図)

炉の位置 住居の南西側に位置する。

形態 土器埋設複式炉である。

規模 全長1.0m、土器埋設部 長軸0.61m×短軸0.37m、くぼみ部 長軸0.68m×短軸0.39mである。

埋土の状況 17層に分層できる。複式炉は床面より掘込みが深いため、SI87がSI70・SK121によって壊されても、しっかり残ったと思われる。炉にはほぼ全体に焼土が広がっている。

〔出土遺物〕(第110、148、168図、図版80、94、98)

SI70やSK121によって切られているため、床面の遺物は取り上げられなかったが、炉覆土中の遺物はSI87として取り上げた。炉埋設土器含めて計18点出土した。炉埋設土器は、器高が高く、文様は撚糸文を施文している。土器底部は無い、器高が高いために横だおしで埋めたものと思われる。

縄文土器9点(375~383)(うち炉内より2点-367、374)、石製品1点(S4)、石匙1点(S146)、石剣1点(S148)、フレイクI1点(S147)を図示した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI94竪穴住居跡(第34図、図版9)

〔検出位置と確認面〕KO87グリッドに位置し、第IV層地山面で確認した。

〔重複関係〕北側でSI24に、南東側でSK95と重複し、本遺構が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕浅く、また、西側を調査区境の壁で切られているため、全容は不明であるが円形のプランと推定される。中央より南西側に、土器埋設の複式炉が検出された。炉は、SK95に切られる。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、壁高は4cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸2.67m×短軸の残存部2.25m、面積(5.19m²)である。

〔柱穴〕床面で3本検出した。

〔埋土の状況〕非常に浅いため1層のみで、暗褐色に、黒褐色土が斑らに入り、炭化物・地山がややまじる。炉の付近では焼土粒もみられた。

〔炉跡〕(第35図)

炉の位置 住居の南東側に位置する。炉はSK95に切られる。

形態 土器埋設複式炉である。石囲は無い。

規模 全長1.15m、土器埋設部 長軸0.3m×短軸0.28m、くぼみ部 長軸0.87m×短軸の残存部0.34mである。

埋土の状況 3層に分層した。

〔出土遺物〕(第111図、図版80、94)

遺物は、総数で11で大半が縄文土器である。他に、炉の埋設土器がみられる。また、覆土中(確認段階)より、縄文土器が出土した。埋設土器あり、縄文土器3点(387~389)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI96竪穴住居跡(第35、36図、図版24)

〔検出位置と確認面〕KD83・84、KP83・84グリッドに位置し、IV層中に、中央部に黒褐色土、それを囲むように暗褐色土、褐色土が巡る円形プランを確認した。

〔重複関係〕西端の壁をSK97がわずかに切る。本遺構が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕ほぼ円形の竪穴住居跡で、埋設土器を伴った石囲炉を持っている。炉の東端部に径40cm強の円形ピットがある(炉の中心線上)。炉周辺と南側の一部を除き、壁際の床面に溝が巡っている。壁溝の幅5~22cm、深さ3~12cmである。

〔規模〕長軸4.42m×短軸4.13m、面積13.80㎡である。

〔柱穴〕柱穴を7本検出したが、その配置からは主柱穴を特定できない。P2・4の径はやや大きく24～35cm、深さ5～7cm、他のP5～P8は径15～25cm、深さは3～6cmである。

〔埋土の状況〕自然堆積による黒褐色土、暗褐色土、褐色土。壁際に地山土の崩落によると思われる黄褐色土がある。1層～3層はほぼレンズ状の堆積となっている。

〔炉跡〕(第36図)

炉の位置 住居の南東壁側に位置する。炉の東端部に円形のpit(P1)が有る。径44×42cm、深さ20cmであるが、断面形より、掘込み部であったと推定しておく。

形態 土器埋設石囲複式炉である。

規模 全長1.8mで、土器埋設部 長軸0.25m×短軸0.25m、石囲部 長軸0.5m×短軸0.41m、くぼみ部 長軸1.55m×短軸1.05mである。

埋土の状況 5層に分層される。

〔出土遺物〕(第111、112、150、168、169図、図版80、94)

全118点中石器が25点と比較的多かった。残りは全て縄文土器である。縄文土器9点(390～398)、うち炉内より4点(391～393・395)、ミニチュア1点(873)、石鏃2点(S156、157)、フレイクI・II7点(S158～164)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木9式期の新段階と考えられる。

SI99竪穴住居跡(第37図、図版25)

〔検出位置と確認面〕KH77・78、KI77・78グリッドに位置し、地山層で確認した。

〔重複関係〕SI100(古代住居)と重複している。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕3/4ほどの残存であるが平面形は円形と推定され中央部に炉を2箇所(それぞれ土器埋設部と掘込み部からなる)有り、8本の柱穴を持つ。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は14cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸3.85m×短軸の残存部2.40mで残存部の面積(12.56㎡)である。

〔柱穴〕床面で5本、壁際に3本計8本を検出した。主柱穴はP4～8で、P1もその可能性がある。規模は径24～47cm、深さ8～39cmである。

〔埋土の状況〕覆土は2層に分けられ、自然堆積と推定される。

〔炉跡〕(第38図)

炉の位置 住居の南東壁寄りに位置する。

形態 土器埋設複式炉である。炉は、埋設土器から判断して、炉Aが古く、炉Bが新しい。

規模 全長0.9m、土器埋設部A 長軸0.34m×短軸0.25m、土器埋設部B 長軸0.3m×短軸0.38m、くぼみ部 長軸0.6m×短軸0.51mである。

埋土の状況 全部で9層に分層された。くぼみ部の7層には焼土・炭化物が多量に混入する。8層は炉Bの土器埋設後に盛られた地山主体層である。

〔出土遺物〕(第112、169図、図版80、81、94)

覆土からは自然礫、土器片が少量出土。炉から埋設土器が2個体、住居跡西側のピット底面から礫と

ともに土器片が出土。縄文土器7点(399~405)、うち炉より4点(炉A 400・402・404、炉B 399)出土した。他に石核1点(S165)が出土した。炉出土土器の404は大木10式期の古段階、399は大木10式期の新段階に属する土器である。

本住居跡の構築時期は出土土器より、中期後半の大木10式期と考えられる。

SI108竪穴住居跡(第38図、図版19)

〔検出位置と確認面〕KM81・82、KN81グリッドに位置し、IV層上面、SI70を調査中、北隣に暗褐色の落ちこみとして確認した。サブトレを設定したところ炉の礫を検出して、SI108としたものである。

〔重複関係〕南側半分をSI70が切っている。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は隅丸方形で、壁溝は検出されなかった。SI70より浅い(SI70の半分位)。炉を有する。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高10cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸2.88m×短軸 残存部1.45mである。

〔柱穴〕南東部・南西部の切り合い付近にそれぞれ焼土B・Aがあり、焼土AはSI70支柱穴P3に切られている。焼土B・Aは共にSI108に伴うものと思われる。支柱穴は明確でないが、SI70焼土Aの西側にあるのが、SI108の支柱穴と思われる。規模は20×20cm深さ35cmである。

〔埋土の状況〕4層に分層した。壁際の1・4層には地山が多く混じる。

〔炉跡〕(第39図)

炉の位置 住居の壁に取り付く。

形態 石囲複式炉である。

規模 全長1.25m、石囲部 長軸0.55m×短軸0.5m、くぼみ部 長軸0.87m×短軸0.73mである。

埋土の状況 9層に分層した。自然堆積と思われる。炉内は、しっかりした硬い焼土である。

くぼみ部に大きい礫が2個あり、炉を廃棄する際に入れたと考えられ、炉全体は人為的に地山主体土で埋めたようである。

〔出土遺物〕(第112、170図、図版94)

SI70と較べるときわめて少ない。20点程である。その中には凹石、黒曜石が各1点ずつ含まれる。大部分覆土中からのものである。縄文土器(406-炉内より1点)、凹石1点(S166) 磨石1点(S167)、フレークⅡ(黒曜石)1点(S168)が出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI113竪穴住居跡(第40、41図、図版26)

〔検出位置と確認面〕KN82・83、KO82・83グリッドに位置しⅢ層中で確認した。SI116の北東端に南西端が一部重なる状態で、中央から東側に黒褐色土、それを包むように西側に暗褐色土の円形プランを確認した。

〔重複関係〕SI116を切る。南東部に黒褐色土の円形プランがはみ出し、これがSI154で、確認面ではSI154に切られている。SI154とともにSK114が南端部を、SK115が南西端を切る。SI154の炉がプラン

内で検出されているのでSI154との切り合いにおける新旧関係はSI154が新しい。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ楕円形である。床面の周囲に部分的に壁溝が回る。幅6～30cm、深さ3～18cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は20cmである。床面は平らで全体的に締まりが弱い。

〔規模〕長軸4.60m×短軸3.90m 面積(14.92㎡)である。

〔柱穴〕10本の柱穴が巡っているが、規模・間隔が不揃いである。規模は径16～40cm、深さ5～43cmである。

〔埋土の状況〕人為堆積により黒褐色土と暗褐色土。自然堆積（遺構口縁部地山土の崩落によると思われる）による褐色土。I層の黒褐色はSI154の床面と考えられる。

〔炉跡〕(第42図)

炉の位置 住居の北東側に位置する。

形態 石囲炉である。

規模 長軸0.7m×短軸0.64mである。

埋土の状況 5層に分層される。

〔出土遺物〕(第113、153、170、171図、図版94、97)

縄文土器片74点、石器13点の計87点を検出。SI154の炉と思われる埋設土器を囲んだ石あり。

縄文土器 6点 (407～412)、円盤状土製品 4点 (927～930)、石鏃 1点 (S169)、石匙 1点 (S170)、搔器 1点 (S171)、石錐(黒曜石) 1点 (S180)、フレイク I・II(うち1点黒曜石) 6点 (S172～177)

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木9式期の新段階と考えられる。

SI116竪穴住居跡(第40～42、44図、図版27)

〔検出位置と確認面〕KN81・82 KO80・81・82、KP81・82グリッドに位置し、Ⅲ層・Ⅲ層上面で確認した。

〔重複関係〕2軒の住居跡と9基の土坑と重複している。北東部ではSI154・SI113、SK114・SK193と重複しており、SI116が最も古く、SI113→SI154→SK114の順に新しくなる。平面形ではSI113はSI116より古く見えるが、SI116が古い。SK114とSK193はSI116の床面より高い覆土中位ほどで検出されたものでSK193が新しい。SK194も同様である。

SK208・SK209は重複は無いがSK208はSI116の床面を掘込んでいることからSI116より新しい。またSK209は炉の上に造られたものでSI116が古い。SI116の四周の壁上に、SK115、SK102、SK118、SK240がそれぞれ重複無く存在する。いずれもSI116よりも新しい時期の所産である。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形である。最深部で確認面より床面約70cm、最浅部で約30cm。南端部から約2mで沢の落ち込みになるため、北部から南部に向かって確認面は傾斜している。壁面と床面の接点付近に南東の一部を除くほぼ全周に溝が巡っている。周溝は幅8～32cm、深さ7～30cmで炉を有する。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は30～70cmである。床面は、ほぼ水平なため、北部ほど深くなる。

〔規模〕長軸7.24m×短軸7.15mで面積40.99㎡である。

〔柱穴〕床面や壁面に21本検出した。主柱穴P 7・10・13・6・18・12・17と推定され、径は42～56cm、深さは31～51cmである。P 5は規模はやや小さいが配置状況、主柱穴かも知れない。規模は径28cm、深さ31cmである。中央の南北方向に二本(P 10・15)、小規模な柱穴があり大型の住居の為支柱としたものかも知れない。規模は径15～38cm、深さは共に36cmである。他の柱穴の規模は径20～56cm、深さ15～37cmである。

〔埋土の状況〕中央に褐色土と黒褐色土が混じり合った部分があり、周囲に数基の土坑と思われる黒褐色土の円形プランを伴い、それらの土坑に囲まれるような大円形プランを確認した。床面の西側約半分は細かい礫で覆われている。中央部から東部にかけて大きく丸い石が大量に重なっていた。(第44図)

〔炉跡〕(第43図)

炉の位置 中央やや北東よりに埋設土器を伴った炉があり北東方向に向いている。

形態 土器埋設掘込み炉である。土層断面によれば埋設土器の上の3～5層中にやや大きめの石が、レンズ状に並ぶことから石囲炉であった可能性がある。

規模 全長1.83m 土器埋設部 長軸1.28m×短軸0.93m、掘込み部 長軸1.57m×短軸0.9mである。

埋土の状況 大部分が黒褐色土であるが、粘性やしまりの微妙な差異があり、また地山粒子や地山ブロックの混入率の違いから全体で8の層に分層される。

〔出土遺物〕(第113～119、147、150、171～174図、図版81～83、94、98)

多量の土器片が検出された。分布的には遺構全体に密であり、一括取り上げも含めて700点余りが出土し、時期的には全て縄文中期の土器と思われる。数十点の石器と柱穴様ピット内から石棒が検出された。図示した遺物は、縄文土器36点(413～449)で、うち炉内より7点(0～0～)出土している。埋土から出土した土器は大木10式期の古・新段階に相当する。444は炉埋設土器で大形の粗製深鉢形土器で、大木10式期の古段階の土器かと推定される。448は器台である。この他にミニチュア土器4点(874～877)、土製品3点(858～860)、石鏃2点(S 170、179)、石錐1点(S 181)、石匙1点(S 182、183)、削器3点(S 184～186)、搔器4点(S 187～190)、磨製石斧2点(S 191、192)、磨石1点(S 193)、石核(黒曜石)(未掲載)、フレーク I(うち2点黒曜石)、フレーク II 24点(S 195～218)(うち4点黒曜石)、石棒1点(S 194)出土した。

本住居跡の構築時期は炉埋設土器より、中期後半大木10式期の古段階と推定される。

SI154竪穴住居跡(第40、41図、図版32)

〔検出位置と確認面〕KN82・83、KO82・83グリッドに位置し、Ⅲ層にて確認検出した。SI113の土層断面1層とその層の確認面での広がり、SI113の東側にはみ出す状態で半円形の黒褐色土のプランとして確認した。

〔重複関係〕SI113の南東部を切り、SK114に南西端を切られる。SI113より新しい、SK114より古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は円形である。中央からやや南西部側に炉を持つ。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は8cmである。床面は平らである。検出面がす

で床面の層まで下がってしまっていたので本来の壁高不明である。

〔規模〕長軸2.54(推定)m×短軸2.29(推定)mで面積(4.65㎡)である。

〔柱穴〕柱穴は1本(P1)を検出した。

〔埋土の状況〕1層のみの確認である。

〔炉跡〕(第40図)

炉の位置 住居の南西側に位置する。

形態 石囲土器埋設炉である。

規模 長軸0.52m×短軸0.42m

埋土の状況 4層に分層される。

〔出土遺物〕(第125図、図版85、95)

縄文土器片6点、石器3点の9点を検出。遺構検出時には、すでに遺構全体のおよそ2/3が失われており遺物の検出は確認面より上部層で遺構外として取り上げたか、あるいは切り合っているSI113のものとして取り上げている可能性がある。埋設土器あり、縄文土器4点(485~488)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木10式期と考えられる。

SI126竪穴住居跡(第45図、図版28)

〔検出位置と確認面〕KO89グリッドに位置し、第IV層地山で確認した。

〔重複関係〕北側でSK185、SK196と重複している。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は径3m弱の円形プラン。中央やや南西よりに石囲炉が検出。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、凹凸ややあがる。壁高は20cmで床面は平らである。

〔規模〕長軸3.15m×短軸2.69m、面積6.58㎡である。

〔柱穴〕柱穴は、1ヵ所ピットとして検出されたが、住居に関わるものは不明。

〔埋土の状況〕南端の、床面から埋設土器が出土した。自然堆積で4層に分けた。そのうち最下層は、中心より北側にみられる：しまり、粘性の強いにぶい黄褐色土で薄く平に入っているため貼床と推測される。2層は地山ブロックを多量に含むことから人為的堆積と思われる。

〔炉跡〕(第45図)

炉の位置 中央やや南西に位置する。

形態 石囲炉である。

規模 長軸0.69m×短軸0.63mである。

埋土の状況 5層に分層した。

〔出土遺物〕(第120、121、153、174図、図版84、94、97)

遺物は総数で33点。その他に床面の掘込みから埋設土器を一括でとりあげ。また、埋土中より一括で縄文土器が出土した。埋設土器あり、縄文土器5点(450~454)、円盤状土製品1点(931)、搔器1点(S220)、フレークI1点(S219)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半の大木10式期の新段階と考えられる。

SI140竪穴住居跡(第46図、図版29)

〔検出位置と確認面〕 KM82・83グリッドに位置し、IV層上面で確認した。

〔重複関係〕 SI150と切り合い関係にあると思われる。しかし、SI140の平面プランがつかめないため、どのような切り合いであるかはわからない。SI140が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 炉1基のみ確認で壁溝は検出されなかった。

〔埋土の状況〕 SI140、周囲の住居はIV層を壁とし地山を床としているが、SI140はIV層上部が床面であるため壁はすでに失われていると判断した。

〔炉跡〕 (第46図、図版29)

炉の位置 KM82・83グリッドに位置する。

形態 土器埋設石囲複式炉である。

規模 全長1.05m、土器埋設部 長軸0.32m×短軸0.32m、石囲部 長軸0.45m×短軸0.32m、くぼみ部 長軸0.54m×短軸0.41mである。

埋土の状況 検出されたのは炉だけである。底部のある、口縁径25cm、深さ23cm程の鉢形土器をほぼ真北に配し、すぐ南に11個の礫を円形に配置している。礫の中程は煤が付着している。礫は15cm×5cm程の縦に長い礫で、その礫を縦に配置して並べている。礫の南側はくぼみ部特有の固い底面をもった凹みを呈している。他の住居と炉の埋土が異なるのは、この住居がIV層上面という浅い所に作られたためであろう。異なる点は地山粒子の入り方が少ない点である。廃棄するときには炉を埋めている。

〔出土遺物〕 (第122図、図版84)

炉の埋設土器(455)を図示した。本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI142竪穴住居跡(第46、47図、図版30)

〔検出位置と確認面〕 KF77・78グリッドに位置し、第IV層地山で黒褐色プランを確認した。

〔重複関係〕 重複は無い

〔平面形と壁溝と炉の有無〕 平面形はほぼ円形で炉を有し、壁溝を検出した。壁溝は幅15～38cm、深さ6～19cmである。東側で壁溝が途切れる事から出入口と相定される。

〔壁・床面の状況、壁高〕 壁の立ち上がりは不明で床面は平らである。

〔規模〕 長軸3.60m×短軸3.27m面積は推定9.73㎡である。

〔柱穴〕 13本の柱穴が巡っている。床面に4本、壁溝中に2本、壁溝外に隣接又は重複して7本検出した。住居の確認面から床面まで浅いため土層断面では判然としなかったが、図示したように、柱穴の大半に重複の痕跡が見られることから、本住居はほとんど位置を変えずに建替えられたと想定される。床面炉脇のP3・4、壁溝外のP8・13、P9・12、P10・11がそれぞれ南北に対をなす柱穴の可能性がある。

〔埋土の状況〕 24層に分層した。炉の掘込み部壁際は特に深い。

〔炉跡〕 (第47図)

炉の位置 住居の西側に位置する。

形態 土器埋設石囲複式炉である。くぼみ部の東側半分程に石囲部が作られている。また、壁に取り付いたくぼみ部先の壁溝中に柱穴柱(P 1)がある。土器は斜めに埋められている。

規模 全長1.7m 土器埋設部 長軸0.7m×短軸0.39m くぼみ部 長軸1.02m×短軸1.0m

埋土の状況 12層に分層した。炉埋土は地山を多く含み、円礫があったことから廃絶後の儀礼により埋められたと思われる。壁際は地山土を多く含む土で固く埋め立てられていた。

〔出土遺物〕(第174、175、122、123図、図版84、94)

壁溝埋土上に大土器片出土、床直遺物はない、すべて土器は埋土中出土。炉掘込み部内から小破片出土。炉埋め立ての際に入ったもの。埋設土器あり、縄文土器(うち炉内より3点)7点(456～462)、磨石6点(S 221～226)、敲石1点(S 227)、炉脇に60×50cmの大きさで厚さ8cmの粘土塊が検出された。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI152竪穴住居跡(第48、49図、図版31)

〔検出位置と確認面〕KK90グリッドに位置し確認した。

〔重複関係〕北西側でSK175と、南東方向でSK176と切り合っている。いずれも、SI152より新しい時期のものである。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形で、炉を有する。北側が断崖となっているため、住居の1/4程が欠損している。直径5m程の確認面から北側が20cm程、南側が40cm程で床面に達するほぼ円形の竪穴住居である。周溝は幅8～29cm、深さ6～19cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、側壁・床面ともしっかりしている。壁溝は24cmで、床面は平らである。

〔規模〕長軸4.87m×短軸 残存部4.21m、面積(22.03㎡)である。

〔柱穴〕13本の柱穴が巡っている。炉脇のP 7か8とP 9、P 4・5が南北軸線に対して東西対になって直交する柱穴と想定される。住居の拡張が行われていることが、柱穴の重複配置及び、周溝、炉から確認できた。

〔埋土の状況〕一括埋め戻された土であるが、北側が低くなっているため、雨水と一緒に土砂が流れ込んだものと思われる。

〔炉跡〕(第50、51図)

炉の位置 住居の南側に位置する。

形態 土器埋設石囲複式炉である。検出した住居の中で一番規模が大きく、しっかりした作りである。くぼみ部壁際にP 1～P 3がある。炉の下のほぼ同位置に旧炉を確認(第50図)した。

規模 全長2.42m、土器埋設部+石囲部 長軸0.8m×短軸0.62m、石囲部 長軸0.9m×短軸0.78m、くぼみ部 長軸1.7m×短軸1.0mである。

埋土の状況 12層に分層される。

〔出土遺物〕(第123～125、150、176～178、146、148図、図版84、94、98)

ナンバリングして取り上げた遺物が245点。黒曜石数点、石皿の破片、凹石1点、床面から白色粘土が検出されている。埋設土器あり、縄文土器(うち炉内より5点)18点(466～484)、ミニチュア2点

(179、180)、土製品1点(853)、有孔石製品1点(S7)、旧石器時代ナイフ形石器1点(233)尖頭器、石錐1点(S235)、石匙2点(S236、237)、削器1点(S238)、搔器4点(S239~243)、磨製石斧1点(S246)、石皿2点(S250、251)、敲石1点(S249)、磨石2点(S252、S264)、楕円形石器(黒曜石)1点(S261)、フレークI・II(うち8点黒曜石)12点(S244~245、S247、248、S253~260、S262)石鏃1点(S234)、石錐(S263)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI186竪穴住居跡(第52図、図版32)

〔検出位置と確認面〕KL91、KM91グリッドに位置し、Ⅲ層で確認した。北側半分以上が、断崖となっており、半円形状のプランとして検出した。

〔重複関係〕重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形と推定され、炉を有する。壁溝は検出されなかった。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、壁高は31cmである。床面は平らである。

〔規模〕長軸 残存部1.42m×短軸、残存部2.55mである。

〔柱穴〕床面で4本検出した。並びが不規則で構成は不明である。壁際のP4は他に比べ、規模が大きく深い。

〔埋土の状況〕2層に分層した。埋土は一括埋め戻しと思われる。

〔炉跡〕(第52図)

炉の位置 住居のほぼ中央に位置していたと推定される。

形態 土器埋設炉である。

規模 長軸0.42m×短軸0.42mで土器の周囲には焼土があり、その南側には火を焚いて硬くなった面がある。

埋土の状況 2層に分層している。

〔出土遺物〕(第125、126、178図、図版85、95)

取り上げた遺物は全部で41番までで、小破片のものが多。図示した遺物は、縄文土器10点(489~499)で、うち炉内より3点(489~491)、石筥(S269)1点出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半大木10式期の古段階と考えられる。

SI195竪穴住居跡(第52図、図版33)

〔検出位置と確認面〕KJ80・81グリッドに位置し、Ⅳ層、KJ81、KJ80上面で炉を確認した。しかし、全体のプランがつかめず炉のみの確認であるがあるいは北隣のピット(遺構配置図参照)がこの住居に付属する可能性のあることからSIとした。

〔重複関係〕SB227と切り合う。複式炉の東隣にSB227の地床炉(ⅠNo.SN227)が有る。SB227の地床炉が完全に残っていること、SI195の壁がSB227構築時に削平されたと想定されるため、(旧)SI195→SB227(新)と思われる。

〔炉跡〕(第52図、図版33)

炉の位置 KJ80・81グリッドに位置する。

形態 石囲複式炉である。石囲部の底面には焼土らしい4層が確認された。

規模 全長1.24m、石囲部 長軸0.73m×短軸0.58mでくぼみ部 長軸0.7m×短軸0.66mである。

埋土の状況 複式炉くぼみ部は西を向く。くぼみ部中央にピットが有り、又石囲いの炉中には埋設土器が伴わない。石囲部の礫は、長軸を立てて埋めてある。石囲いの炉の中央部に廃棄の際入れたと思われる長楕円形の礫が1個ある。

〔出土遺物〕(第126、178図、図版95)

7点検出(内RQ2点)、埋設土器なし。時期判断できそうな土器片(口縁部)1点、縄文土器(うち炉内より1点)3点(500~502)、フレークI1点(S270)出土した。

本住居跡の構築時期は出土土器より中期後半と考えられる。

SI207竪穴住居跡(第52図、図版34、35)

〔検出位置と確認面〕KJ・KK81グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認した。土器埋設炉が最初はっきりと確認でき、プランは見えなかった。炉の調査の後に壁溝がぼんやりと見えてきた。

〔重複関係〕重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形で、炉を有する。床面近くになるまで、住居のプランが確認できなかった。壁溝で、かろうじて住居の大きさが解った。壁溝のある小型の住居跡である。周溝は幅8~20cm、深さ7~19cmである。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁の立ち上がり不明。床面は平らである。

〔規模〕壁溝の径は2mである。本遺跡の中では、炉を伴う住居としては、最も小さい竪穴住居跡になる。

〔柱穴〕柱穴は、住居内に2つしか確認できなかった。

〔埋土の状況〕床面までの覆土はほとんど残っていなかった。

〔炉跡〕(第52図)

炉の位置

形態 土器埋設複式炉である。

規模 全長0.53m、土器埋設部 長軸0.39m×短軸0.25m、くぼみ部 長軸0.15m×短軸0.14mである。

埋土の状況 1層に分層した。

〔出土遺物〕(第126図、図版85)

炉の埋設土器のみ1点(503)出土。口縁部はないものの、胴部に縄文が施されている。

本住居跡の構築時期は炉埋設土器より中期後半と考えられる。

③ 平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡(SI)3軒、土坑(SK)4基、柱列跡(SA)1条が確認された。

SI92竪穴住居跡(第201図、図版63)

〔検出位置と確認面〕A区KG78・79、KH78・79グリッドに位置し地山層で確認した。

〔重複関係〕SK421、422、423と切り合っている。SKが新しい。

〔平面形と壁溝とカマドの有無〕平面形は方形で壁溝は検出されないがカマドは有である。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、床面は平らである。

〔規模〕長軸 3.50m×短軸 残存部3.44m 面積11.63㎡。

〔柱穴〕3基確認できた。

〔埋土の状況〕10層に分層した。

〔その他〕

SKは埋土上層で十和田a火山灰層あり。2基とも下部は地山混じりの土が固く堆積し、上部の黒色土中に火山灰層あり。床面は一段低い部分があるが、SIの掘形である。

〔カマド跡〕(第201図、図版63)

カマド位置 南東で検出

規模 カマド全長2.12 m、煙道長1.7m、燃焼部長、長軸0.42m×短軸0.43m、深さ0.06m

埋土の状況 天井の崩壊土は少ない。カマド左側に凝灰岩質の崩壊した石が入る土が分布する程度。本体袖部付近に大礫が斜位出土。この礫は焼けていない、礫の下にはカマド火床部を覆う黒褐色土が堆積する。したがってこの礫はカマドが無くなってから入ったものである。

〔出土遺物〕(第168、204、205図)

土師器13(958~970)、磨石3点(S153~155)が出土した。

SI100竪穴住居跡(第202図)

〔検出位置と確認面〕A区KG77、KH76・77グリッドに位置し地山層で確認した。

〔重複関係〕SI99と重複している。

〔平面形と壁溝とカマドの有無〕平面形は方形で、壁溝は検出されないがカマドが有る。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、床面は平らである。

〔規模〕長軸 3.28m×短軸 3.14m 面積10.20㎡。

〔柱穴〕4基確認できた。

〔埋土の状況〕4層に分層した。

〔その他〕

覆土は1層のみで自然堆積。

〔カマド跡〕(第202図)

カマド位置 東側に検出

規模 カマド全長1.89 m、煙道長1.28m、燃焼部長、長軸0.51m×短軸0.55m、深さ0.5m

埋土の状況 カマド状況は自然堆積、

〔出土遺物〕(第205図)

土師器1点(971)、鉄製品1点(972)が出土した。

SI144竪穴住居跡(第202図、図版64)

〔検出位置と確認面〕A区KF74・75、KG74・75グリッドに位置し地山層で確認した。

〔重複関係〕重複はしていない。

〔平面形と壁溝とカマドの有無〕平面形は方形で壁溝は検出されないが、カマドは有る。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、床面は平らである。

〔規模〕長軸 2.83m×短軸 1.75m（残存部）。面積計測不可能。

〔柱穴〕1基確認できた。

〔埋土の状況〕7層に分層した。自然堆積である。

〔カマド跡〕（第202図、図版64）

カマド位置 東側に検出

規模 カマド全長1.55 m、煙道長1.28m、燃焼部長0.7m、長軸0.6m×短軸0.82m、深さ不明。

埋土の状況 煙道部床面に礫研土器が敷かれている。カマド南側のピットは住居跡廃絶に伴いカマドの裾部を壊す際、その時の裾の部材を投棄した跡の可能性あり。

〔出土遺物〕（第205図）

土師器2点（973、974）

④ 近世の遺構と遺物（第203・208・209図）

SN122を検出し、銭貨（寛永通宝）や陶器（徳利）が出土した。徳利は明治時代から大正時代のものである。

（2）遺構外出土遺物

遺構が多かったためか、遺構内出土土器に比較して出土量は少ない。土器が主体を占める。

① 縄文時代（土器類 第140～145、147、148、155図、石器類第189～200図）

中期中葉の第Ⅱ群土器や中期後半の第Ⅲ群土器、晩期前半の第Ⅳ群土器などが出土している。他に石器、土製品、ミニチュア土器、円盤状土製品、石製品がある。石器には剥片石器や礫石器があり、中でも剥片石器の器種が多い。

円盤状土製品（155図）は6点出土した。

② 平安時代（第206・207図）

土師器や砥石が出土した。

③ 江戸時代（第208・209図）

銭貨が出土した。銭貨はSN122に伴ったものと推定する。

④ 近世以降（第208図）

鉄製品が出土した。

第3節 B区の調査の記録

(1) 検出遺構と出土遺物

① 縄文時代の遺構と遺物

住居跡(SI) 2軒、土坑(SK) 25基(212~215図)、フラスコ状土坑(SKF) 5基(216~218図)、焼土遺構(SN) 3基(第219図)、Tピット(SKT) 2基(221図)の37遺構と他に柱穴状ピット(「P」と略記) 10本(遺構配置図・ピット一覧参照)の計47遺構を検出した。

ア) 竪穴住居跡

SI5054竪穴住居跡(第210図)

〔検出位置と確認面〕KK70・71グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認した。

〔重複関係〕重複は無い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形はほぼ円形で、壁溝は検出されなかった。床面は掘込みのない地床炉があり、地山が赤変している。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は急に立ち上がり、床面は平らである。壁高は24cmである。

〔規模〕長軸 残存部3.95m×短軸 残存部3.68m、面積11.28㎡である。

〔柱穴〕柱穴は、住居内に11本確認できた。

〔埋土の状況〕6層に分層した。中心から炭化物が大量に検出され、粘土が熱の影響を受けて、カチカチになくなっているところがあった。人為的に埋められた様相を呈する。

〔出土遺物〕(第222、228図、図版99)

中心部からの出土が多く中期後半に担当すると思われる土器が出土している。また炭化物も多く検出した。図示した遺物は縄文土器9点(981~989)、石匙1点(S477)、磨石3点(S481、482、485)、フレークⅡ1点(S479)、搔器1点(S478)、石篋1点(S476)である。

遺構の構築時期は出土土器から中期後半の大木9式期の新段階と考えられる。

SI5061竪穴住居跡(第210図、図版65)

〔検出位置と確認面〕KJ72グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。

〔重複関係〕SI62とSK63に重複し、SI62を切り、SK63に切られている。SI5062とSI5061の新旧は土層断面からは判断できなかった。SI62の炉が確認できない事を重視し、SI5061の構築の際にSI62の炉が取り壊されたものと判断した。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は不正円形である。炉あり 壁溝なし

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、床面は平らである。

〔規模〕長軸 残存部4.30m×短軸 残存部4.24mである。

〔柱穴〕柱穴は、住居内に11本確認できた。(P1~P16)。

〔埋土の状況〕3層に分層した。

〔炉跡〕(第211図)

炉の位置 西側に位置する。

形態 石囲複式炉である。石囲部に焼土がある。

規模 全長1.7m、石囲部長軸0.9m×短軸0.7m、くぼみ部長軸1.42m×短軸1.13mである。

埋土の状況 2層に分層した。埋土にロームブロック、炭化物が混じる。

〔出土遺物〕(第222、228図)

埋土中や床面から土器が7点出土している。図示した遺物は縄文土器4点(990～993)、石匙1点(S486)、磨石4点、尖頭器状石器1点(S484)、石鏃1点(S480)搔器1点(S483)である。

遺構の構築時期は出土土器から中期後半と考えられる。

SI5062竪穴住居跡(第210図)

〔検出位置と確認面〕KJ72グリッドに位置し、IV層上面で確認した。

〔重複関係〕SI5061に重複し、この遺構が古い。

〔平面形と壁溝と炉の有無〕平面形は不正円形と推定される。炉、壁溝は無い。

〔壁・床面の状況、壁高〕壁は緩やかに立ち上がり、床面は平らである。

〔規模〕長軸 残存部2.56m(推定)×短軸 残存部1.0mである。

〔柱穴〕柱穴は、住居内に2本確認できた。

〔埋土の状況〕1層のみである。

〔出土遺物〕床面より7点出土している。図示した遺物は縄文土器1点(994)である。

遺構の構築時期は出土土器から中期後半と考えられる。

② 平安時代の遺構と遺物

住居跡(SI)1軒、焼土遺構(SN)1基(第239～241図)の2遺構と他に柱穴状ピット(P)1本(遺構配置図参照)の計3遺構を検出した。

SI5040竪穴住居跡(第238図、図版73)

〔検出位置と確認面〕B区KN70・71、KO70・71グリッドに位置しIV層で確認した。

〔重複関係〕重複はしていない。

〔柱穴〕4本の柱穴のみの検出で、壁などは確認されなかったが、中に焼土、東にカマドを検出したことから竪穴住居跡とした。柱穴の規模は、P1長軸28cm×短軸22cm、深さ19cm、P2長軸27cm×短軸25cm、深さ10cm、P3長軸32cm×短軸32cm、深さ40cm、P4長軸27cm×短軸22cm深さ26cmである。

〔埋土の状況〕図示していないが、1層のみで自然堆積と思われる。

〔その他〕遺構の残り具合があまり良好ではない。住居跡の埋土には焼土ローム粒、炭化物が多く含まれており、このSIは人工的に大きく壊されたものかと思われる。焼土長軸0.48m、

短軸0.84mである。炉の規模は長さ1、4m、幅0、7m、深さ0、31mである。

〔出土遺物〕(第242、246図、図版99)土師器8点(1073～1080)、鉄滓1点(246-1)、半分に割れているが、大礫で、擦った痕跡が顕著な擦石(S566)が出土している。鍛冶に伴う作業台か。

鉄滓は椀形鍛冶滓である。特徴は1、小形で偏平な側部破片で破面数は3である。2、上面は流動状で小さな炭痕が散在する。上面の木炭痕は1cm大が多い。下面は浅い椀形で、底面には熱を受けて灰色になった鍛冶炉の炉床土がまばらに固着している。比重はやや高い。3、色は表面が灰褐色から

茶褐色で、地は黒褐色である。

SN5043（第246-3図） 鉄滓が1点出土した。鍛冶炉の炉壁溶解物である。特徴は1、側面は破面で、内面は滓化・溶解している。裏面は鍛冶炉の灰色の炉壁が固着している。2、ガラス質発砲で、色は灰白色と黒色である。3、元位置は羽口先の右側と推定される。

SKP5044（第246図-1、付図の遺構配置図参照） 鉄滓が1点出土した。鉄滓は碗形鍛冶滓である。その特徴は1、側部破片で、破面数は3である。2、上面は平坦気味で、下面は一部工具痕で突出している。上面の一部に木炭痕と酸化による紫紅色がみられる。3、下面は灰色の炉床土が点状に固着し、滓は緻密でガスが良く抜けており、比重は高めである。4、色は表面が黒褐色と紫紅色で、地はやや光沢のある青黒い色である。

③ 時期不明の遺構

周囲の遺構や遺物分布状況から、縄文時代か平安時代のもものと推定されるが、遺物が出土しなかったため時期不明としたものである。

SB5094建物跡(第220図)

〔検出位置と確認面〕 B区KQ69グリッドに位置しⅢ層で確認した。

〔重複関係〕 重複はしていない。

〔柱穴〕 P 1 長軸28cm×短軸17cm P 2 長軸25cm×短軸22cm P 3 長軸30cm×短軸28cm P 4 長軸28cm×短軸23cm

〔埋土の状況〕 柱掘り方の埋土は不明。

〔その他〕

時期的なことに関してはB区内には縄文・古代両方の遺構があり、時期は不明である。

〔出土遺物〕 なし

(2) 遺構外出土遺物

① 縄文時代 土器や石器と石棒が出土した。

② 平安時代 土師器坏・甕（243図）、砥石（244図）、土製品（焼粘土塊-244図）でSN5022の西隣（KS69グリッド）で出土。

第4節 D・E・G区の調査の記録

(1) D区の遺構(第247～249・250図)

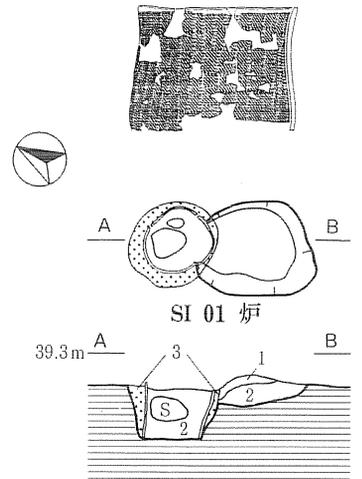
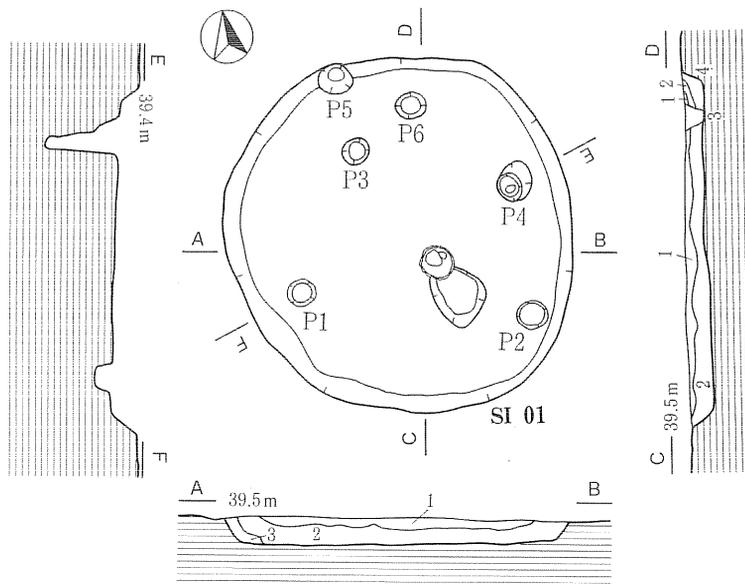
遺構はTピット1基を検出した。

(2) E区の遺構(第247～249・図)

遺構はTピット1基を検出した。遺物は出土しなかった。

(3) G区の遺構と遺物(第247～251図)

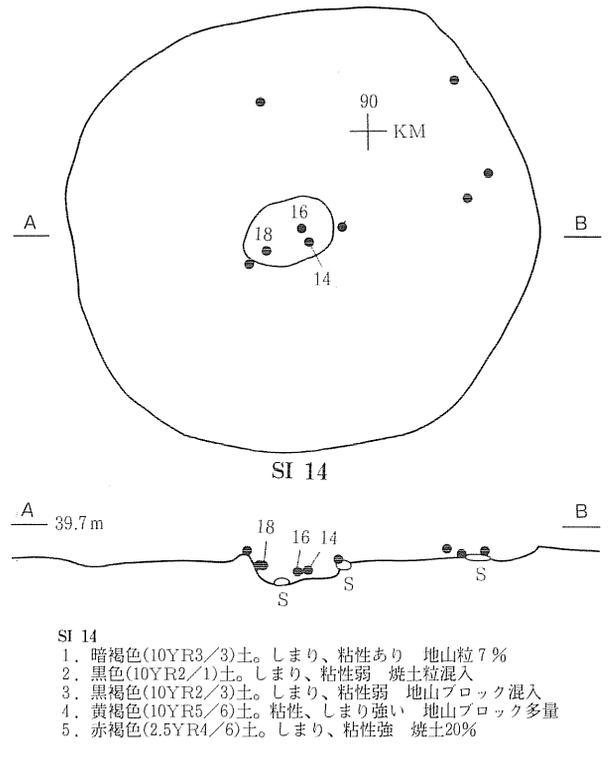
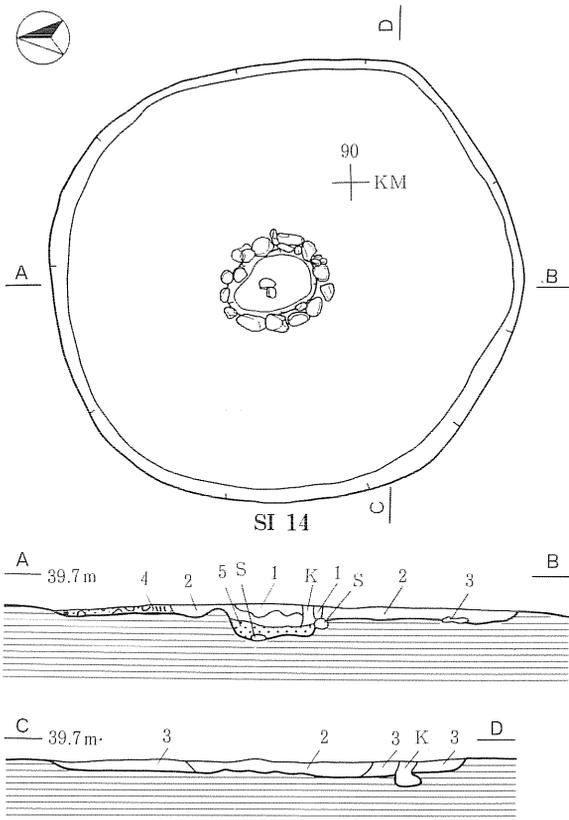
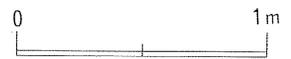
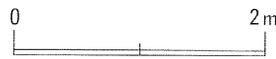
土坑(SK)3基、焼土遺構(SN)1基、Tピット(SKT)2基を検出した。打製石斧が出土(第250図)した。



SI 01 炉
 1. 褐色(10YR4/6)土。地山土と同じ
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 緻密
 地山粒15% 炭化物1%
 3. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。緻密 焼土

SI 01

1. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト 緻密 混入物2%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭化物2% 地山粒10%
3. 褐色(10YR4/4)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山粒3%
4. 黒色(10YR2/1)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山粒3%

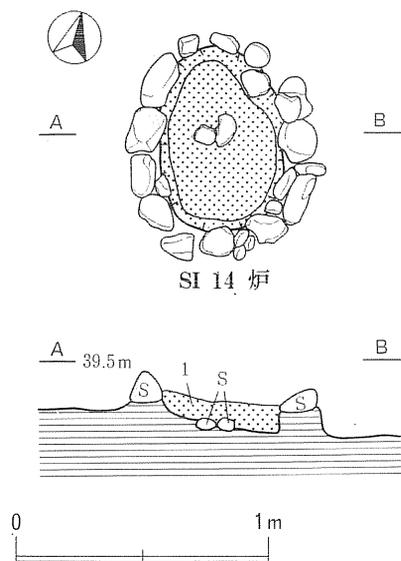


SI 14

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山粒7%
2. 黒色(10YR2/1)土。しまり、粘性弱 焼土粒混入
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性弱 地山ブロック混入
4. 黄褐色(10YR5/6)土。粘性、しまり強い 地山ブロック多量
5. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性強 焼土20%

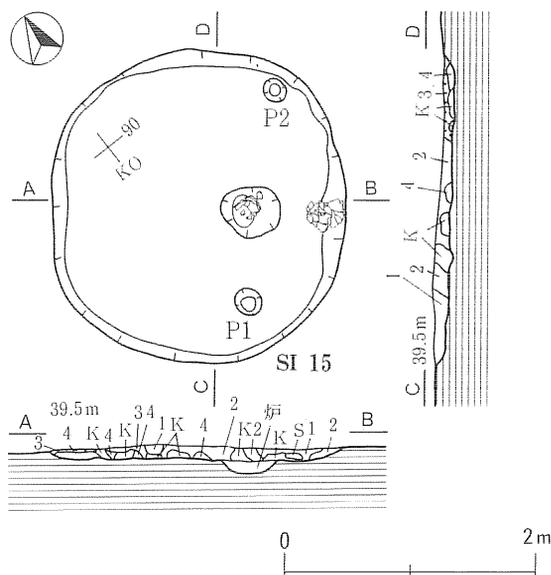


第5図 A区検出遺構SI(1)



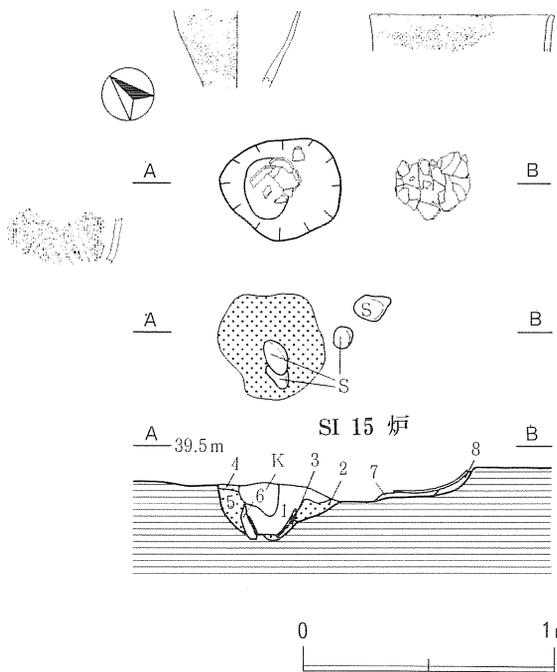
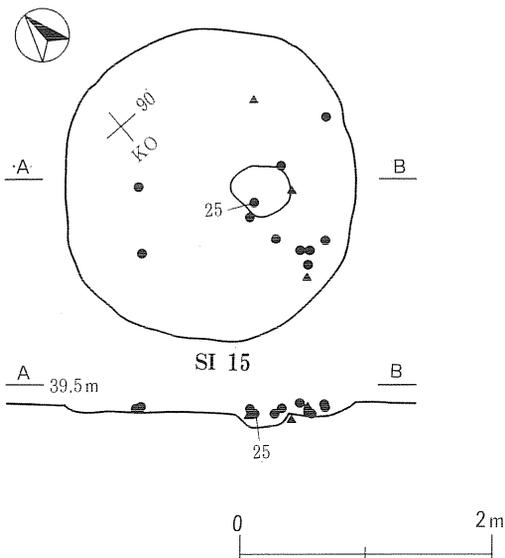
SI 14 炉

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性強
焼土粒30% 地山、炭化物混入



SI 15

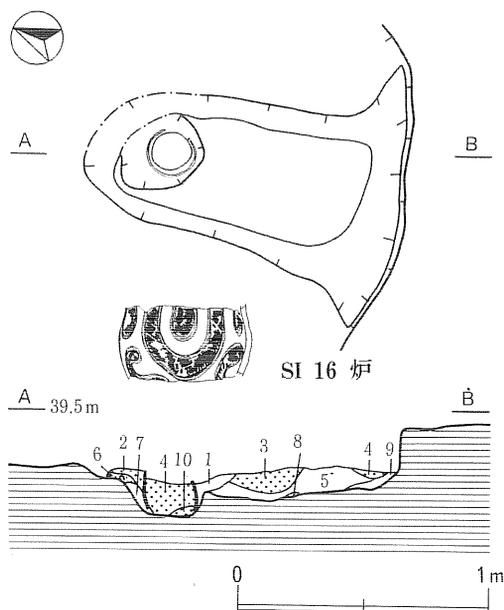
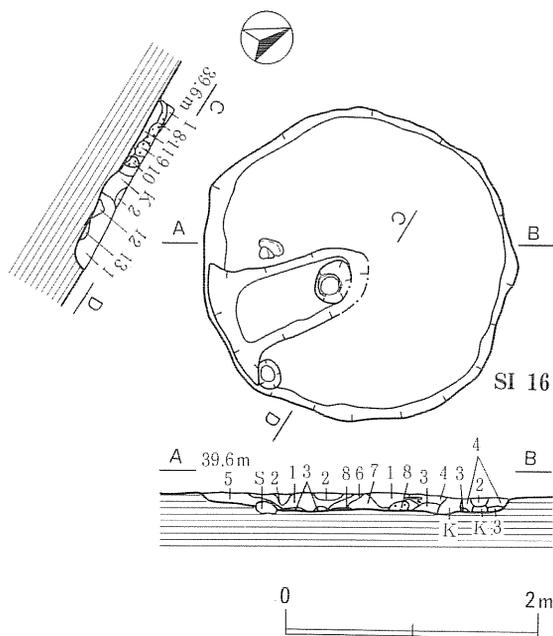
1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 炭化物1%
2. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまりあり 炭化物1%
地山粒2%
3. 暗赤褐色(2.5YR3/4)土。焼土 しまり強 粘性あり
焼土粒混入
4. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり強 地山1%



SI 15 炉

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり 粘性弱 焼土粒、炭化物1%
2. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性弱 焼土粒 褐色土(10YR4/4)3%
3. 赤褐色(2.5YR4/8)土。粘性、しまり強 焼土粒混入 焼土粒1%
4. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。しまり強 粘性弱 地山(10YR5/6)5%
5. 明赤褐色(5YR5/6)土。しまり強 やや粘性 焼土粒1%
6. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱 焼土粒3%
7. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘質 地山ブロック1% 炭化物1%
8. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘質 地山ブロック3%

第6図 A区検出遺構SI(2)

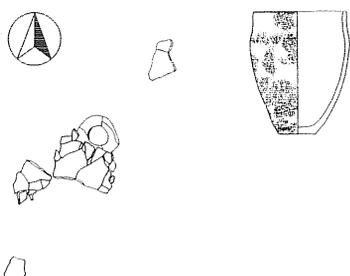


SI 16

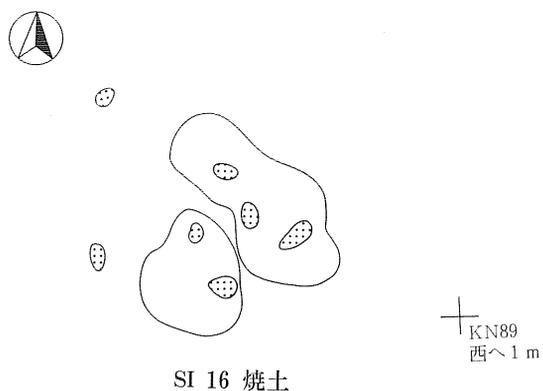
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり やや粘質 焼土1% 炭化物2%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性弱 地山粒1%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性強 地山ブロック10% 炭化物1%
4. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまり、粘性強 地山ブロック、炭化物1%
5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり やや粘質 5YR4/8が20%混入 焼土粒、炭化物3%
6. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。しまり、粘性弱 炭化物、焼土粒2%
7. にぶい赤褐色(5YR4/3)土。赤褐色(2.5YR4/6)20%、暗褐色(10YR3/4)5% 炭化物2% しまりあり 粘性弱
8. 赤褐色(2.5YR4/8)土。にぶい黄褐色(2.5YR4/4)、暗褐色(10YR3/4)10% 炭化物1% しまり弱 粘質
9. 明赤褐色(2.5YR5/8)土。しまりあり 粘性弱 黒褐色(10YR2/3)20%
10. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまりあり 粘性弱 地山ブロック
11. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり やや粘質 焼土粒1% 炭化物2%
12. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘質 炭化物5% 焼土粒1%
13. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱 焼土粒、地山2% 炭化物1%

SI 16 炉

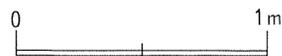
1. 黒褐色(10YR3/2)土。しまり弱 粘性あり 焼土粒、炭化物1% 地山ブロック5%
2. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまり強 粘性あり
3. 赤褐色(2.5YR4/6)土。にぶい赤褐色土(5YR4/4)3% しまり、粘性あり
4. 赤褐色(5YR4/6)土。しまり、粘性あり 焼土粒、炭化物1%
5. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。7.5YR4/4(褐色土) 焼土粒2%、炭化物3%
6. 褐色(10YR4/6)土。地山
7. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。しまり 粘性あり 黒褐色土(10YR3/2)3% 焼土粒2%
8. 灰黄褐色(10YR4/2)土。しまり、粘性あり 炭化物1%
9. 灰黄褐色(10YR4/2)土。しまり、粘性あり 黒褐色土(10YR3/1)30%
10. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性あり 炭化物2%



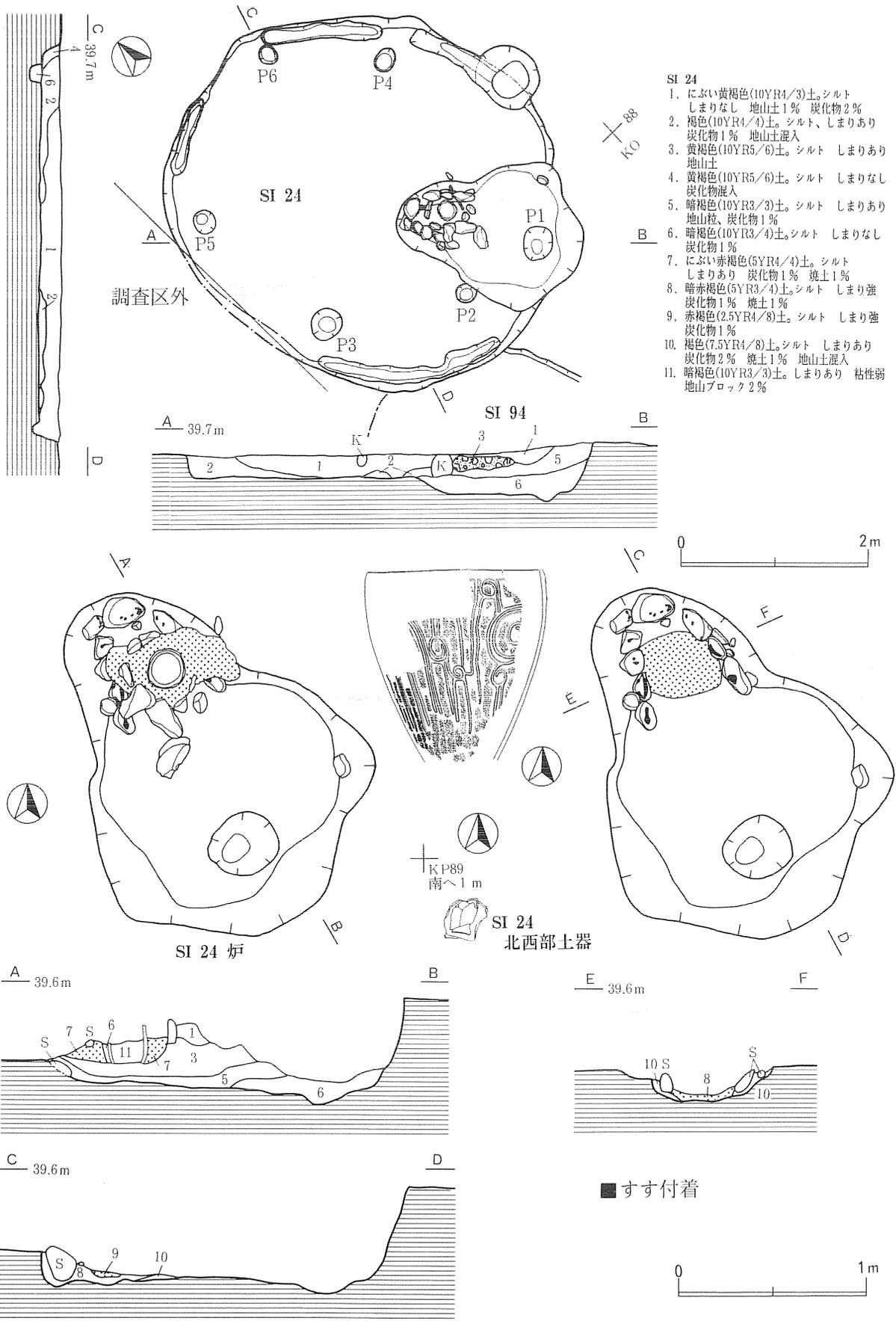
SI 16 土器集中



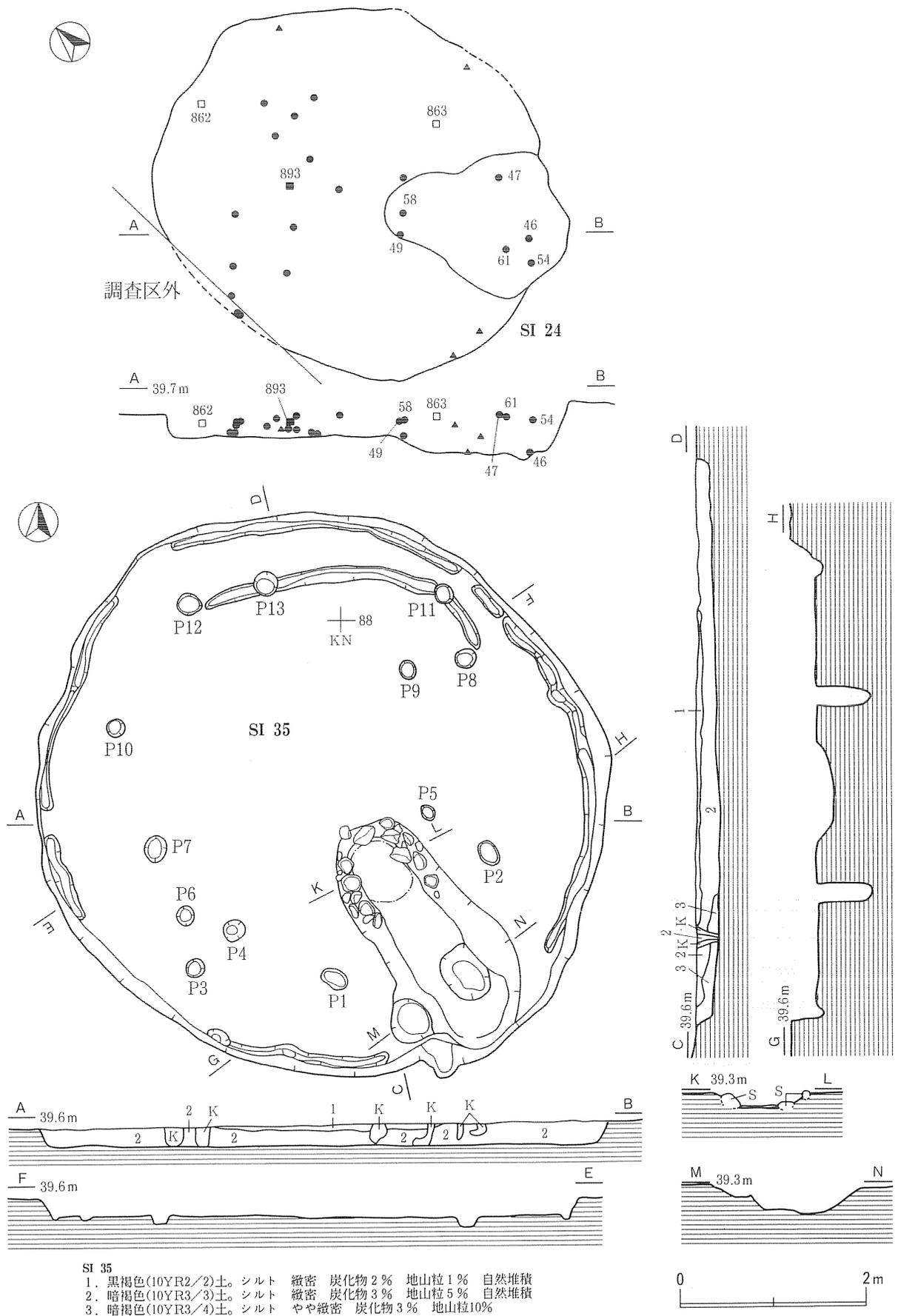
SI 16 焼土



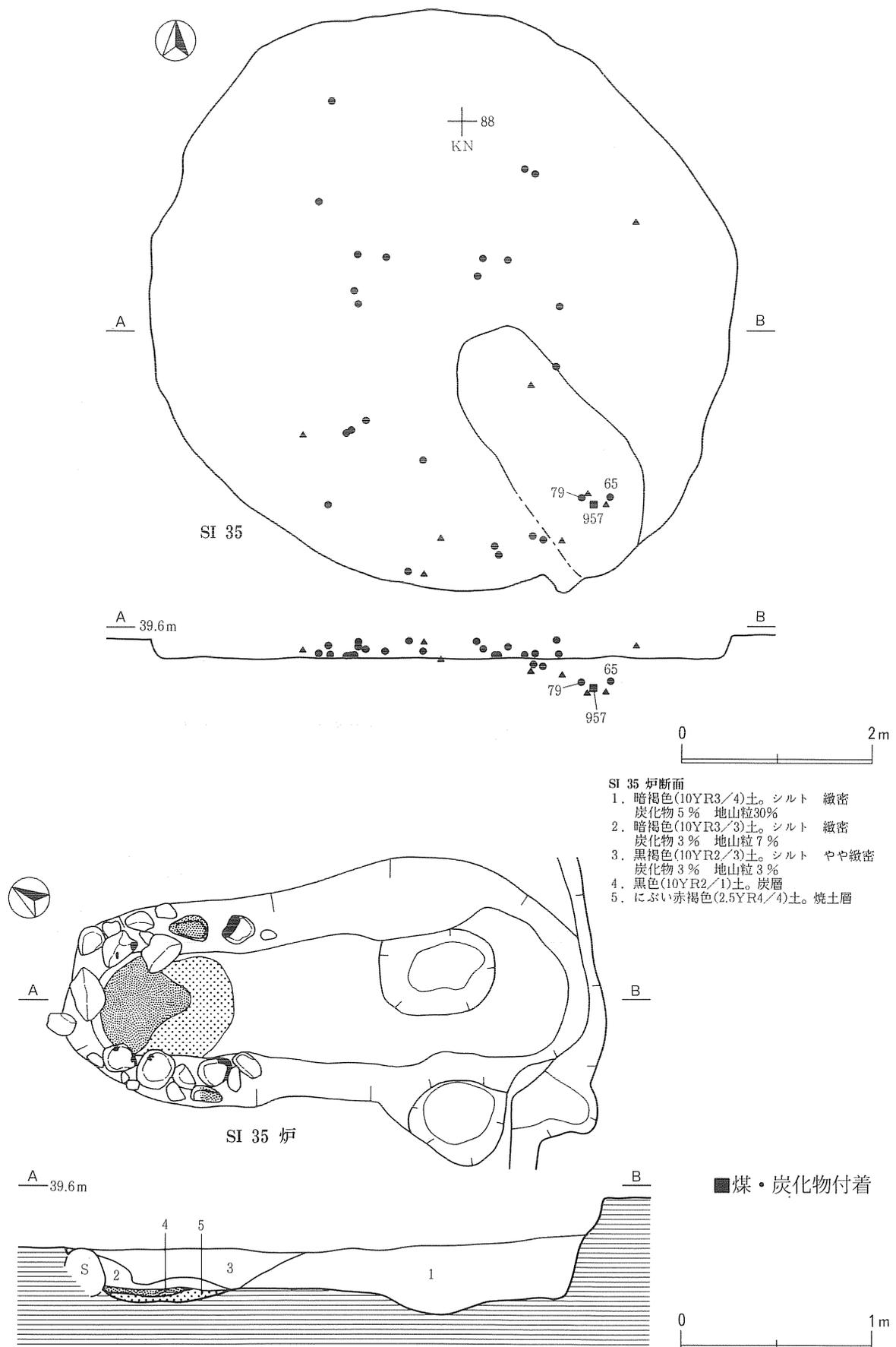
第7図 A区検出遺構SI(3)



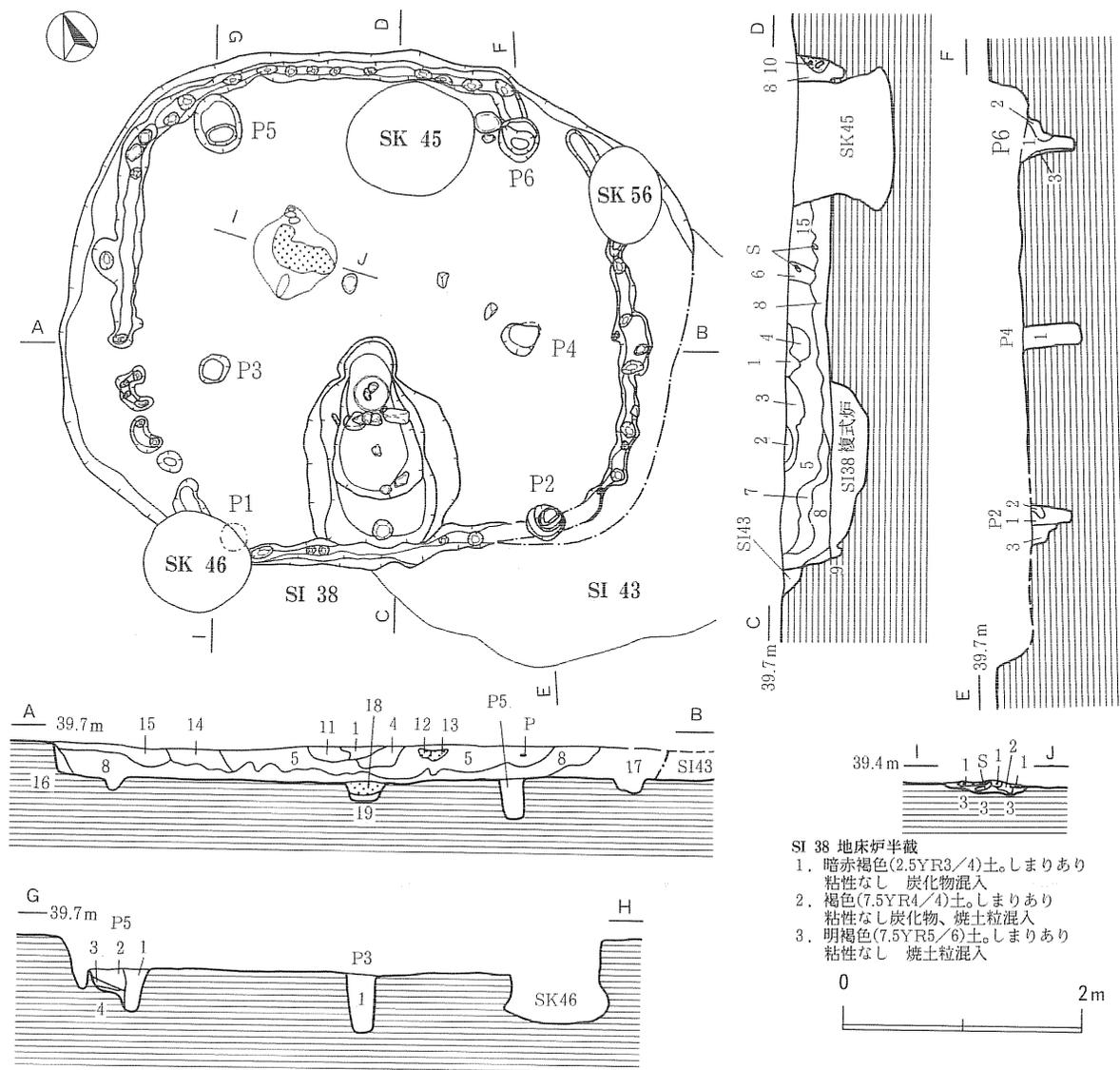
第8図 A区検出遺構SI (4)



第9図 A区検出遺構SI(5)

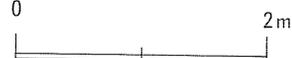


第10図 A区検出遺構SI(6)



SI 38 地床炉半截

1. 暗赤褐色(2.5YR3/4)土。しまりあり 粘性なし 炭化物混入
2. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりあり 粘性なし炭化物、焼土粒混入
3. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒混入



SI 38

1. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山粒多量混入
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし
3. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりあり 粘性なし 地山粒少量炭化物少量混入
4. 黒色(10YR2/1)土。しまりあり 粘性あり
5. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 地山粒混入 炭化物混入
6. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 黒褐色土混入 礫混入 地山塊混入
7. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性ややあり 黒褐色土多量混入
8. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性ややあり 地山粒多量炭化物(炭)少量混入
9. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒少量混入 地山塊混入
10. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり硬い 粘性あり 地山ブロック
11. 黒色(10YR2/1)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土混入
12. 暗褐色(5YR3/2)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1%
13. 暗赤褐色(2.5YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 黒褐色土20%炭化物1% 焼土
14. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 地山粒少量混入
15. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性なし
16. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山塊混入
17. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒1%炭化物少量混入
18. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物少量混入 暗褐色土混入 炭化物混入
19. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまりあり 粘性あり 礫多い 地山ブロック混入

SI 38

焼土 a

1. 暗赤褐色(2.5YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土20%

焼土 b

1. 暗赤褐色(2.5YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土20%

焼土 c

12. 暗褐色(5YR3/2)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1%
13. 暗赤褐色(2.5YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1% 黒褐色土20%

P2

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒少量
2. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山粒20%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 炭化物1%

P3

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒10%

P4

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒5%

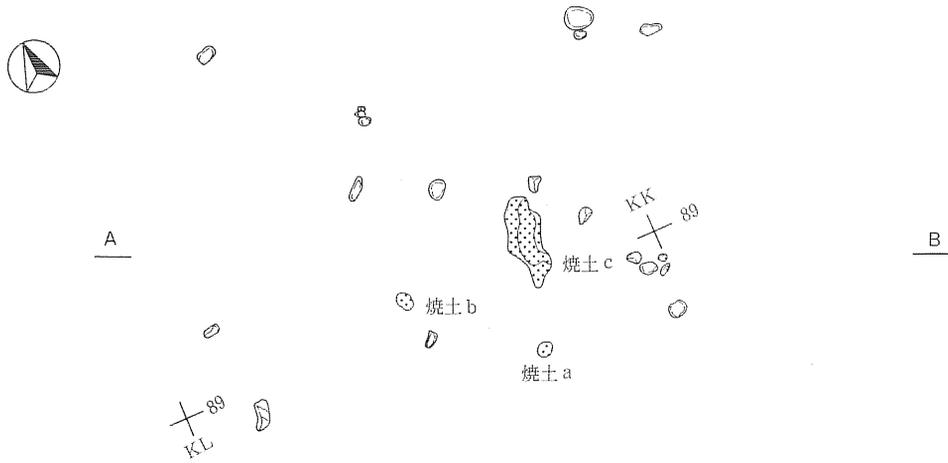
P5

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒混入 炭化物なし
2. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性なし 地山粒少量混入
3. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性なし 地山塊混入
4. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土粒混入

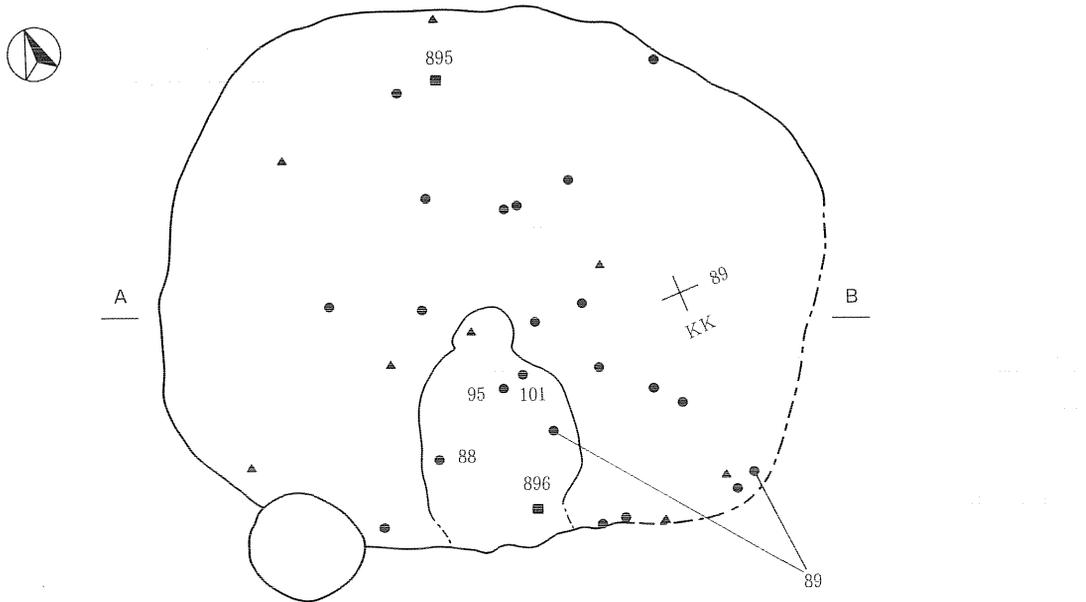
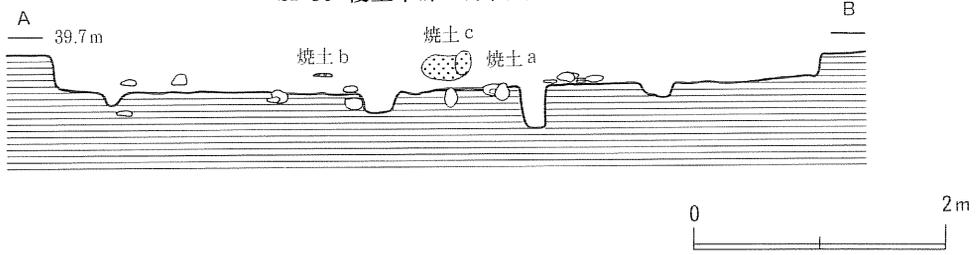
P6

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒混入 炭化物混入
2. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土塊混入
3. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 暗褐色土少量混入

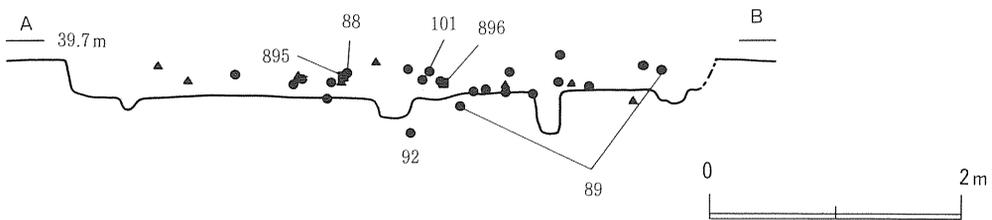
第11図 A区検出遺構 S I (7)



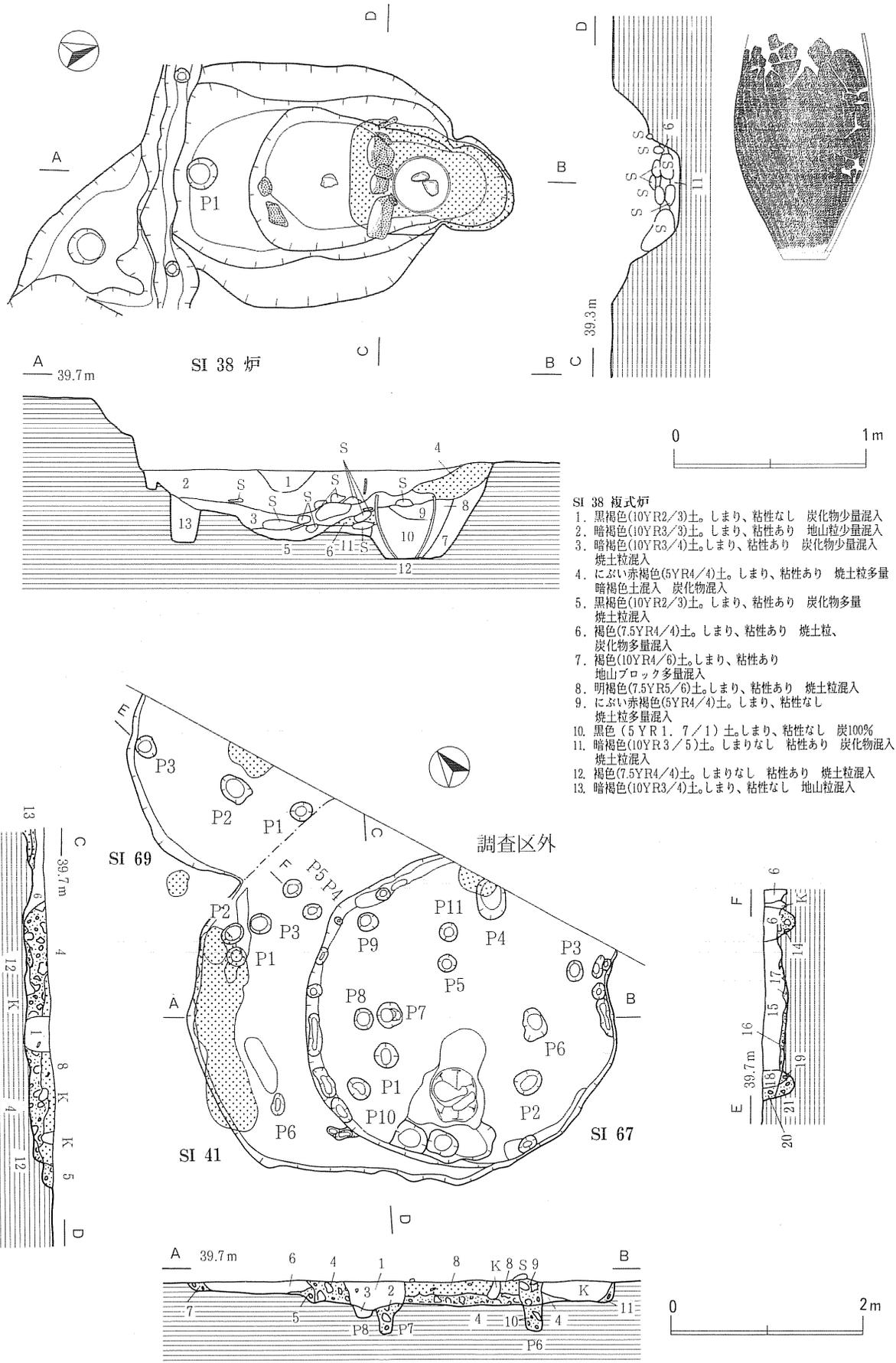
SI 38 覆土中礫・床面礫分布図



SI 38



第12図 A区検出遺構S I (8)

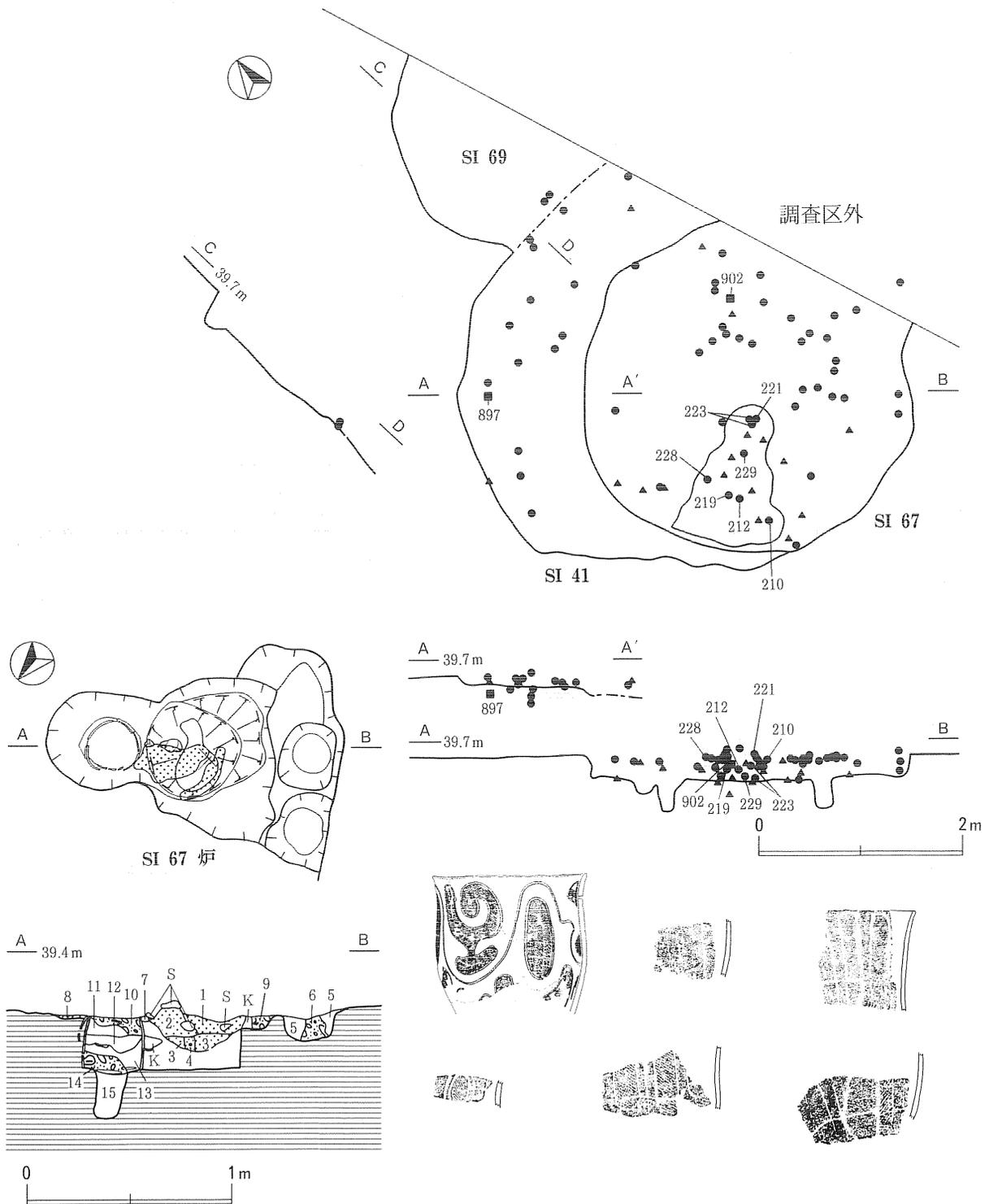


第13図 A区検出遺構SI (9)

第4章 調査の記録

SI 41, 67, 69

1. 黒褐色(10YR3/1)土。炭化物混入 地山ブロック混入 しまり中 粘土質
2. 黒褐色(10YR2/2)土。pit7 地山粒混入 地山粘土ブロック多量 粘性あり しまり強
3. 暗褐色(10YR3/3)土。pit8 地山粘土混入 炭化物混入 粘性強 しまり強
4. 暗褐色(10YR3/3)土。炭化物混入 地山粒混入 しまり強 粘性有り
5. 黒褐色(10YR3/2)土。地山粒+暗褐色土。地山粒多量 しまり強 粘性なし
6. 黒褐色(10YR2/2)土。焼土粒 地山粒少量 炭化物混入 しまり強 粘性あり
7. 黒褐色(10YR3/2)土。地山ブロック多量 炭化物混入 しまり弱 粘性なし 焼土粒混入
8. 黒褐色(10YR2/2)土。焼土多量 炭化物混入 しまり中 粘性なし
9. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粒多量 地山ブロックなし 炭化物多量 しまり強
10. 暗褐色(10YR3/3)土。pit6. 粘性強 地山粘土ブロック多量 炭化物混入 しまり強
11. 灰黄褐色(10YR4/2)土。地山ブロック層 しまり強 粘性なし
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粘土層 暗褐色土多量混入 炭化物混入 粘性なし しまり弱
13. 暗褐色(5YR3/2)土。褐色土+焼土層 焼土多量 しまり強 粘性なし
14. 黒褐色(10YR3/2)土。炭化物多量 地山粒多量 粘性あり
15. 黒褐色(10YR2/3)土。地山粒多量 炭化物多量 しまり強 粘性強
16. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粒多量 しまり強 粘性強
17. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粒+ブロック層 しまり中 粘性なし
18. 黒褐色(10YR2/3)土。地山粒多量 地山ブロック混入 しまり中 粘性強
19. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粘土+褐色土。しまり強 粘性強
20. 褐色(10YR4/4)土。褐色土+地山ブロック径3.0cm層 しまり強 粘性強
21. 褐色(10YR4/4)土。褐色土+地山粘土ブロック層 地山ブロック多量 地山粒多量 しまり強 粘性あり



第14図 A区検出遺構S I (10)

SI 67の炉

1. 黒褐色(10YR2/3)土。焼土粒多量 地山粒多量 炭化物混入 しまり強 粘性強
2. 黒褐色(10YR2/3)土。焼土粒多量 地山粒多量 炭化物混入 しまり強 粘性あり
3. 黒褐色(10YR2/2)土。焼土粒多量 炭化物多量 しまり強 粘性強
4. 褐色(10YR4/4)土。地山ハードブロック層 しまり強 粘性強
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。粘質土 しまり強 粘性強
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。地山粘土層 しまり強 粘性強
7. 黒褐色(5YR2/2)土。暗褐色土+炭化物多量 地山粒多量 しまり弱 粘りあり
8. 暗赤褐色(5YR3/4)土。焼土層 しまり強 粘性あり
9. 灰黄褐色(10YR4/2)土。地山粘土ブロック層 褐色土混入
10. 黒褐色(10YR3/1)土。焼土混入 炭化物多量 地山粘土粒多量 粘質土強 しまり強
11. 黒褐色(10YR2/2)土。炭化物多量 焼土粒混入 しまり弱 粘りなし
12. 黒褐色(10YR2/3)土。焼土粒多量 炭化物混入 地山粒混入 しまり中 粘りなし
13. 黒色(10YR2/1)土。炭化粒混入 焼土多量 しまり強 粘り多い
14. 黒色(10YR2/1)土。地山粒多量 地山ブロック多量
15. 黒色(10YR1.7/1)土。炭化物多量 焼土粒混入



A



B

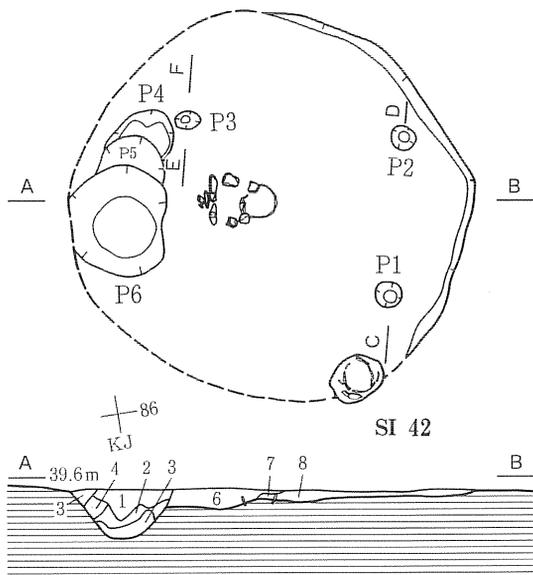
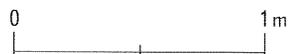
SI 67 炉体土器

A

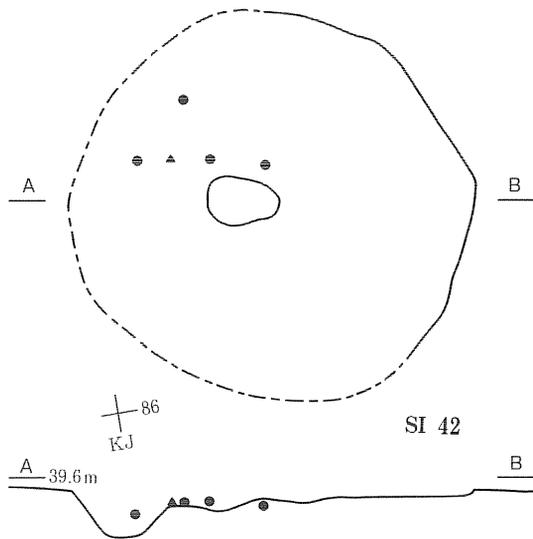


B

土器片下の焼土



SI 42



SI 42



SI 42

P1

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり

P2

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒子5%

P3

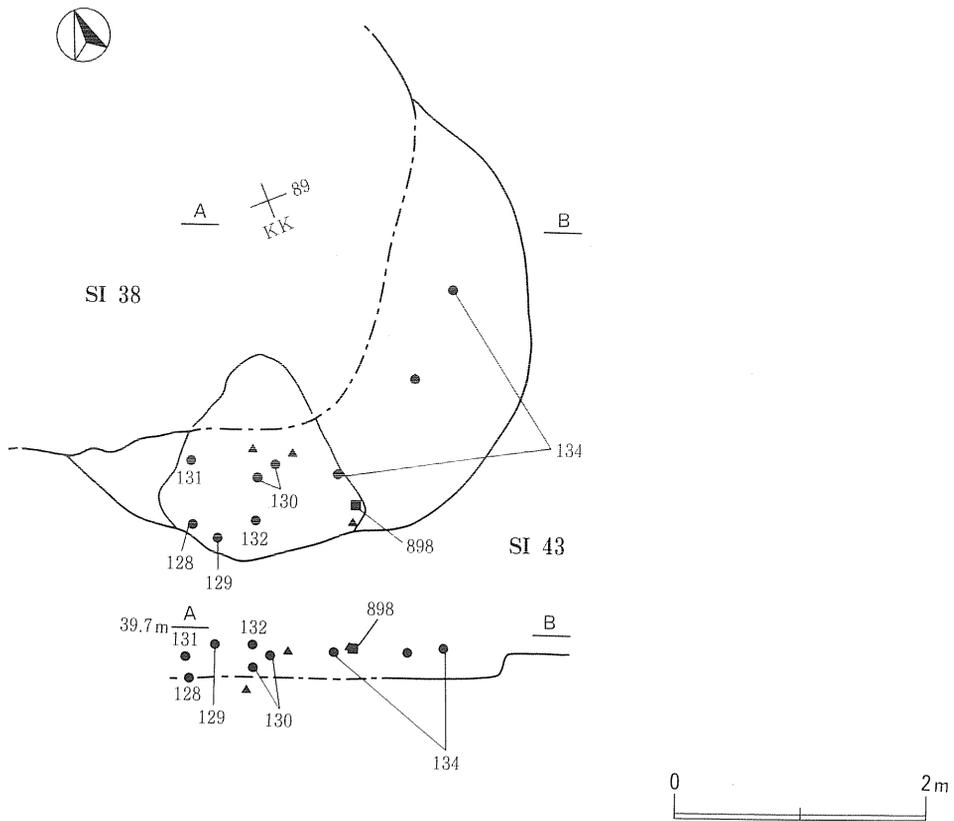
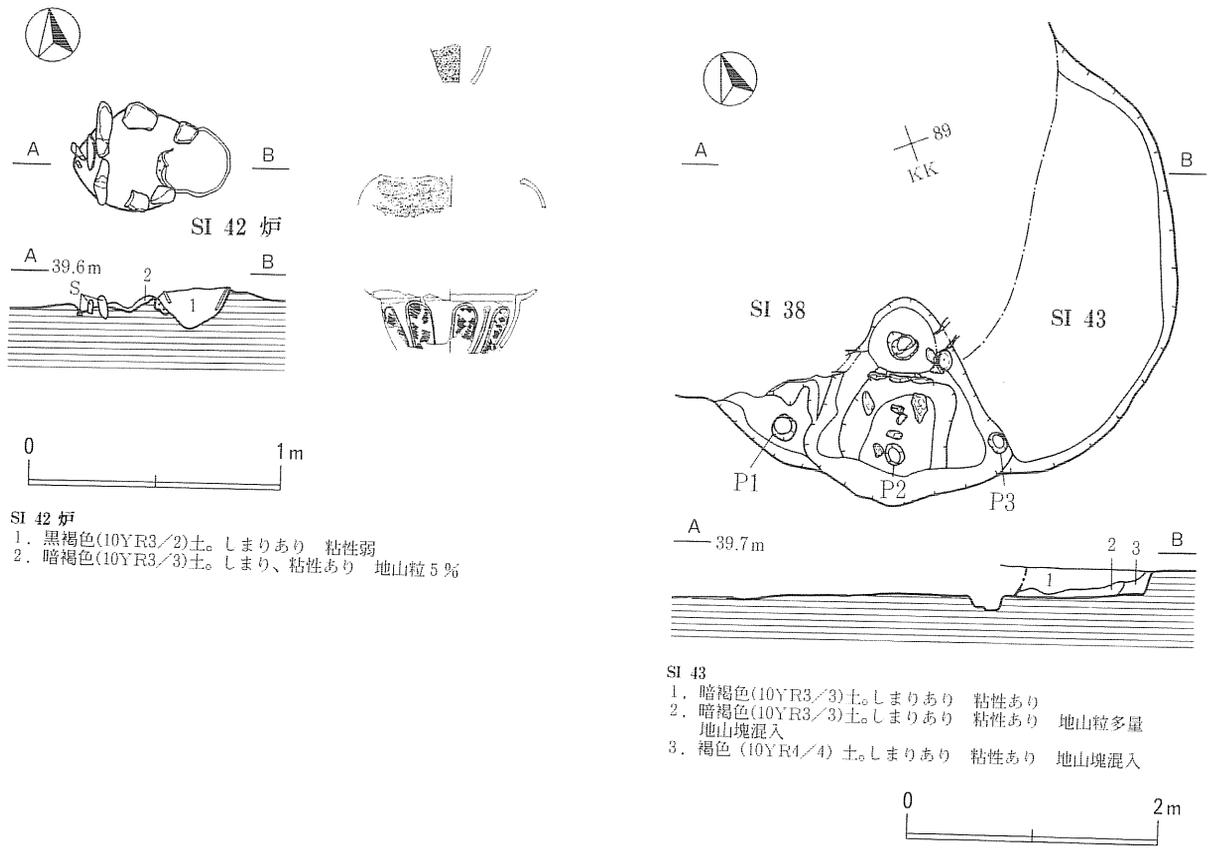
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり強 粘性あり 地山ブロック混入

SI 42

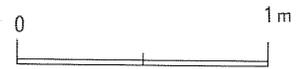
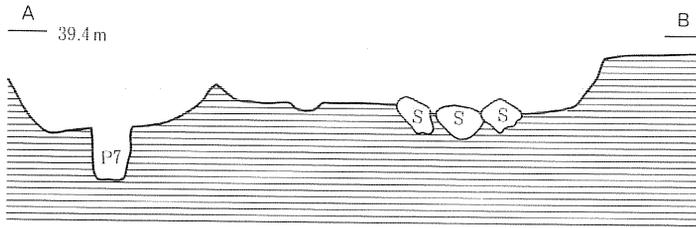
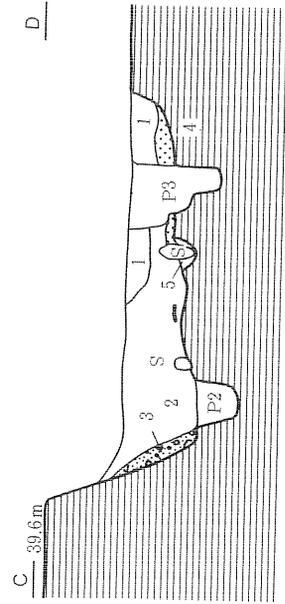
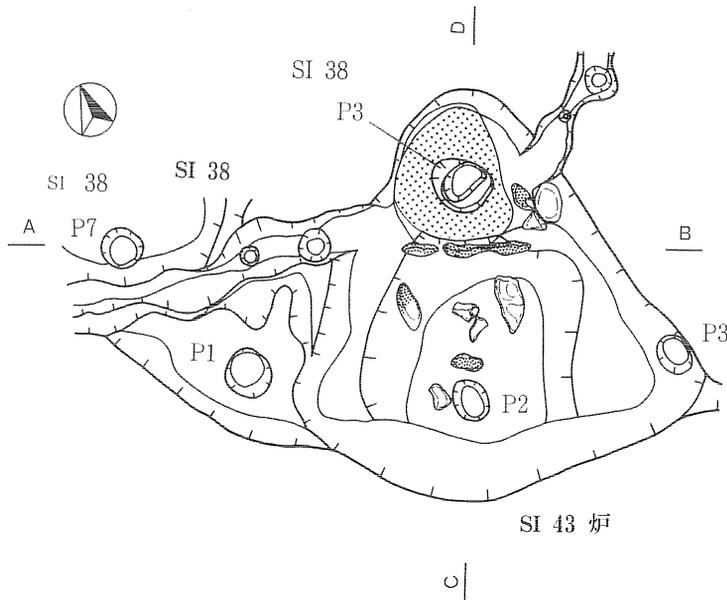
1. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり弱 粘性なし
2. 黒褐色(10YR2/2)土。しまりあり 粘性弱 地山粒1%
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり弱 粘性弱 地山粒3%
4. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 地山粒7%
5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック1%
6. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック 地山粒混入
7. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 地山粒混入
8. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック混入

第15図 A区検出遺構S I (11)

第4章 調査の記録

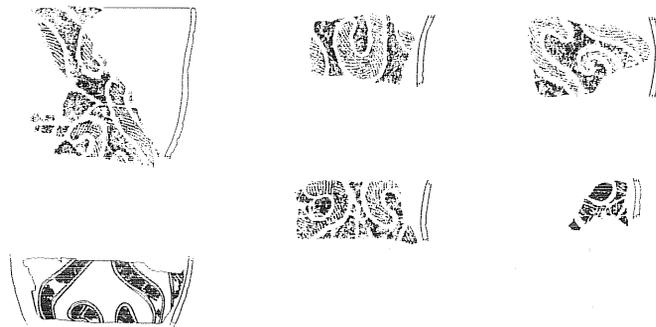
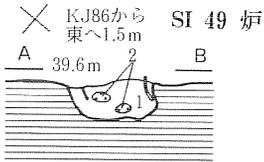
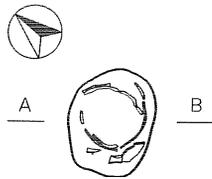


第16図 A区検出遺構S I (12)

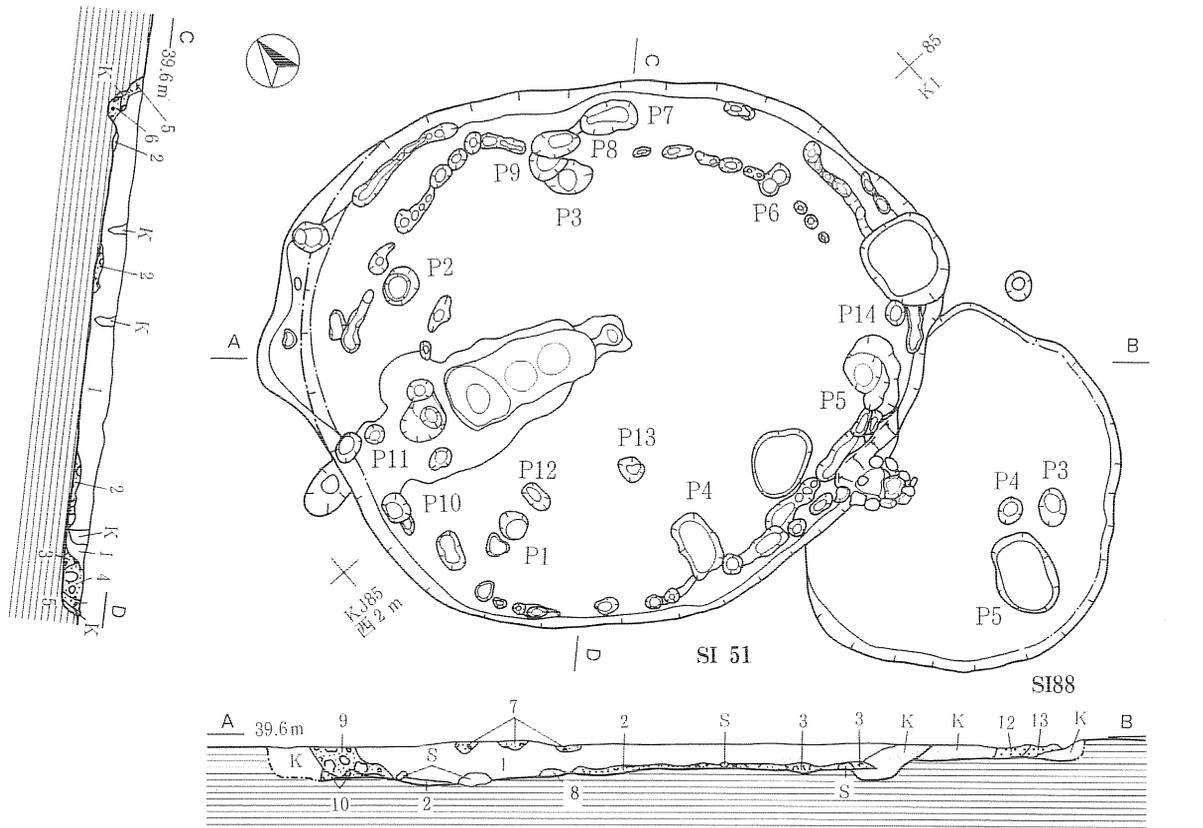


SI 43 炉

1. 褐色(10YR4/6)土。しまりなし 粘性あり 炭化物多量 地山粒多量
2. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山粒少量混入
3. 黄褐色(10YR5/6)土。しまりあり 粘性あり 地山ブロック混入
4. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまり、粘性あり 焼土塊赤褐色土(5YR4/6)混入
5. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 地山粒多量

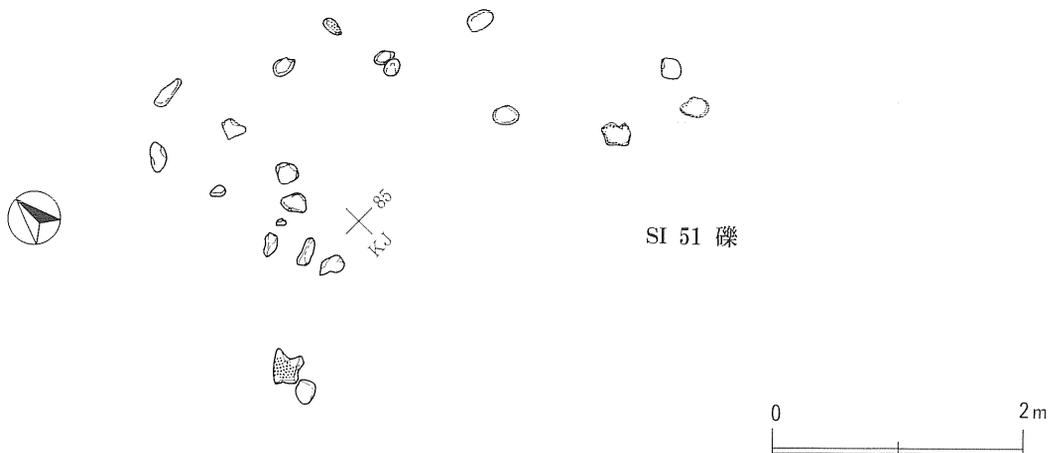


第17図 A区検出遺構S I (13)

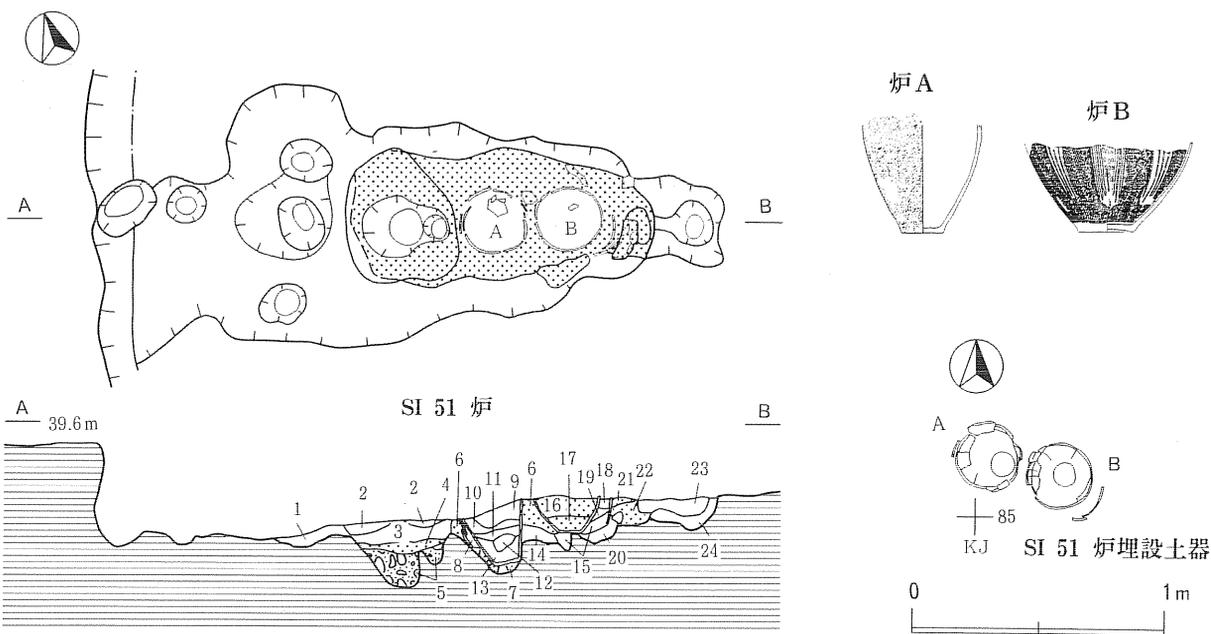
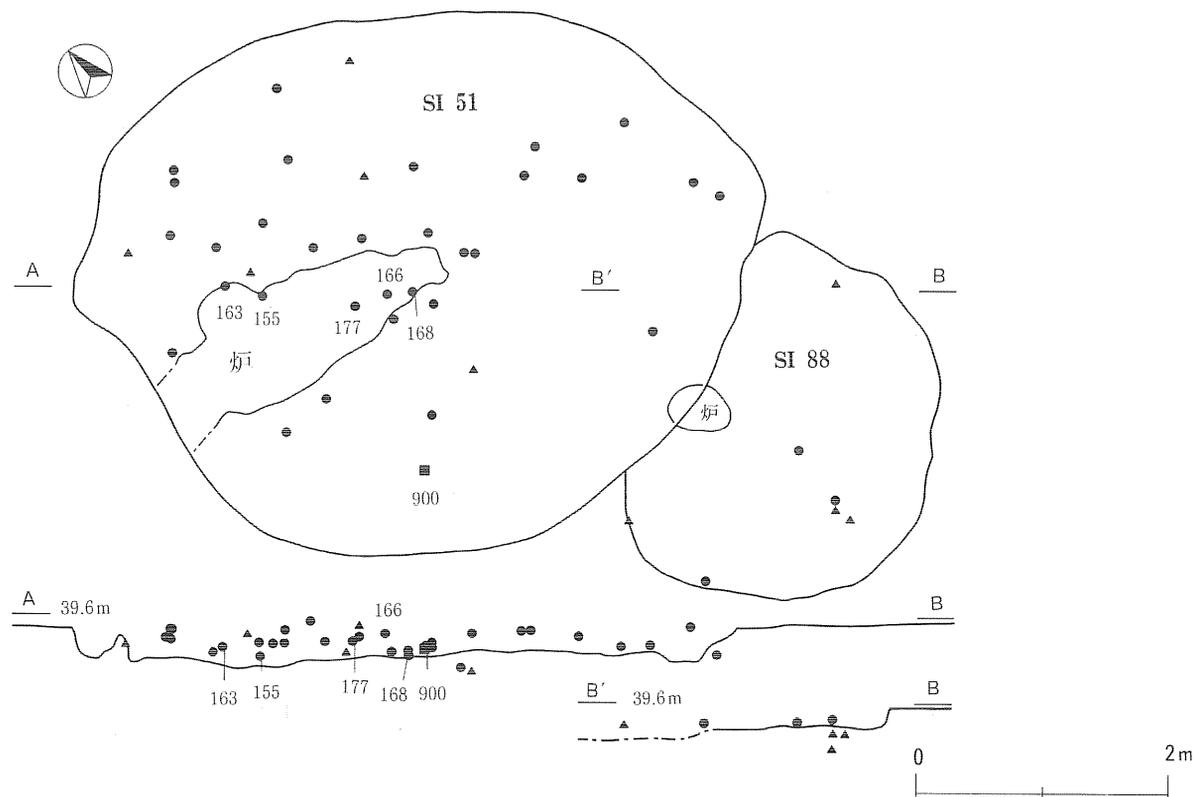


SI 51・SI 88

1. 黒褐色(10YR2/3)土。地山ブロック、炭化物混入。しまり強 粘性なし
2. 黒褐色(10YR3/1)土。褐色土+地山粘土層 炭化物混入。しまり強 粘性強
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粘土ブロック+地山粒+褐色土 粘性なし。しまり強
4. 黒褐色(10YR3/2)土。地山粒多量
5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり強 炭化物混入 粘性なし
6. 黒褐色(10YR2/3)土。地山ブロック混入。しまり強 粘性あり
7. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。炭化物混入。しまり強 粘性なし
8. 暗赤褐色(5YR3/6)土。焼土粒多量。しまり強 粘性強
9. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粒少量混入。地山粒多量 炭化物混入。しまり弱 粘性あり
10. 褐色(10YR4/6)土。しまり強 粘性あり
11. 褐色(10YR4/4)土。地山粒多量 炭化物混入。しまり弱 粘性あり
12. 灰黄褐色(10YR4/2)土。焼土粒混入 炭化物混入。しまり弱 粘性なし
13. 暗赤褐色(5YR3/3)土。炭化物混入。粘性あり



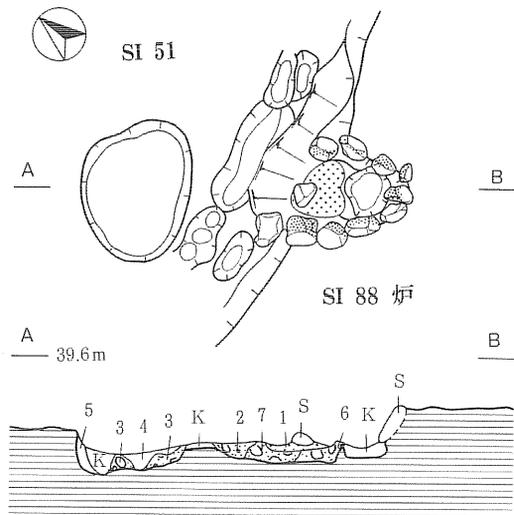
第18図 A区検出遺構S I (14)



SI 51 炉

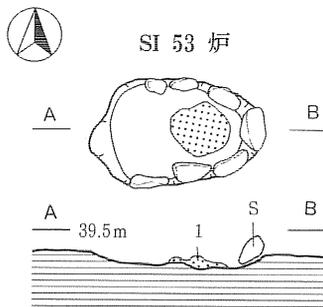
- | | |
|--|---|
| <p>1. 黒褐色(10YR3/2)土。地山粒混入 しまり強</p> <p>2. 黒褐色(10YR2/3)土。炭化物、地山粒混入 粘性あり しまりあり</p> <p>3. 暗褐色(10YR3/3)土。焼土ブロック、炭化物混入 粘性、しまり強</p> <p>4. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり強 粘性なし</p> <p>5. 褐色(10YR4/4)土。地山ブロック混入 焼土粒、炭化物混入 焼土粒混入</p> <p>6. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまり強 粘性なし</p> <p>7. 褐色(10YR4/4)土。地山ブロック混入 地山粒混入</p> <p>8. 灰黄褐色(10YR4/2)土。焼土、地山粒混入</p> <p>9. 黒褐色(10YR2/2)土。地山粒、炭化物混入 しまり中 粘性あり</p> <p>10. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粒、焼土混入 粘性あり しまり強</p> <p>11. 黒褐色(10YR3/2)土。地山粒混入 焼土粒多量 しまり強 粘性強</p> <p>12. 暗褐色(5YR3/2)土。焼土粒多量 炭化物混入 しまり弱 粘性なし</p> | <p>13. 黒色(1.7YR/1)土。炭化物粒子 粘性あり</p> <p>14. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり強 粘性なし</p> <p>15. 黒褐色土(7.5YR3/1)土。炭化物混入 しまり強 粘性強</p> <p>16. 暗赤褐色(5YR3/4)土。しまり強 粘性強</p> <p>17. 黒褐色(10YR2/3)土。焼土粒 炭化物混入 しまり強 粘性強</p> <p>18. 黒褐色(10YR2/3)土。炭化物混入 しまり強 粘性なし</p> <p>19. 黒褐色(10YR3/2)土。炭化物混入 焼土粒混入 しまり中 粘性なし</p> <p>20. 灰褐色(7.5YR4/2)土。しまり中 粘性なし</p> <p>21. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性強 しまりやや強</p> <p>22. にぶい赤褐色(5YR4/3)土。焼土粒混入 地山粒多量 しまり強 粘性なし</p> <p>23. 褐色(10YR4/6)土。しまり強 粘性なし</p> <p>24. 黒褐色(7.5YR3/2)土。しまり強 粘性強</p> |
|--|---|

第19図 A区検出遺構S I (15)



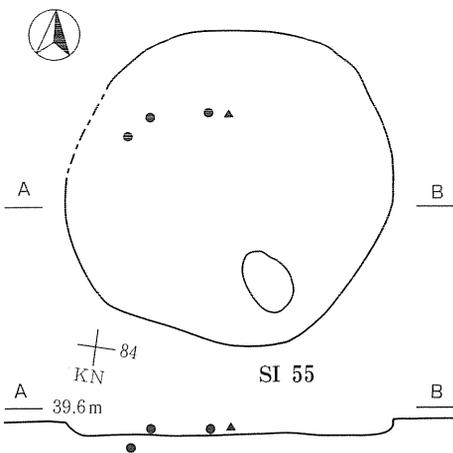
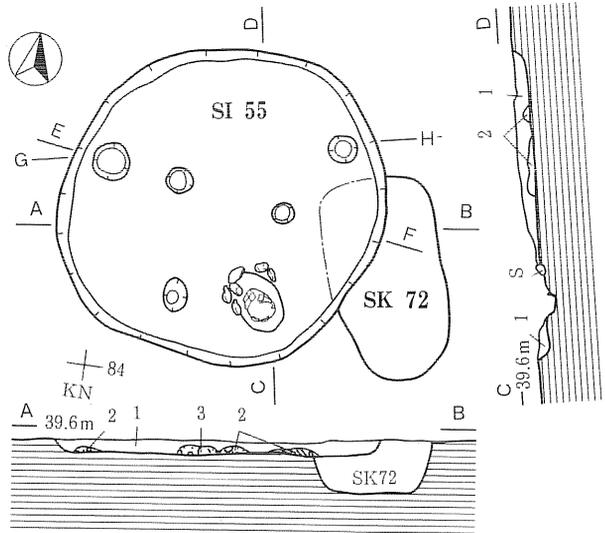
SI 88の炉

1. 褐色(7.5YR4/4)土。焼土層+暗褐色土 焼土粒混入 しまり強 粘性多い
2. 黒褐色(10YR2/2)土。地山粘土ブロック多量 しまり中 粘性弱
3. 暗褐色(10YR3/4)土。地山ソフトブロック多量 焼土 炭化物混入 しまり強 粘性あり
4. 黒褐色(10YR2/2)土。炭化物多く混入 焼土 地山粒混入 しまり強 粘性なし
5. 黒褐色(10YR2/3)土。地山粘土ブロック しまり弱 粘性強
6. 黒褐色(7.5YR3/2)土。地山粘土層 粘性強 しまり中 火熱の影響あり
7. 褐色(10YR4/4)土。地山粘土層 しまり強 粘性強



SI 53

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまりあり 粘性あり

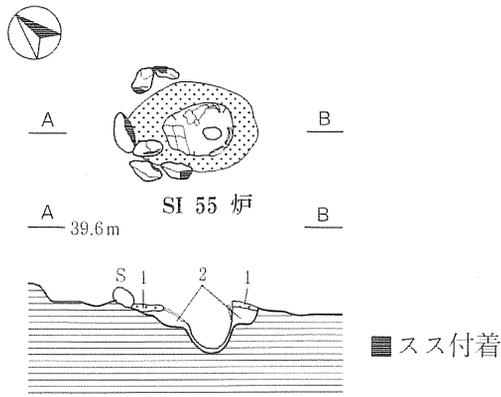


SI 55

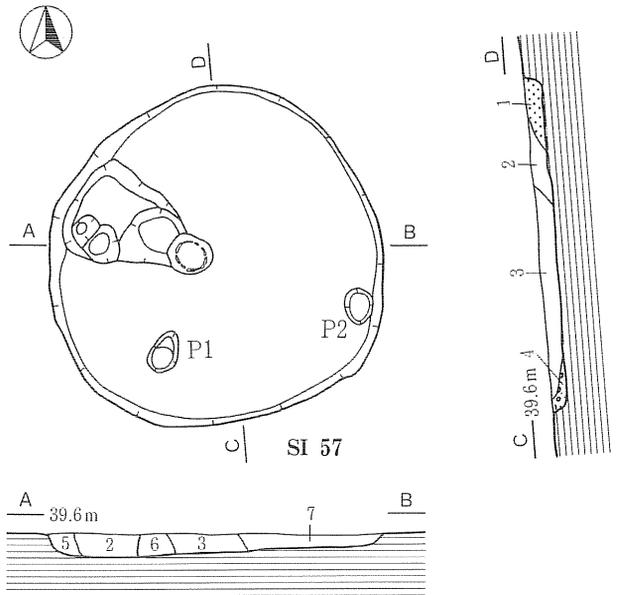
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山ブロック 暗褐色(10YR3/3) 黒褐色(10YR2/3)混入
2. 褐色(10YR4/6)土。地山ブロック
3. 褐色(10YR4/6)土。地山層 しまり非常に強く人為的堆積



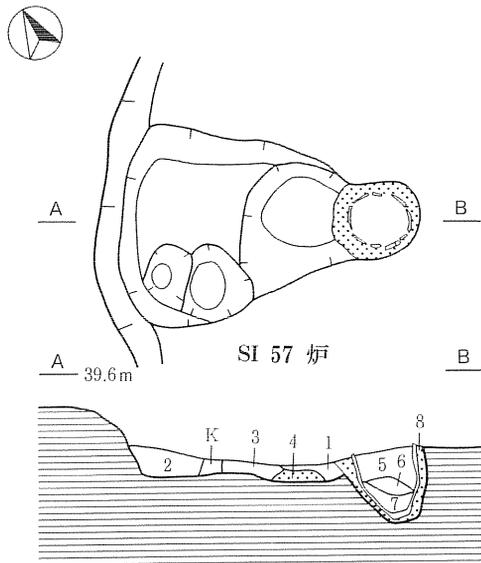
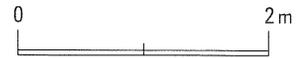
第20図 A区検出遺構S I (16)



- SI 55 炉
1. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。しまり 粘性あり
2.5YR 4/6、5%混入
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり弱 やや粘質
炭化物3% (10YR4/3) 20%混入



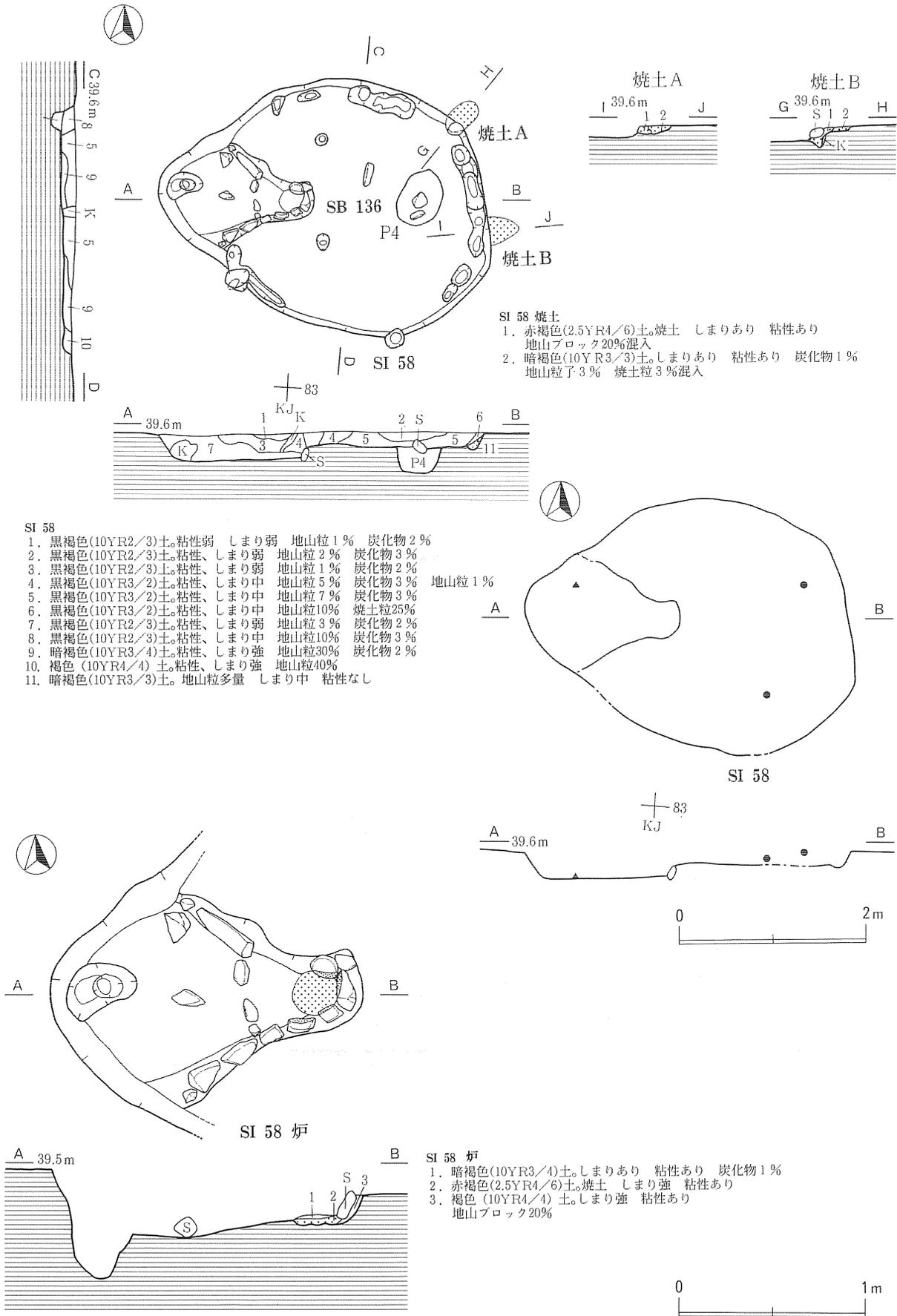
- SI 57
1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。粘性中 しまり中 焼土40% 炭化物10%
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性強 しまり中 焼土粒2%
炭化物10% 地山粒2%
 3. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり中 炭化物5% 地山粒2%
 4. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性中 しまり小 地山粒50%
 5. 黒色(10YR2/1)土。シルト 粘性中 しまりなし 炭化物50%
 6. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり中 炭化物5% 焼土粒2%
 7. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性 炭化物30% 焼土粒2%



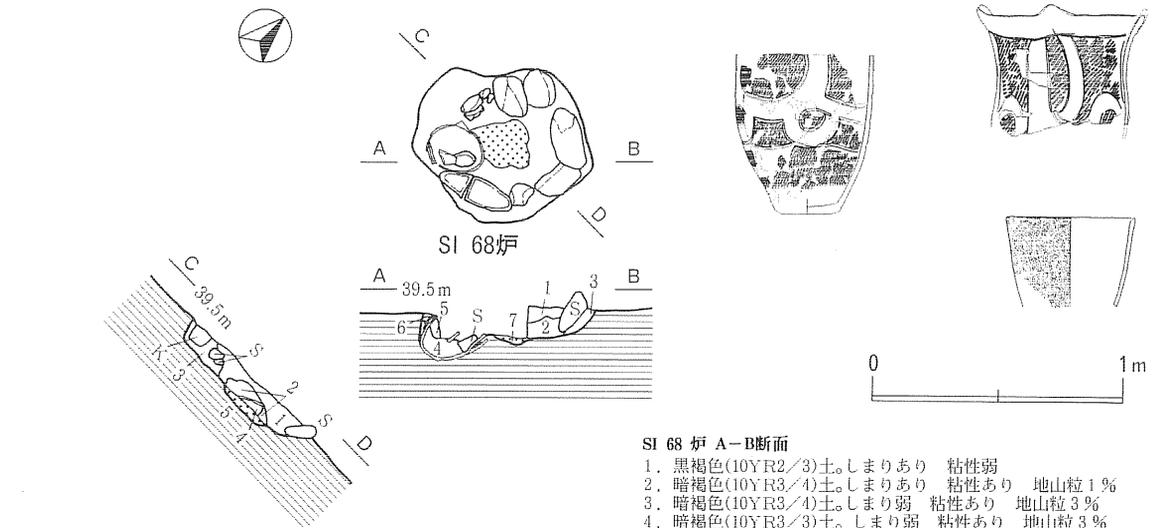
- SI 57 炉
1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性中 しまり中 炭化物5%
焼土粒混入
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまり小 炭化物20%
焼土粒10% 地山粒5%
 3. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性、しまり強 炭化物10%
焼土粒2% 地山粒2%
 4. にぶい赤褐色(2.5YR4/4)土。粘性、しまり強
焼土ブロック80% 地山粒20%
 5. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性中 しまり中 炭化物5%
焼土粒2% 地山粒0.5%
 6. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性強 しまり中
 7. 黒色(10YR2/1)土。シルト 粘性強 しまり強
 8. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土層



第21図 A区検出遺構SI (17)



第22図 A区検出遺構S I (18)

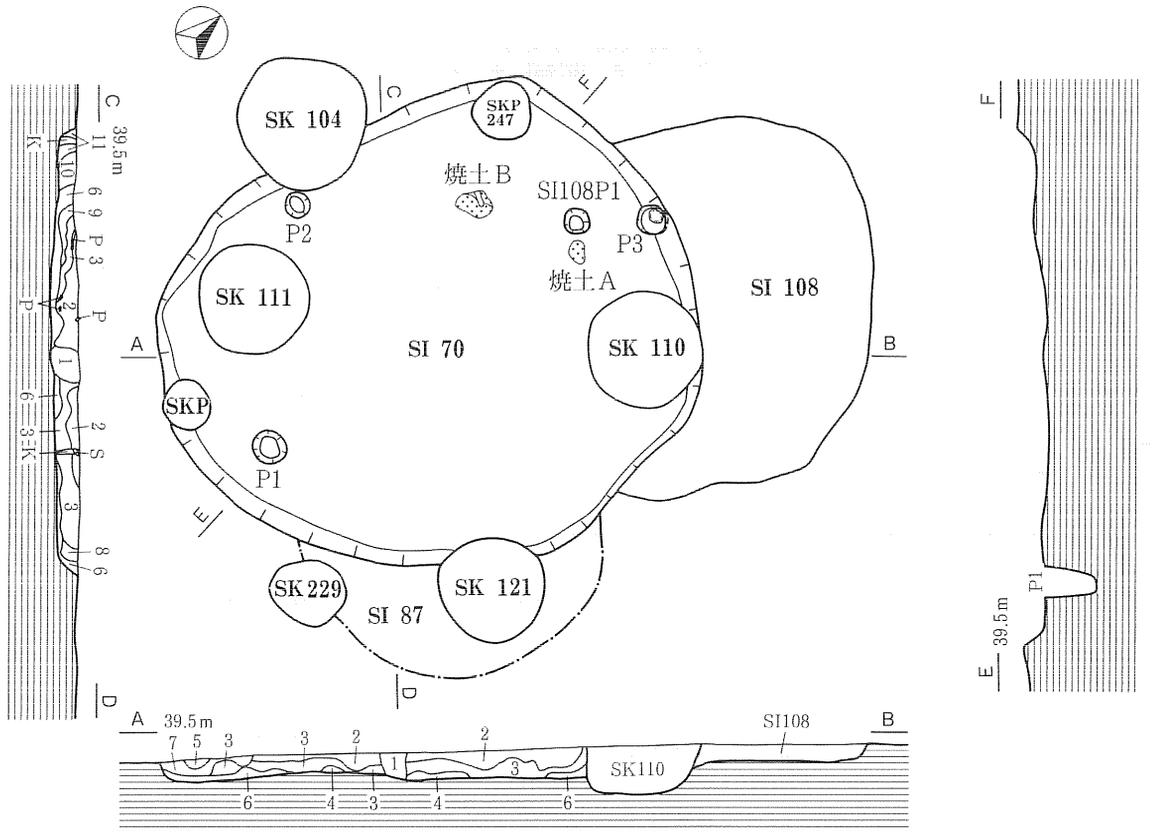


SI 68 炉C-D断面

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性弱 炭化物1%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒10%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粒20%
4. 黒褐色(10YR2/3)土。焼土粒2.5YR5/8明赤褐色粒3%
5. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土 しまり、粘性あり

SI 68 炉 A-B断面

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性弱
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒1%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり弱 粘性あり 地山粒3%
4. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり弱 粘性あり 地山粒3%
5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒20%
6. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土、しまり、粘性あり
7. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土 しまり、粘性あり

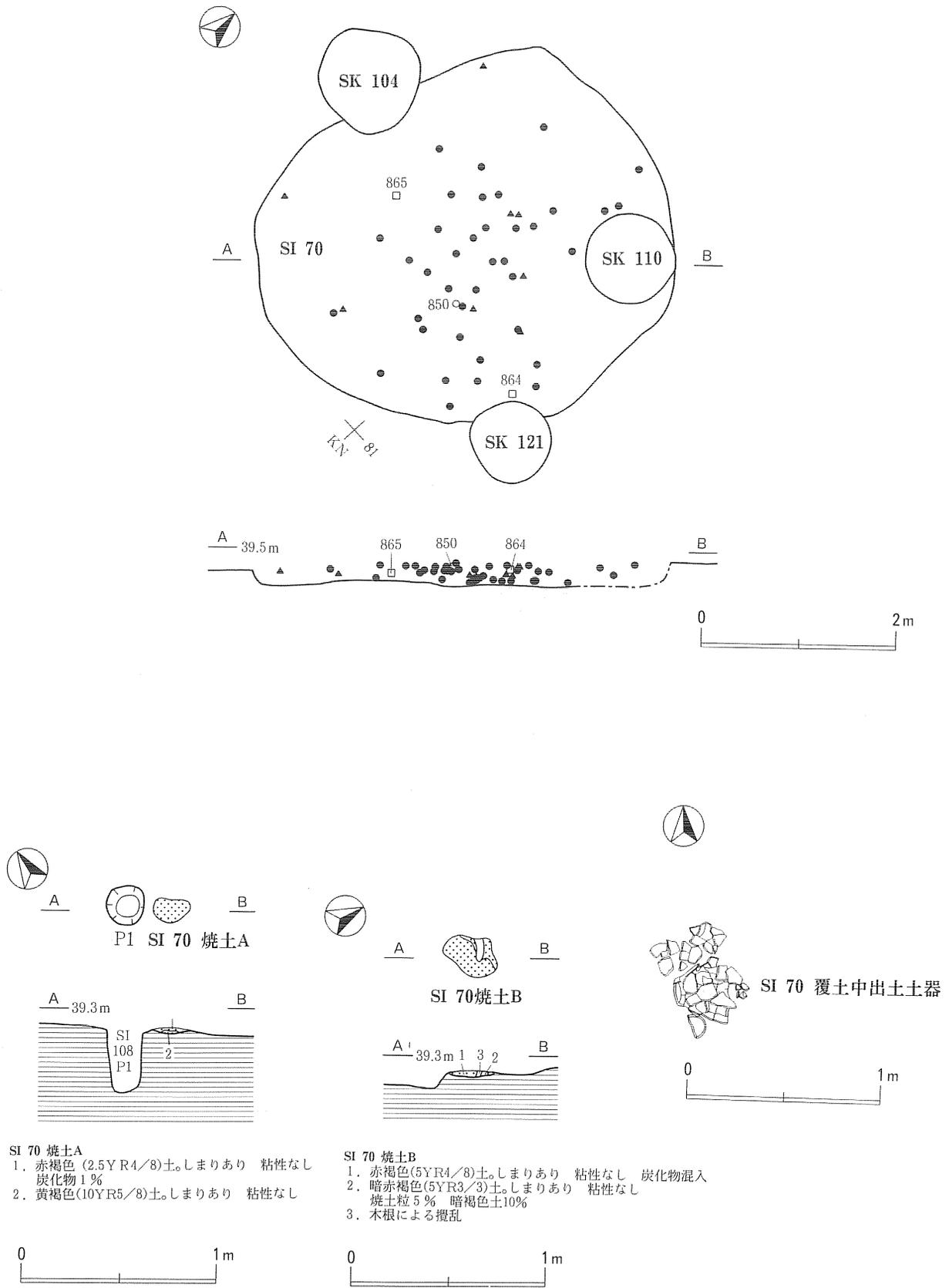


SI 70

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし 地山粒混入
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし 地山粒1% 炭化物混入
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 焼土粒 炭化物、地山粒混入
4. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物少量 地山粒少量
5. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性なし 黄褐色土多量
6. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山粒多量

7. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり、粘性なし 地山粒混入
8. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし 地山粒混入
9. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山塊多量 焼土粒、炭化物混入
10. 黒褐色(10YR2/8)土。しまりなし 粘性あり 炭化物、地山塊混入
11. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山塊混入

第23図 A区検出遺構SI (19)



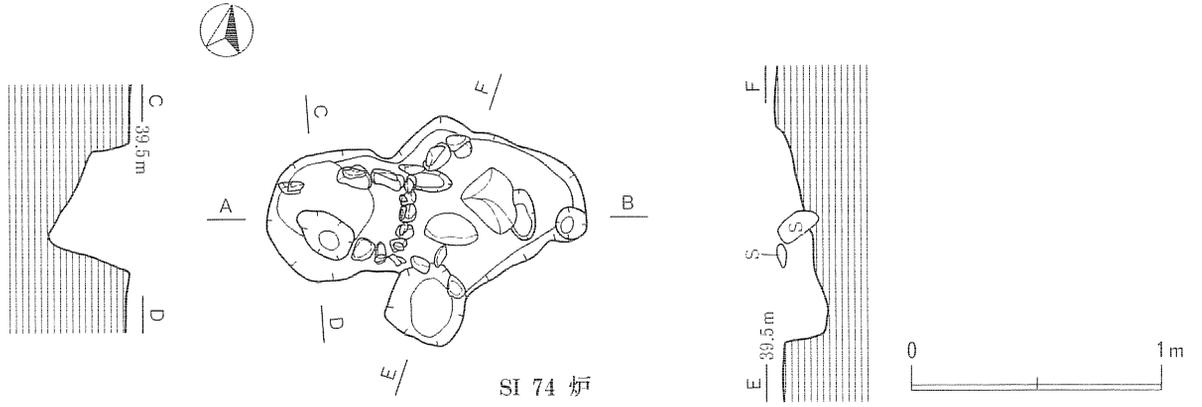
SI 70 焼土A

1. 赤褐色 (2.5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1%
2. 黄褐色(10YR5/8)土。しまりあり 粘性なし

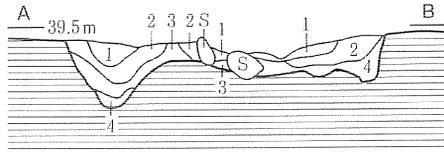
SI 70 焼土B

1. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし 炭化物混入
2. 暗赤褐色(5YR3/3)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒5% 暗褐色土10%
3. 木根による攪乱

第24図 A区検出遺構S I (20)

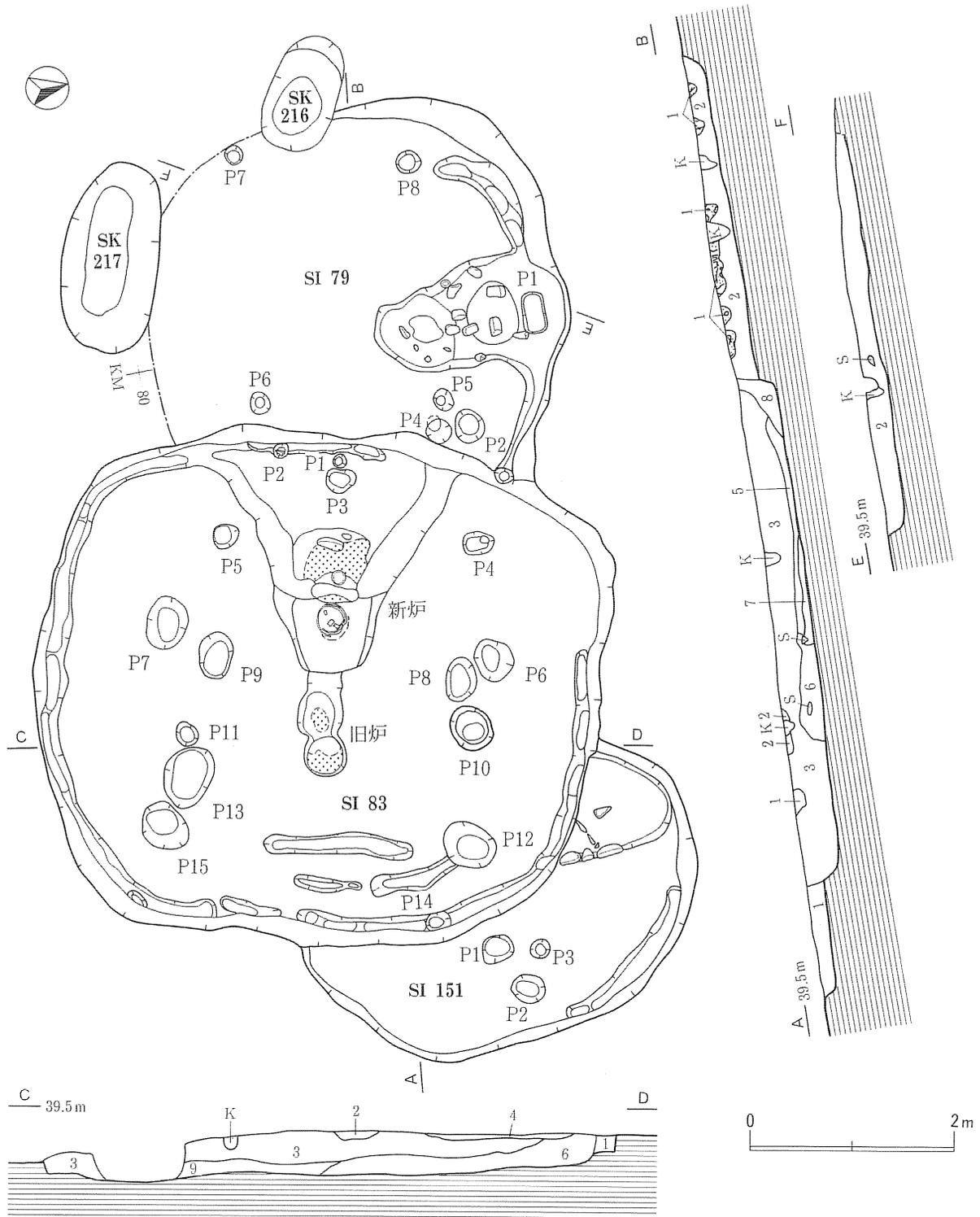


SI 74 炉



SI 74 炉

1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり微弱
焼土粒、炭化物2% 地山粒1%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり弱
焼土粒、炭化物1% 地山粒2%
3. 褐色(10YR4/4)土。粘性、しまり中
焼土粒1% 炭化物1% 地山粒3%
4. 黄褐色(10YR5/6)土。しまり強 焼土粒1%
炭化物1% 地山ブロック2% 地山粒30%



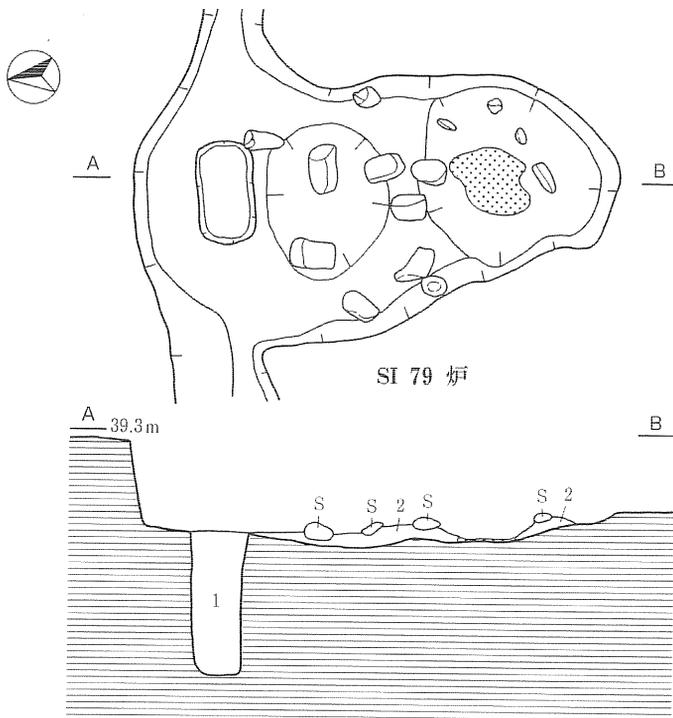
SI 79

1. 暗褐色(7.5YR3/4)土。シルト 緻密 炭火物1% 地山土
2. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 緻密 炭火物3% 地山粒2% 地山ブロック1%

SI 83の埋土

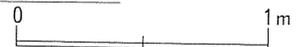
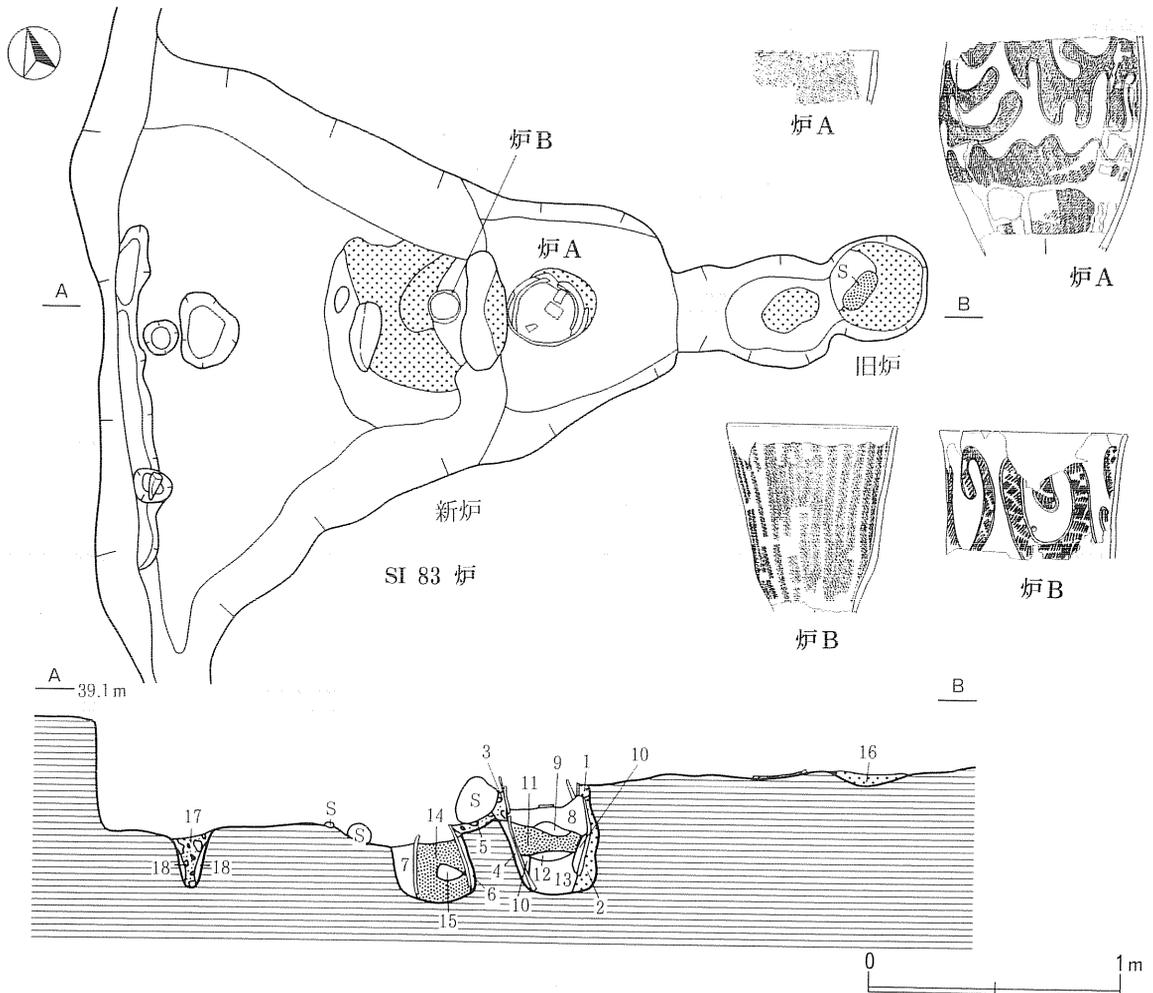
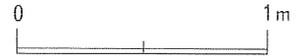
1. 暗赤褐色(5YR3/4)土。シルト 緻密 焼土混入
2. 暗褐色(7.5YR3/3)土。シルト 緻密 炭火物2%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭火物2% 地山粒3%
4. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト 緻密 炭火物3% 地山粒1%
5. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト 緻密 炭火物15% 地山粒2%
6. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 緻密 炭火物2% 地山粒7%
7. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭火物3% 地山粒 地山ブロック2%
8. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭火物2% 地山粒2%
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。シルト 緻密 炭火物1% 地山粒15%

第26図 A区検出遺構S I (22)

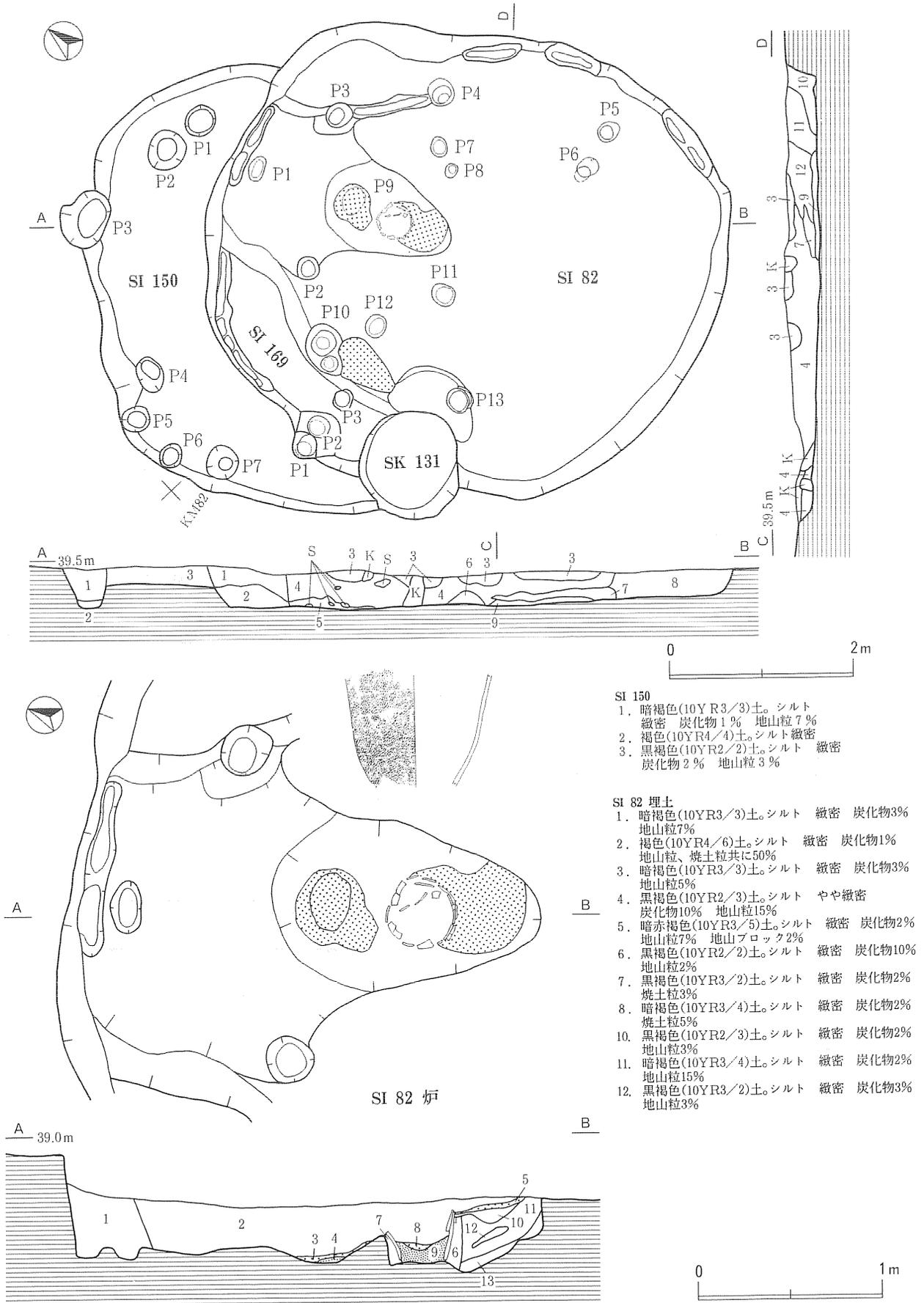


- SI 79 炉
1. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密
炭化物2% 地山粒20%
 2. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭化物2%
地山粒15%

- SI 83 炉
1. にぶい赤褐色(2.5YR4/4)土。シルト 緻密
 2. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。シルト 緻密
 3. 暗褐色(7.5YR3/4)土。シルト 緻密
 4. にぶい赤褐色(5YR5/4)土。シルト 緻密
 5. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密
 6. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。シルト 緻密
 7. 黄褐色(10YR5/8)土。砂 緻密 地山土
 8. にぶい赤褐色(5YR4/3)土。シルト 緻密 炭化物3%
 9. 赤褐色(5YR4/6)土。シルト 緻密 焼土ブロック
 10. 黒褐色(10YR3/1)土。シルト 緻密
 11. 黒褐色(10YR3/1)土。緻密 炭層
 12. 黄褐色(10YR5/6)土。シルト 緻密
 13. 褐色(10YR4/6)土。シルト 緻密
 14. 黒色(10YR1.7/1)土。緻密 炭層
 15. 黒色(10YR1.7/1)土。緻密 炭と焼土粒(5YR4/6赤褐)混入
 16. 暗赤褐色(5YR3/4)土。シルト 緻密 焼土ブロック混入
炭化物2%
 17. 黄褐色(10YR5/6)土。シルト 緻密 地山土混入
 18. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密



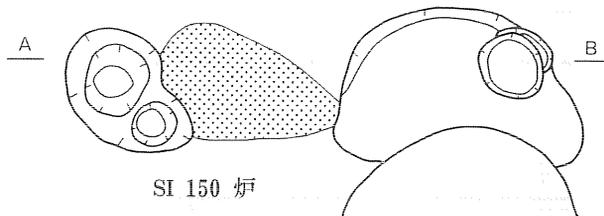
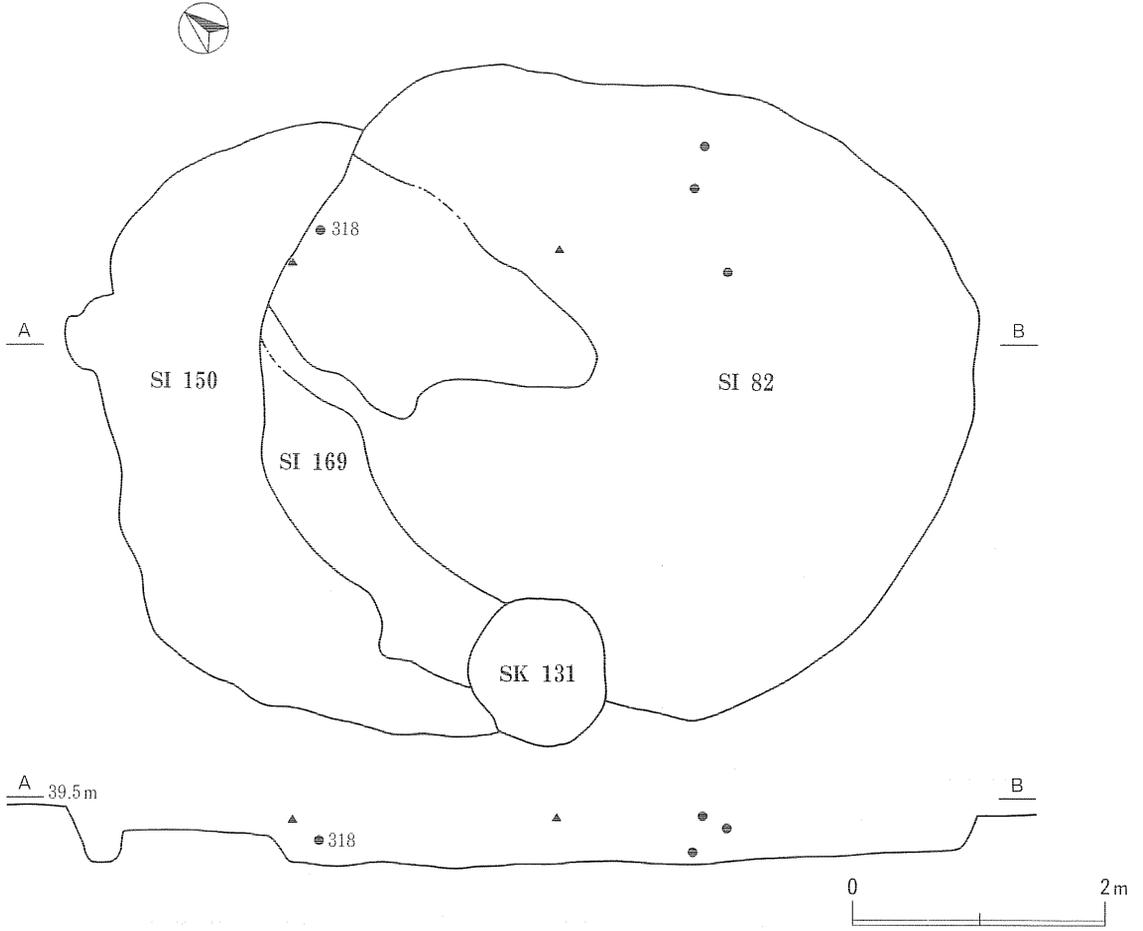
第27図 A区検出遺構S I (23)



第28図 A区検出遺構S I (24)

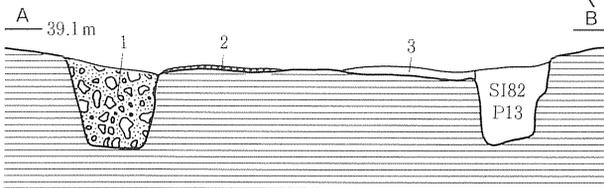
SI 82 炉

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト 緻密 炭化物3% 地山粒7% | 7. 褐色(7.5YR4/4)土。シルト 緻密 混入物なし |
| 2. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト 緻密 炭化物10% 地山粒15% | 8. 褐色(10YR4/4)土。シルト 緻密 焼土粒40% 炭化物1% |
| 3. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト 非常に緻密 炭化物50% 地山粒、焼土粒50% | 9. 黒色(10YR2/1)土。シルト 緻密 炭化物50% 焼土粒10% |
| 4. 黒色(10YR2/1)土。炭の固まり | 10. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。シルト 緻密 |
| 5. 褐色(10YR4/6)土。緻密 焼土 | 11. 褐色(10YR4/6)土。シルト 緻密 |
| 6. 暗赤褐色(5YR3/3)土。シルト 緻密 混入物なし | 12. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭化物15% |
| | 13. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。シルト 緻密 |

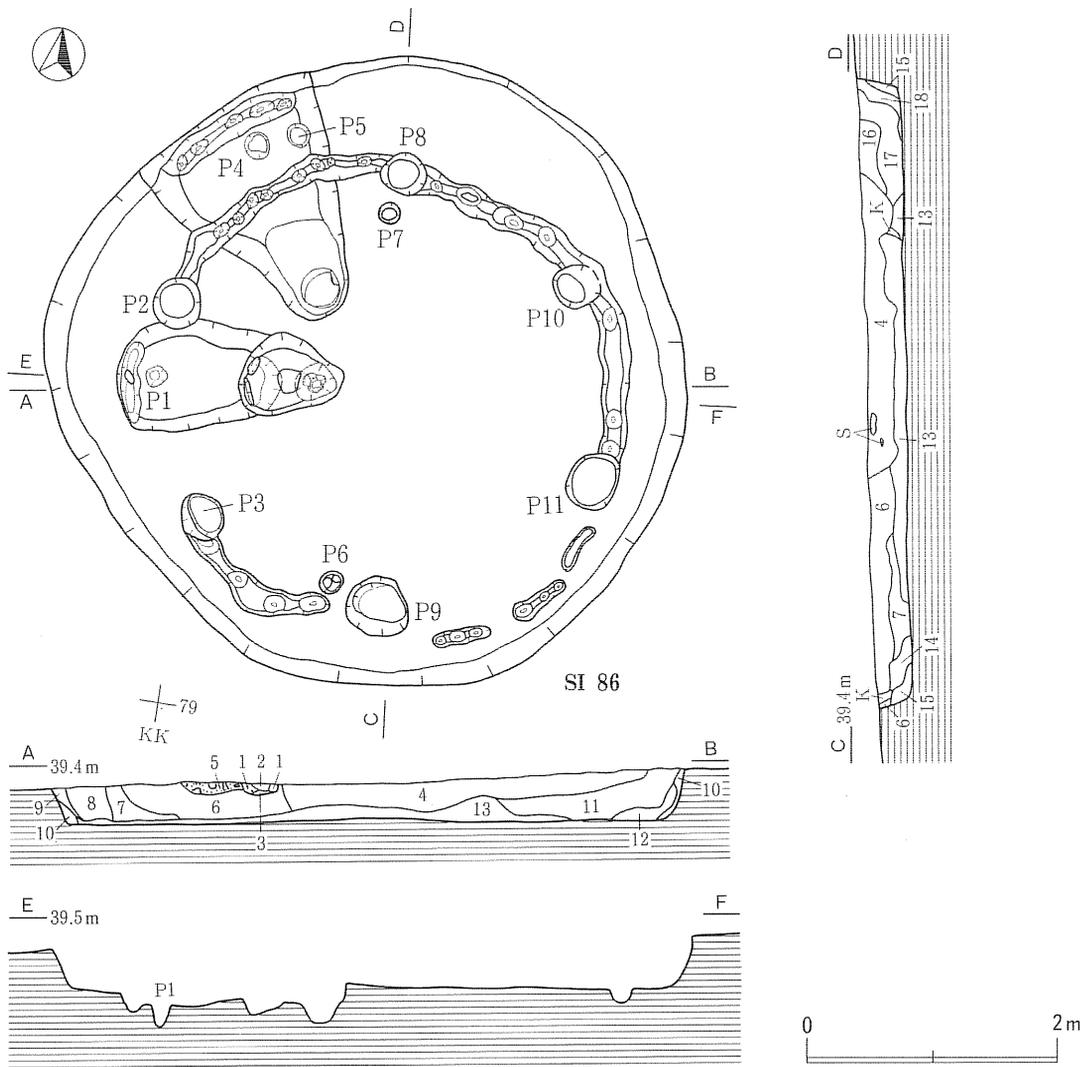


SI 150 炉

1. 褐色(10YR4/6)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山粒50%
2. 暗赤褐色(10YR3/6)土。炭化物1% 焼土
3. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 非常に緻密 炭化物1% 地山粒3%



第29図 A区検出遺構SI (25)



SI 86

1. 赤褐色(5YR4/6)土。しまりあり 粘性なし 炭化物少量 暗褐色土多量
2. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒1% 炭化物2%
3. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりなし 粘性なし 炭化物1% 焼土粒2%
4. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり 地山粒10% 炭化物10%
5. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒50% 炭化物1%
6. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 炭化物5% 地山粒1%
7. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒2%
8. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし 粘性あり 炭化物1%
9. 褐色(7.5YR4/3)土。しまりなし 粘性なし 地山粒1%
10. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 暗褐色土5%
11. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性なし 炭化物2% 地山粒2%
12. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりあり 粘性あり 炭化物1% 地山粒1%
13. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒20% 暗褐色土多量
14. 褐色(7.5YR4/3)土。しまりあり 粘性あり 地山粒2%
15. 黄褐色(10YR5/6)土。しまりあり 暗褐色土10%
16. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 炭化物少量 地山粒少量
17. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 地山粒1%
18. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりあり 粘性あり 地山粒1%



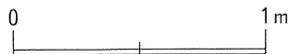
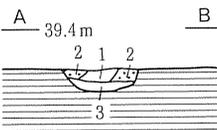
SI 86
焼土A



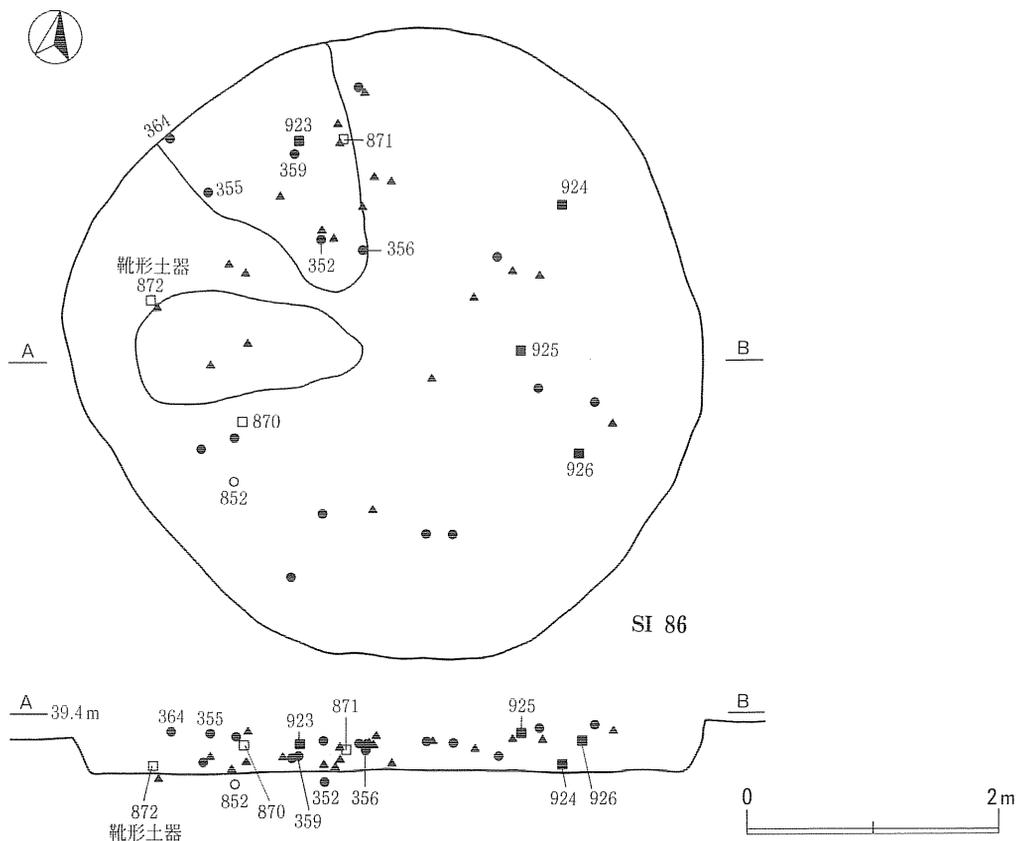
SI 86 焼土A

1. 赤褐色(5YR4/6)土。しまりあり 粘性なし 炭化物少量 暗褐色土多量
2. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒1% 炭化物2%
3. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりなし 粘性なし 炭化物1% 焼土粒2%

KK80より
南へ2m

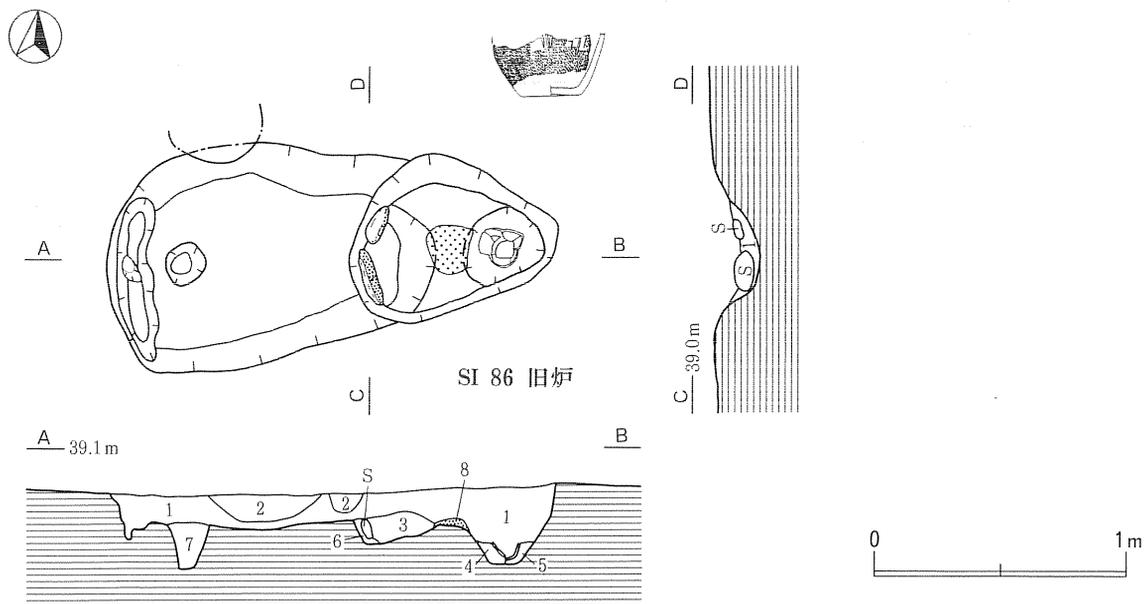


第30図 A区検出遺構S I (26)

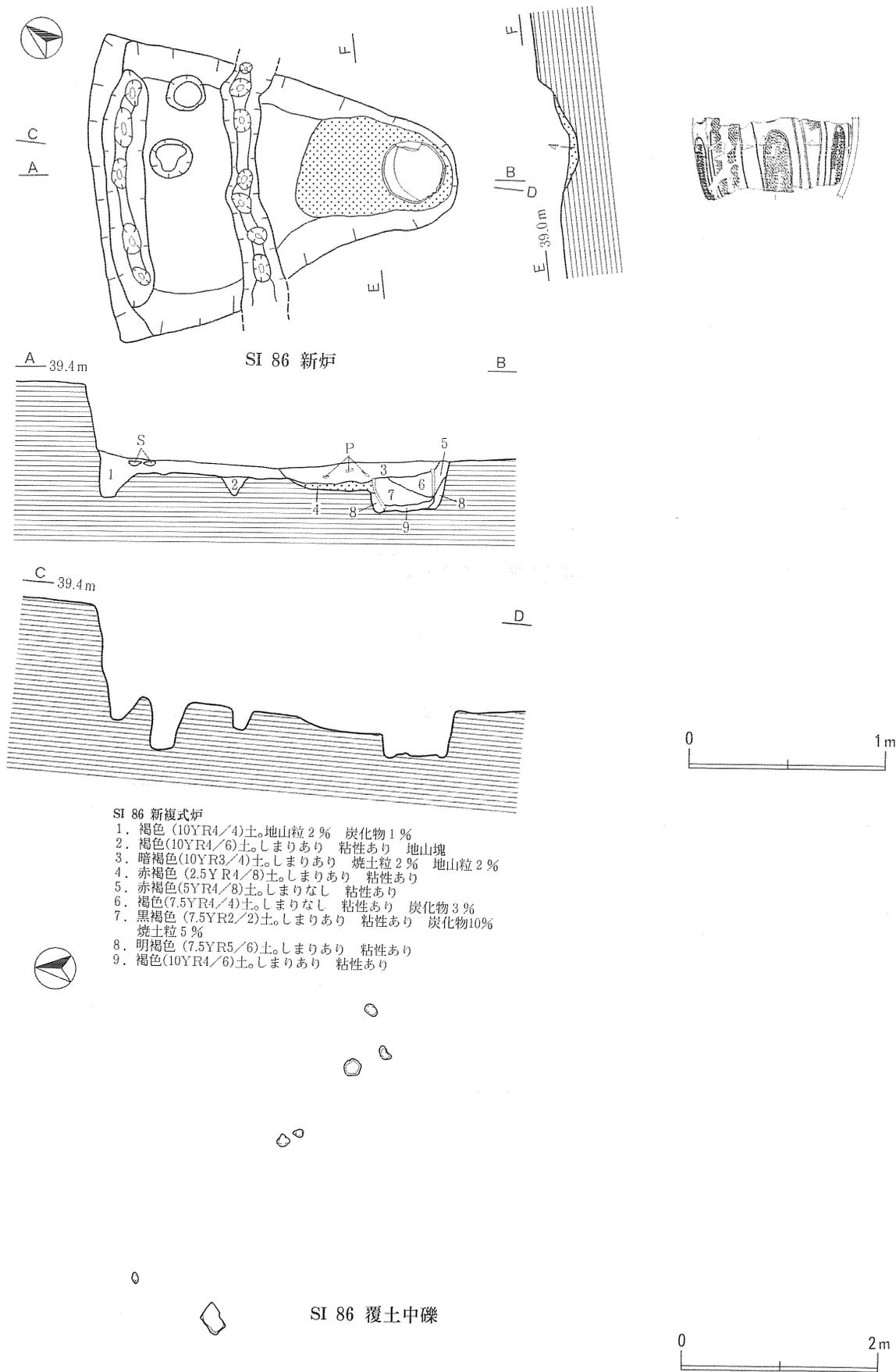


SI 86 旧覆式炉

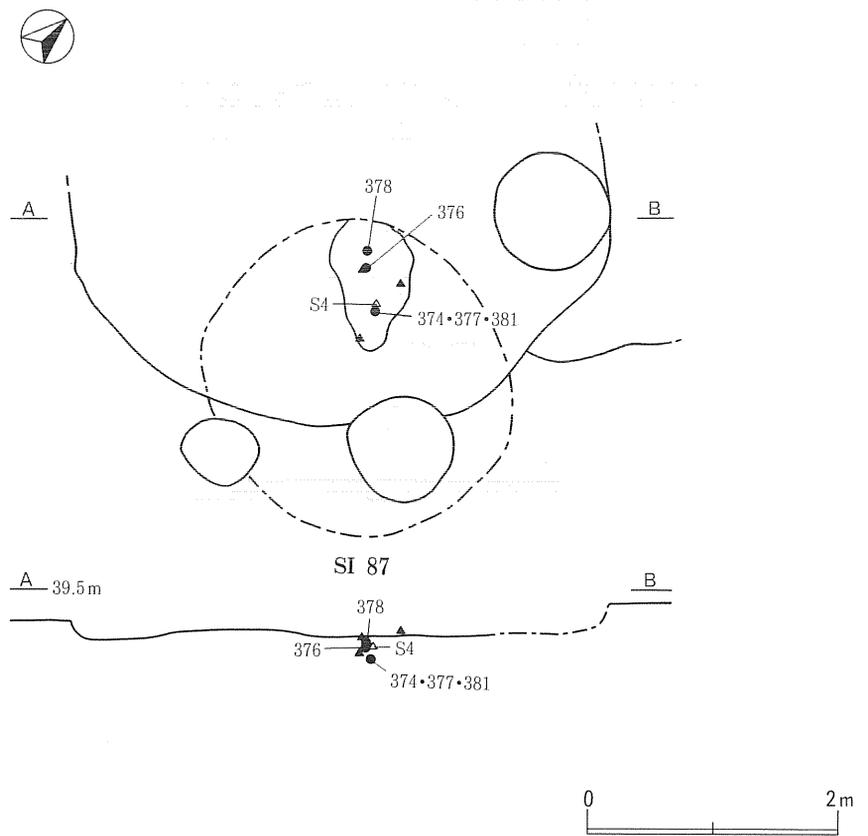
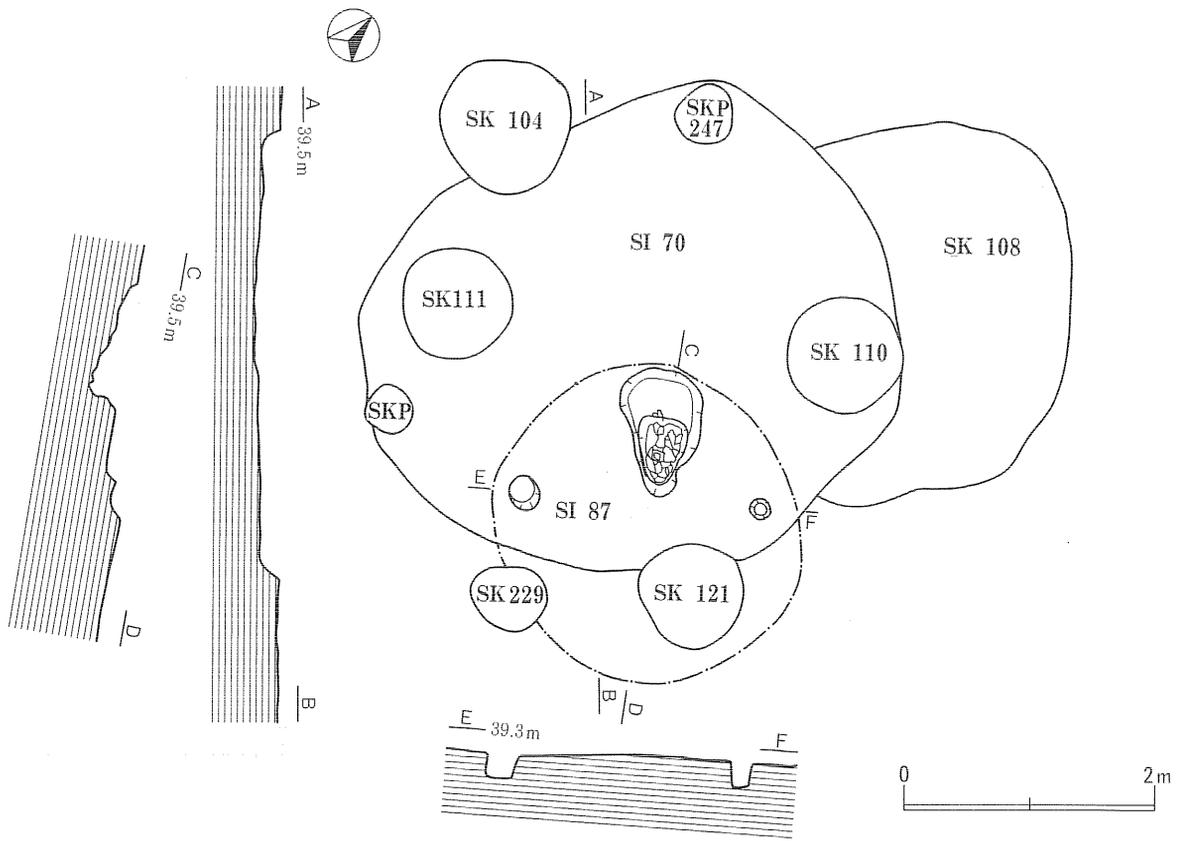
1. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまり、粘性あり 地山粒多量 暗褐色土多量
2. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山塊多量 暗褐色土多量
3. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり、粘性あり 炭化物多量
4. 褐色(7.5YR4/6)土。しまり、粘性あり 炭化物2% 地山粒多量
5. 褐色(10YR4/6)土。しまりなし 粘性なし 地山粒多量 炭化物1%
6. 黄褐色(10YR5/6)土。しまりあり 粘性あり 褐色土多量
7. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物2%
8. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性あり 褐色土混入



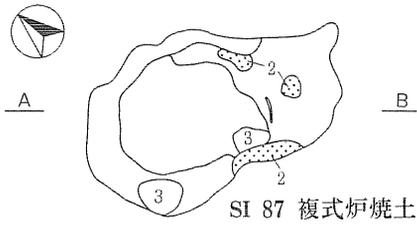
第31図 A区検出遺構S I (27)



第32図 A区検出遺構S I (28)



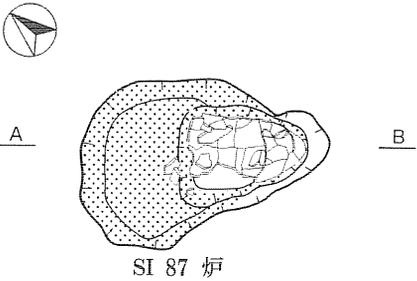
第33図 A区検出遺構S I (29)



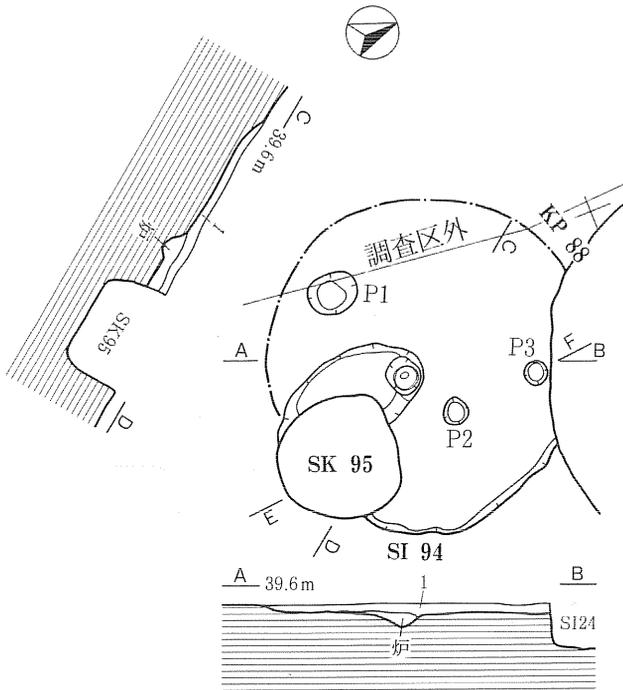
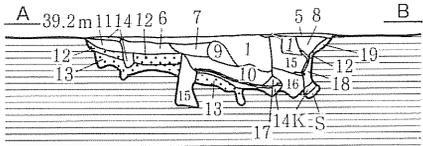
SI 87 複式炉焼土

SI 87 炉

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 焼土粒10% 炭化物2%
2. 褐色(7.5YR4/6)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒10% 焼土
3. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり、粘性なし 炭化物1%
4. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり、粘性あり 焼土粒10% 炭2% 地山塊多量
5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒5% 炭化物5%
6. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒2% 炭化物1%
7. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1% 焼土粒微量
8. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性あり
9. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性なし 焼土粒2% 地山粒2%
10. 黒褐色(10YR2/2)土。しまりあり 粘性あり
11. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒多量
12. 明赤褐色(5YR5/8)土。しまりあり 粘性なし
13. 赤褐色(5YR4/6)土。しまりあり 粘性なし 地山粒多量
14. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性なし 地山粒10%
15. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒1%
16. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒1%
17. 黒褐色(10YR2/2)土。しまりあり 粘性あり
18. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまり、粘性あり 炭化物微量 地山ブロック混入
19. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまりあり 粘性あり 焼土粒1%



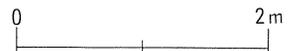
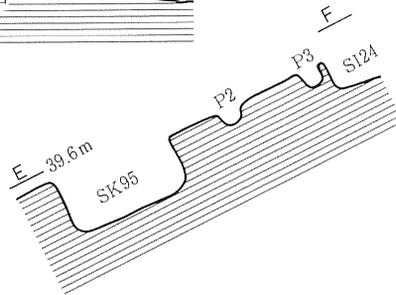
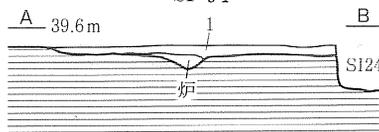
SI 87 炉



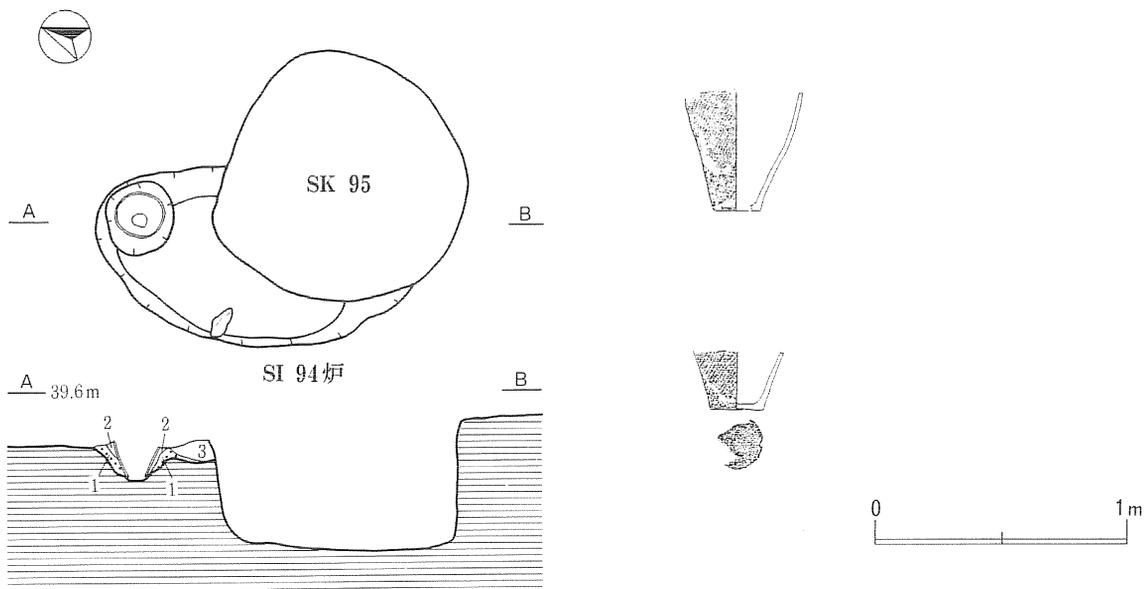
SI 24

SI 94

1. 暗褐色(10YR3/4)土。黒褐色土(10YR3/2)15%混入 地山ブロック5% 炭化物2% 焼土1%

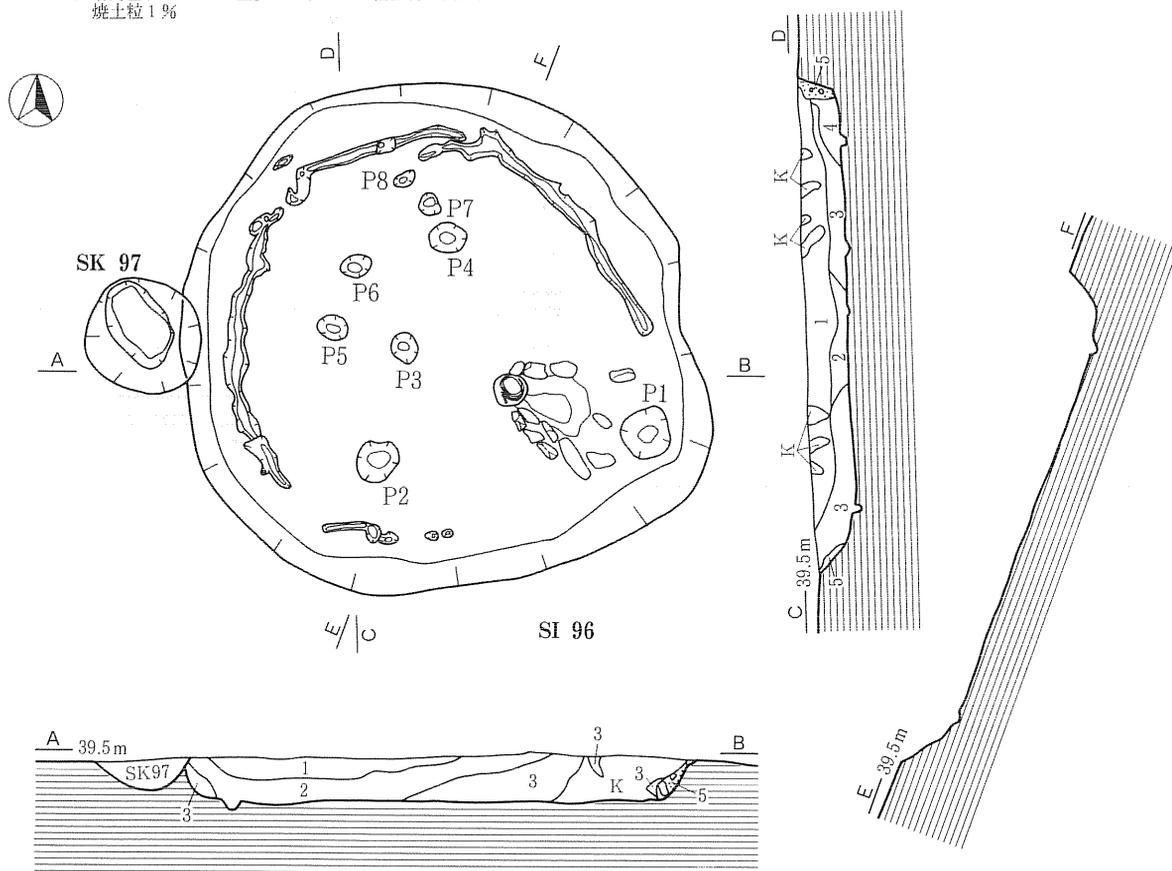


第34図 A区検出遺構SI (30)



SI 94 炉

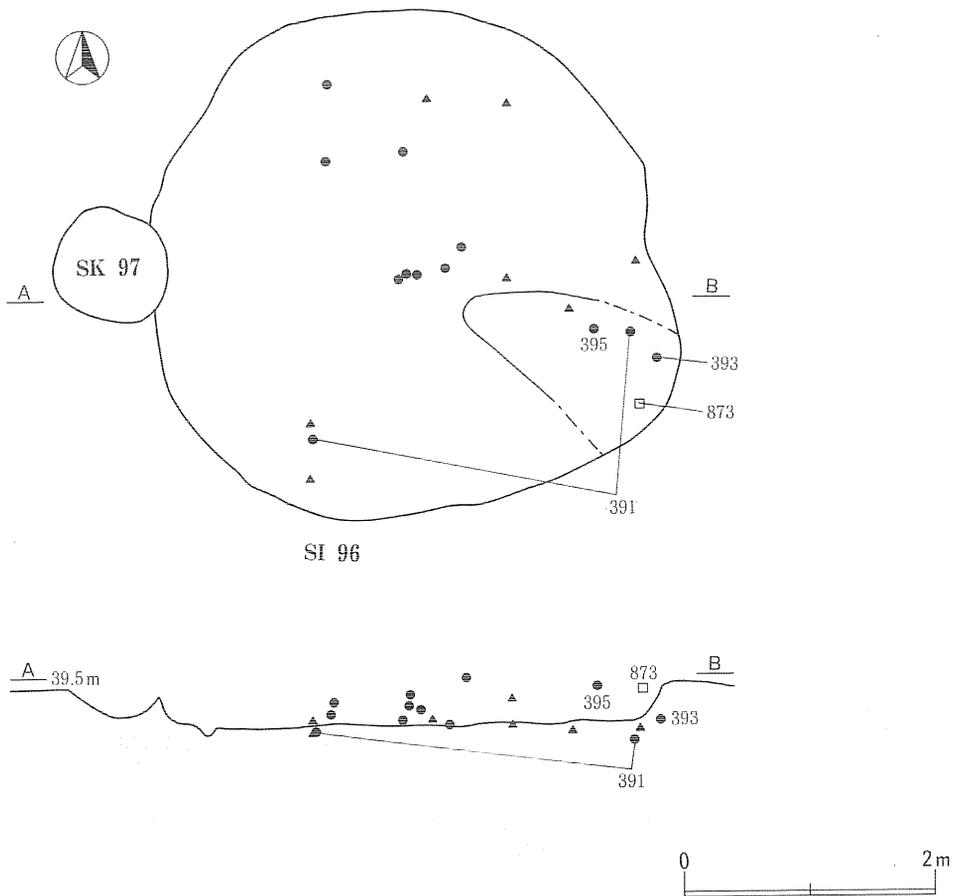
1. 赤褐色(5YR4/6)土。しまり強 やや粘質 炭化物1%
焼土粒2% 焼土
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性弱 炭化物1%
焼土粒3%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱 炭化物3%
焼土粒1%



SI 96

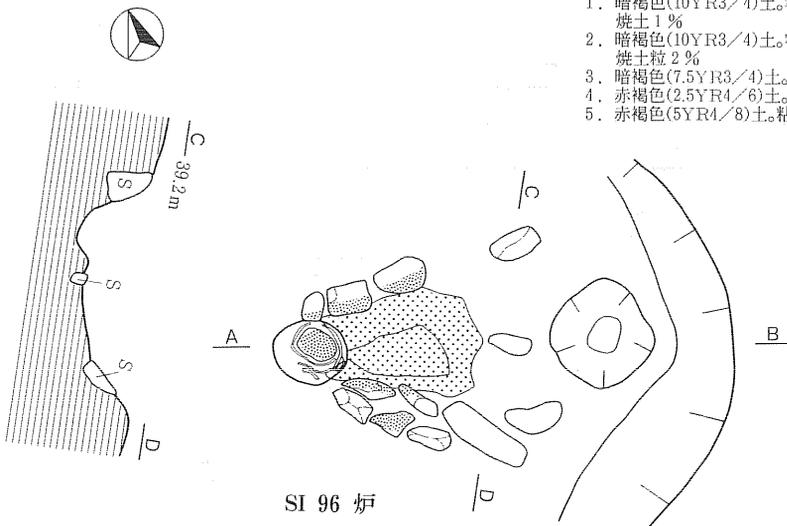
1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱 地山粒7% 炭化物2%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり中 地山粒7% 炭化物1%
3. 褐色(10YR4/4)土。しまり中 地山粒7% 炭化物1%
4. 褐色(10YR4/6)土。粘性中 地山粒15% 炭化物1%
5. 黄褐色(10YR5/8)土。粘性強、しまり強 地山粒50% 炭化物1%

第35図 A区検出遺構S I (31)

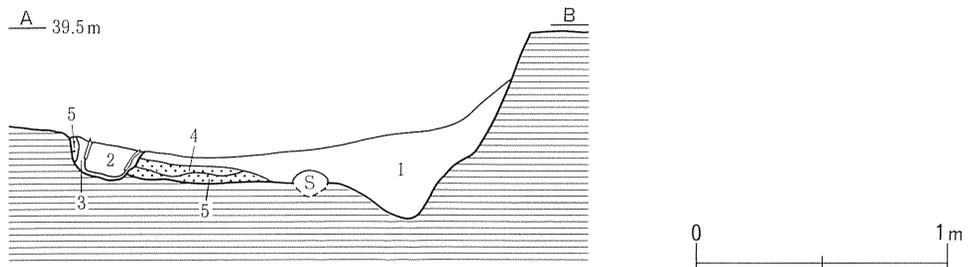


SI 96 炉

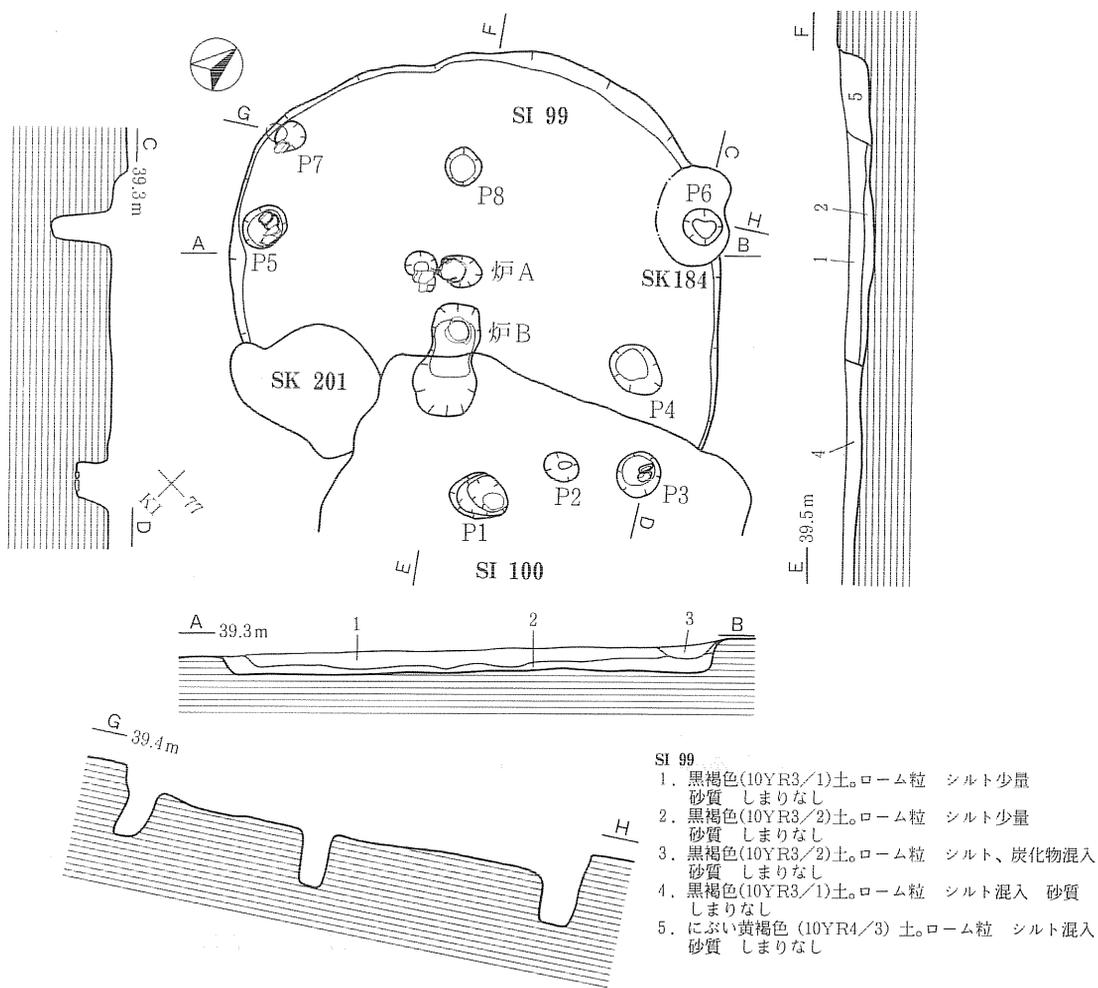
1. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり中 地山粒 5% 炭化物 3% 焼土 1%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性中 地山粒 1% 炭化物 20% 焼土粒 2%
3. 暗褐色(7.5YR3/4)土。粘性中 しまり中 赤褐色(2.5YR4/6) 3% 混入
4. 赤褐色(2.5YR4/6)土。粘性、しまり強 暗褐色(10YR3/4)粒 3%
5. 赤褐色(5YR4/8)土。粘性、しまり強 暗褐色(10YR3/4) 1%



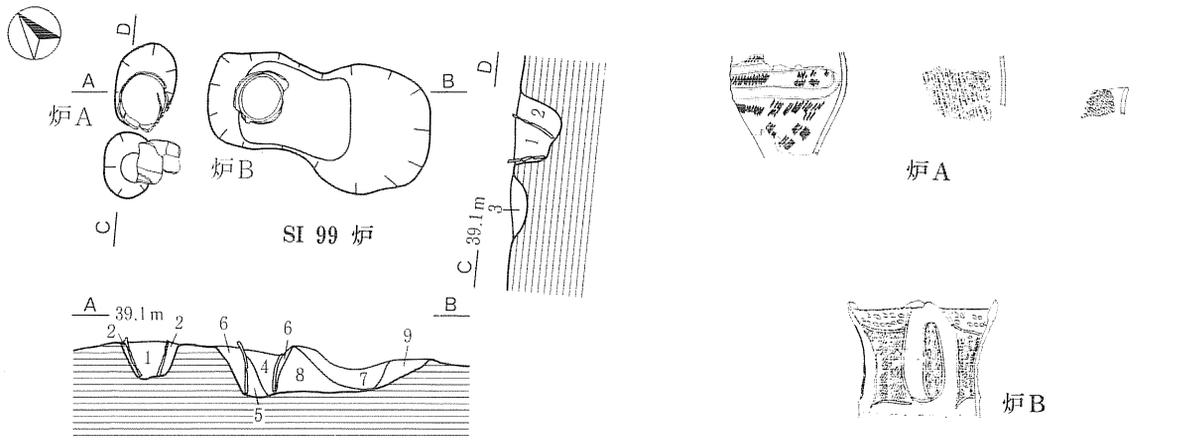
SI 96 炉



第36図 A区検出遺構S I (32)



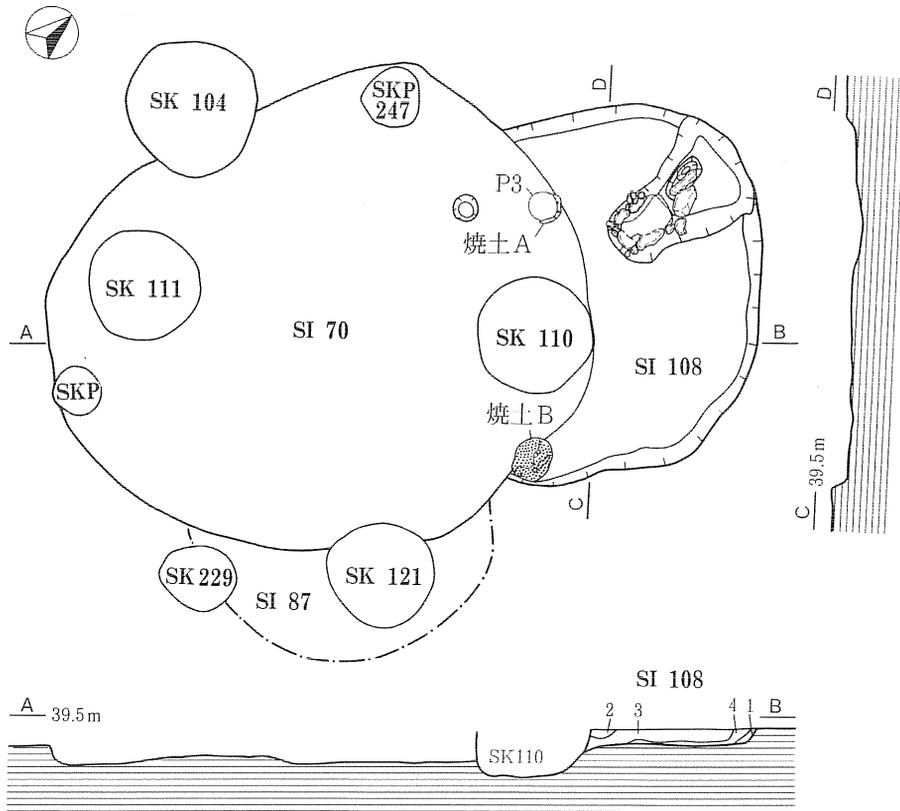
第37図 A区検出遺構S I (33)



SI 99 炉

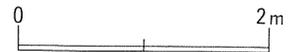
1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト少量 しまりあり
2. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト 炭化物少量 砂質 しまりなし
3. 灰褐色(7.5YR4/2)土。ローム粒多量 シルト少量 砂質 しまりなし
4. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト少量 やや粘質 しまりなし
5. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 シルト 炭化物少量 やや粘質 しまりなし

6. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト 炭化物少量 砂質 しまりなし
7. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 焼土粒 炭化物多量 砂質 しまりなし
8. にぶい黄褐色(10YR5/3)土。ローム粒多量 焼土粒 炭化物少量 やや粘質 しまりあり
9. 褐色(7.5YR4/3)土。ローム粒 シルト少量 やや粘質 しまりあり



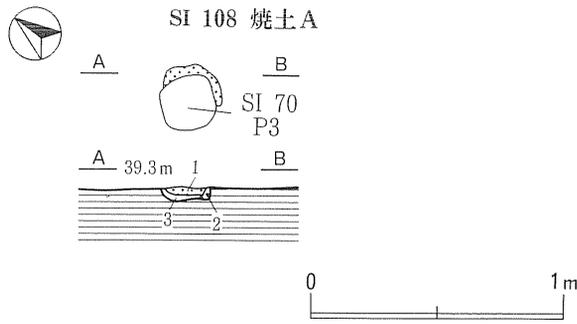
SI 108

1. 褐色(10YR4/4)土。しまりなし 粘性なし 地山粒20%
2. 黒褐色(10YR3/1)土。しまりあり 粘性あり 地山粒混入
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 地山粒5%
4. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりあり 粘性あり 地山粒20%



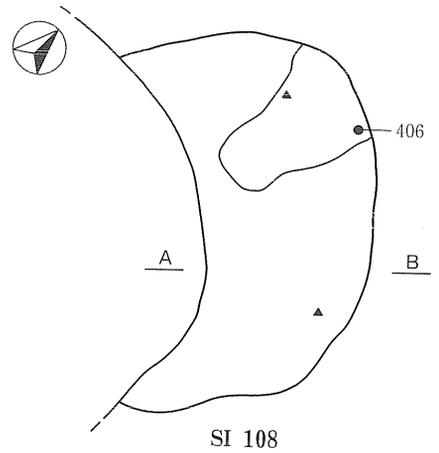
第38図 A区検出遺構S I (34)

SI 108 焼土A

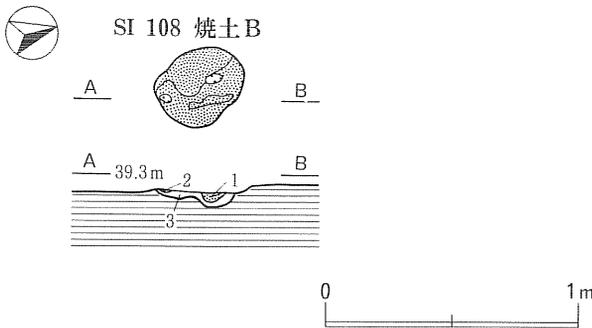


SI 108 焼土A

1. 明赤褐色(5YR5/8)土。しまりあり 粘性なし
2. 褐色(7.5YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 焼土粒5%
3. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒5%

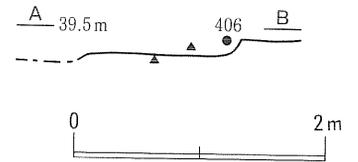


SI 108 焼土B



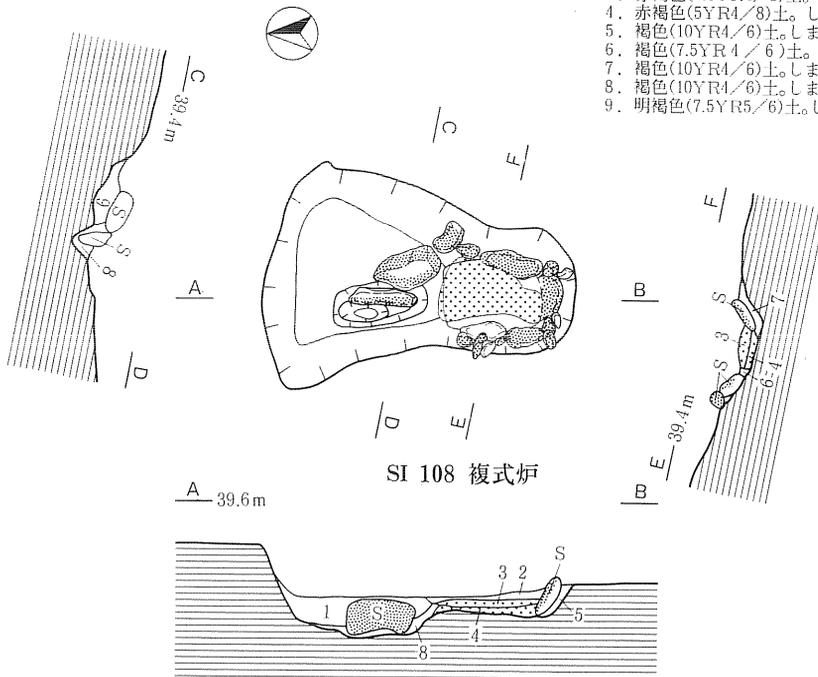
SI 108 焼土B

1. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりあり 粘性なし 明赤褐色(2.5YR5/8)30%
2. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土少量
3. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山土多い 炭化物5%

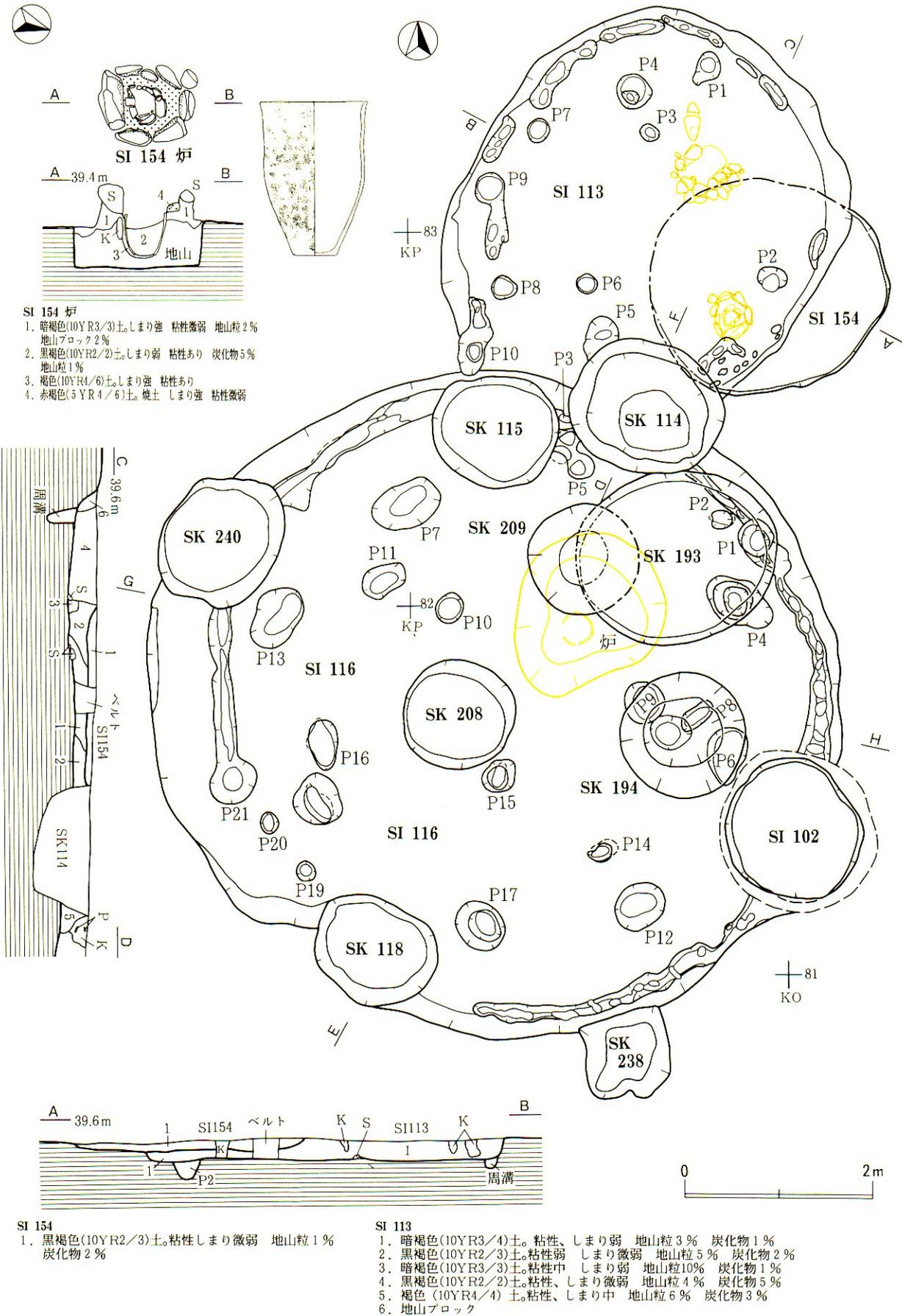


SI 108 複式炉

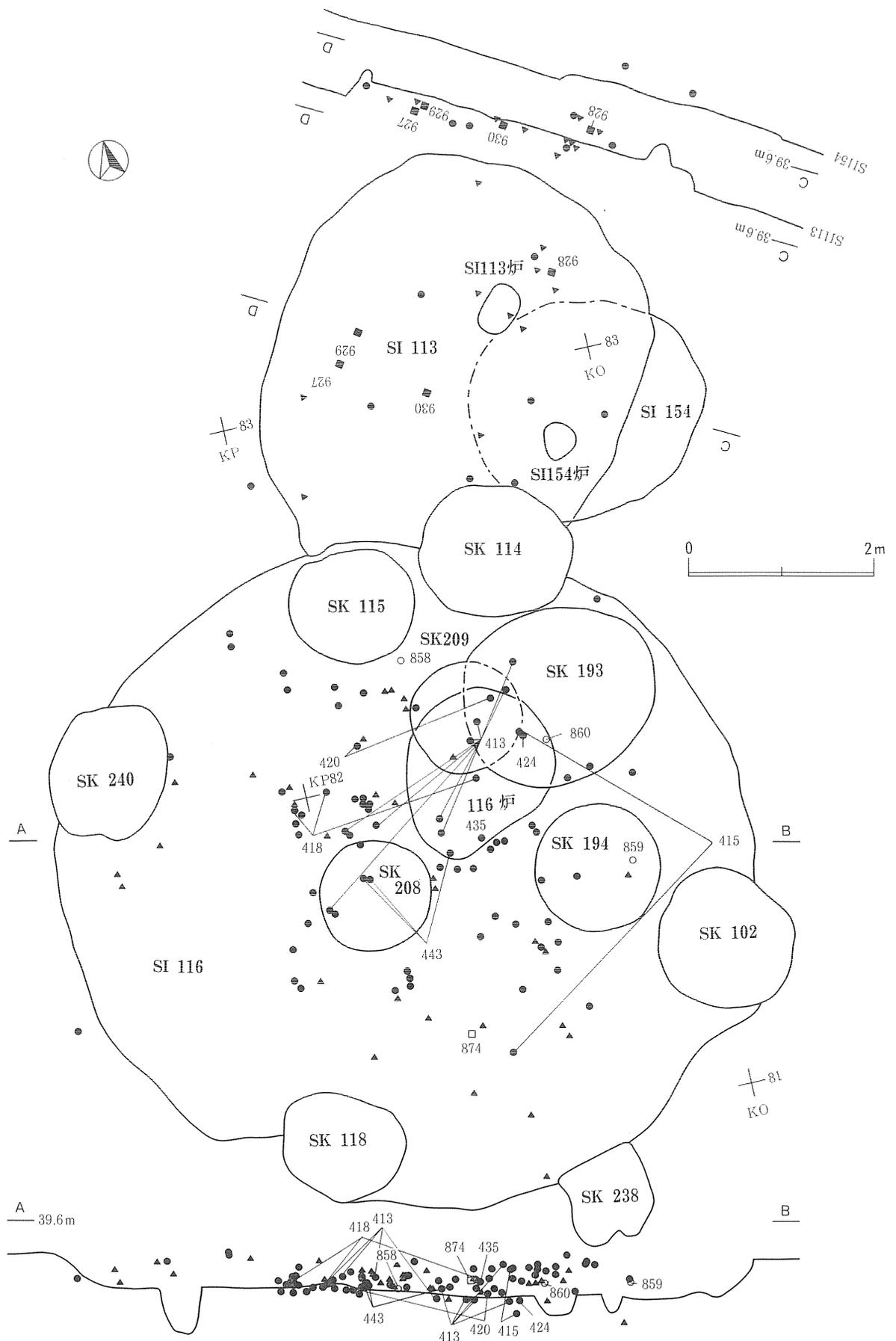
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒多く混入
2. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物1% 焼土粒5%
3. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし ブロック状の焼土
4. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし 褐色土少量混入
5. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 地山ブロック多い
6. 褐色(7.5YR4/6)土。しまりなし 粘性なし 明褐色土多く混入
7. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性なし 焼土粒多く混入
8. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 地山粒2%
9. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまりあり 粘性あり 暗褐色土多く混入



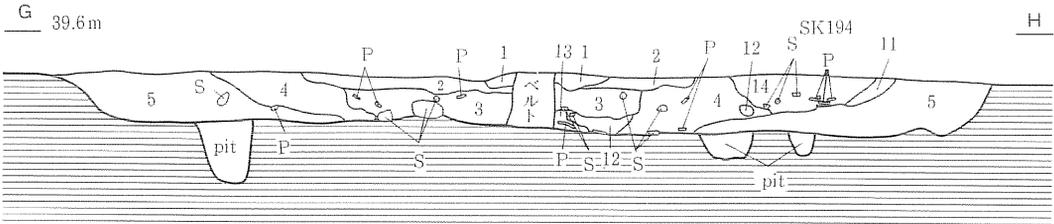
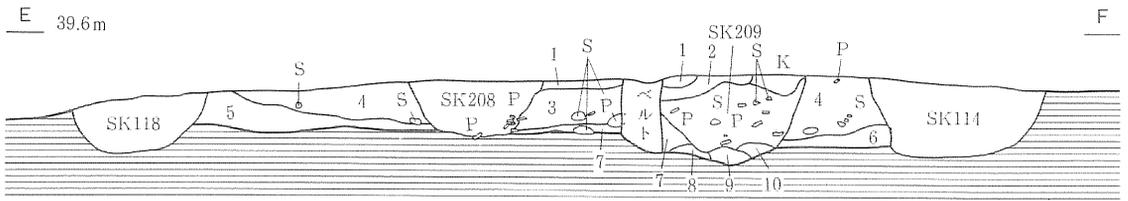
第39図 A区検出遺構S I (35)



第40図 A区検出遺構S I (36)

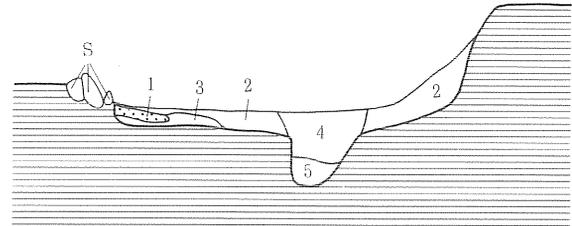
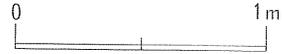
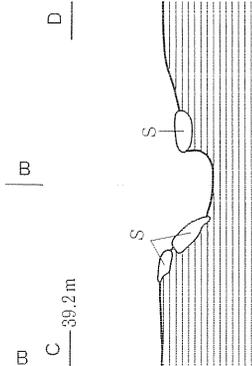
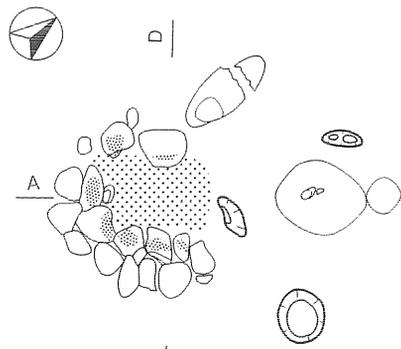


第41图 A区検出遺構S I (37)



SI 116

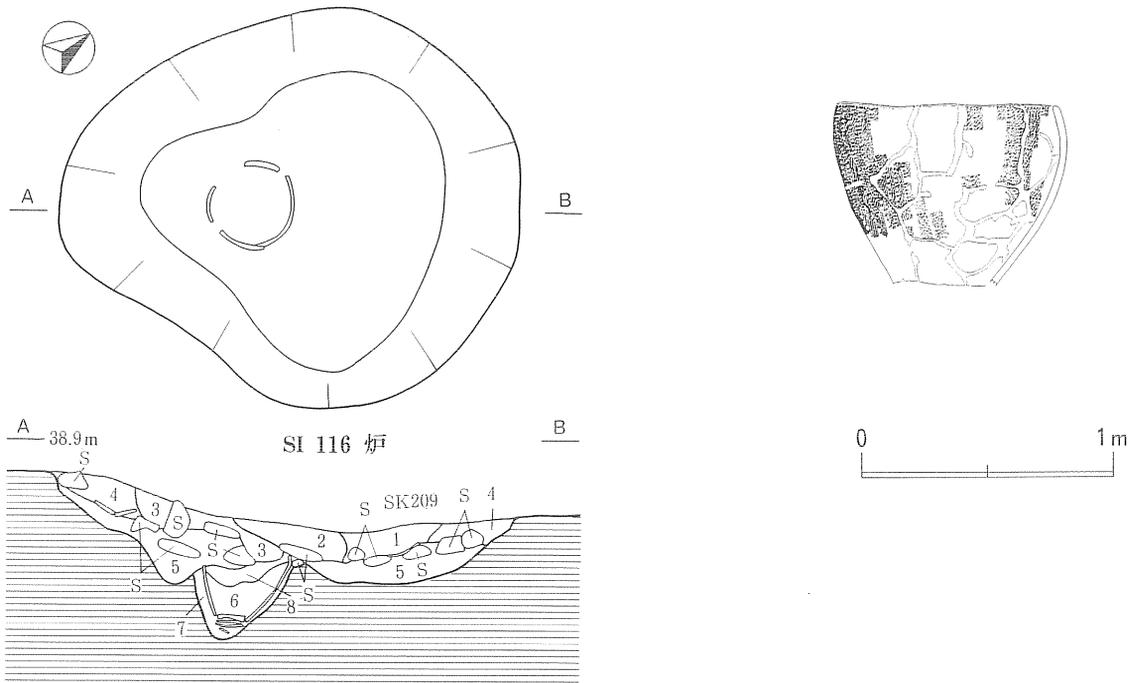
- 1. 褐色(10YR4/4)土。粘性中 しまり弱 地山ブロック5% 地山粒10% 炭化物1%
- 2. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまりなし 地山粒1% 炭化物5%
- 3. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり微弱 地山粒1% 炭化物8%
- 4. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり微弱 地山粒3% 炭化物8%
- 5. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり弱 地山粒5% 炭化物3% 焼土粒混入
- 6. 褐色(10YR4/4)土。粘性、しまり中 地山ブロック1% 地山粒20% 炭化物1% 黒褐色(10YR2/3)土20%
- 7. におい黄褐色(10YR4/3)土。粘性、しまり中 地山粒1% 炭化物4%
- 8. におい黄褐色(10YR4/3)土。粘性、しまり中 地山粒2% 炭化物1%
- 9. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性弱 しまり中 地山粒3% 炭化物1%
- 10. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性弱 しまり中 地山粒1% 炭化物1%
- 11. 褐色(10YR4/4)土。粘性強 しまり中 地山ブロック40% 地山粒4% 炭化物1%
- 12. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性微弱 しまり弱 地山粒1% 炭化物6%
- 13. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性、しまり弱 地山粒1% 炭化物3%
- 14. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり弱 地山粒3% 炭化物7% 焼土1%



SI 113 炉

- 1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土 しまり強 粘性あり
- 2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒子1%
- 3. 褐色(7.5YR4/6)土。しまり強 粘性あり 焼土粒3%
- 4. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物1% 焼土粒1%
- 5. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒子5% 炭化物3%

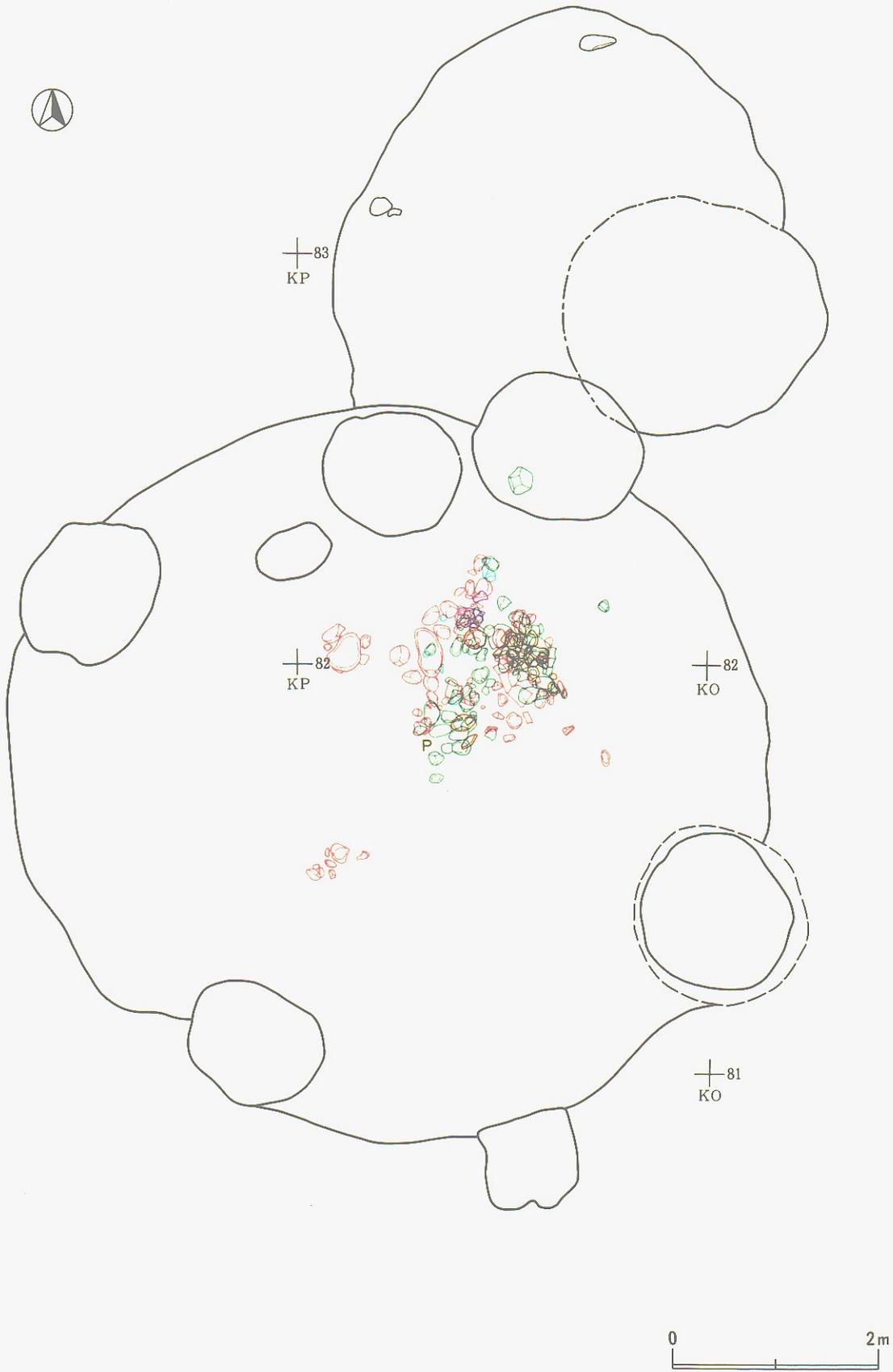
第42図 A区検出遺構S I (38)



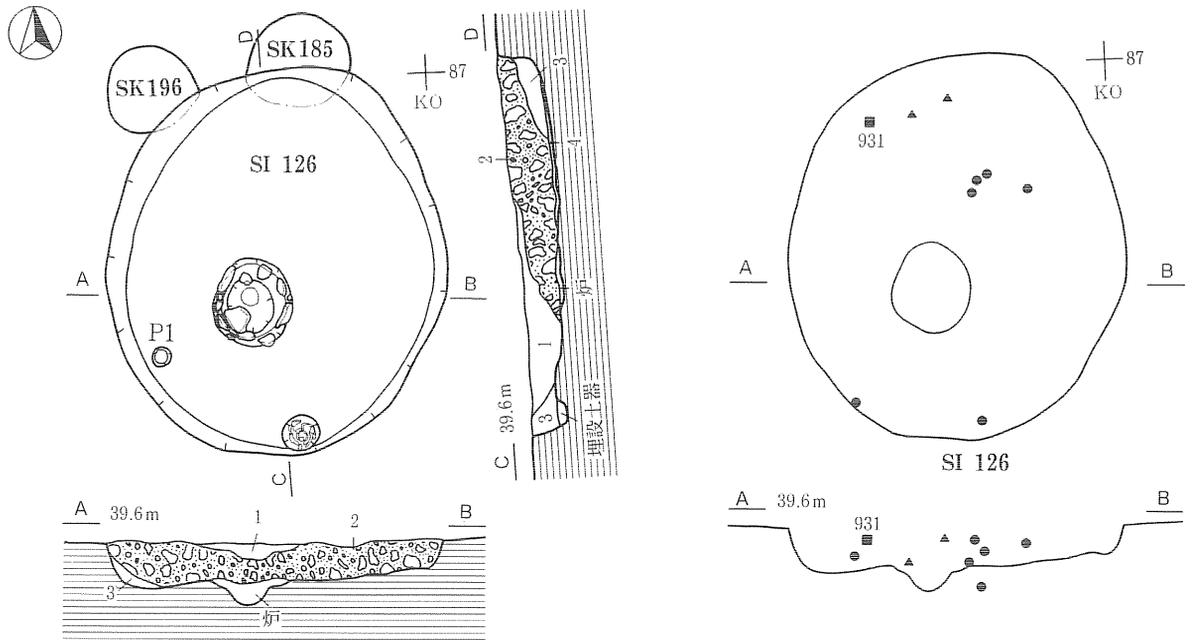
SI 116 炉

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり微弱 地山粒1% 炭化物3% | 6. 黒褐色(10YR1/1)土。粘性、しまりなし 炭化物40% |
| 2. 褐色(10YR4/4)土。粘性、しまり中 地山粒4% 炭化物3% | 褐色(10YR4/4)土粒3% |
| 3. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり弱 地山粒1% 炭化物5% | 7. (7.5YR3/4)土。粘性微弱 しまりなし 地山粒1% 焼土粒3% 炭化物1% |
| 4. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまり弱 地山粒1% 炭化物混入 | 8. 褐色(10YR4/4)土。粘性微弱 しまりなし 地山粒5% 焼土粒3% |
| 5. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまり 粘性なし 大小の礫多量混入 | 炭化物10% 礫20% |

第43図 A区検出遺構S I (39)

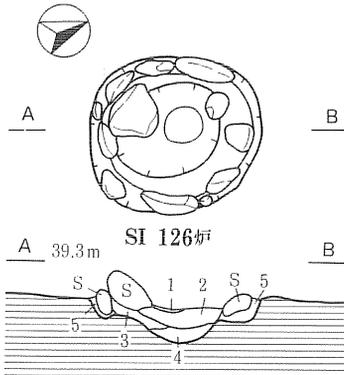
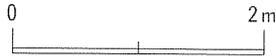


第44図 A区検出遺構S I (40)



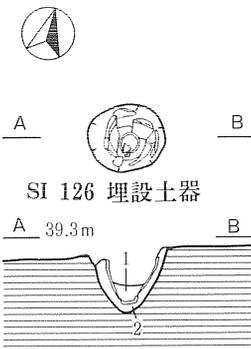
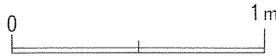
SI 126

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性強 炭化物1% 地山礫2%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物1% 地山ブロック多量
3. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 炭化物1% 地山ブロック20%
4. におい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性強 炭化物1% 地山ブロック5%



SI 126 坑

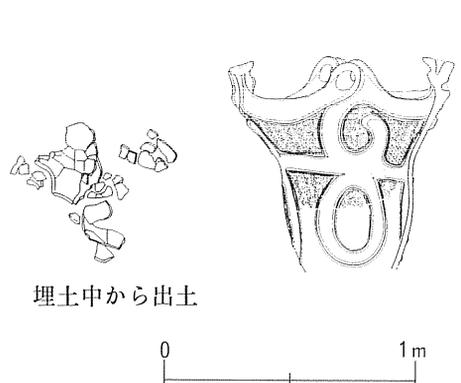
1. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまり、粘性なし 炭化物少量
2. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 粘性なし 炭化物2%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 粘性なし 炭化物混入 焼土粒5%
4. 黒色(10YR1.7/1)土。シルト しまりあり 粘性なし 焼土5% 炭化物5%
5. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 粘性あり 炭化物2%



SI 126 埋設土器

SI 126 埋設土器

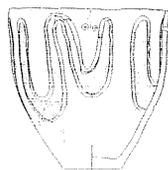
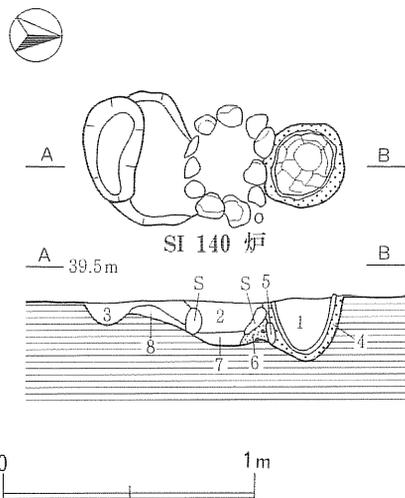
1. 褐色(10YR4/4)土。しまり弱 やや粘質 地山ブロック3%
2. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘質 におい黄褐色(10YR4/3)15%



埋土中から出土



第45図 A区検出遺構SI (41)

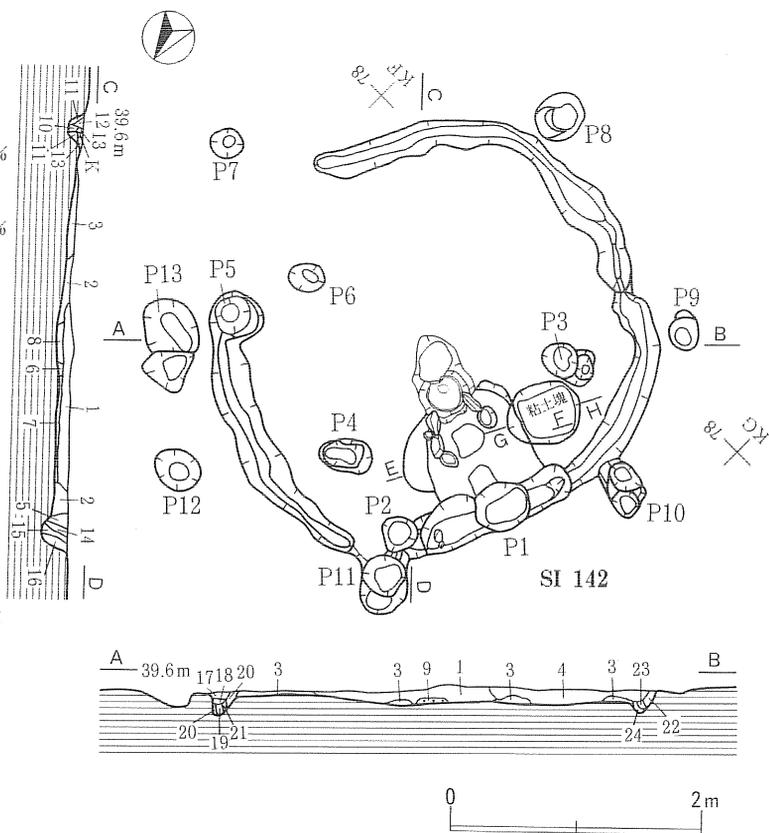


SI 140 炉

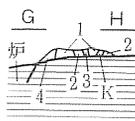
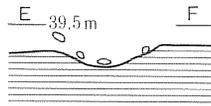
- 1. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト 緻密 炭化物2% 地山粒3%
 - 2. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト 緻密 炭化物2% 地山粒3% 礫の内側にスス
 - 3. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 緻密 炭化物2% 地山粒5%
 - 4. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。シルト 非常に緻密 炭化物1% 地山粒15%
 - 5. 黄褐色(10YR5/8)土。シルト 地山ブロック
 - 6. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山土50%
 - 7. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山粒15%
 - 8. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 緻密 炭化物1% 地山粒15%
- 表面は非常に固い

SI 142

- 1. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト しまりあり 炭化物1% 地山5%
- 2. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまりあり 地山20%
- 3. 褐色(10YR4/4)土。シルト しまりあり 地山土40% 炭化物1%
- 4. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト しまりあり 炭化物1% 地山10%
- 5. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト しまりあり 炭化物1% 地山1%
- 6. 褐色(10YR4/4)土。シルト しまりあり 炭化物小粒5% 地山2% 地山土30%
- 7. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 炭化物5% 地山20%
- 8. 黒褐色(10YR3/2)土。シルト しまりあり 炭化物2% 地山粒10%
- 9. 赤褐色(5YR4/6)土。シルト 焼土 暗褐色土30%
- 10. 褐色(10YR4/4)土。シルト しまりあり 地山小塊30%
- 11. 黄褐色(10YR5/6)土。シルト しまり強 暗褐色土10%
- 12. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 地山10%
- 13. 黒褐色(10YR3/2)土。シルト しまりあり 地山5% 炭化物2%
- 14. 褐色(10YR4/4)土。シルト しまりあり 地山30% 炭化物1%
- 15. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。粘土質 シルト しまりあり 暗褐色土20%
- 16. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまりあり 地山30%
- 17. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト しまりあり 地山5%
- 18. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト しまりあり 地山5%
- 19. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまりあり 地山20%
- 20. 褐色(10YR4/4)土。シルト しまりあり 地山土40%
- 21. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。シルト しまりあり 地山20%
- 22. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト しまりあり 地山10%
- 23. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまりあり 地山30%
- 24. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト しまりあり 地山40%

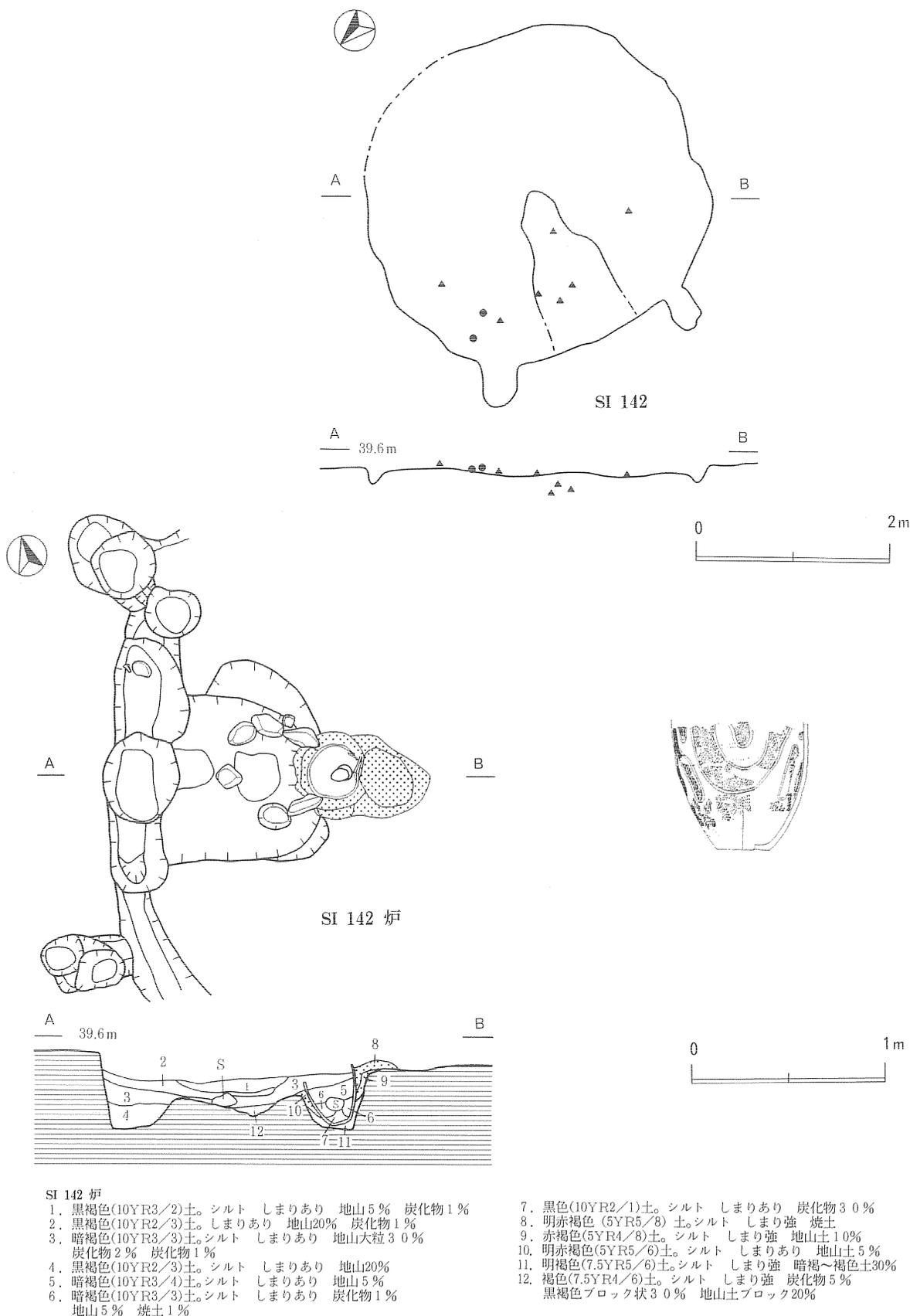


SI 142 埋土中礫

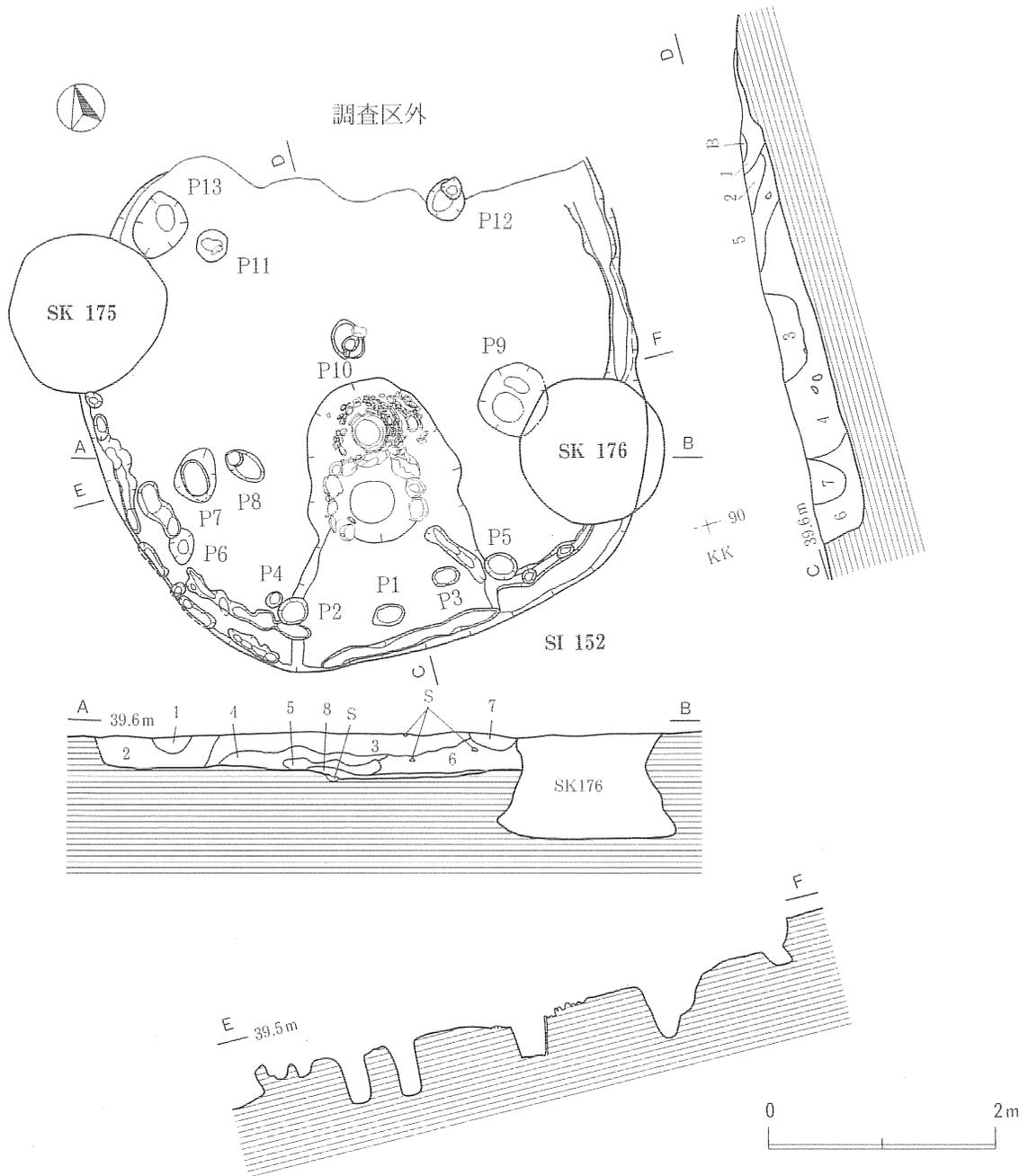


SI 142 粘土塊 G-H断面

- 1. にぶい黄褐色(10YR6/4)土。粘土 しまり強 粘性あり
- 2. 黄褐色(10YR5/6)土。シルト しまりあり 粘土塊と暗褐色土の混土
- 3. 暗褐色(10YR3/4)土。シルト しまりあり 粘土小塊20%
- 4. 黒褐色(10YR3/2)土。シルト しまりあり 粘土小粒5%



第47図 A区検出遺構SI (43)



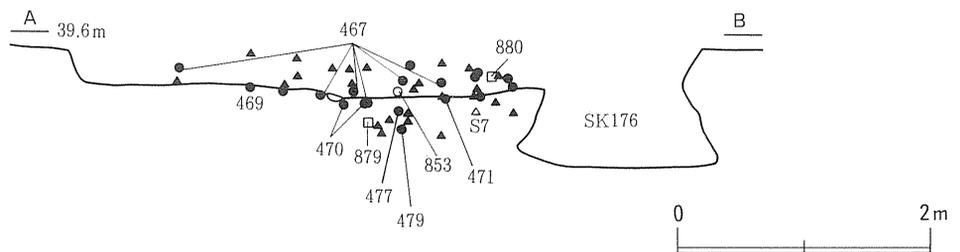
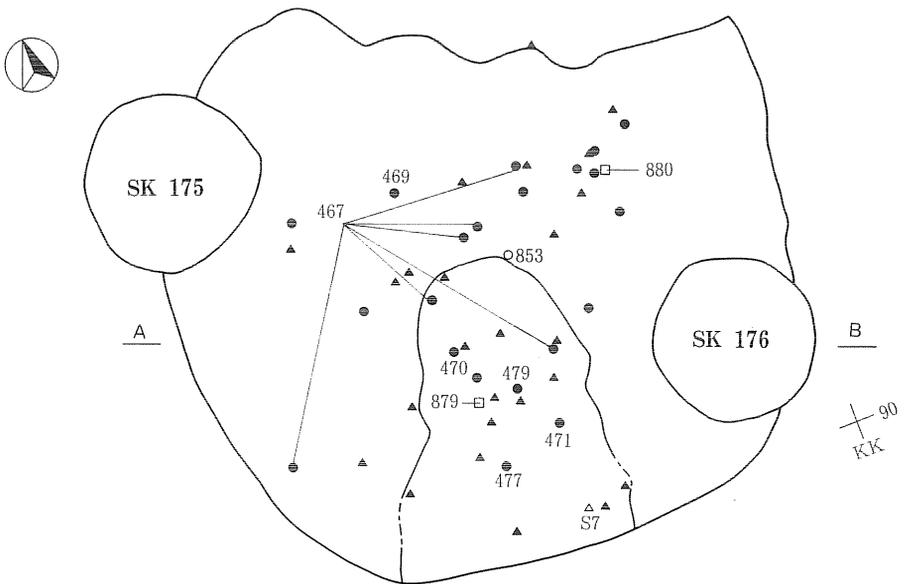
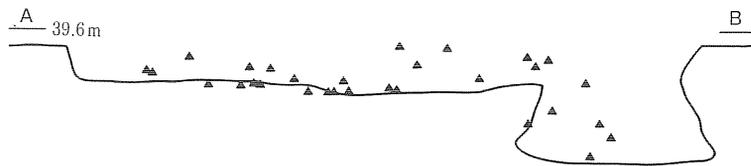
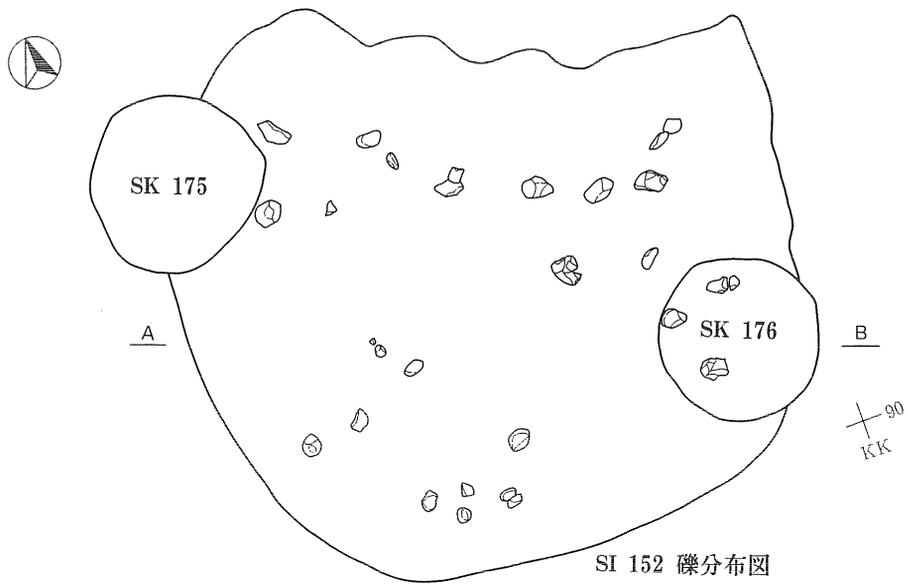
SI 152 A-B断面

1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性中、しまり弱 焼土粒、炭化物1%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性しまり中 地山粒3%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性しまり中 地山粒3% 炭化物1% 焼土粒1%
4. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり中 炭化物1%
5. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり強
6. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり中 炭化物5%
7. 黒色(10YR7/1)土。粘性中 しまり弱
8. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性強 しまり強 炭化物5%

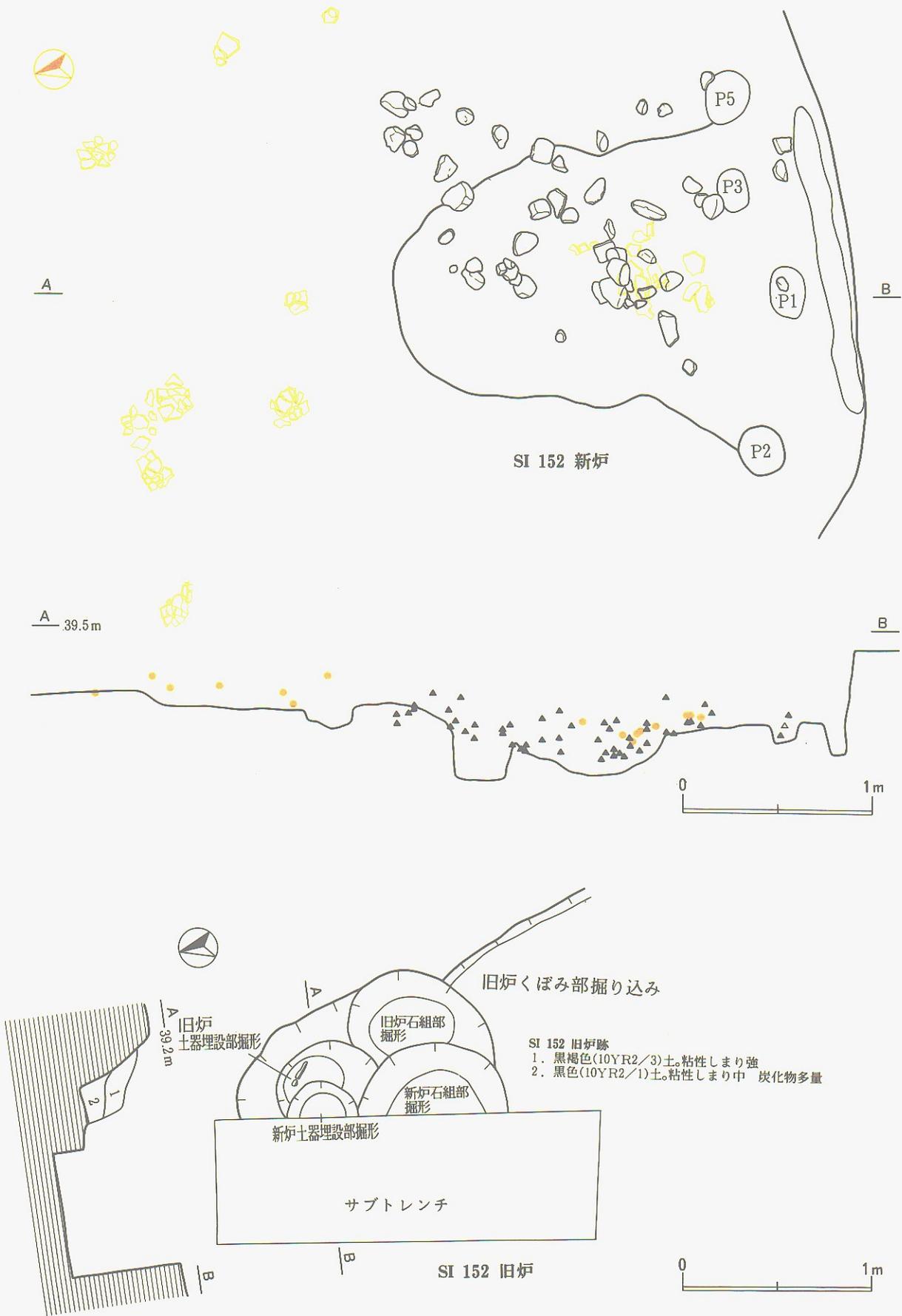
SI 152 C-D断面

1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり中 炭化物3% 地山粒3%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性しまり中 地山粒1%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性しまり中 地山粒3%
4. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり中 炭化物1%
5. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性しまり中 炭化物3%
6. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性しまり中 炭化物5% 地山粒5%
7. 黒色(10YR7/1)土。粘性中 しまり弱

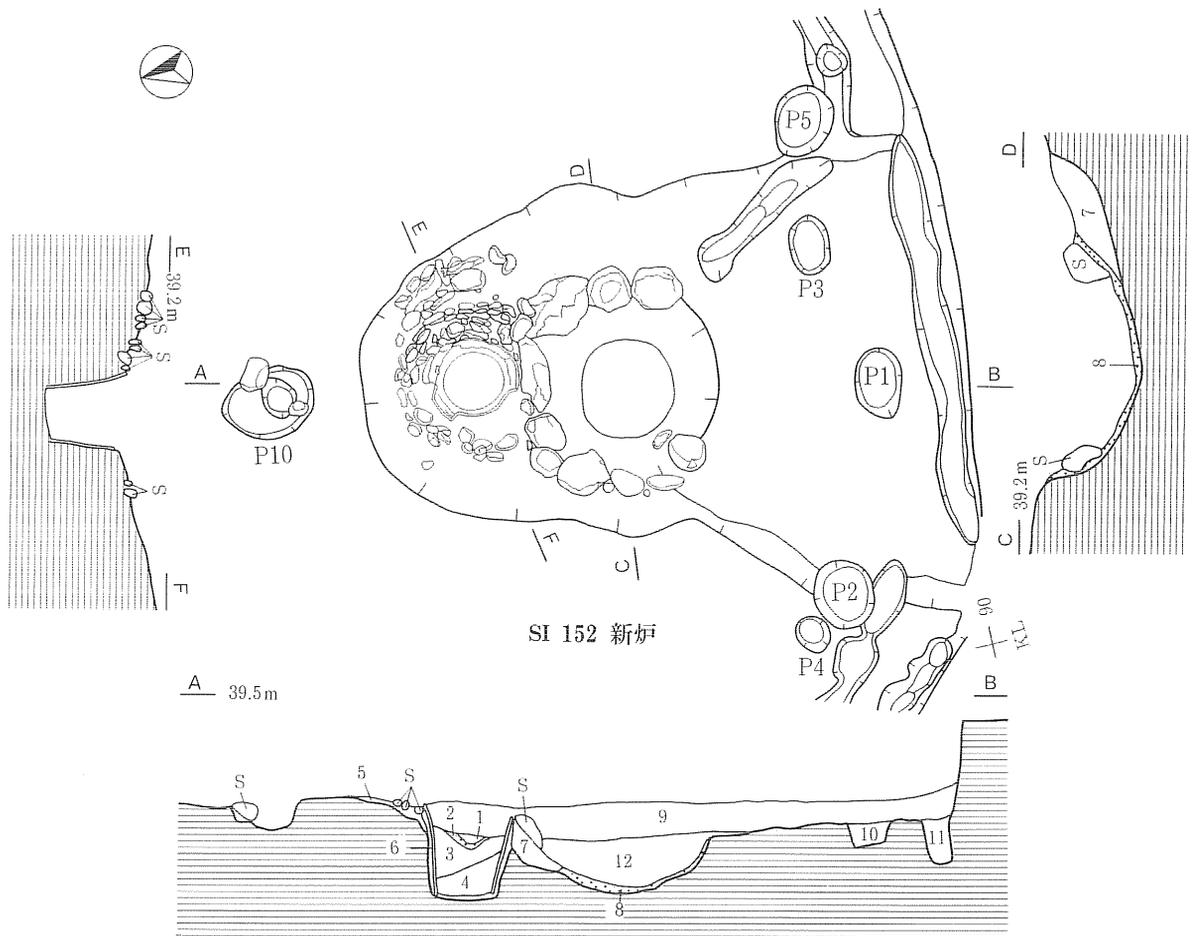
第48図 A区検出遺構S I (44)



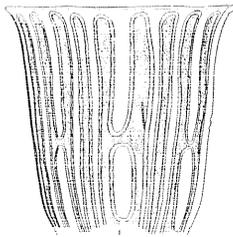
第49図 A区検出遺構S I (45)



第50図 A区検出遺構S I (46)



SI 152 新炉

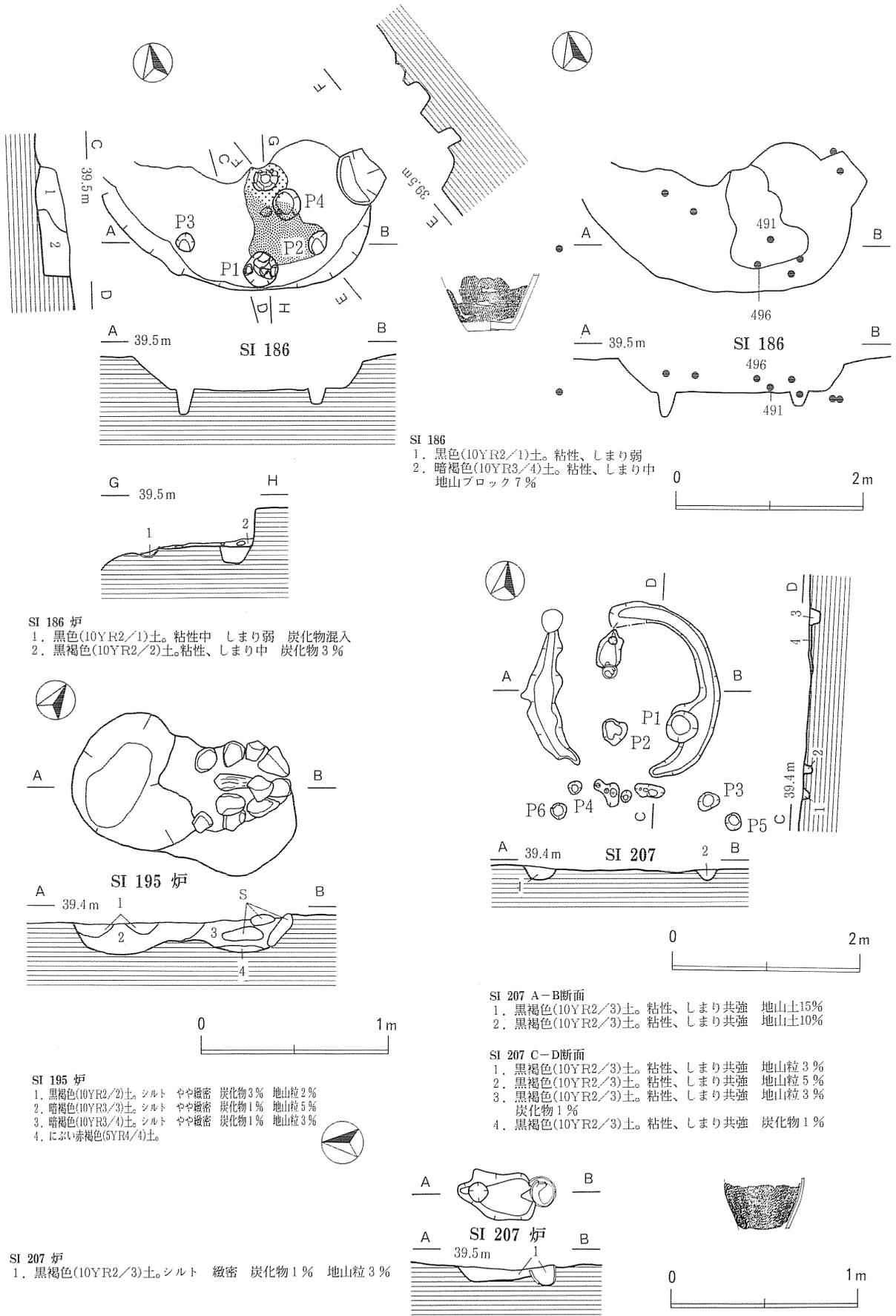


SI 152 炉

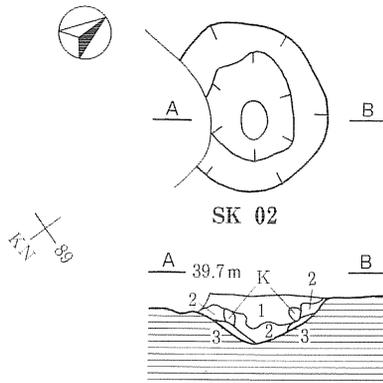
- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 黒色(10Y R1.7/1)土。粘性中 しまり弱 炭化物30% | 8. 明赤褐色(5Y R5/6)土。粘性弱 しまり中 |
| 2. 赤褐色(2.5Y R4/6)土。粘性中 しまり強 | 9. 黒褐色(10Y R2/3)土。粘性しまり強 炭化物5%
地山粒3% 燧土粒1% |
| 3. 黒色(10Y R2/1)土。粘性しまり中 炭化物30% | 10. 暗褐色(10Y R3/3)土。粘性、しまり強 炭化物3% |
| 4. 黒色(10Y R1.7/1)土。粘性しまり中 炭化物20% | 11. 暗褐色(10Y R3/3)土。粘性しまり強 炭化物1% |
| 5. 暗褐色(7.5Y R3/4)土。粘性しまり中 | 12. 黒色(10Y R2/1)土。粘性しまり中 炭化物20% |
| 6. 暗褐色(7.5Y R3/3)土。粘性強 しまり強 | |
| 7. 黒褐色(10Y R2/3)土。粘性しまり中 | |



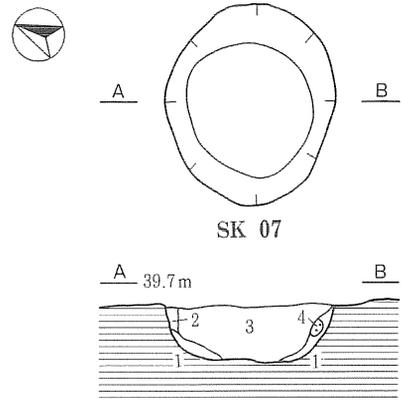
第51図 A区検出遺構S I (47)



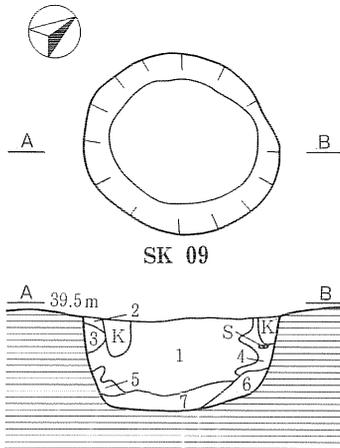
第52図 A区検出遺構SI (48)



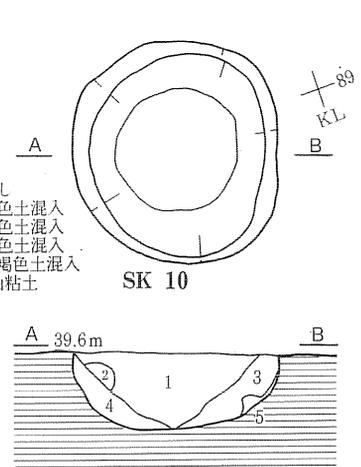
- SK 02**
1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性微弱
しまり弱地山粒1% 炭化物5%
 2. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性弱
しまりあり 地山ブロック3% 炭化物1%
 3. 褐色(10YR4/6)土。粘性、しまり共強
黒褐色土(10YR2/2)3%



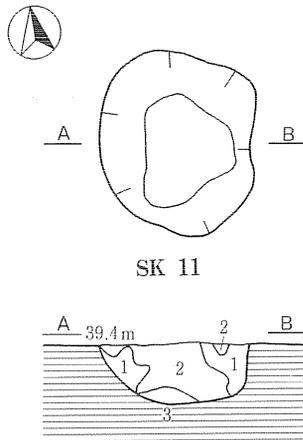
- SK 07**
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。シルト 粘性弱 暗褐色土(10YR3/3)20%
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト 粘性弱 にぶい黄褐色土(10YR4/3)30%
 3. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト 粘性中 しまり中 地山ブロック1%
地山粒1% 炭化物混入
 4. 褐色(10YR4/4)土。地山ブロック



- SK 09**
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり中 粘性なし
地山粒1% 炭化物(炭少量混入)
 2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまりあり 粘性なし
 3. 褐色(10YR4/3)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土混入
 4. 褐色(10YR4/3)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土混入
 5. 褐色(10YR4/3)土。しまりあり 粘性あり 暗褐色土混入
 6. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 地山粘土 暗褐色土混入
 7. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 地山粘土
暗褐色土粒混入



- SK 10**
1. 黒褐色(10YR3/2)土。しまり、粘性共弱 自然堆積
 2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性共中 地山10%
 3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性共中 地山15%
 4. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性共中 地山20%
 5. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性共強 地山30%
覆土全体に炭化物混入3%



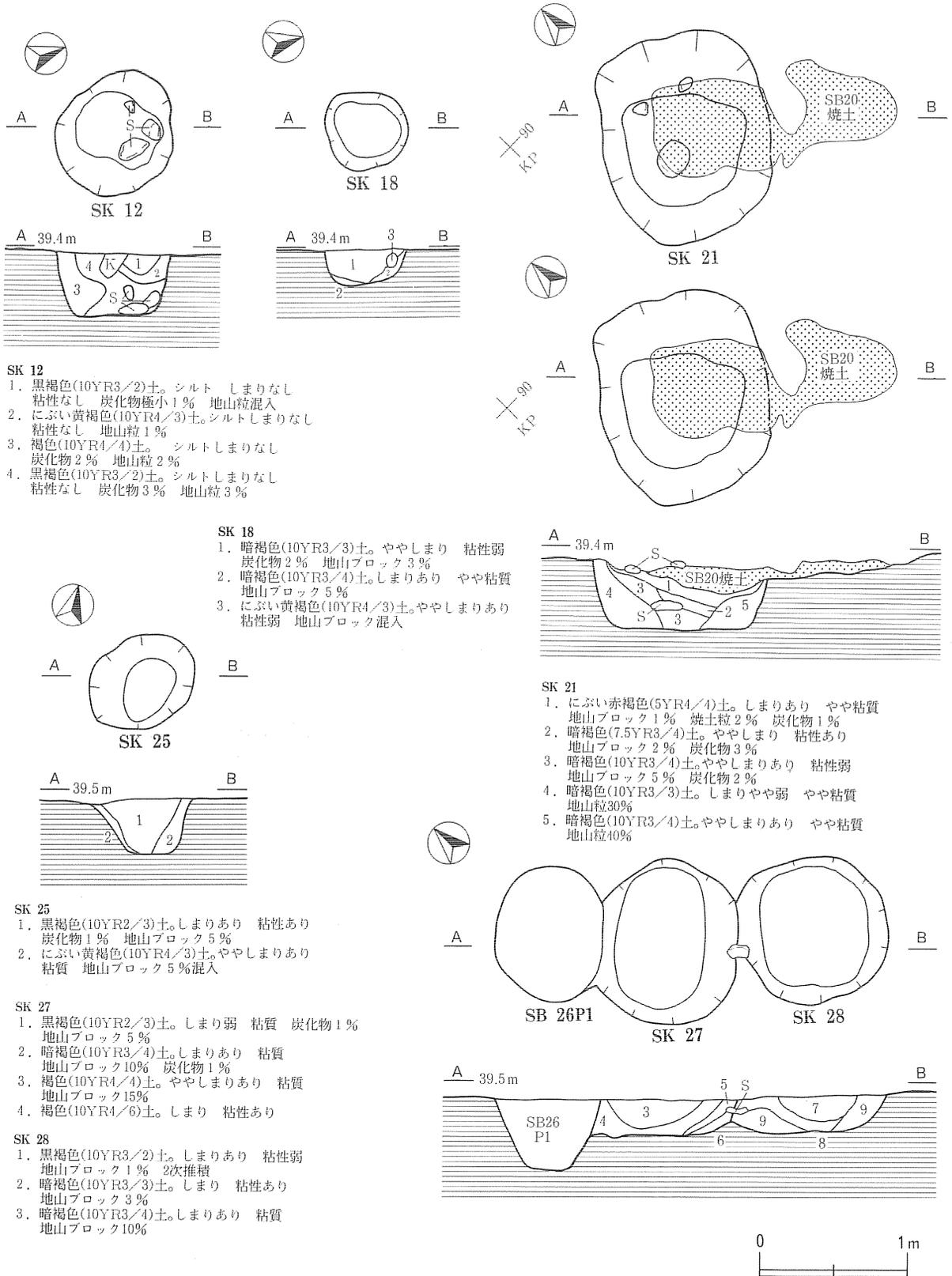
- SK 11**
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性あり
褐色土(10YR4/6)10% 炭化物1%
 2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり弱くもろい 粘性あり
粒子1% フロック状地山1% 炭化物1%
 3. 黒褐色(10YR2/3)土。ややしまりあり 粘性あり
炭化物1%



遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 02	KM・KN 89	円形	87	80	23	縄文土器 (127-504)	縄文時代
SK 07	KJ 89	円形	107	90	30	縄文土器 (127-506、507)	晩期か
SK 09	KL 90	円形	107	94	49	縄文土器 (127-508、509)	縄文時代
SK 10	KL 88・89	円形	117	111	40	剥片石器 (179-S271) フレーク II (179-S273)	縄文時代
SK 11	KO 90・91	不整円形	101	86	30	磨石 (179-S272)	縄文時代

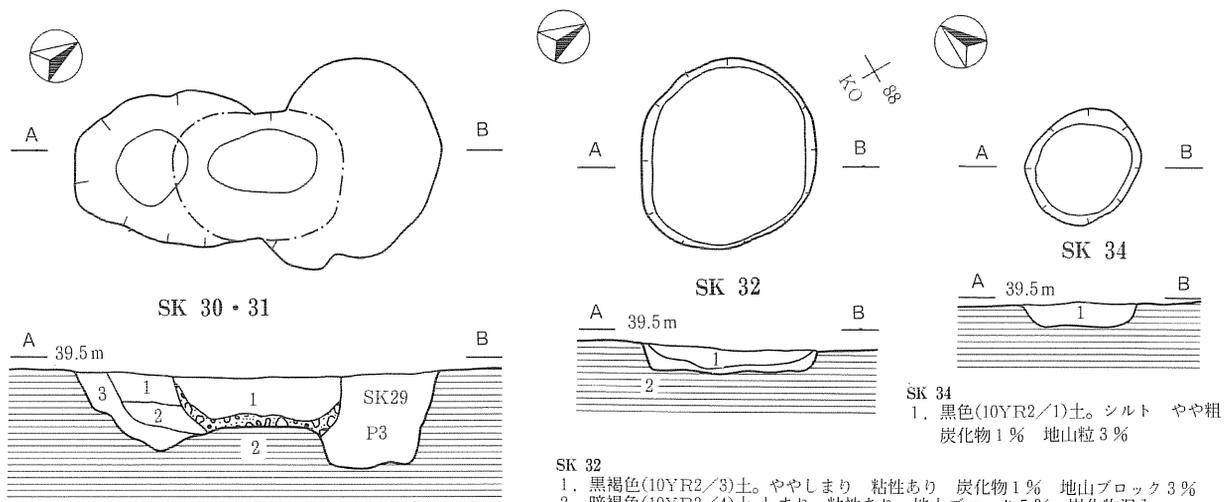
第53図 A区検出遺構SK(1)

第4章 調査の記録



遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 1 2	KN 9 0	円形	86	77	43	縄文土器 (127-510)	縄文時代
SK 1 8	KO 8 9	不整形	57	56	23		
SK 2 1	KO 8 9	楕円形	137	114	43	円盤状土製品 (154-932~934) 縄文土器 (127-511~515)	中期後半
SK 2 5	KN 8 8	楕円形	77	59	38		
SK 2 7	KN 8 8	円形	112	残存部 93	23		
SK 2 8	KN 8 8	円形	107	102	25	土製品 (146-854)	縄文時代

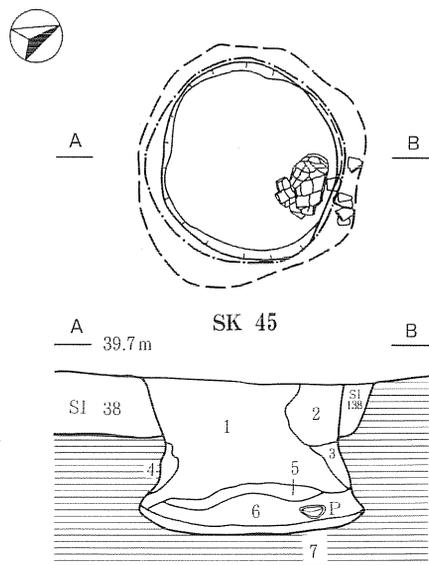
第54図 A区検出遺構SK (2)



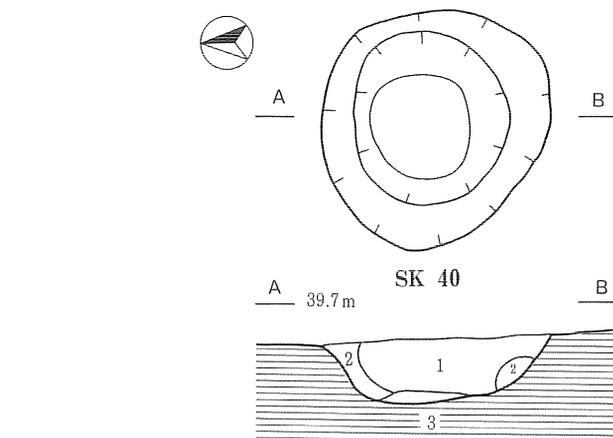
- SK 30**
 1. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり弱 粘性あり 炭化物1% 地山粒2%
 2. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山ブロック50%
- SK 31**
 1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性あり 地山粒1%
 2. 黒褐色(10YR3/2)土。しまり 粘性弱 地山ブロック5% 黒褐色(10YR2/2)土5%
 3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりやや粘質 地山ブロック20%

- SK 32**
 1. 黒褐色(10YR2/3)土。ややしまり 粘性あり 炭化物1% 地山ブロック3%
 2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック5% 炭化物混入

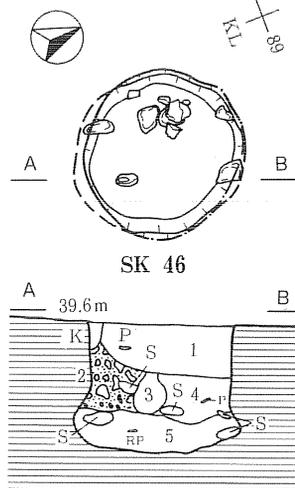
- SK 34**
 1. 黒色(10YR2/1)土。シルト やや粗炭化物1% 地山粒3%



- SK 45**
 1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性なし 地山粒1% 炭化物少量混入
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 黒褐色土多い
 3. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 地山ブロック多い
 4. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり 地山粒1層より多く混入
 5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒多い
 6. 黒褐色(10YR2/2)土。しまりなし 粘性あり 炭化物少量
 7. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 粘性あり 地山粒混入



- SK 40**
 1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性弱 しまり弱
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまり共弱
 3. 褐色(10YR4/4)土。粘性、しまり共強

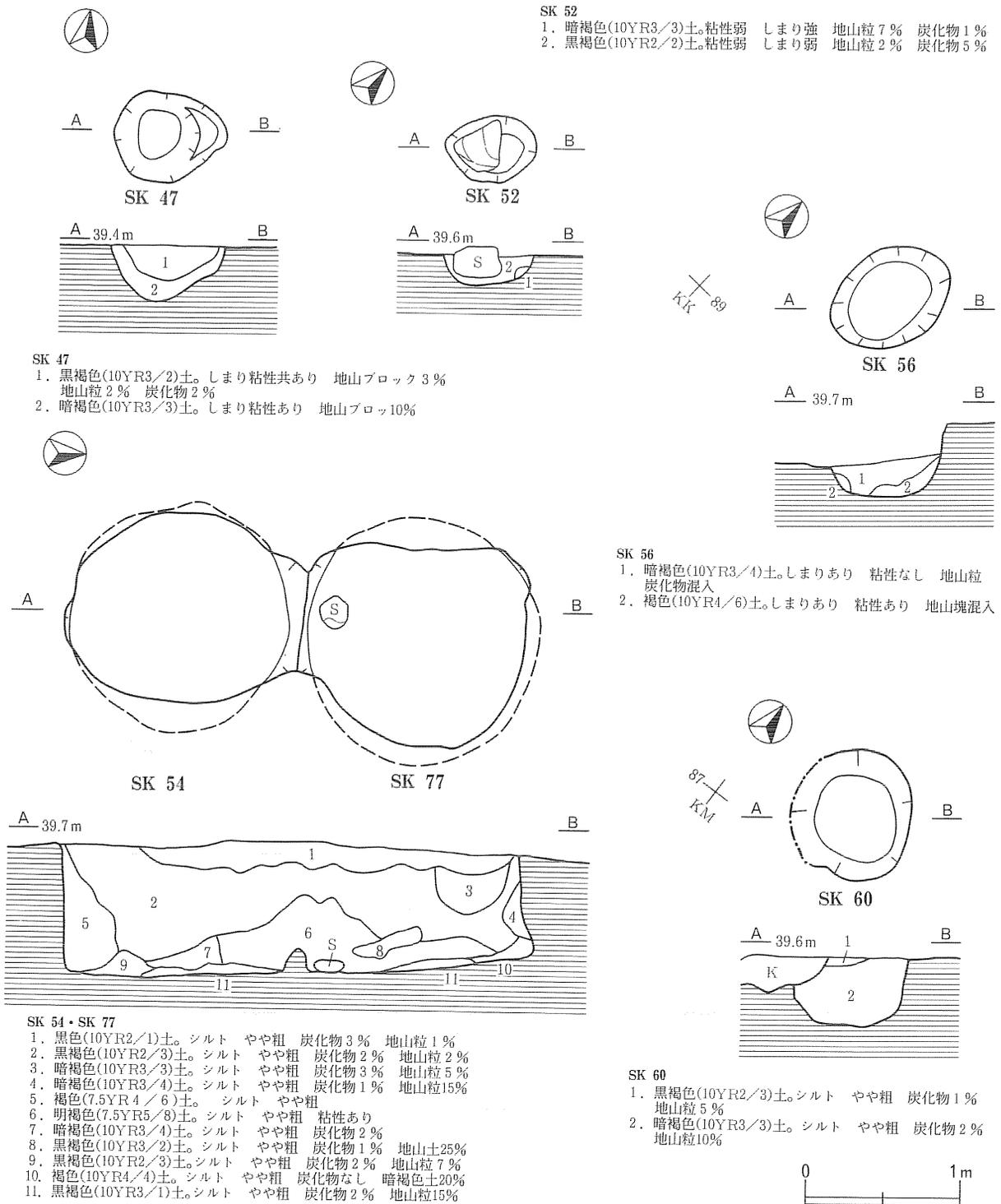


- SK 46**
 1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性なし 炭化物1%
 2. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 地山塊50%
 3. 褐色(10YR4/4)土。しまりなし 粘性なし
 4. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性共あり 地山塊混入 炭化物1%
 5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性共あり 炭化物、焼土粒、地山粒混入



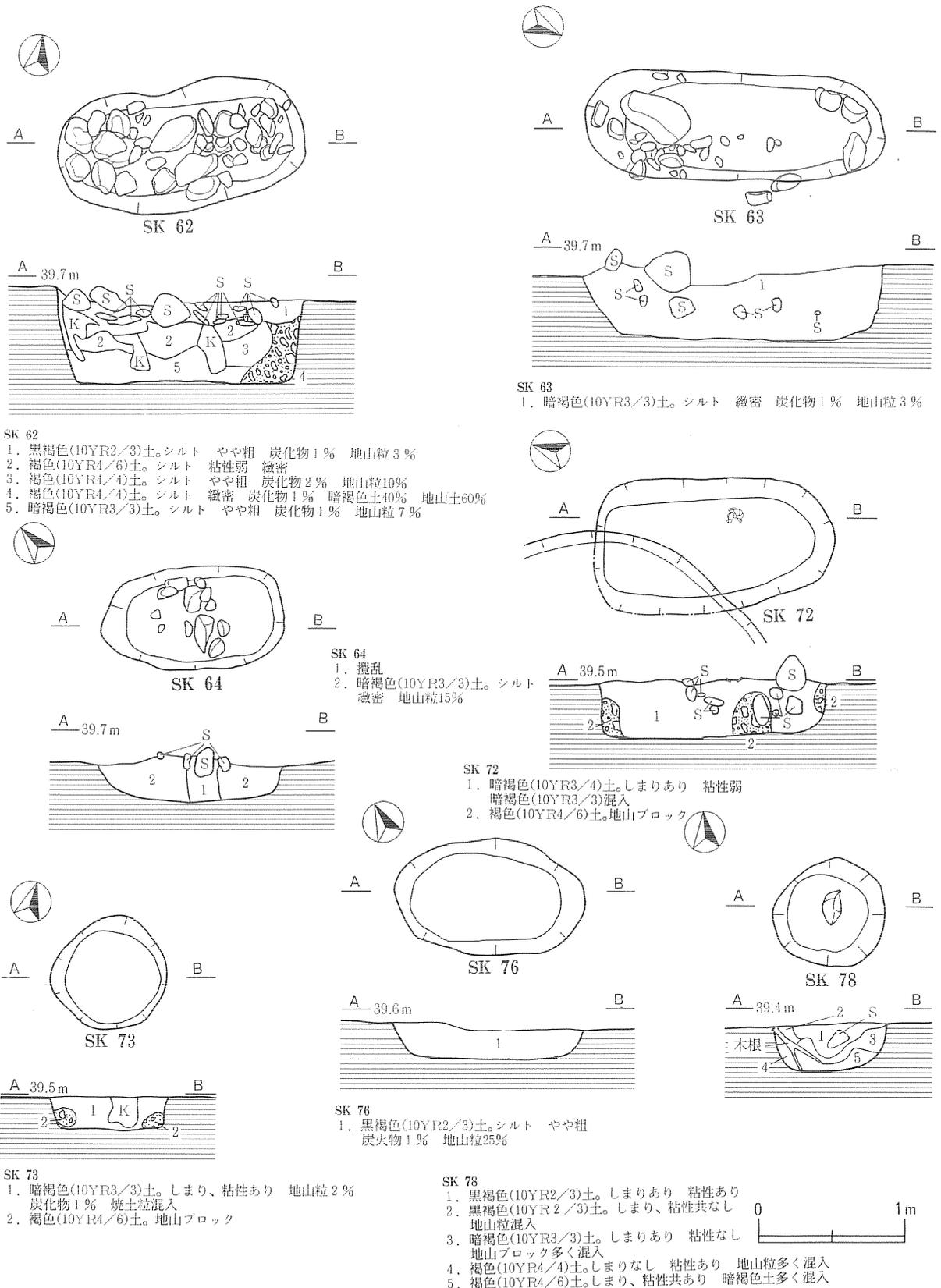
遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 3 0	KN 8 8	楕円形	91	66	25		
SK 3 1	KN 8 8	楕円形	100	75	40		
SK 3 2	KN・KO 8 7	円形	104	95	13	縄文土器細片 2点出土	縄文時代
SK 3 4	KN 8 7	円形	64	56	12		
SK 4 0	KM 8 9	不整円形	128	118	35	縄文土器 (127-516~520) 石皿 (179-S274) フレイク I (179-S275)	大木 9 式期
SK 4 5	KK 8 9	円形	110	107	82	円盤状土製品 (154-935) 縄文土器 (128-521~523)	晩期
SK 4 6	KK 8 8	円形	99	83	68	フレイク II (179-G35-S276)	晩期

第55図 A区検出遺構SK(3)



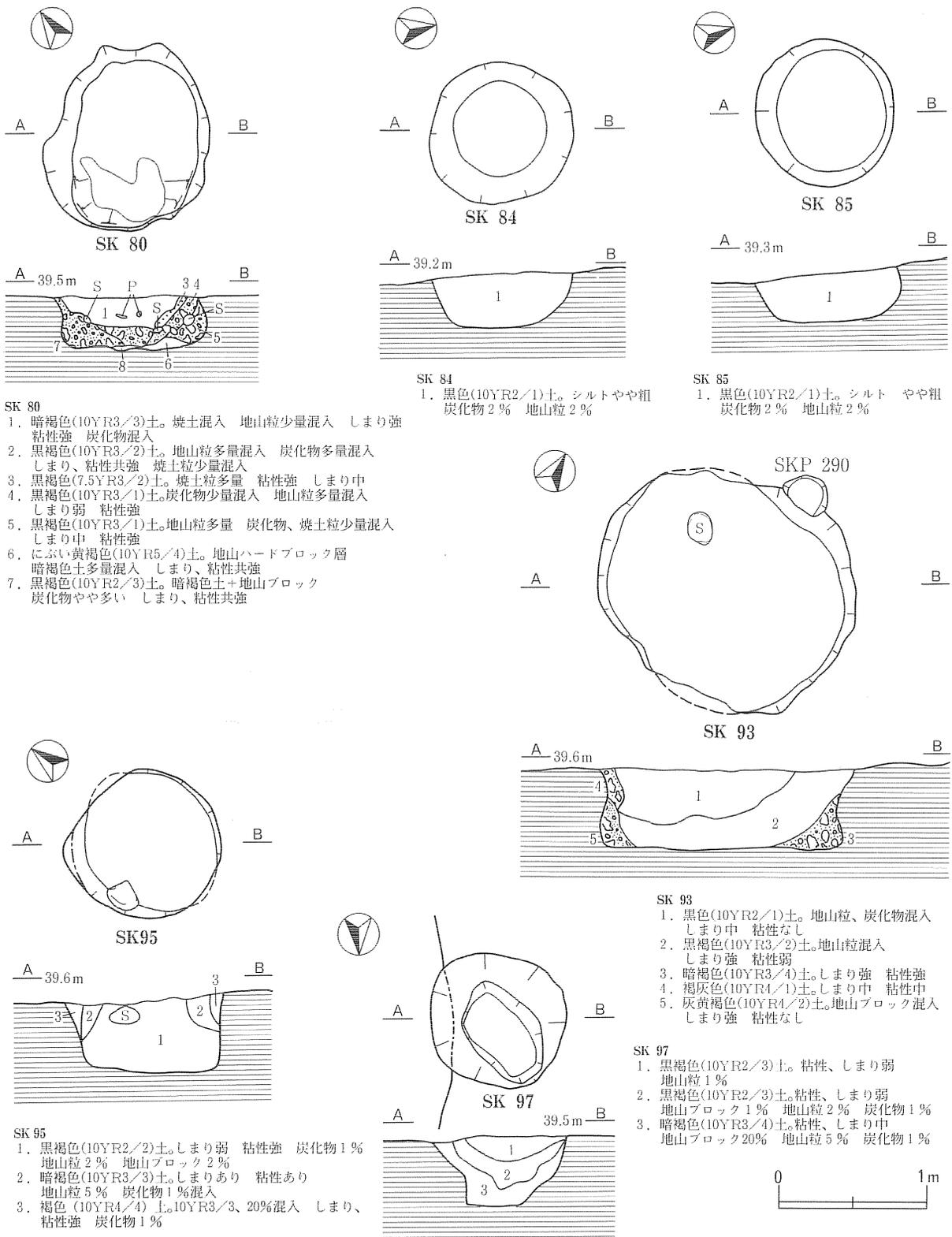
第56図 A区検出遺構SK(4)

遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期
SK 47	KN 89	不整円形	74	58	35	石核 (179-S 277~279) フレークII (179-S 280~282)	縄文時代
SK 52	KI 85	楕円形	59	43	18	縄文土器 (128-524)	中期後半
SK 54	KL・KM 86	円形	155	120	86	円盤状土製品 (154-936) 縄文土器 (128-525~537) (129-538~545) 土師器 (205-975) 剥片石器 (180-S 283) 石棒 (180-S 204)	晩期大洞B式期
SK 56	KJ 89	楕円形	82	61	48	縄文土器 (129-546)	晩期
SK 60	KL 87	不整円形	84	77	45	縄文土器 (129-547)	中期後半



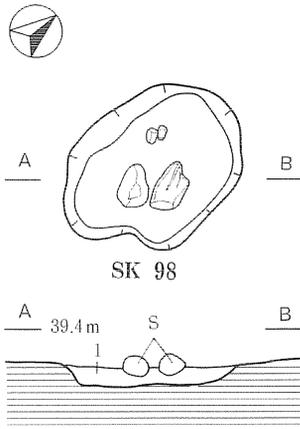
遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 6 2	KM 8 4	楕円形	168	81	53	縄文土器 (129-548~522)	縄文中期後半
SK 6 3	KL 8 4・8 5 KM 8 5	楕円形	205	74	47	磨石 (180-S285)、縄文土器細片。	縄文時代
SK 6 4	KL 8 4	楕円形	125	69	32	遺物無し。	縄文時代
SK 7 2	KM 8 4	楕円形	165	91	40	縄文土器 (129-550)	縄文中期後半
SK 7 3	KN 8 4	円形	78	75	21	フレイク出土。	縄文時代
SK 7 6	KM 8 4・8 5	楕円形	130	80	25	遺物無し。	
SK 7 8	KM 8 0・8 1	円形	76	74	32	縄文土器細片1点、フレイク1点出土。	縄文時代

第57図 A区検出遺構SK(5)

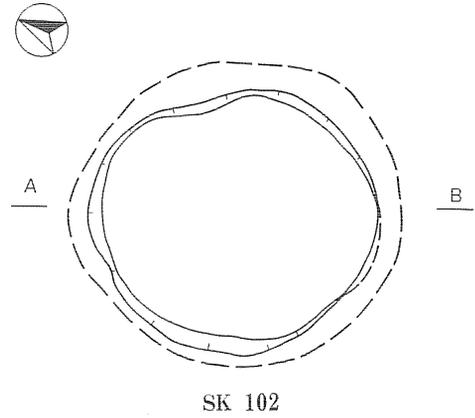


遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 80	KJ 83 (土坑墓)	楕円形	130	107	35	縄文土器 (130-556~561) 磨石 (180-S 286、287) 石錘 (180-S 288)	大木10式期右段階
SK 84	KL 7.9・80	円形	98	95	37	縄文土器(130-562~565)	中期後半
SK 85	KL 7.9	円形	100	94	34	縄文土器 (130-566~568)	中期後半
SK 93	KJ 86	楕円形	181	149	52	剥片石器 (180-S 289) フレイクII (180-S 290)	縄文時代
SK 95	KO 87	円形	105	100	51	縄文土器細片。	縄文時代
SK 97	KP 8.3・84	円形	195	187	95	土製品 (146-856) フレイクII (180-S 291)	縄文時代

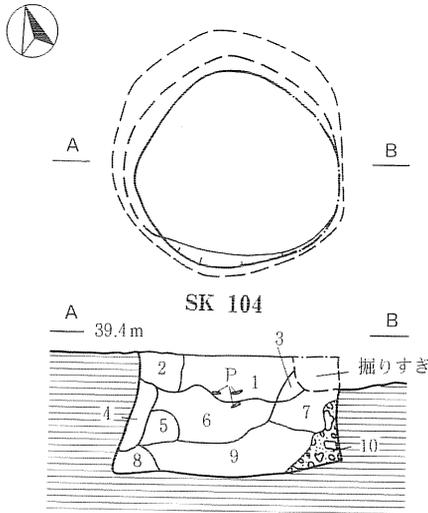
第58図 A区検出遺構SK(6)



SK 98
1. 黒褐色(10YR3/1)土。
ローム粒 シルト少量混入
砂質 しまりなし



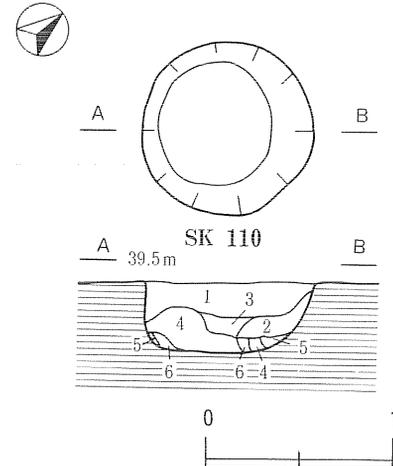
SK 102



SK 104
1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 炭化物少量 焼土粒1%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性なし 炭化物少量 地山粒5%
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性なし 地山ブロック多量
4. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック(10YR4/6)混入
地山粒多量
5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山粒多量
6. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりなし 粘性ややあり 炭化物2% 地山粒2%
7. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり
8. 褐色(10YR4/6)土。しまりあり 地山粒多量
9. 褐色(10YR4/4)土。しまりあり 炭化物、地山粒少量
10. 黄褐色(10YR5/6)土。しまり、粘性あり 地山ブロック暗褐色土多量
炭化物混入

SK 102

1. 黒褐色(10YR2/2)土。しまりなし 粘性あり 炭化物10%
2. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりなし 粘性あり 炭化物2%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 炭化物1% 地山塊2%
4. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし 粘性あり 炭化物微量
地山粒混入
5. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり 炭化物2%
6. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 炭化物10%
7. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 炭化物3% 地山粒10%
8. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒5%
炭化物混入
9. 黄褐色(10YR5/8)土。しまり、粘性あり 地山ブロック混入
10. 黄褐色(10YR5/6)土。しまり、粘性あり 地山土中に暗褐色土が2%
11. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土30%
12. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりあり 粘性あり 地山粒混入
13. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり

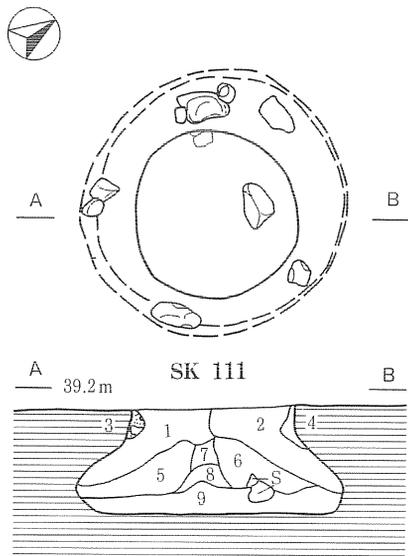


SK 110

1. 黒褐色(10YR2/8)土。しまりなし 粘性あり 炭化物5%
地山塊
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性なし 炭化物混入 地山粒2%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性なし 地山粒少量
4. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山粒10%
5. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山粒混入
6. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし

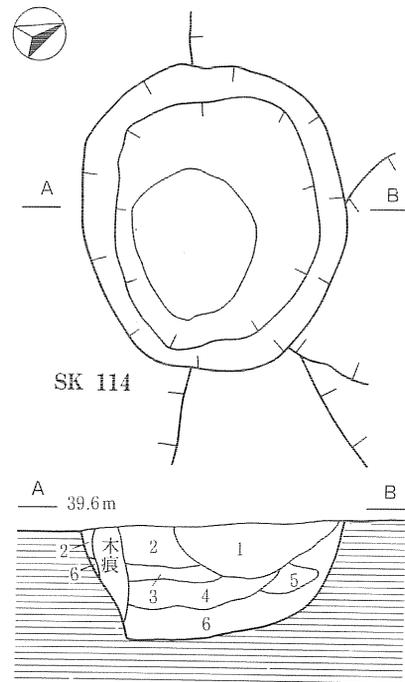
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 98	KG76・77	不整楕円形	106	77	10		縄文時代
SK 102	KN・KO81	円形	155	140	80	縄文土器 (131-570~577) 石錐 (180-S292) 石匙 (180-S293) 石核 (181-S294) フレイクII (181-S295)	晩期大洞B式期 (土坑墓)
SK 104	KN81	円形	109	97	64	縄文土器(131-578)	縄文時代
SK 110	KM81	円形	94	92	37	縄文土器 (131-579, 580)	中期後半

第59図 A区検出遺構SK(7)



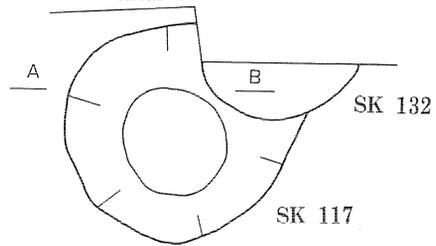
SK 111

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック多く混入 炭化物1%
2. 黒褐色(10YR3/2)土。しまり、粘性あり 地山ブロック混入 地山粒1%
3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山ブロック、暗褐色土少量混入
4. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山ブロック混入
5. 褐色(10YR4/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒50% 炭化物2%
6. 黄褐色(10YR5/8)土。地山ブロックのおちこみ しまり、粘性あり 暗褐色土20%混入
7. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性なし 地山粒30% 炭化物2%混入
8. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 炭化物少量混入 地山粒多く混入
9. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりあり 粘性なし 地山粒少量混入



SK 114

1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり弱 地山ブロック2% 炭化物塊3%
2. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性弱、しまり弱 地山粒7% 炭化物1%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまり中 地山ブロック10%
4. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり中 地山ブロック3% 炭化物塊10%
5. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり中 地山粒2% 炭化物1%
6. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性中 しまり強 地山ブロック3% 地山粒5% 炭化物塊2%



SK 132

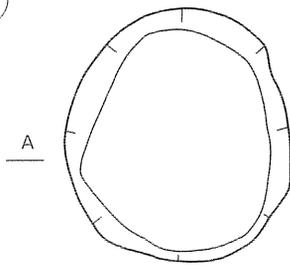
SK 117

SK 115

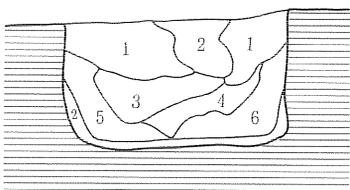
1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり弱 粘性あり 地山ブロック1%
2. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり弱 もろい 粘性あり
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 地山粒子5%
4. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりややあり 粘性あり 地山粒子3%
5. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 炭化物ブロック1%
6. におい黄褐色(10YR4/3)土。しまり強 粘性あり 地山ブロック10% 地山粒子20%
7. 褐色(10YR4/4)土。しまり強 粘性あり 地山ブロック15% 地山粒10%

SK 117

1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱 地山粒1% 炭化物1%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱 地山粒3%
3. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり弱 地山粒10% 地山ブロック2%
4. 褐色(7.5YR4/6)土。粘性、しまり中 地山粒25% 焼土粒10% 炭化物1%
5. 黄褐色(10YR5/8)土。粘性、しまり強 地山ブロック40% 炭化物1%

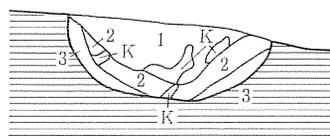
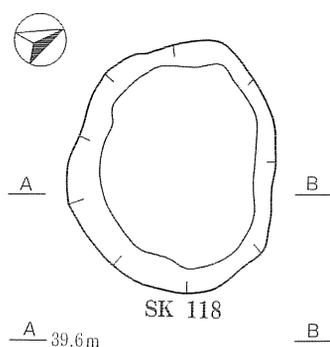


SK 115



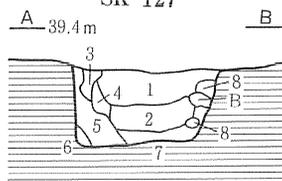
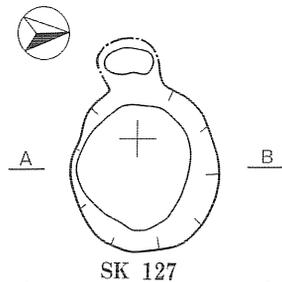
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 111	KN 8 1	円形	90	87	55	縄文土器 (131-581~586) フレック I (181-S 296) フレック II (181-S 297、S 298)	晩期大洞B式期 (フラスコ状)
SK 114	KO 8 2	楕円形	165	140	60	土製品 (146-855) ミニチュア (150-881) 縄文土器 (132-587~597) 搔器 (181-S 299、S 300、S 302) 磨石 (181-S 304) フレック II (181-S 303) 石核 (181-S 301)	晩期B式期
SK 115	KO 8 2	楕円形	135	118	67	ミニチュア (150-877) 縄文土器(132-598~606) 搔器 (181-S 305)	晩期
SK 117	KP 8 1	不整形	残存部88	114	33	縄文土器 (133-607) 搔器(182-S 306) フレック II (182-S 308)	晩期

第60図 A区検出遺構SK(8)



SK 118

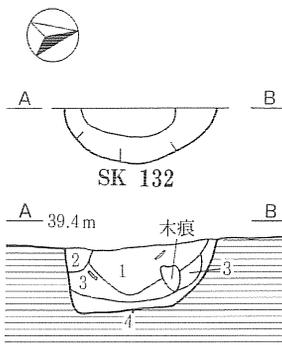
1. 黒色(10YR2/1)土。しまりあり 粘性弱 地山粒1%
2. 黒褐色(10YR3/2)土。しまり、粘性あり 地山粒3% 地山ブロック1%
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり強 粘性あり 地山粒30% 地山ブロック30%



SK 127

SK 127

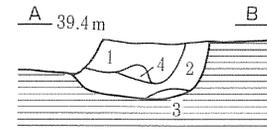
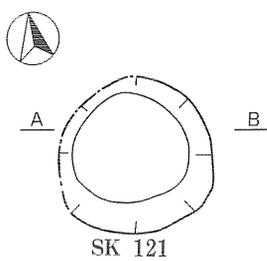
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山粒2% 炭化物1%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり弱 粘性あり 地山ブロック1% 炭化物2%
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック20%
4. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック3% 炭化物1%
5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック10% 炭化物少量
6. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック20%
7. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック5% 炭化物3%
8. 褐色(10YR4/4)土。しまり、粘性あり 地山粒混入



SK 132

SK 132

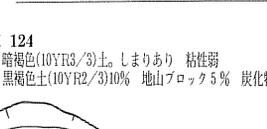
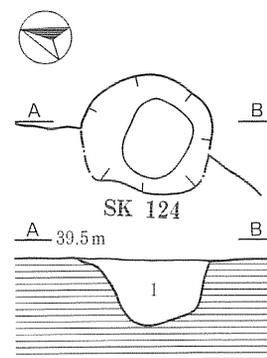
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック2% 地山粒5% 炭化物2%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性弱 地山粒10%
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱 地山ブロック2% 地山粒5% 炭化物2%
4. 褐色(10YR4/4)土。しまり強 粘性あり 地山ブロック5% 地山粒7% 炭化物1%



SK 121

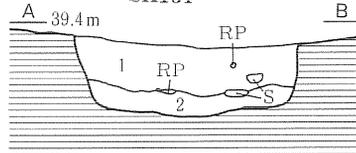
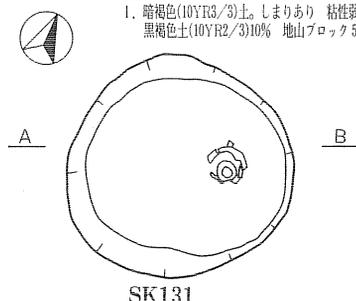
SK 121

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり
2. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山粒多く混入 炭化物1%
3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土10%
4. 黒褐色(10YR3/2)土。しまりなし 粘性あり 地山粒多く混入



SK 124

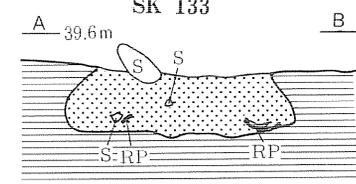
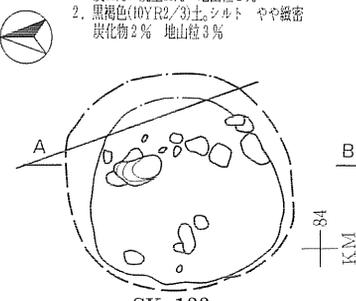
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱
2. 黒褐色土(10YR2/3)10% 地山ブロック5% 炭化物2%



SK 131

SK 131

1. 黒色(10YR2/1)土。シルト やや緻密 炭15% 焼土10% 地山粒2%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト やや緻密 炭化物2% 地山粒3%



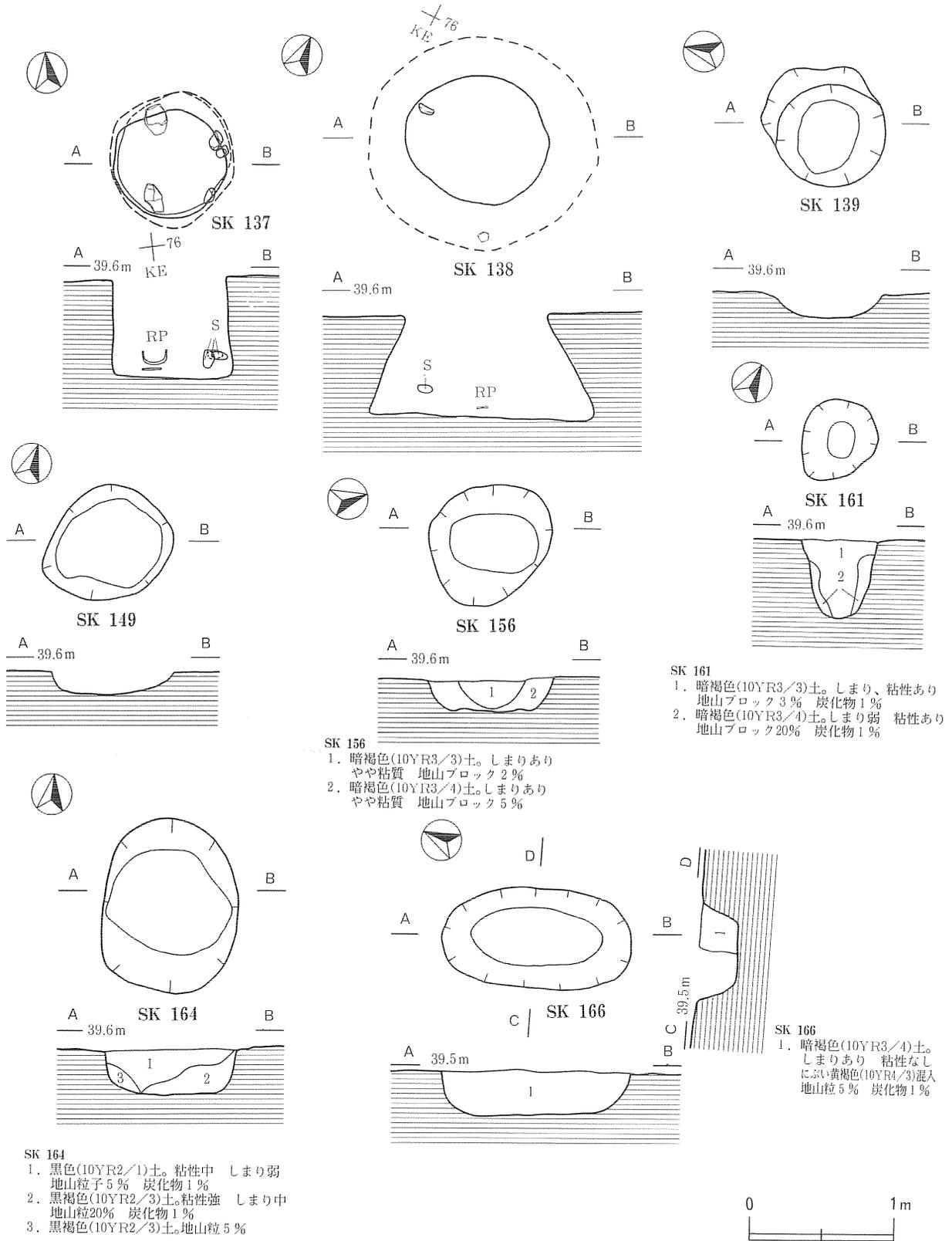
SK 133

SK 133

1. 黒色(7.5YR2/1)土。炭化物、焼土粒多量 しまり中 粘性やや強

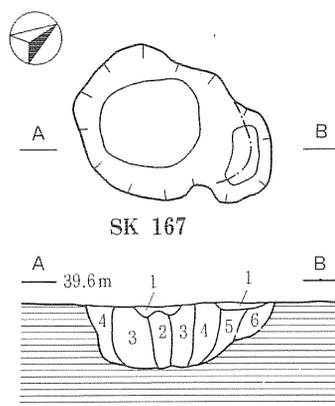
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 118	KP 80・81 KO 81	楕円形	135	110	40	石鏡 (182-S307)	縄文時代
SK 121	KM 81	円形	87	82	30	縄文土器 (133-608~610)	中期後半
SK 124	KO 88	円形	69	60	35	縄文土器 (133-611)	後期
SK 127	KN・KO 90・91	楕円形	87	80	40	石鏡 (182-S309)	中期か(不明)
SK 131	KL 81	円形	123	119	36	縄文土器 (133-613)	中期か(不明)
SK 132	KP 82	楕円形	81	残存部 2 9	32	ミニチュア (150-882)	中期後半
SK 133	KH・KG 84	不整形円形	102	100	32	円盤状土製品 (154-937)	晩期大洞C2式期
						縄文土器 (133-614~617)	
						円盤状土製品 (154-938)	中期後半か
						縄文土器 (133-618, 619)	
						縄文土器 (134-620~623)	
						磨石 (182-S310)	晩期前半
						凹石 (182-S311~313, 183-S315~317)	

第61図 A区検出遺構SK(9)



遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 137	KD・KE 76	円形	80	74	70	縄文土器 (134-624、625)	晩期
SK 138	KD 75	円形	97	85	72	縄文土器 (134-626、627)	晩期大洞A式期
SK 139	KD 75	不整楕円形	90	78	16	縄文土器 (134-628)	縄文時代?
SK 149	KE 78	楕円形	95	76	15	遺物無し。	
SK 156	KM 88・89	不整円形	90	77	21	遺物無し。	
SK 161	KN 86	不整円形	61	51	54	縄文土器 (134-629~631)	中期大木10式期右段階
SK 164	KL 86	楕円形	118	92	30	縄文土器 (134-632、633)	晩期か
SK 166	KL 85	楕円形	132	70	30	無し。	

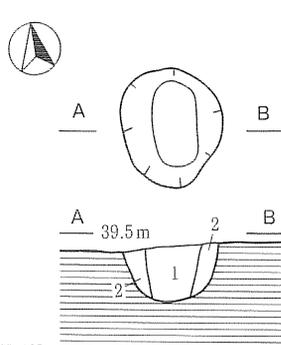
第62図 A区検出遺構SK (10)



SK 167

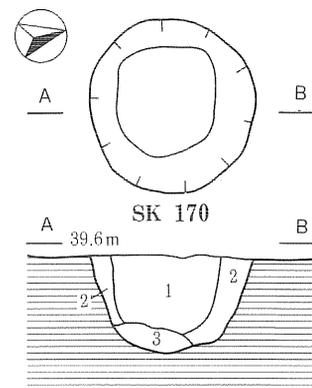
SK 167

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり弱 粘性あり 地山粒1%
2. 黒褐色(10YR2/2)土。しまり弱 粘性あり
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘質 炭化物1% 地山ブロック3%
4. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりやや強 粘質 炭化物2% 地山ブロック5%
5. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘質 地山ブロック15%
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまりあり 粘質 地山ブロック20%



SK 168

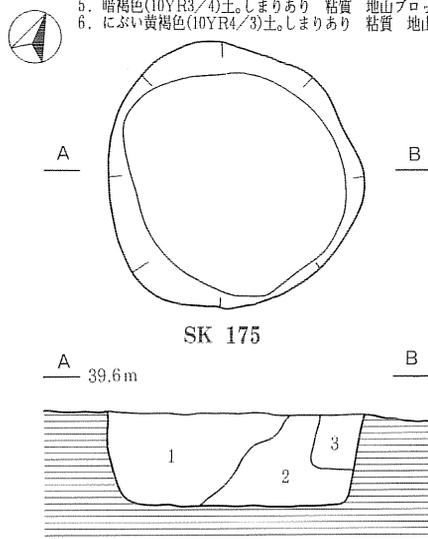
1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト 炭化物混入 砂質 しまりなし
2. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒多い シルト少量 砂質 しまりなし



SK 170

SK 170

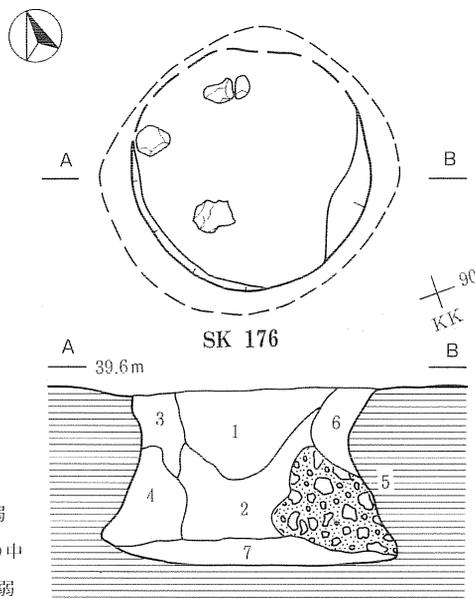
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 炭化物1% 地山ブロック2%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。ややしまり弱 粘性あり 地山ブロック15%
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック5% 炭化物1%混入



SK 175

SK 175

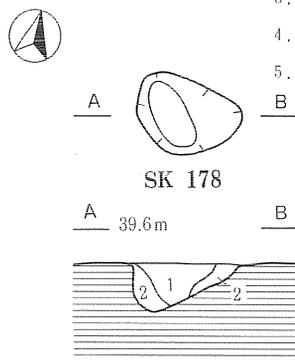
1. 黒色(10YR2/1)土。粘性中 しまり弱 炭化物 焼土粒1%
2. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性強 しまり中 地山混入 炭化物1%
3. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性中 しまり弱 地山粒7% 炭化物3%
4. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性中 しまり弱 地山粒3%
5. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性強 しまり弱 地山ブロックの30%



SK 176

SK 176

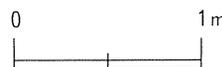
1. 黒色(10YR2/1)土。粘性、しまり中 炭化物1% 地山粒3%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり中 地山粒3%
3. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性、しまり中 炭化物1%
4. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性強 しまり弱 地山ブロック5%
5. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性強 しまり弱 地山ブロック50%
6. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性、しまり中 炭化物3%
7. 黒色(10YR2/1)土。粘性、しまり中



SK 178

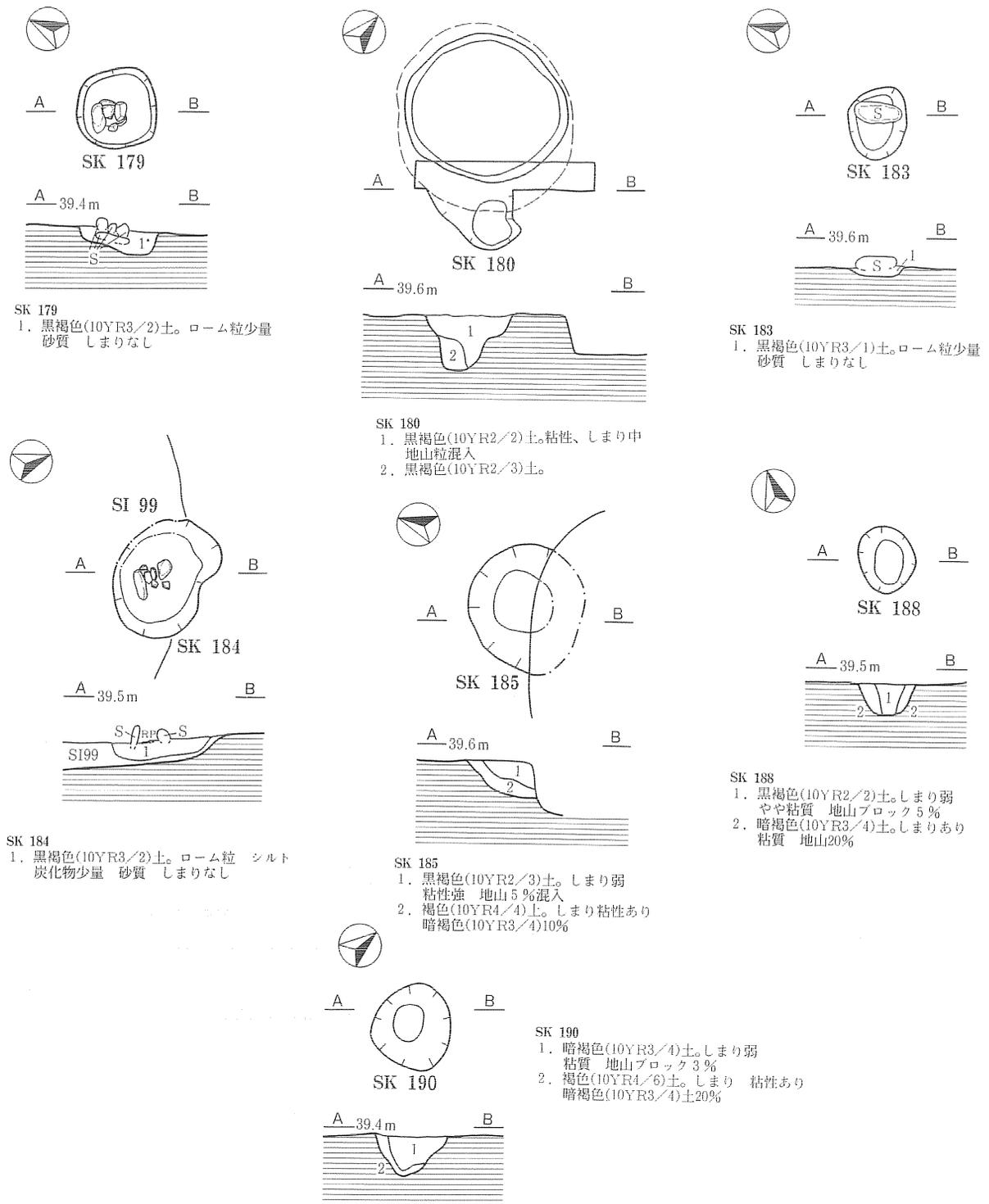
SK 178

1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い シルト少量 粘質 しまりあり
2. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト少量 砂質 しまりなし 自然堆積



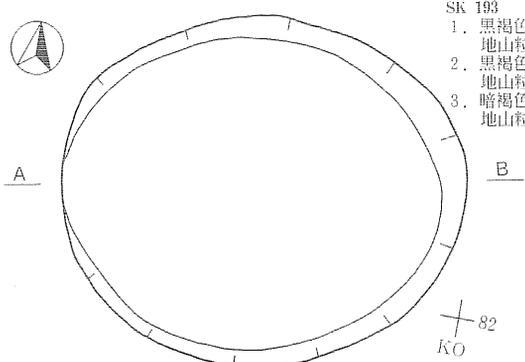
遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 167	KN 84・85	楕円形	98	76	32		
SK 168	KN 84・83	不整形円形	62	53	27		
SK 170	KN 86	円形	99	93	51	縄文土器 (134-634、635)	縄文時代
SK 175	KL・KK 90	円形	141	136	50	石核 (183-S318)	縄文時代
SK 176	KK 90	円形	129	127	93	縄文土器 (134-636、637)	大木9式期
SK 178	KG 76	不整形円形	56	40	25	フレイク I (183-S319)	

第63図 A区検出遺構SK (11)

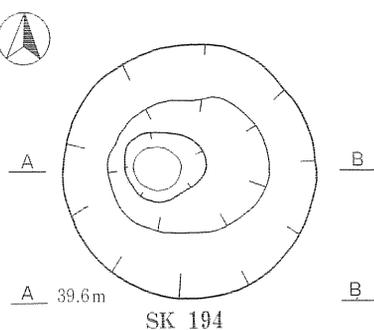


遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 179	KF 74・75	円形	57	56	15	磨石 (183-S320)	縄文時代
SK 180	KL 90	不整形円形	残存部 45	35	35		
SK 183	KG 77	楕円形	48	39	6		
SK 184	KH 78	楕円形	80	62	11	縄文土器 (134-638、639)	中期後半
SK 185	KO 86・87	円形	85	77	22		
SK 188	KM 89	円形	44	37	20		
SK 190	KN・KM 90	円形	54	50	25		

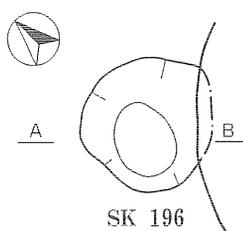
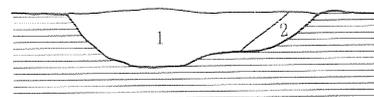
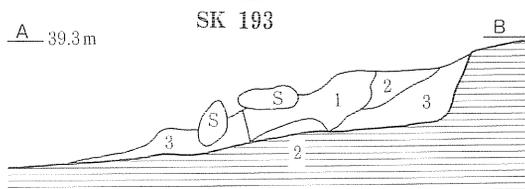
第64図 A区検出遺構SK (12)



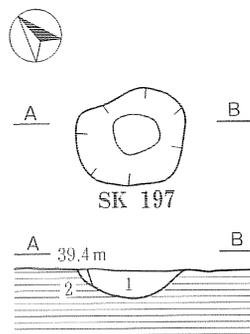
- SK 193
1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性、しまり弱
地山粒 3% 炭化物 4%
 2. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱
地山粒 3% 炭化物 3%
 3. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり中
地山粒 6% 炭化物 2%



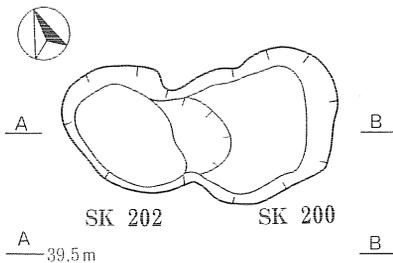
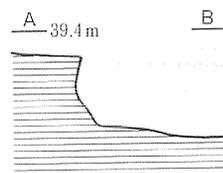
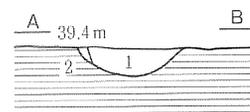
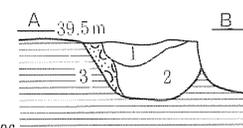
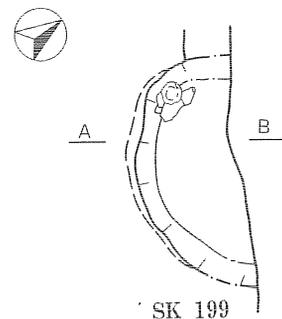
- SK 194
1. 黒褐色(10YR2/2)土。粘性 しまり弱 地山粒 3% 炭化物 7% 焼土 1%
 2. 褐色(10YR4/4)土。粘性強 しまり中 地山ブロック 40% 地山粒 4% 炭化物 1%



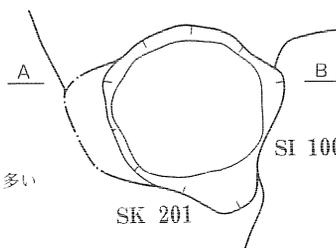
- SK 196
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり
炭化物 1% 地山粒 2%
 2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまりあり
粘性強 地山ブロック 3%
 3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり
地山ブロック 50%



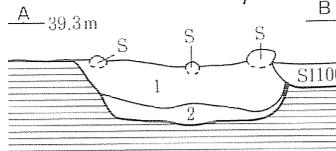
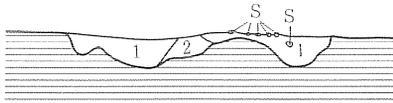
- SK 197
1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり弱 粘質
炭化物 1% 地山ブロック 5%
 2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、
粘性強 炭化物 1% 地山ブロック 5%



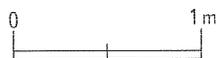
- SK 200
1. 黒褐色(10YR3/1)土。
ローム粒少量 シルト多い
砂質 しまりなし



- SK 201
1. 灰黄褐色(10YR4/2)土。
ローム粒多い シルト、
焼土粒少量 砂質 しまりあり
 2. にぶい黄褐色(10YR6/4)土。
炭化物、シルト少量 砂質
しまりあり



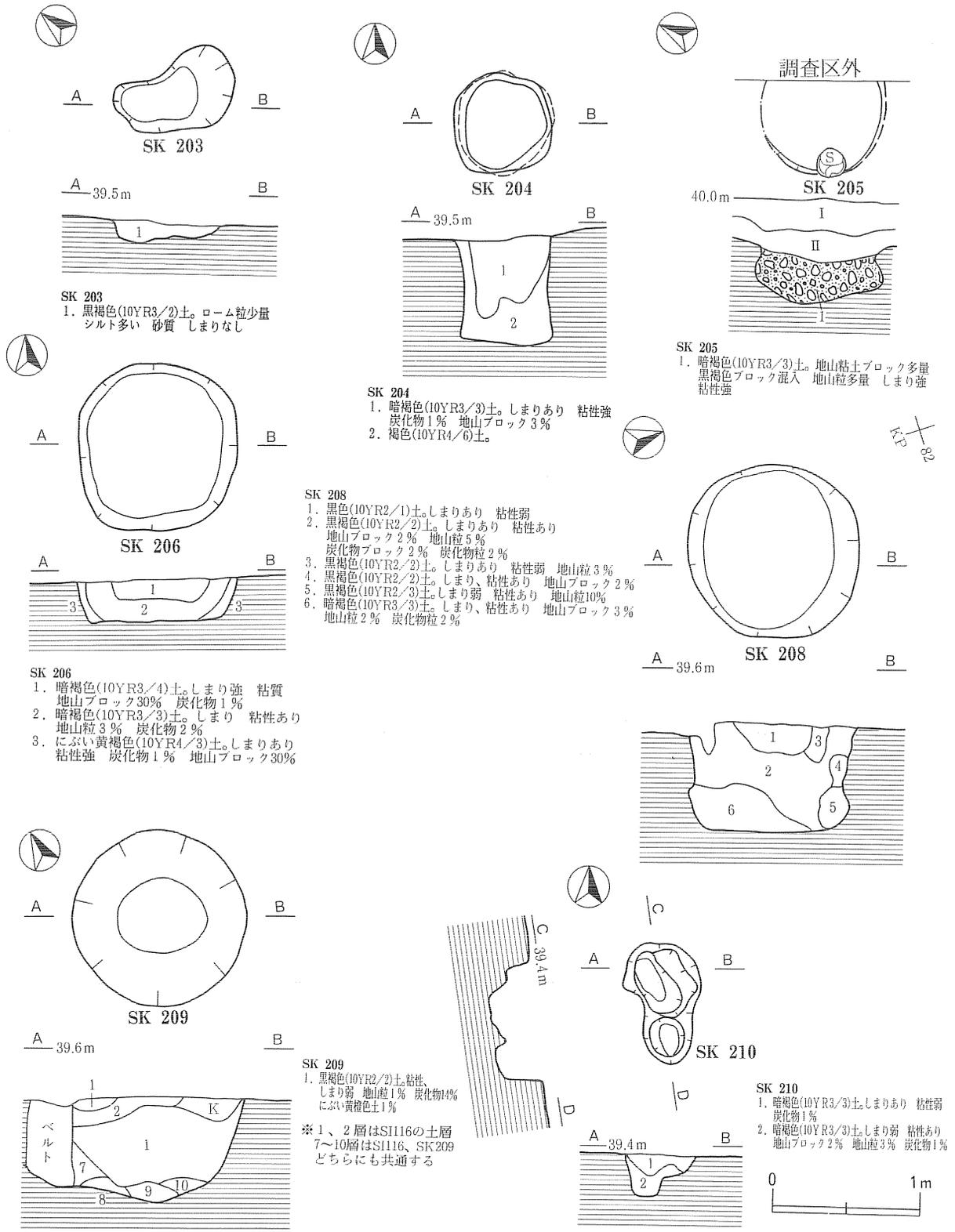
- SK 202
1. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。
黒褐色土粒(10YR3/2)、
シルト少量 砂質 しまりなし
 2. 褐色(10YR4/4)土。ローム粒
シルト少量 砂質 しまりなし



遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 193	KO 8 2・8 1	楕円形	219	184	31	フレーク II (183-S321, S323, S324) 縄文土器 (135-640, 641) フレーク I (183-S322)	中期末葉 中の平3式
SK 194	KO 8 1	円形	135	135	30	縄文土器 (135-642~648) 石核 (184-S326) フレーク I (184-S325) フレーク II (184-S327)	大木 9 式期 右段階
SK 196	KO 8 6・8 7	不整形円形	74	70	31		
SK 197	KO 8 9	不整形円形	60	50	15		
SK 199	KO 9 1	楕円形	122	残存部 54	45	縄文土器 (135-649, 650)	大木 8 a 式期
SK 200	KG 7 5	不整形楕円形	92	73	15		
SK 201	KH・K 1 7 7	不整形楕円形	117	102	30	縄文土器 1 点(細片) 出土。	縄文時代
SK 202	KG 7 5	楕円形	80	60	15		

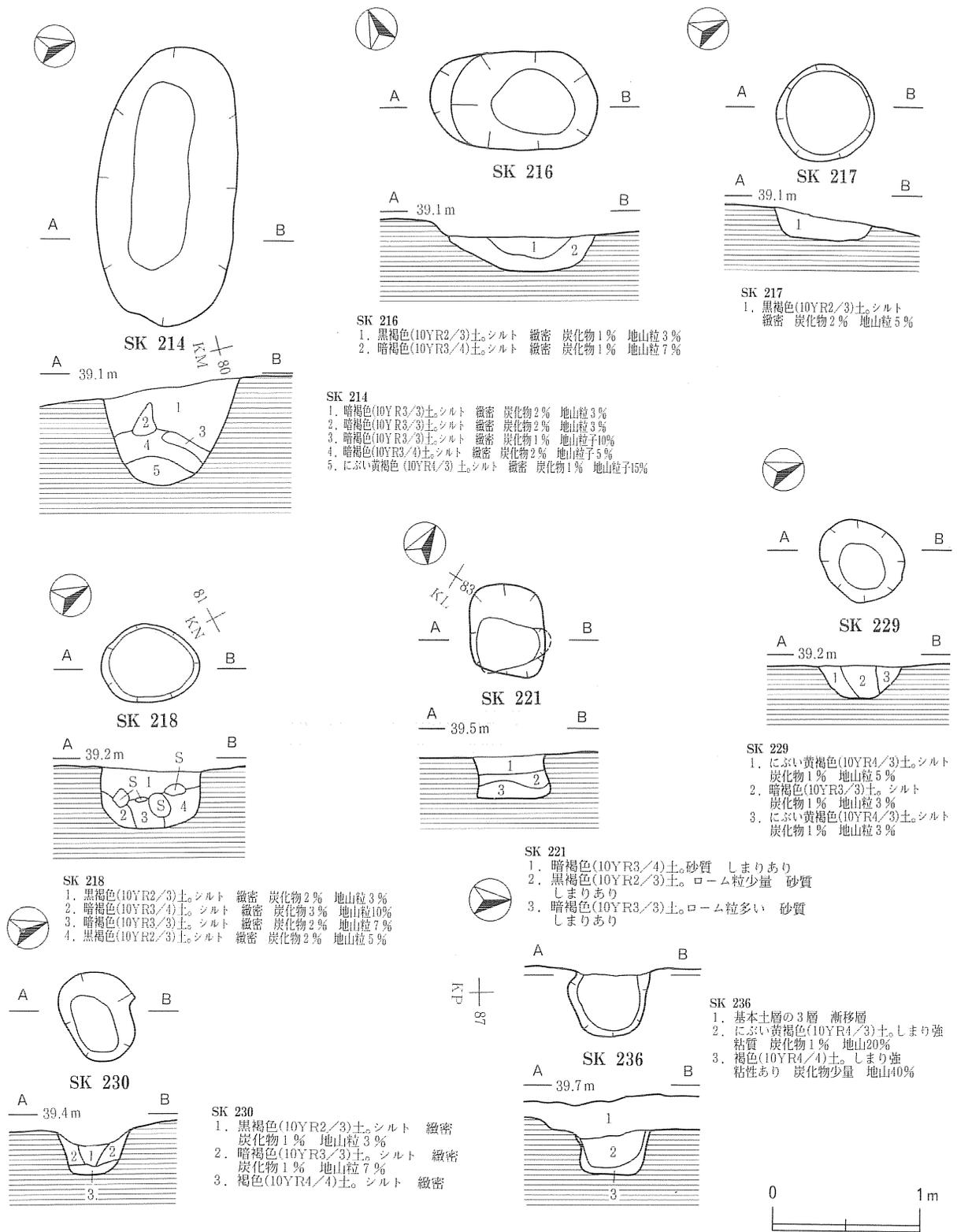
第65図 A区検出遺構SK (13)

第4章 調査の記録



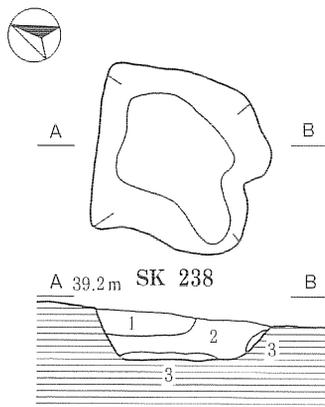
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 203	KF75・76	不整楕円形	85	48	14		
SK 204	KO85・86	円形	73	70	75		
SK 205	KH・K187	不明	残存部 62	81	32	縄文土器 (135-651) ミニチュア (150-833) 縄文土器 (135-652、653) フレイク I (184-S328) 磨製石斧 (184-S330)	中期後半
SK 206	KL88	円形	115	108	29	縄文土器 (135-654~656)	大木8b式期
SK 208	KO・KP81	円形	120	117		縄文土器 (136-657~660) フレイク II (184-S331)	大木10式期右段階
SK 209	KO82	円形	120	120	72		
SK 210	KP83	不整楕円形	82	52	30	縄文土器 (136-663~668)	大木10式期右段階

第66図 A区検出遺構SK (14)



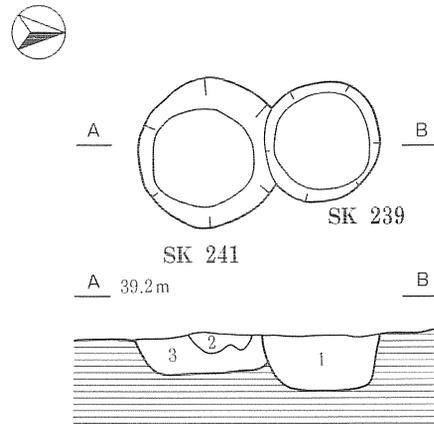
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 214	KM79・80	楕円形	187	94	65	縄文土器(136-669~671)	後期か
SK 216	KM80	楕円形	114	66	24		
SK 217	KM・KN80	円形	67	66	18		
SK 218	KM・KN80	楕円形	67	53	40	縄文土器(136-672, 673)	晩期
SK 221	KK82・83	隅丸方形	67	53	28	縄文土器(136-674)	中期後半
SK 229	KM・KN80・81	円形	59	52	22	縄文土器(136-675, 676) フレイクII(184-S329)	中期後半
SK 230	KL82	楕円形	62	50	20		
SK 236	KO・KP87	不明	残存部 41	54	30	縄文土器(136-677)	縄文時代

第67図 A区検出遺構SK (15)



SK 238

1. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱
地山粒1% 炭化物2%
2. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性、しまり弱
地山粒4% 炭化物2%
3. 褐色(10YR4/6)土。粘性、しまり強
地山ブロック30% 地山粒3% 炭化物1%

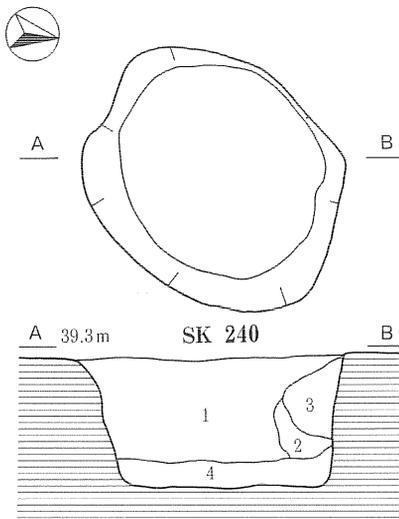


SK 239

1. 暗褐色(10YR3/3)土。シルト
緻密 炭化物3% 地山粒5%

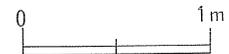
SK 241

1. 黒褐色(10YR2/2)土。シルト
緻密 炭化物1% 地山粒2%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。シルト
緻密 炭化物1% 地山粒2%



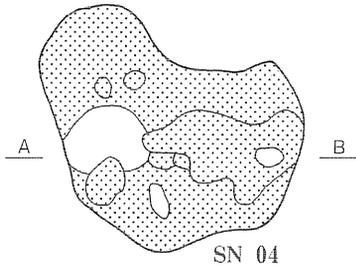
SK 240

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり
炭化物20% 地山ブロック2% 地山粒3%
2. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり
1層の土15% 地山ブロック20%
3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり
地山ブロック25% 1層の土10%
4. 暗褐色(10YR3/3)土。粘性あり しまり強
炭化物粒2% 地山ブロック1% 地山粒3%

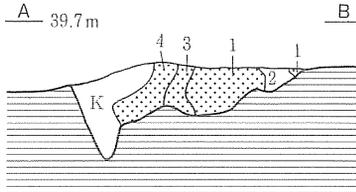


遺構番号	検出位置 (グリッド)	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	時期
SK 2 3 8	KO 8 0	不整形円形	115	105	25		
SK 2 3 9	KN 8 0	円形	67	63	30	縄文土器 (136-678)	晩期大 洞B式期
SK 2 4 0	KP 8 2	楕円形	157	120	68	円蓋状土製品 (154-939) 縄文土器 (136-679, 680)	晩期か
SK 2 4 1	KN 8 0	円形	80	80	22	縄文土器 (136-681)	中期か

第68図 A区検出遺構SK (16)

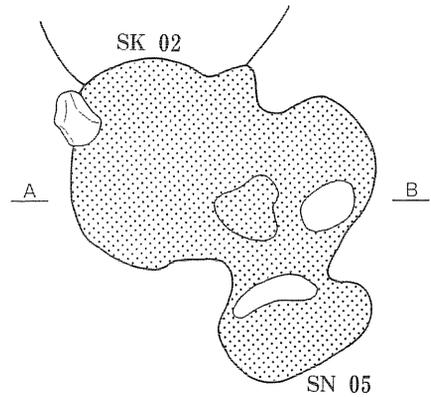


SN 04

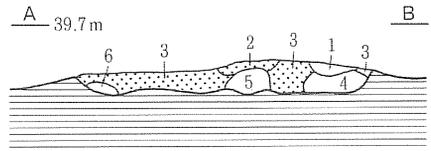


SN 04

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。黒褐色土(10YR3/1)2%混入 焼土粒1%
しまりあり 粘性弱 炭化物1%
2. にぶい赤褐色(2.5YR4/4)土。しまりあり 粘性 焼土粒1%
3. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまりあり 粘性弱 炭化物
4. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。しまりあり 粘質 焼土粒、炭化物1%

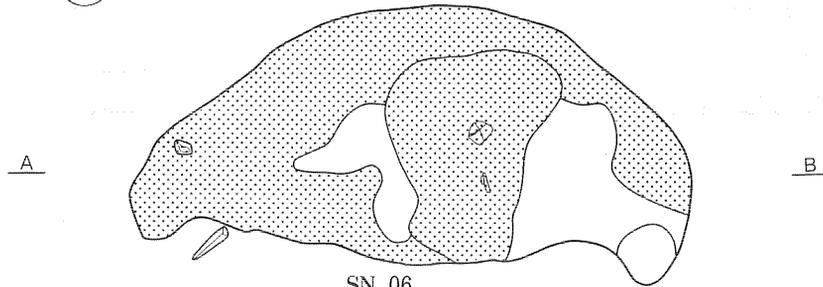


SN 05

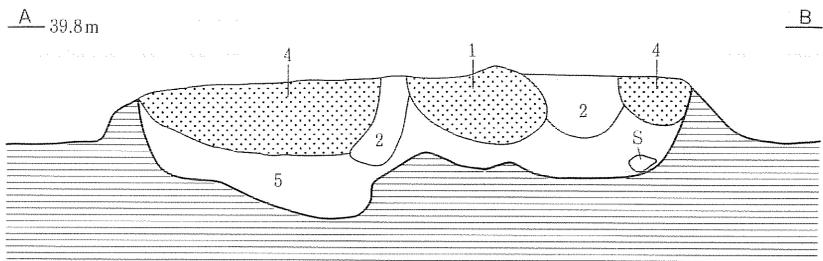


SN 05

1. にぶい赤褐色(2.5YR4/4)土。しまりあり 粘性あり
炭化物、焼土粒1%
2. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまりあり 粘性あり 炭化物、焼土粒1%
3. 暗赤褐色(2.5YR3/4)土。しまり、粘性あり 炭化物、焼土粒1%
4. 暗赤褐色(2.5YR3/3)土。ややしまり、粘性あり 焼土粒、炭化物1%
5. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。しまり弱 やや粘質 焼土粒、炭化物混入
6. 褐色(10YR4/6)土。粘性 しまり強 地山黒褐色土(10YR2/3)が40%



SN 06



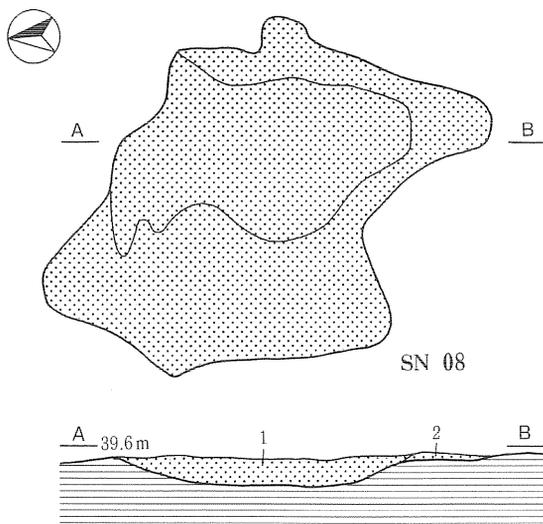
SN 06

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土粒多量
しまり有り 粘性あり
2. 黒褐色(5YR2/1)土。焼土粒1%
しまりあり 粘性あり
3. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。焼土粒1%
しまりあり 粘性あり
4. 暗赤褐色(5YR3/6)土。焼土粒1%
しまりあり 粘性あり
5. 褐色(7.5YR4/6)土。暗褐色土混入
しまりあり 粘性あり



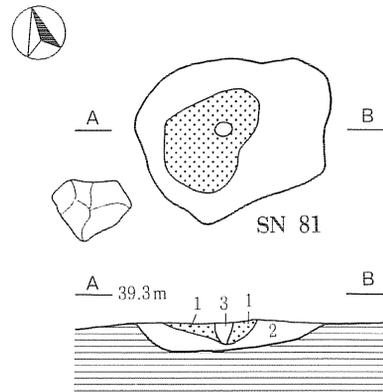
遺構番号	検出位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	出土遺物	時期
SN 04	KN 89	不整楕円形	74	62	12		中期 後半か。
SN 05	KN・KO 89	不整楕円形	98	68	8		
SN 06	KL 90	不整楕円形	150	69	37	縄文土器 (137-682)	中期 後半か。

第69図 A区検出遺構SN(1)



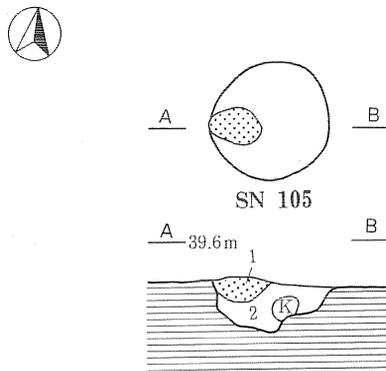
SN 08 焼土範囲

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。粘性、しまり中
2.5YR5/8の焼土粒混入 炭化物1%
2. 赤褐色(5YR4/6)土。粘性、しまり中
炭化物混入



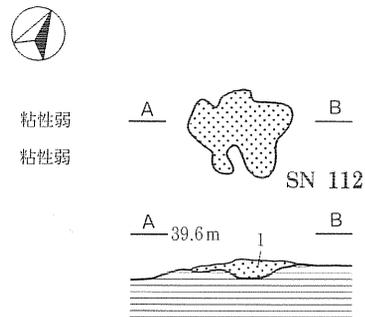
SN 81

1. 赤褐色(5YR4/8)土。しまりあり 粘性あり 焼土粒混入
2. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒混入
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性なし 地山粒2%



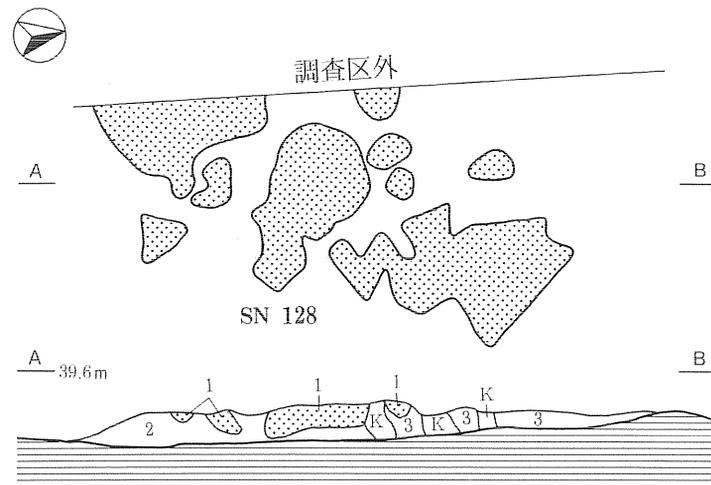
SN 105

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性弱
焼土ブロック、焼土粒30%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりあり 粘性弱
炭化物1% 焼土粒1%



SN 112

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土、しまりあり 粘性あり 炭化物1%

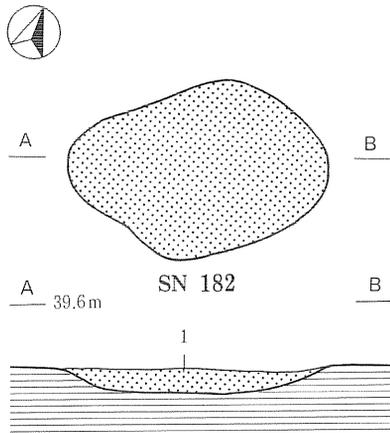


SN 128

1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。焼土。しまり強
粘性あり 炭化物1%
2. 褐色(7.5YR4/6)土。しまり強 粘性あり
地山粒10% 焼土粒3%
3. 黄褐色(10YR5/6)土。しまりあり 粘性あり
地山粒15%

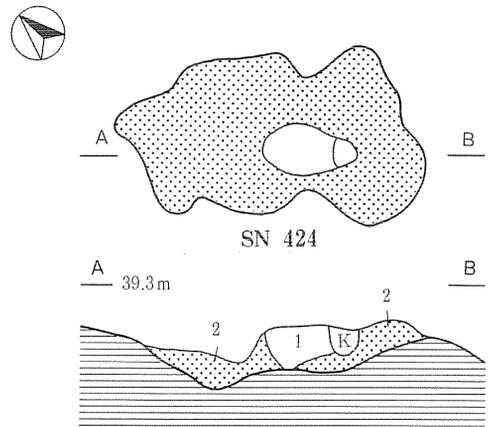
遺構番号	検出位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	出土遺物	時期
SN 08	KK 90	不整楕円形	97	84	6		
SN 81	KN 80	不整円形	53	40	7	フレーク I (185-S332)	
SN 105	KI 83	円形	32	31	13	フレーク II (185-S333) 縄文土器 (137-683)	中期後半か
SN 112	KO 83	不整円形	28	24	5	円盤状土製品 (154-940)	中期後半か
SN 128	KP 82	不整形	残存部 108	残存部 60	7		

第70図 A区検出遺構SN(2)



SN 182

1. 暗褐色(5YR3/2)土。ローム粒 焼土粒少量
やや粘質 しまりなし



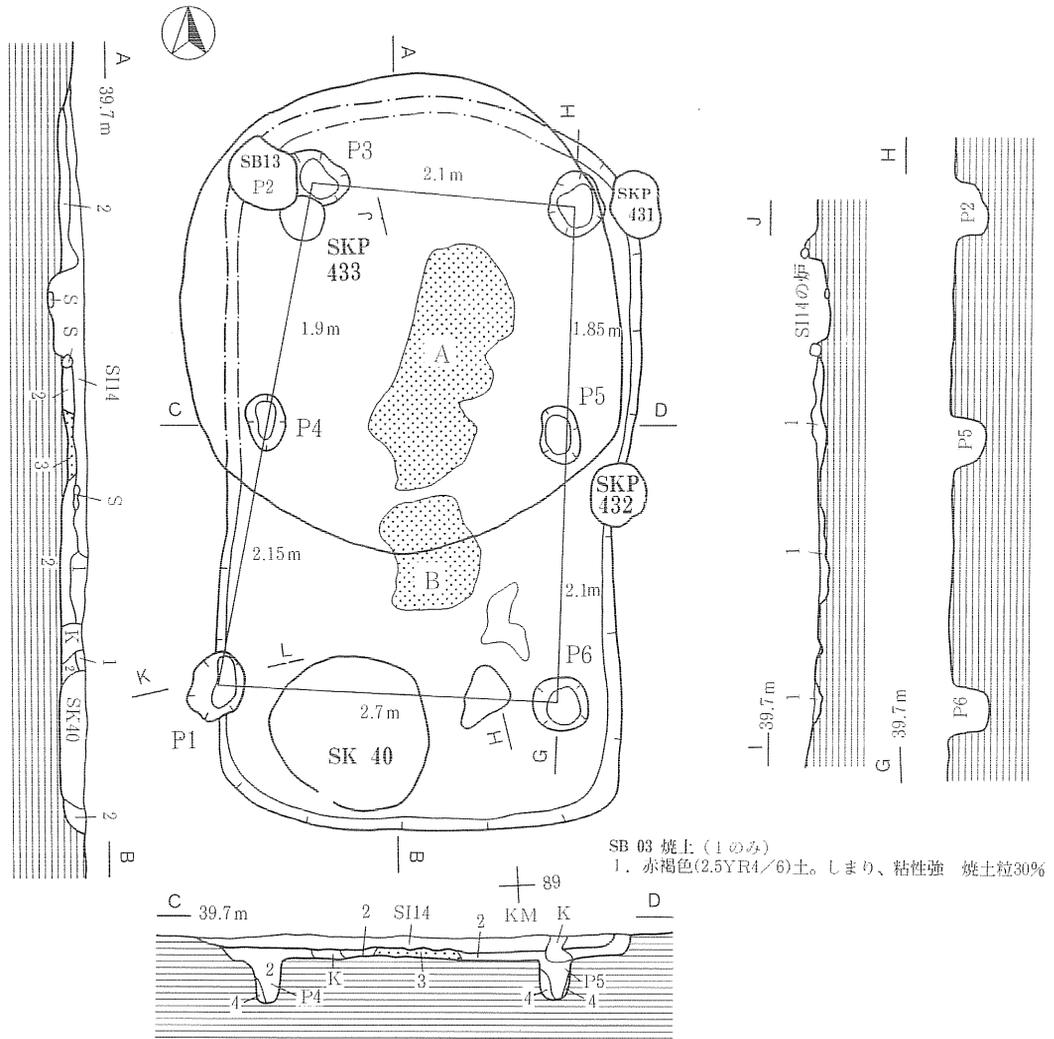
SN 424

1. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。粘性あり 焼土粒2%
炭化物1% 地山ブロック1%
2. 赤褐色(5YR4/6)土。しまり、粘性あり 焼土粒2%
炭化物1% 地山ブロック1%



遺構番号	検出位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	出土遺物	時期
SN182	KG76	楕円形	70	47	5		
SN424	KN91	不整楕円形	84	42	8		

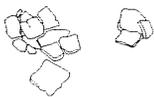
第71図 A区検出遺構SN(3)



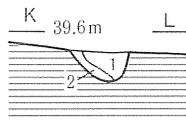
SB 03 焼土 (1のみ)
1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性強 焼土粒30%

- SB 03
1. 黒色(10YR2/1)土。粘性、しまりあり 焼土粒混入
 2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性弱 地山粒5%
焼土粒混入
 3. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり、粘性強 焼土20%
 4. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山粒30%
炭化物2%

SB 03 土器



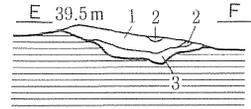
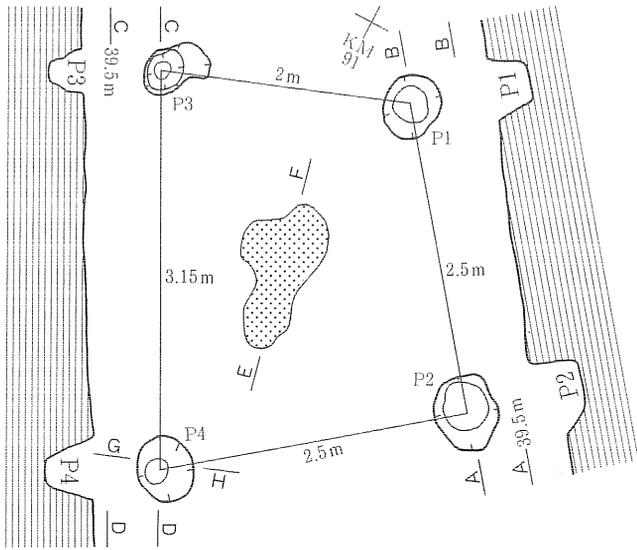
89
KM



- P1
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック混入
 2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性あり 炭化物混入 地山混入

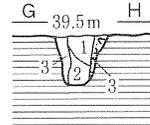


第72図 A区検出遺構SB(1)



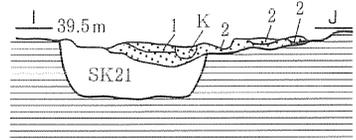
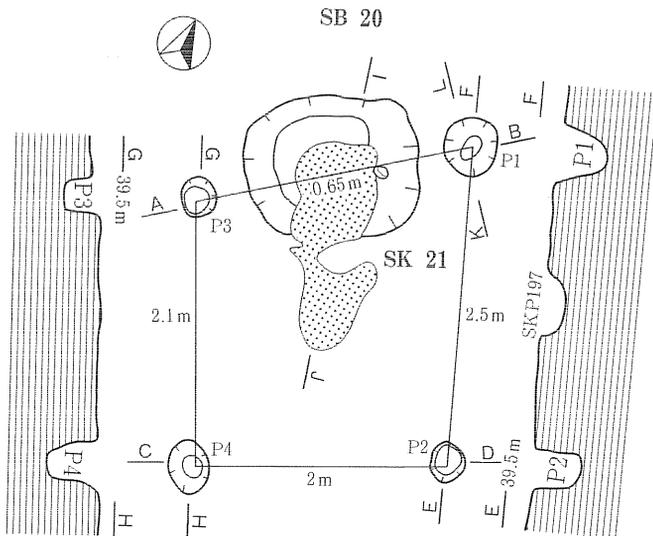
SB 13 焼土

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり やや粘質
2.5Y R4/6、3/4混入 炭化物3% 焼土粒2%
2. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり強 粘性弱
3. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり 粘性あり 炭化物2%
焼土粒1% 2.5Y R3/4が2%



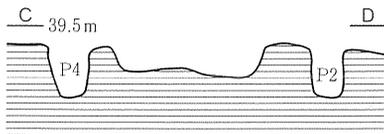
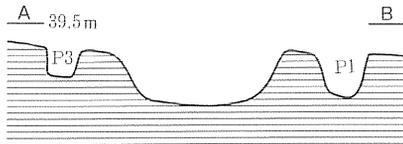
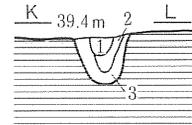
P4

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり
地山ブロック1%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり
地山ブロック20%
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり、粘性あり
地山ブロック50%



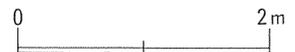
SB 20 焼土

1. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまり強 粘性弱
2.5Y R5/8混入 炭化物1%
2. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり強 やや粘質 炭化物1%
3. 赤褐色(5YR4/6)土。しまりあり やや粘質 炭化物1%
焼土粒2%

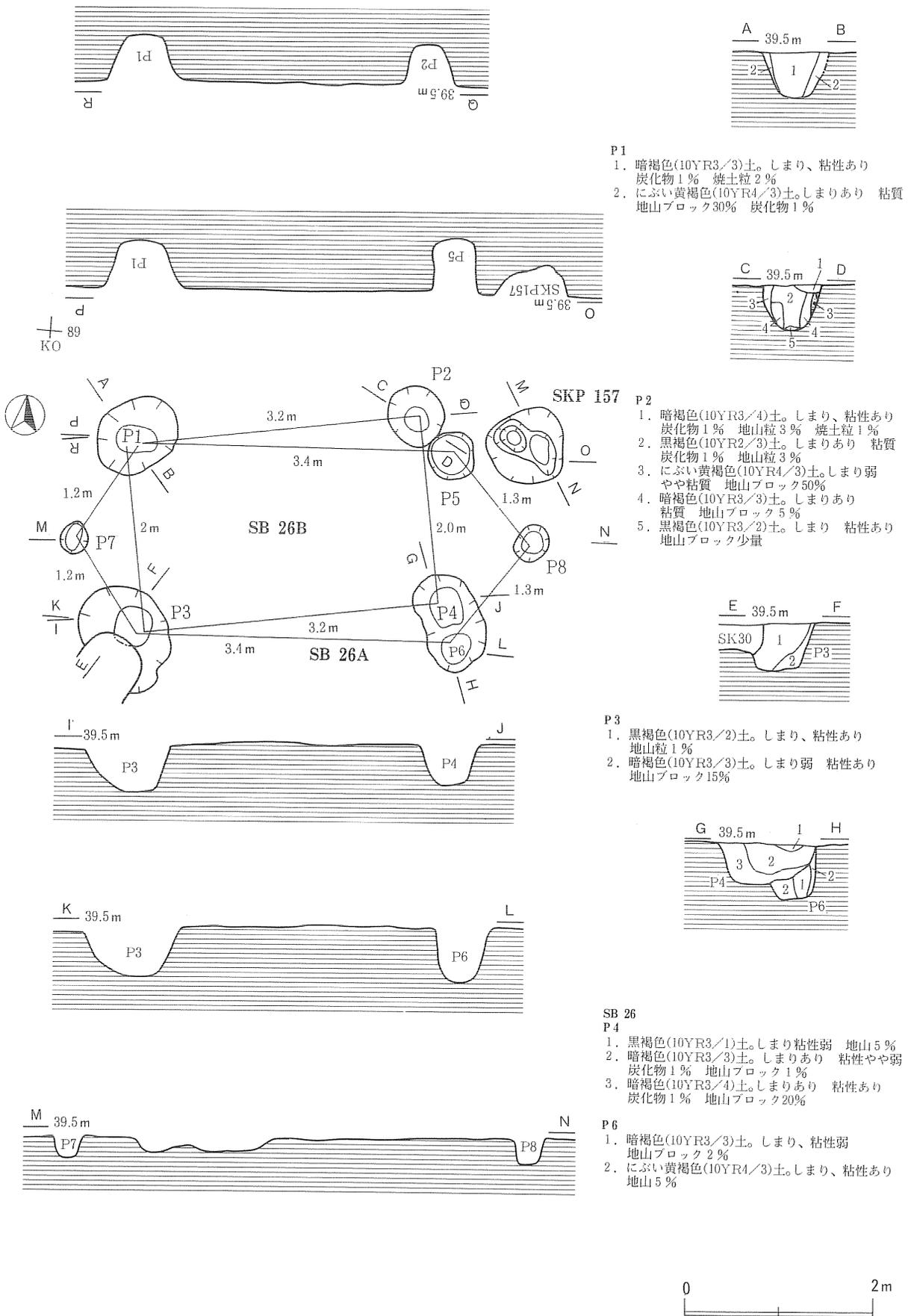


SB 20 P1

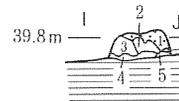
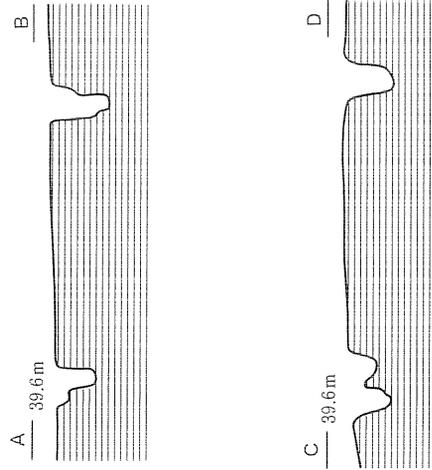
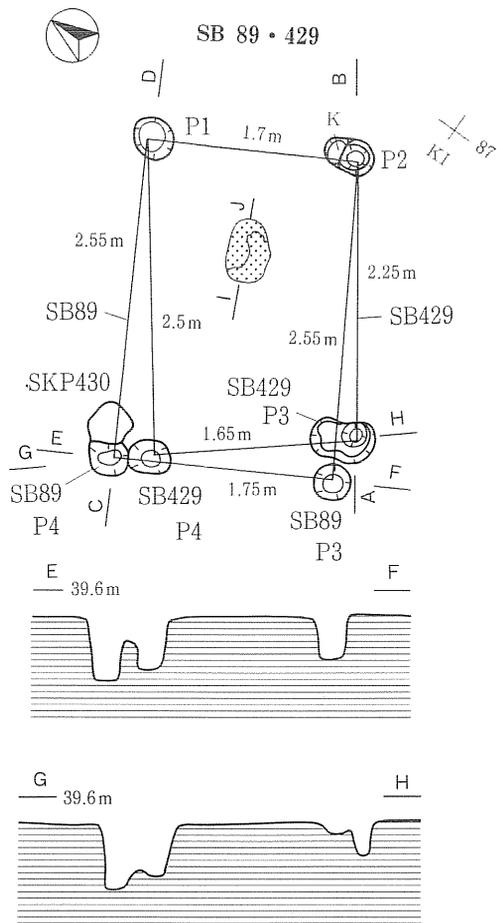
1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 炭化物2% 地山10%
2. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり弱 やや粘質 炭化物1%
地山粒3%
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。しまり 粘性強 炭化物1%
地山ブロック20%



第73図 A区検出遺構SB(2)

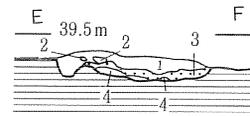
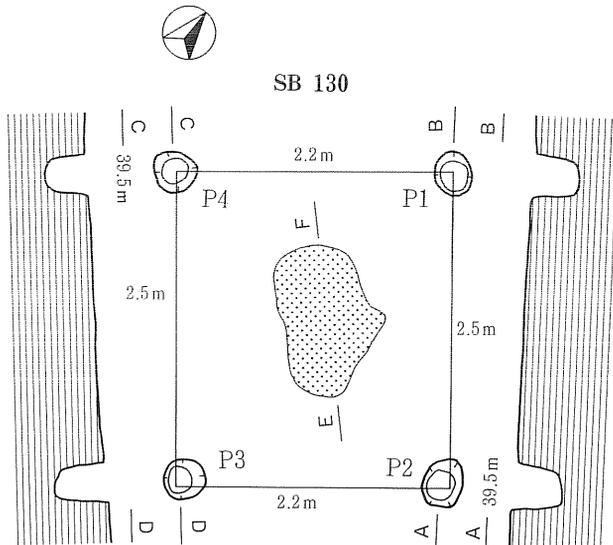


第74図 A区検出遺構SB (3)



SB 89・SB 429 焼土

1. 暗赤褐色(2.5YR3/6)土。粘性、しまり弱 黒褐色土10%
2. 暗褐色(10YR3/4)土。粘性、しまり弱 地山粒1%
3. 黒褐色(10YR2/3)土。粘性、しまり弱 地山粒2%
4. 褐色(10YR4/6)土。粘性、しまり中 地山粒20%
5. 褐色(10YR4/6)土。粘性、しまり強 地山粒50%

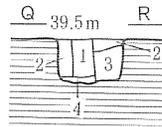
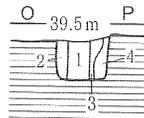
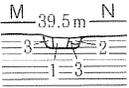
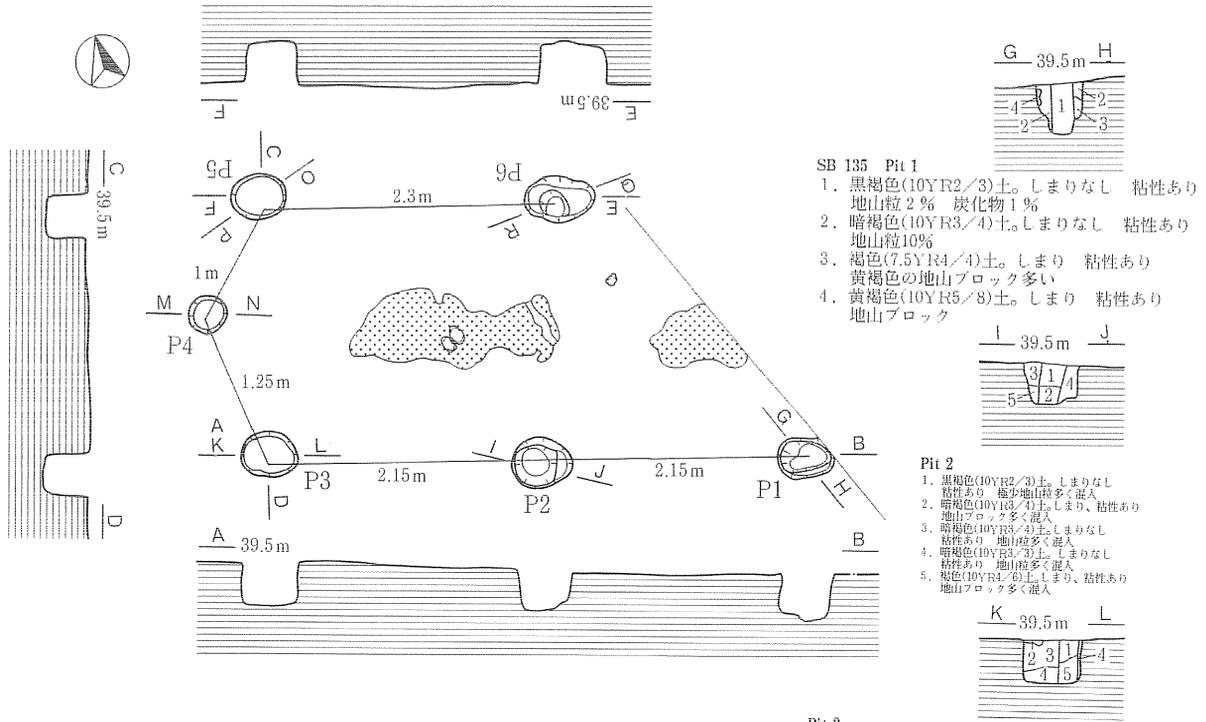


SB 130 焼土B

1. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりあり 粘性あり 炭化物2% 焼土粒3% 地山ブロック3% 赤褐(2.5YR4/6)土5%
2. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり強 粘性弱 暗褐色(10YR3/3)土10%
3. 暗赤褐色(2.5YR3/4)土。しまりあり 粘性あり 炭化物2% 焼土粒2% 暗褐(10YR3/3)土5%
4. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり 粘性あり 炭化物1% 焼土粒2% 地山ブロック5%



第75図 A区検出遺構SB(4)



Pit 4

1. 暗褐色(10YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 地山ブロック多い 焼土粒、炭化物混入
2. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりなし 粘性あり 地山粒多く混入
3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土少量

Pit 5

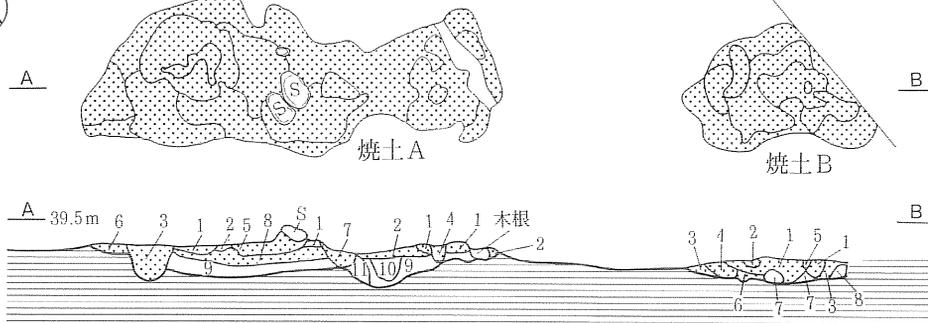
1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり 炭化物1% 地山粒多く混入
2. 暗褐色(10YR3/4)土。しまり、粘性あり 地山ブロック少量 地山粒多く混入
3. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり、粘性あり 地山ブロック、地山粒多く混入
4. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山ブロック、暗褐色土粒2%

Pit 3

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまりなし 粘性あり 地山粒30%
3. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり 粘性あり 炭化物1% 地山粒混入
4. 褐色(10YR4/6)土。しまり 粘性あり 暗褐色土多く混入
5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまり 粘性あり 地山ブロック多く混入

Pit 6

1. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 炭化物1% 地山粒2%
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 地山塊10%
3. 褐色(10YR4/6)土。しまり、粘性あり 地山ブロック多く混入
4. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土粒5%



SB 135 炉

焼土A

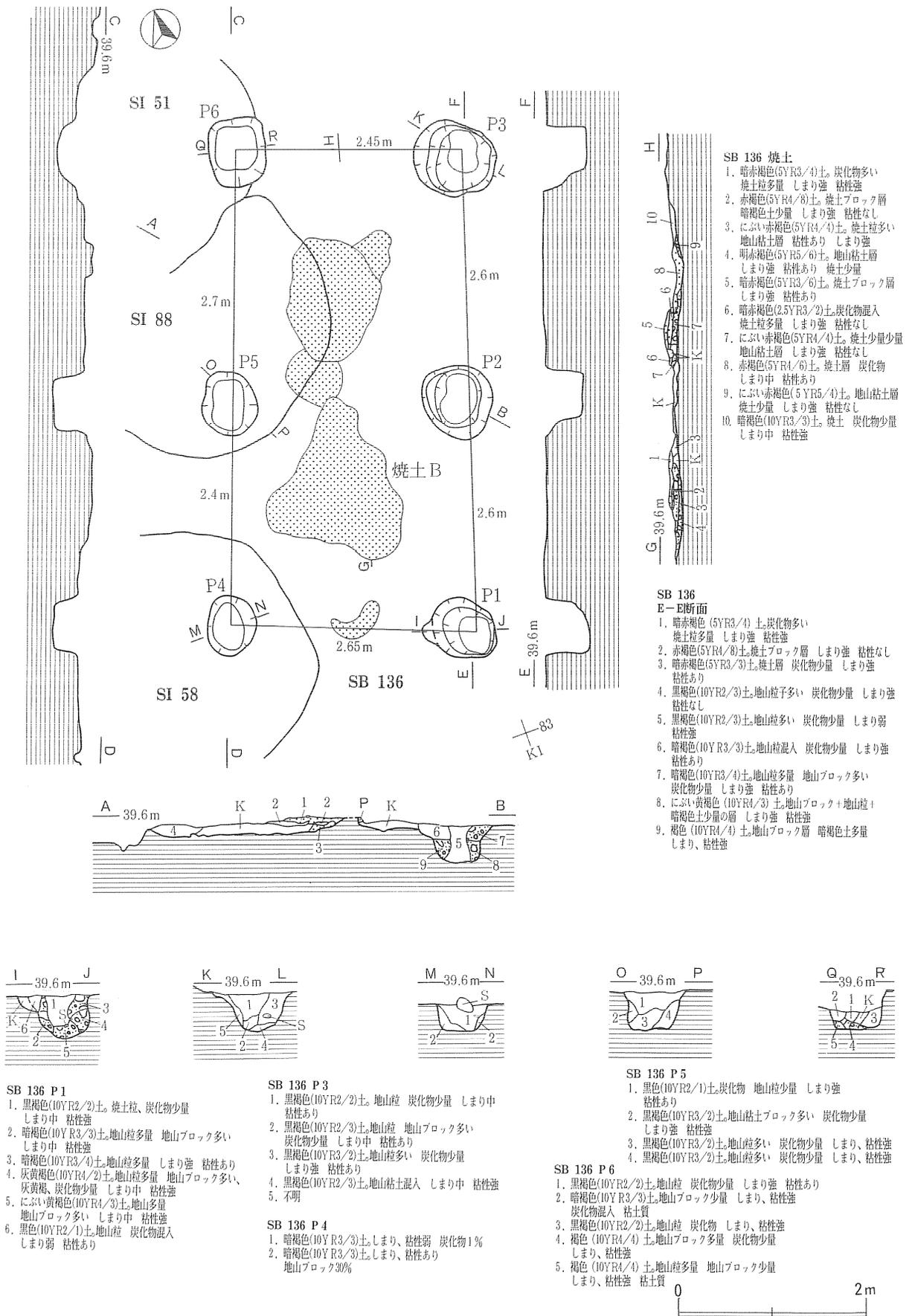
1. 赤褐色(2.5YR4/6)土。しまり強 粘性なし
2. 赤褐色(5YR4/8)土。しまり、粘性あり 暗褐色土多く混入
3. 黒褐色(7.5YR3/2)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒、炭化物2%
4. 黒褐色(5YR2/2)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒多い 炭化物2%
5. 暗赤褐色(5YR3/3)土。しまり、粘性あり 焼土粒1% 焼土ブロック 炭化物1%
6. 褐色(7.5YR4/4)土。しまりなし 粘性なし 焼土粒、炭化物少量 暗褐色土多く混入
7. 黒褐色(5YR2/2)土。しまり、粘性なし 地山粒10% 焼土粒2% 炭化物1%
8. 赤褐色(5YR4/6)土。しまり、粘性あり 褐色土多く混入
9. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまり、粘性あり 焼土粒多く混入
10. 褐色(7.5YR4/6)土。しまり、粘性あり 焼土粒混入 焼土粒 暗褐色土多い 地山ブロック混入
11. 明褐色(7.5YR5/6)土。しまり、粘性あり 暗褐色土10%

SB 135 焼土B

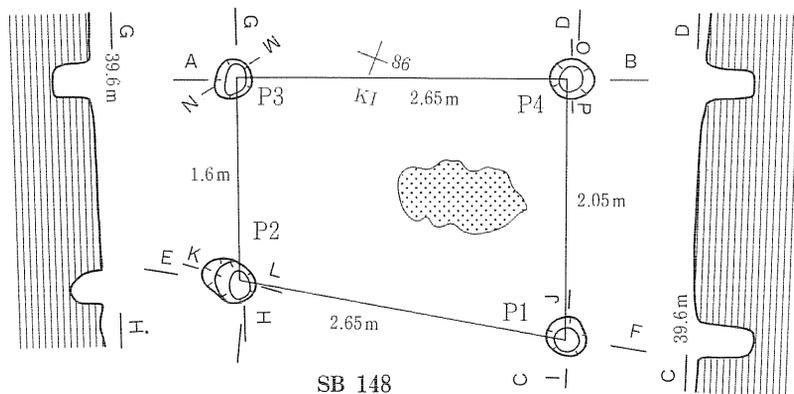
1. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまりあり 粘性なし 暗褐色土多い
2. 赤褐色(5YR4/8)土。しまり 粘性あり 焼土粒5% 暗褐色土多い
3. 赤褐色(5YR4/4)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒10% 暗褐色土多い
4. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまりなし 粘性あり 焼土粒5% 炭化物1%
5. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり、粘性あり 焼土粒少量
6. 赤褐色(5YR4/6)土。しまり、粘性あり 焼土粒多い
7. 褐色(7.5YR4/4)土。しまり、粘性あり 暗褐色土多い 焼土粒少量
8. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまり、粘性あり 炭化物2% 地山粒2%



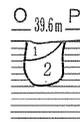
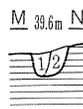
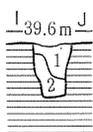
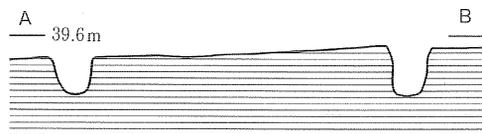
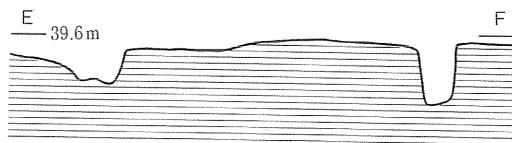
第76図 A区検出遺構SB(5)



第77図 A区検出遺構SB(6)



SB 148



Pit 2

1. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粘土混入
炭化物少量 しまり強 粘性なし

Pit 3

1. 褐色(10YR4/6)土。地山ソフトブロック層
暗褐色土混入 しまり強 粘性あり
2. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粘多量
地山ブロック混入 しまり強 粘性あり

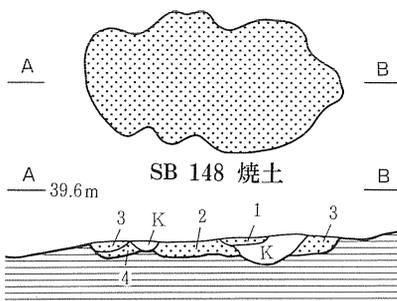
Pit 4

1. 黒褐色(10YR2/2)土。黒色土+地山粒混入
炭化物多量 粘性強 しまり中
2. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粘多量
しまり強 粘性あり

SB 148

Pit 1

1. 黒褐色(10YR3/2)土。地山粒多量 粘性強
2. 褐色(10YR4/4)土。地山ハードブロック多い
しまり、粘性強



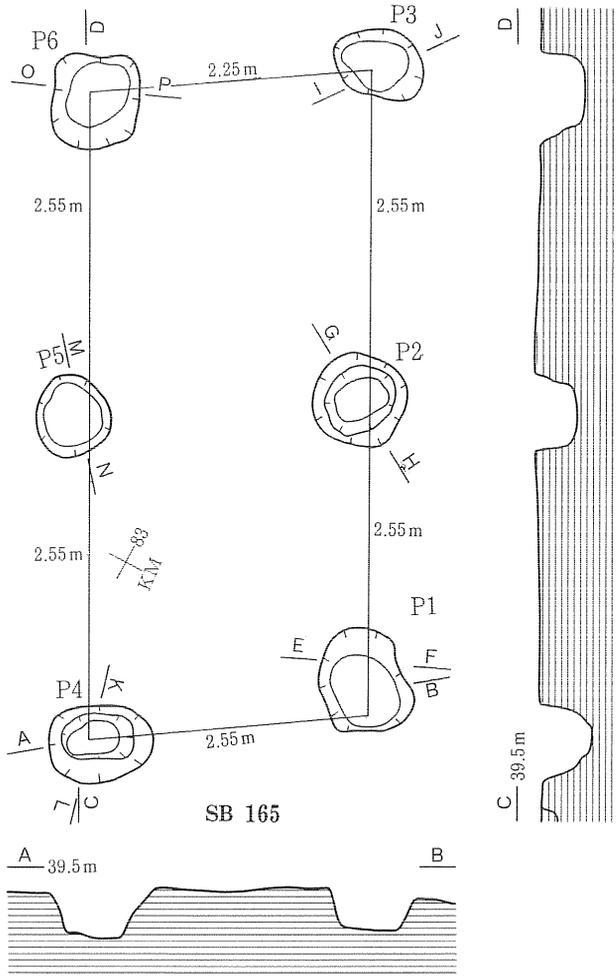
SB 148 焼土

SB 148

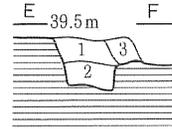
1. 赤褐色(5YR4/8)土。しまり強 粘性あり 焼土層
2. 暗赤褐色(5YR3/4)土。焼土層 炭化物少量 焼土粒少量
しまり、粘性強
3. 暗赤褐色(5YR3/6)土。焼土層 しまり強 粘性あり
4. にぶい赤褐色(5YR4/4)土。焼土層 しまり強 粘性あり



第78図 A区検出遺構SB(7)



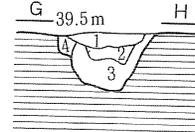
SB 165



SB 165

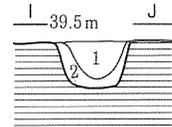
P-1

1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 炭化物少量
砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い
シルト少量 砂質 しまりなし



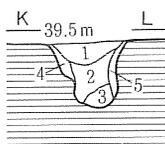
P-2

1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 炭化物少量
粘質 しまりなし
2. 暗褐色(10YR3/4)土。ローム粒 炭化物少量
粘質 しまりなし
3. 暗褐色(10YR3/3)土。ローム粒
ロームブロック炭化物少量 砂質 しまりなし
4. 褐色(10YR4/6)土。ローム粒少量
ロームブロック多い 粘質 しまりあり



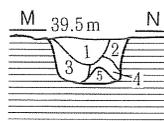
P-3

1. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 シルト
炭化物少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒多い
炭化物少量 砂質 しまりなし



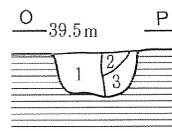
P-4

1. 黒褐色(10YR2/2)土。ローム粒
炭化物少量 粘質 しまりなし
2. 暗褐色(10YR3/4)土。ローム粒
炭化物少量 砂質 しまりなし
3. 褐色(10YR4/4)土。ローム粒
炭化物少量 やや粘質 しまりあり
4. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒
炭化物少量 やや砂質 しまりなし
5. 褐色(10YR4/6)土。ローム粒 炭化物少量
ロームブロック多い 粘質 しまりあり



P-5

1. 黒褐色(10YR2/3)土。ローム粒
炭化物少量 粘質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR2/2)土。ローム粒
炭化物少量 粘質 しまりなし
3. 暗褐色(10YR3/4)土。ローム粒
炭化物少量 砂質 しまりなし
4. 褐色(10YR4/4)土。ローム粒
炭化物少量 粘質 しまりあり
5. 褐色(10YR4/6)土。ローム粒
炭化物少量 粘質 しまりあり

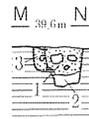
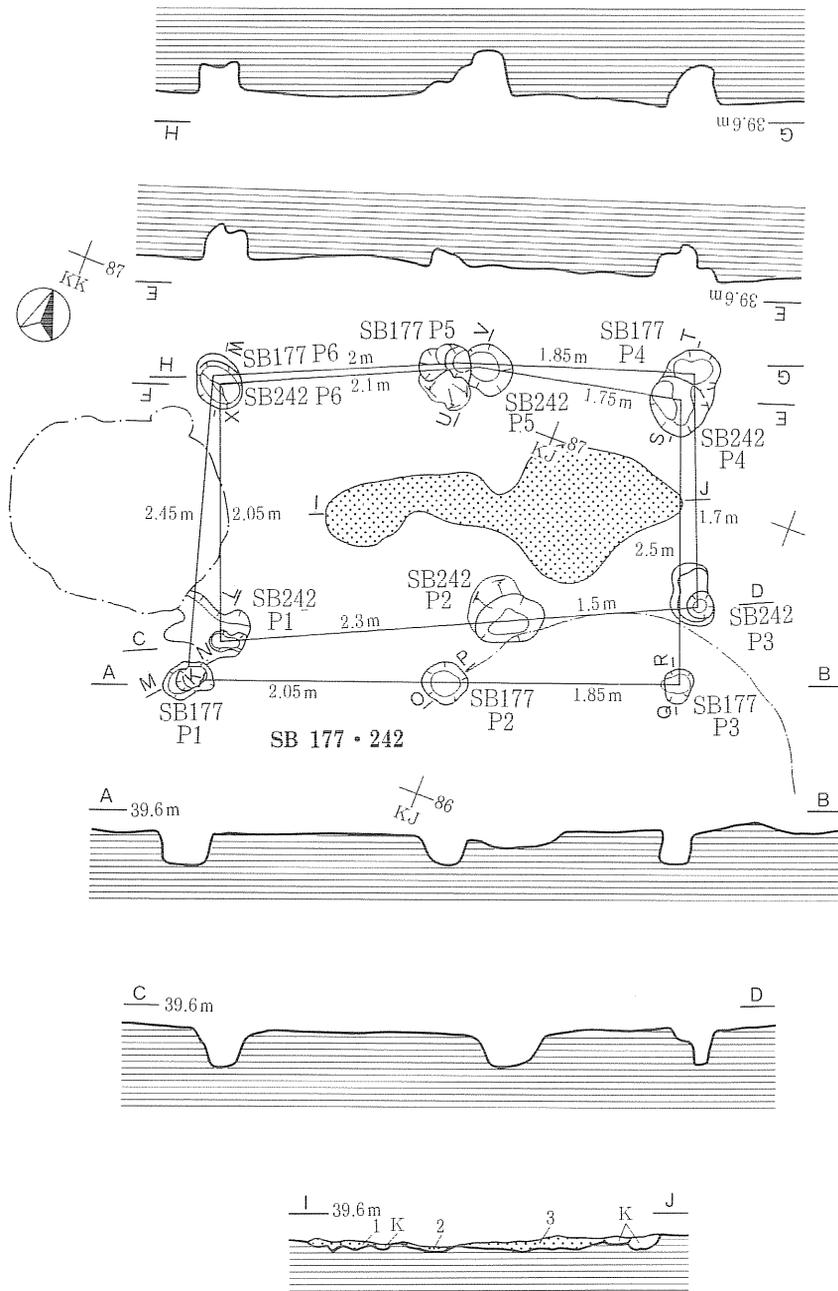


P-6

1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒多い
炭化物少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い
シルト少量 砂質 しまりなし
3. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い
シルト少量 砂質 しまりなし



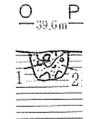
第79図 A区検出遺構SB(8)



SB 177

Pit 1

1. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粒多量 地山ブロック少量 炭化物多い しまり強 粘性なし
2. 黒褐色(10YR2/3)土。しまり中 粘性あり
3. 黒褐色(10YR3/2)土。地山ブロック少量 地山粒多い しまり強 粘性なし



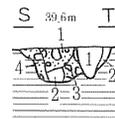
Pit 2

1. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粒多量 炭化物 焼土 しまり強 粘性なし
2. 褐色(10YR4/4)土。地山粘土層 暗褐色土 しまり強 粘性あり



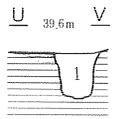
Pit 3

1. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粘土ブロック多い しまり強 粘性あり



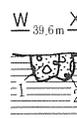
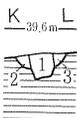
Pit 4

1. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粒多量 粘性 しまり強
2. 黒褐色(10YR2/2)土。地山粒子多い 粘性あり しまり中
3. 褐色(10YR4/4)土。褐色土+地山粒 粘性 しまり強
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粒+地山粘土ブロック しまり中 粘性なし



Pit 5

1. 黒褐色(10YR2/3)土。地山粒多い 炭化物少量 粘性 しまり強



SB 177・242

1. にぶい赤褐色(5YR4/3)土。焼土層 炭化物 焼土(5YR4/8)ブロック しまり 粘性強
2. 暗褐色(7.5YR3/3)土。焼土ブロック多い 炭化物混入 地山粒多量 しまり、粘性強
3. 暗赤褐色(5YR3/6)土。地山粒多量+褐色土多量 炭化物 焼土ブロック多い しまり 粘性強

SB 242 Pit1

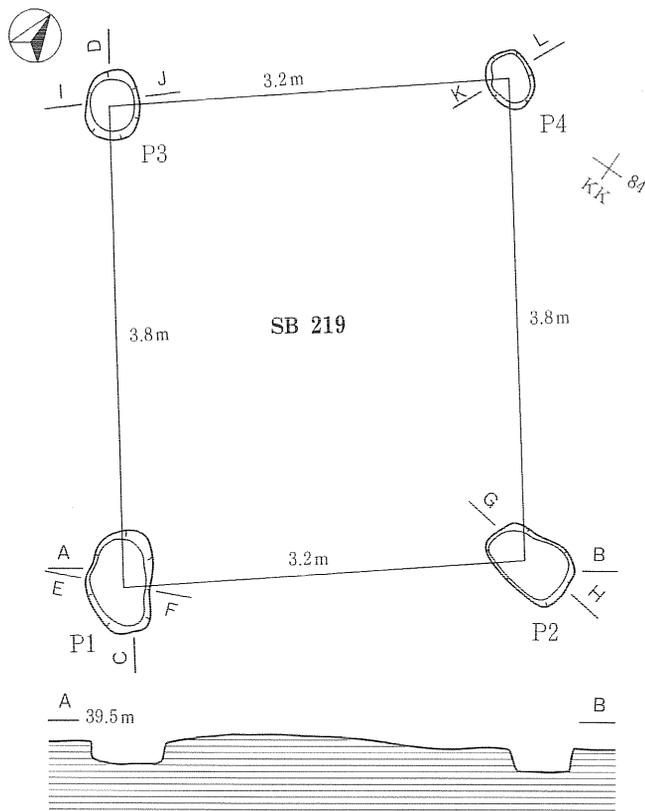
1. 暗褐色(10YR3/3)土。地山粘土多量 炭化物少量 しまり強 粘性強
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。地山粘土+暗褐色土 しまり中 粘性あり
3. 灰黄褐色(10YR4/2)土。地山粘土少量 しまり強 粘性あり

Pit 6

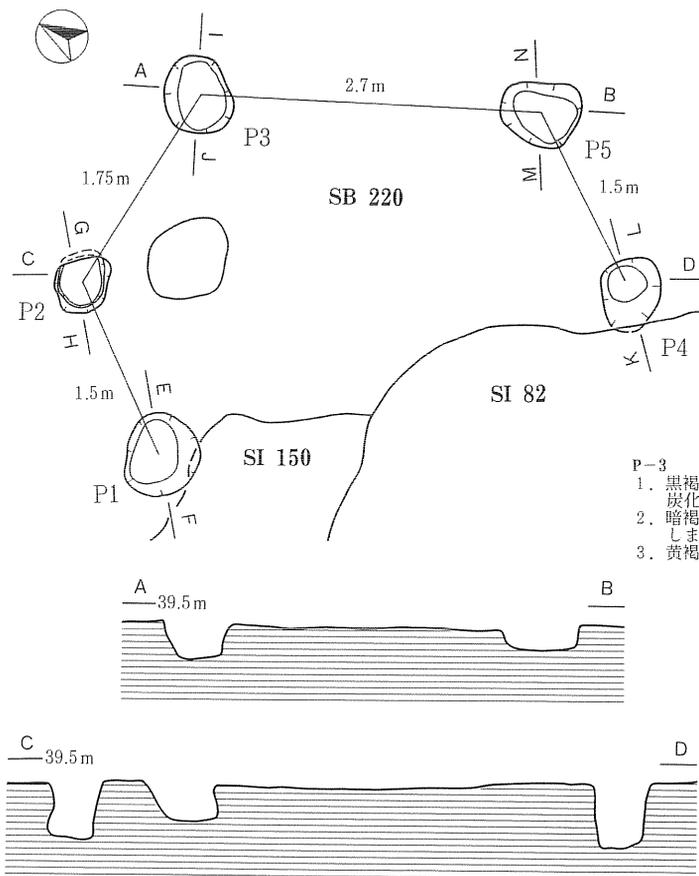
1. 褐色(10YR4/6)土。地山粘土層 暗褐色土混入 しまり 粘性強
2. 暗褐色(10YR3/4)土。地山粘土層 暗褐色土混入 しまり、粘性強



第80図 A区検出遺構SB(9)



- SB 219 P-1**
 1. 黒褐色(10YR2/3)土。ローム粒 シルト微量 砂質 しまりあり
 2. 黒褐色(10YR2/2)土。ローム粒少量 砂質 しまりあり
- SB 219 P-2**
 1. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 炭化物少量 砂質 しまりなし
- SB 219 P-3**
 1. 暗褐色(10YR3/4)土。ローム粒 炭化物少量 砂質 しまりあり
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。ローム粒 炭化物少量 砂質 しまりあり
- SB 219 P-4**
 1. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 炭化物、シルト多い 粘質 しまりなし

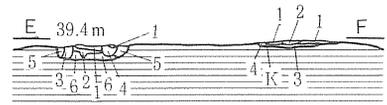
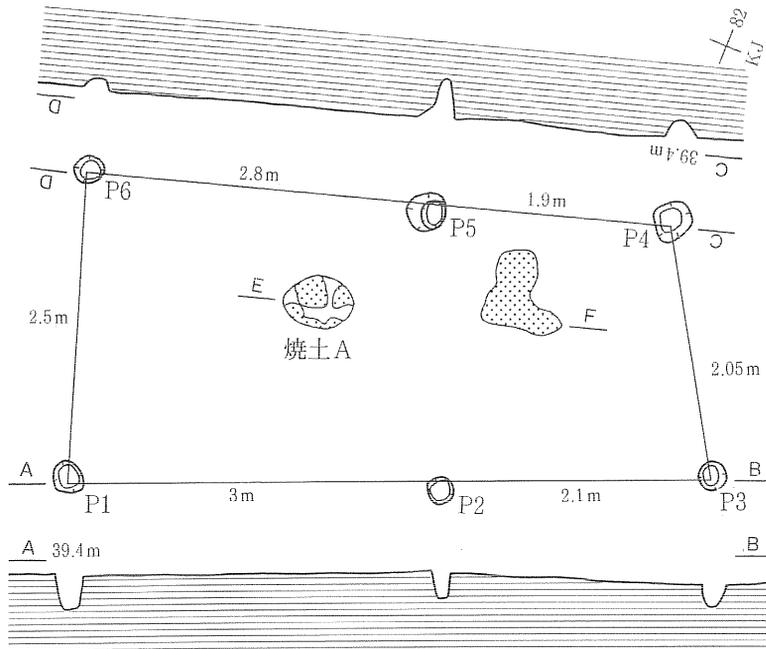


- P-1**
 1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト多い 砂質 しまりなし
- P-2**
 1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒微量 砂質 しまりあり
 2. 黒褐色(10YR2/2)土。シルトを微量 砂質 しまりあり
- P-3**
 1. 黒褐色(10YR2/2)土。ローム粒多い シルト 炭化物少量 砂質 しまりあり
 2. 暗褐色(10YR3/3)土。ローム粒少量 砂質 しまりあり
 3. 黄褐色(10YR5/8)土。砂質 しまりあり
- P-4**
 1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 炭化物少量 粘質 しまりあり
 2. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 炭化物多い 粘質 しまりあり
- SB 220 P-5**
 1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 炭化物少量 粘質 しまりあり
 2. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。ローム粒多い 炭化物少量 粘質 しまりあり

第81図 A区検出遺構SB (10)



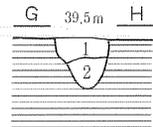
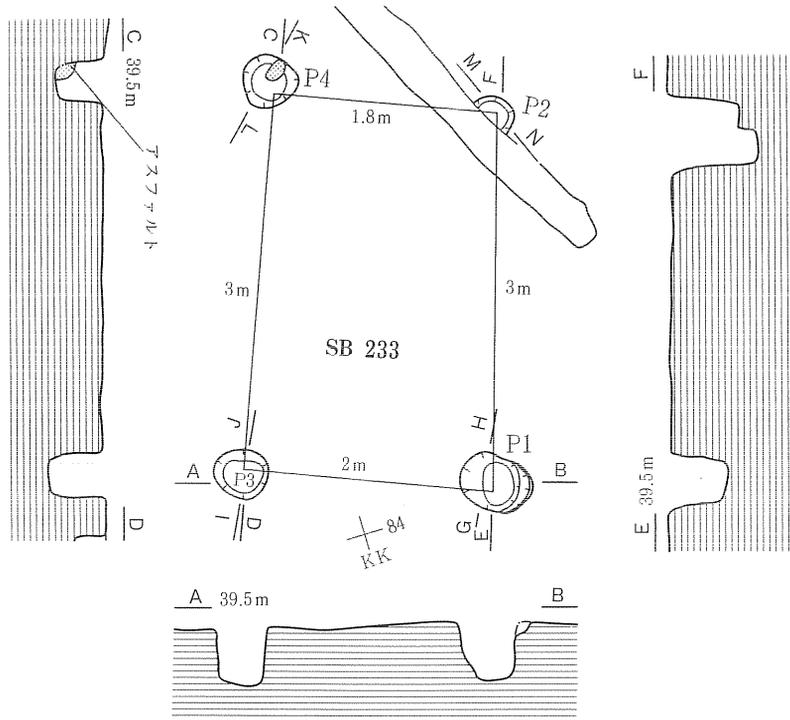
SB 227



- SB 227 焼土A
1. 明赤褐色(5YR5/8)土。しまりあり 粘性なし
 2. 明赤褐色(5YR5/6)土。しまりあり 粘性なし
 3. にぶい褐色(7.5YR5/4)土。しまりあり 粘性あり
黒褐色土粒少量
 4. 暗褐色(7.5YR3/4)土。しまりなし 粘性あり
炭化物2% 焼土粒5%
 5. 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし 粘性あり
炭化物2% 焼土粒5%
 6. 明褐色(7.5YR5/8)土。しまりあり 粘性あり
焼土粒混入

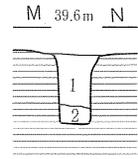
SK 227 B

1. 明赤褐色(2.5YR5/8)土。しまりなし 粘性なし
2. 褐色(7.5YR4/3)土。しまり、粘性あり
焼土塊30%
3. 赤褐色(5YR4/6)土。しまりあり 粘性なし
暗褐色土多い
4. 褐色(7.5YR4/6)土。しまりあり 粘性あり
焼土粒少量 地山粒10%



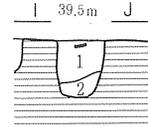
SB 233 P-1

1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト
炭化物少量 砂質 しまりなし
2. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 炭化物多い
シルト少量 粘質 しまりあり



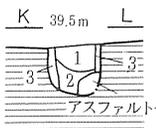
SB 233 P-2

1. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 炭化物
シルト少量 砂質 しまりなし
2. にぶい黄褐色(10YR6/4)土。シルト
炭化物少量 粘質 しまりあり



SB 233 P-3

1. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒多い
炭化物少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒
シルト多い しまりなし

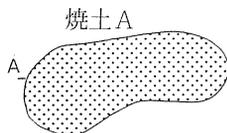
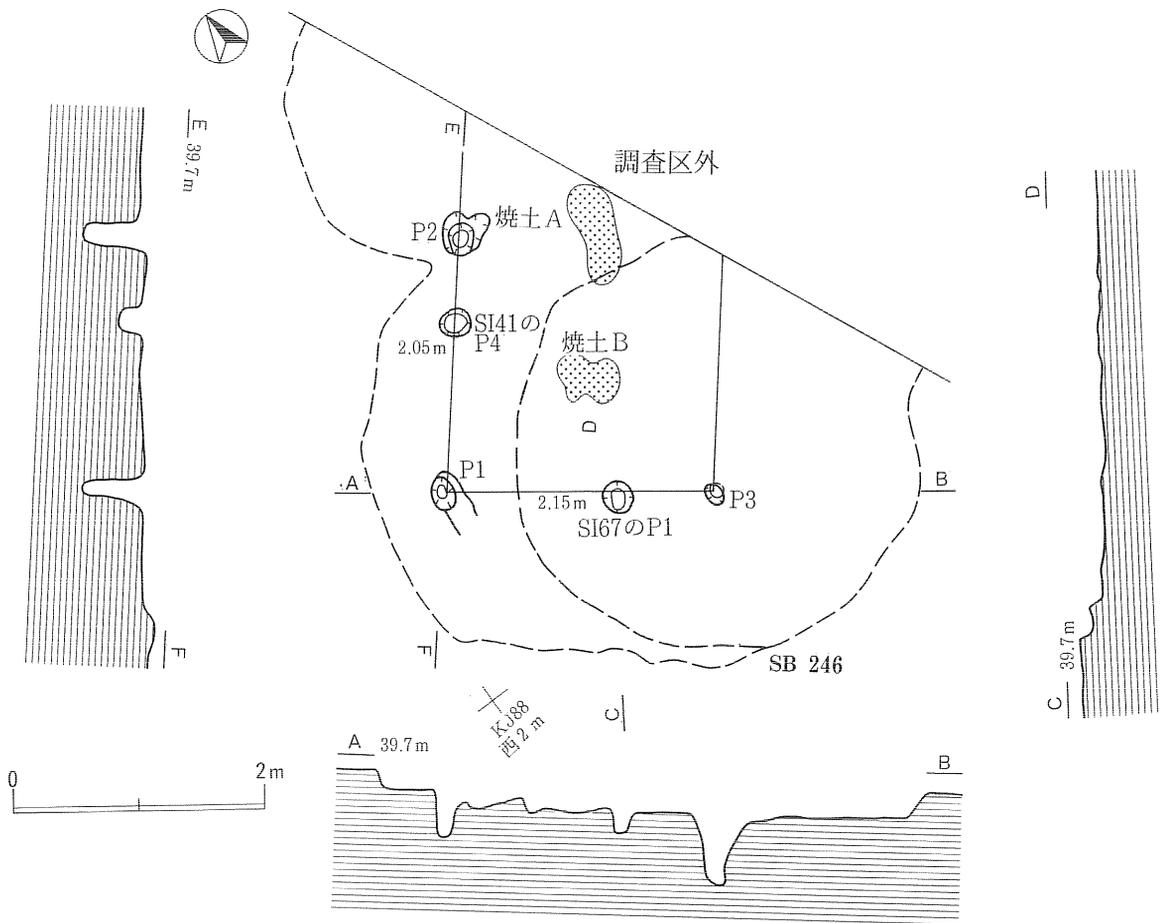
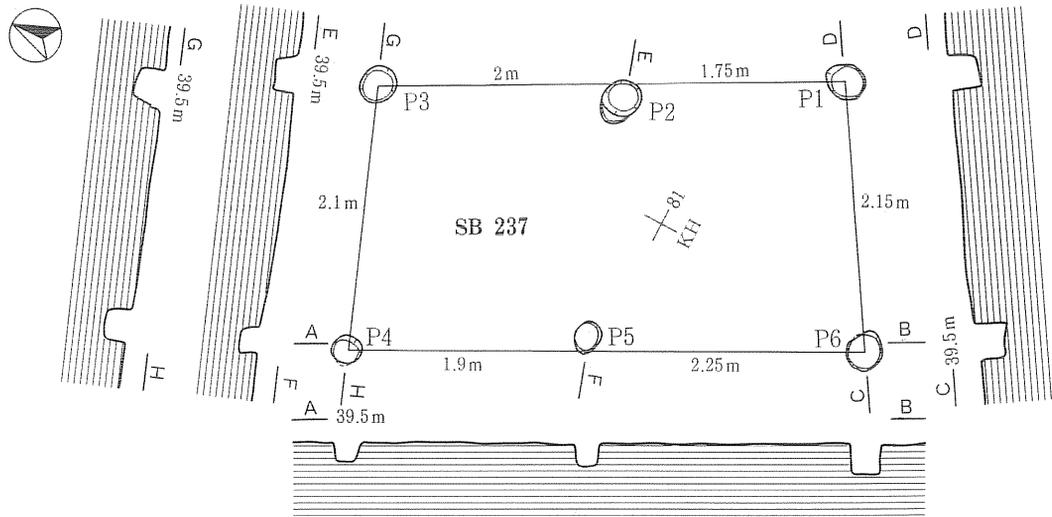


SB 233 P-4

1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒多い
シルト、炭化物少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒 シルト
炭化物少量 砂質 しまりなし
3. にぶい黄褐色(10YR6/4)土。ローム粒多い
シルト少量 粘質 しまりなし



第82図 A区検出遺構SB (11)

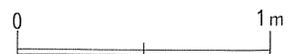
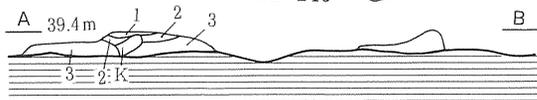


SB 246 焼土a

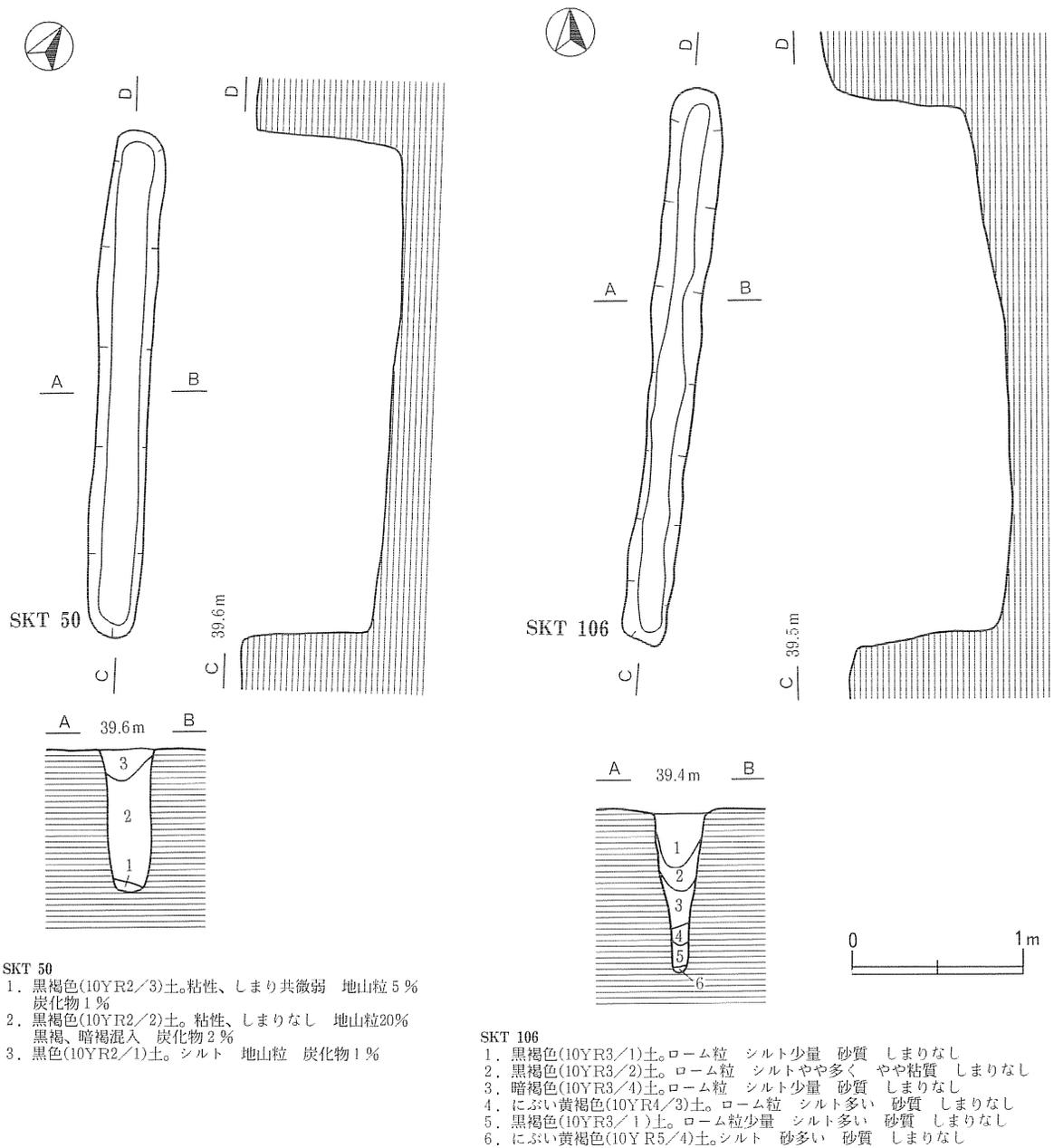
1. 黄褐色(2.5YR 5/3)土。粘土ブロック層
しまり 粘性強
2. 暗褐色(5YR3/2)土。焼土粒+暗褐色土層
粘土粒多い しまり粘性強
3. 赤褐色(2.5YR4/8)土。しまり強
4. 褐色(10YR4/4)土。地山ソフトブロック+褐色土
しまり強 粘性あり

SB 246

1. 黒褐色(10YR3/2)土。粘性強 炭化物多量
焼土粒多い 地山粘土ブロック多い しまり強

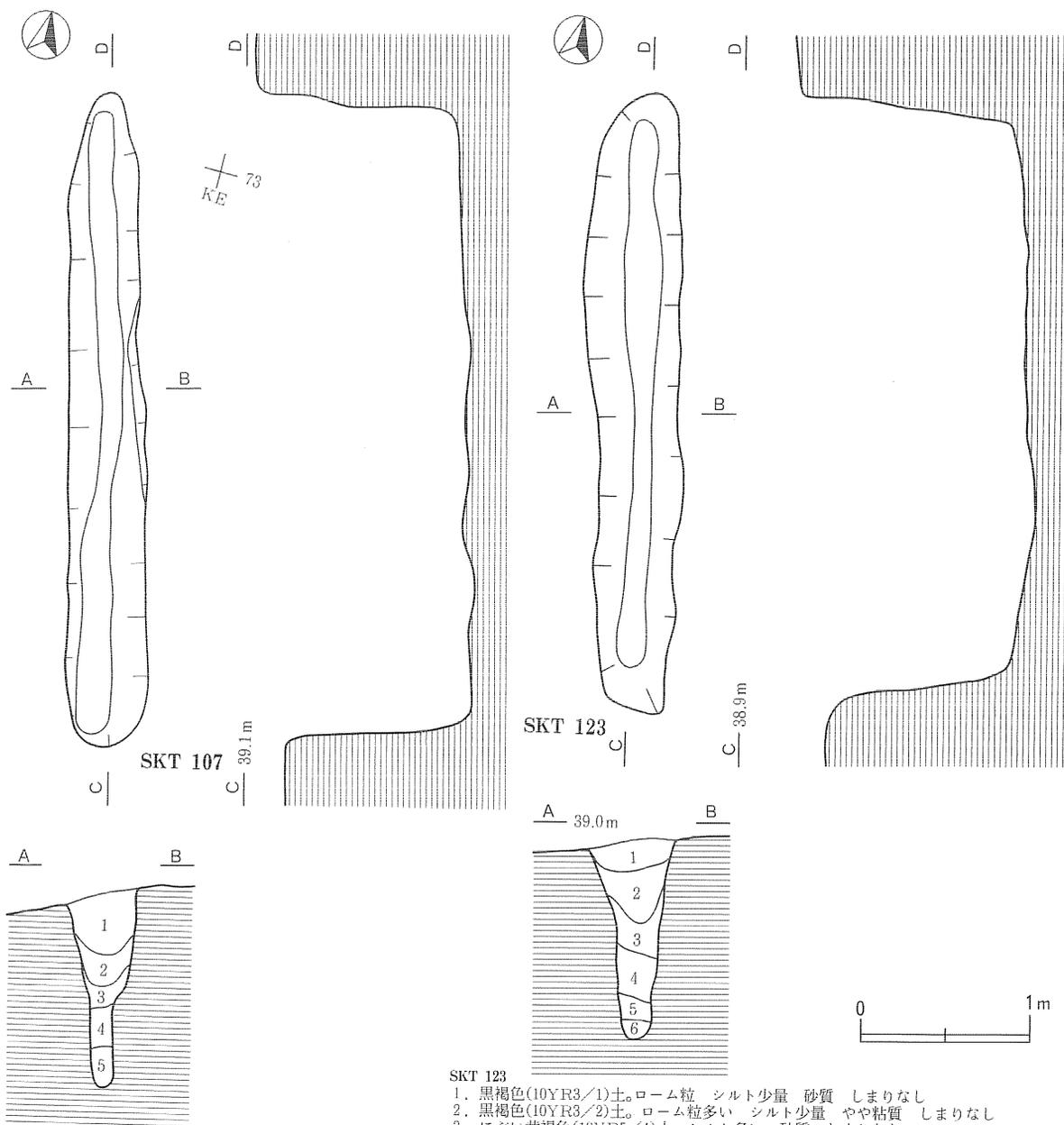


第83図 A区検出遺構SB (12)



遺構番号	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期
SKT 50	KJ 84	296	32	83	縄文土器 (139-737)	
SKT 106	KC 77	325	30	94		

第84図 A区検出遺構SKT(1)



SKT 107

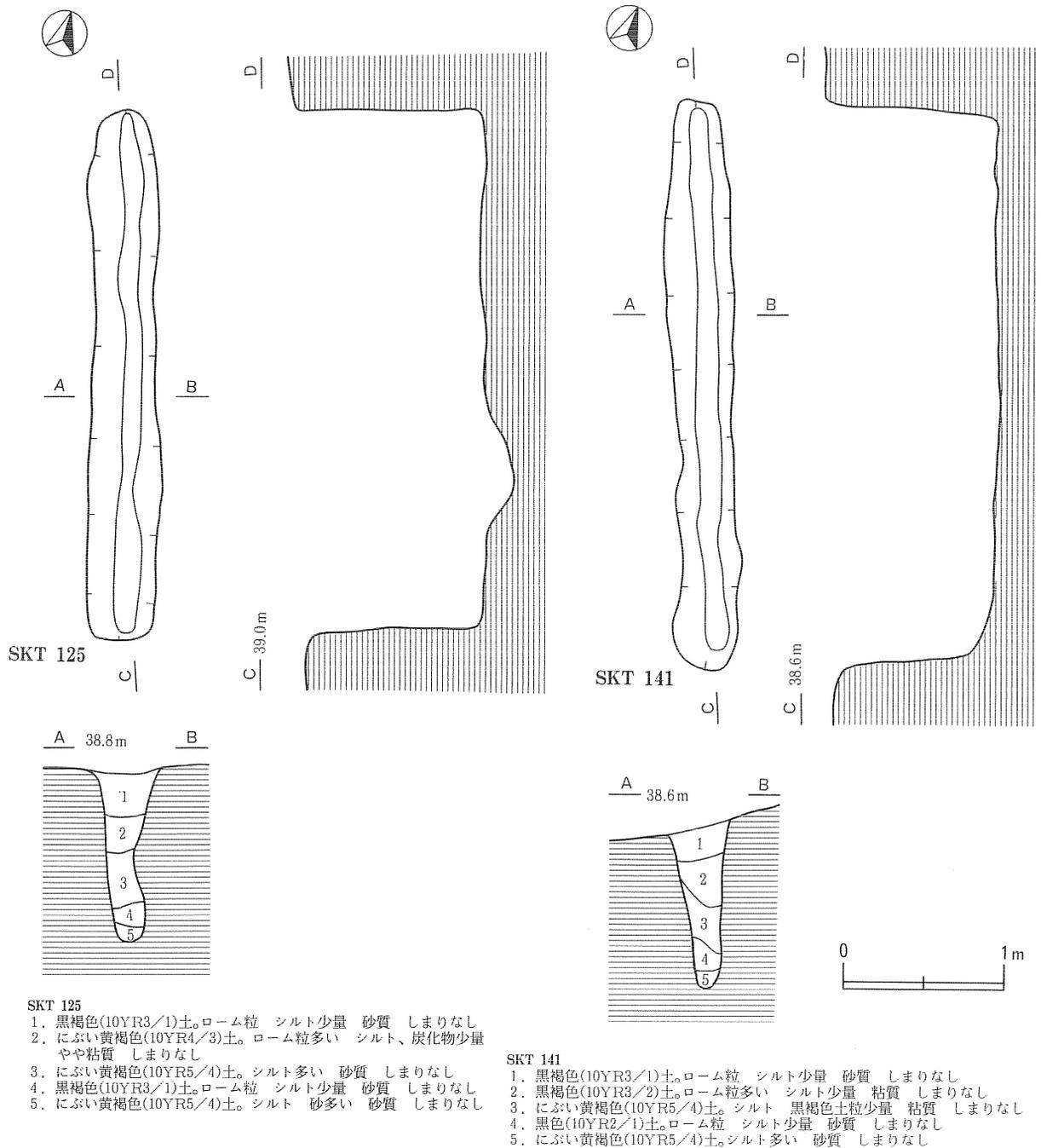
1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い シルト少量 砂質 しまりなし
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。ローム粒 シルト、黒色土粒少量 砂質 しまりなし
4. 褐色(10YR4/4)土。ローム粒 シルト多い 砂質 しまりなし
5. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 シルト少量 砂質 しまりなし

SKT 123

1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト少量 砂質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/2)土。ローム粒多い シルト少量 やや粘質 しまりなし
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。シルト多い 砂質 しまりなし
4. にぶい黄褐色(10YR6/4)土。ローム粒 シルト多い やや粘質 しまりなし
5. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト少量 砂質 しまりなし
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)土。シルト 砂多い 砂質 しまりなし

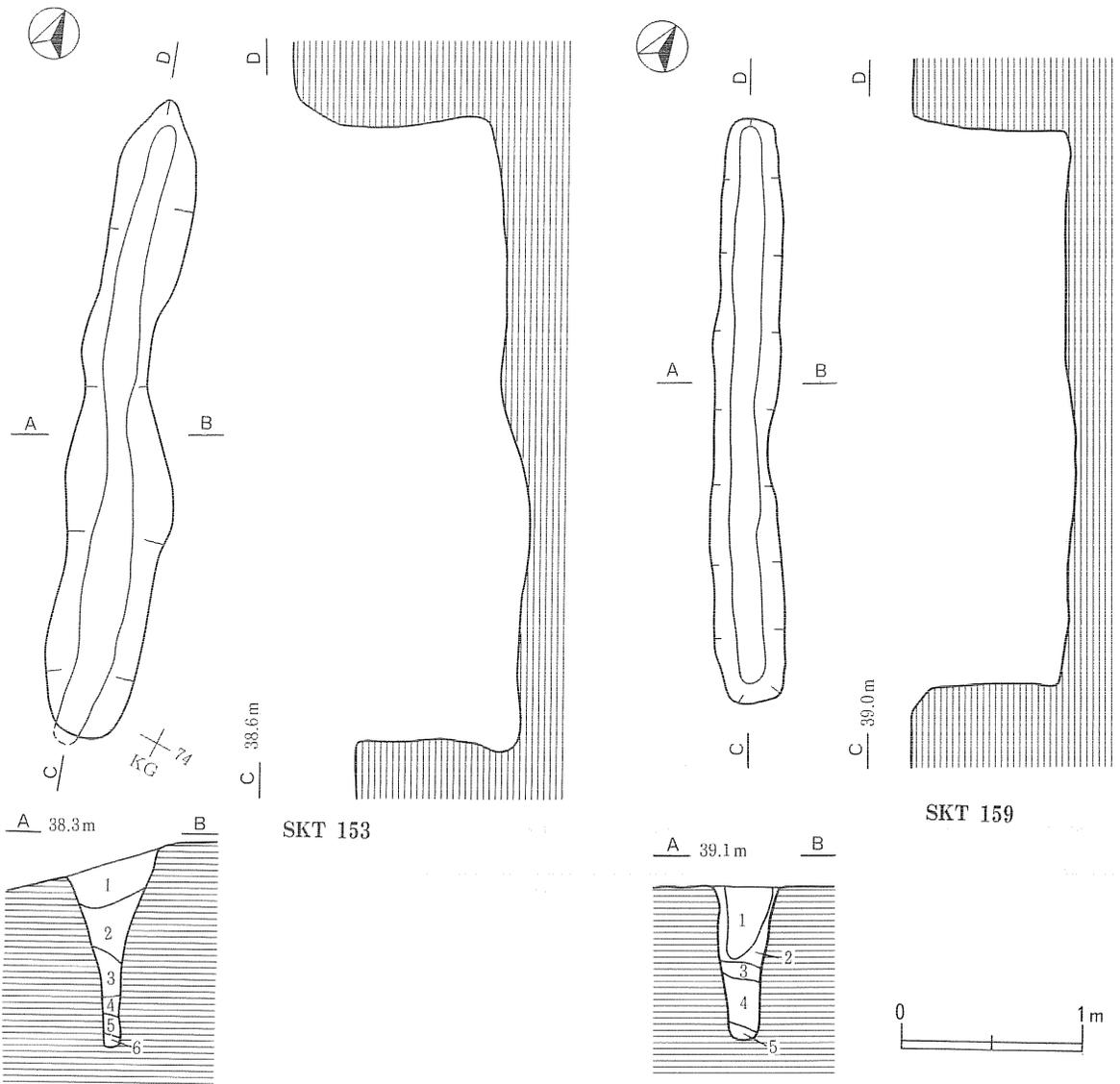
遺構番号	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期
SKT107	KE72・73 KD72	383	47	113		
SKT123	KE72・73	362	57	117	縄文土器 (139-738、739)	中期後半

第85図 A区検出遺構SKT(2)



遺構番号	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期
SKT 1 2 5	KE 7 2・7 3 KF 7 3	328	46	105		
SKT 1 4 1	KF 7 2・7 3	354	42	100	縄文土器 (139-740)	

第86図 A区検出遺構SKT (3)



SKT 153

1. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒 シルト少量
砂質 しまりあり
2. 暗褐色(10YR3/3)土。ローム粒多い シルト少量
砂質 しまりなし
3. 褐色(10YR4/4)土。黒色土粒 シルト少量
粘性、しまりあり
4. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 シルト少量
やや粘質 しまりなし
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)土。シルト多い 砂質
しまりなし
6. 黒褐色(10YR3/2)土。シルト多い 砂質
しまりなし

SKT 159

1. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒少量
やや粘質 しまりなし
2. 黒褐色(10YR3/1)土。ローム粒多い
粘質 しまりなし
3. にぶい黄色(2.5YR6/4)土。ローム粒多い
シルト少量 粘質 しまりなし
4. 黄褐色(2.5YR5/3)土。黒褐色土粒
シルト少量 粘質 しまりなし
5. 黒色(10YR2/1)土。ローム粒 シルト少量
砂質 しまりなし

遺構番号	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期
SKT 153	KG 73・74	352	62	100		
SKT 159	KB 69・70 KC 70	321	40	83		

第87図 A区検出遺構SKT(4)

第2表 A区竪穴住居跡柱穴観察表(1)

住居番号	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SI01	P 1	23	23	12	39.53	
SI01	P 2	25	24	14	39.03	
SI01	P 3	22	22	9	39.09	
SI01	P 4	31	27	56	38.63	
SI01	P 5	28	25	39	38.96	
SI01	P 6	25	21	23	38.96	
SI15	P 1	22	18	17	39.09	
SI15	P 2	20	17	17	39.09	
SI16	P 1	23	18	21	39.17	有孔石製品(22-S1)
SI24	P 1	37	32	10	38.91	
SI24	P 2	20	20	26	38.90	
SI24	P 3	35	30	26	38.92	
SI24	P 4	25	20	21	39.02	
SI24	P 5	23	23	19	39.01	
SI24	P 6	22	20	14	39.08	
SI35	P 1	30	20	58	38.68	
SI35	P 2	28	20	58	38.68	
SI35	P 3	20	19	20	39.15	
SI35	P 4	25	22	14	39.10	
SI35	P 5	17	14	7	39.20	
SI35	P 6	22	20	12	39.12	
SI35	P 7	30	24	11	39.16	
SI35	P 8	24	20	26	39.03	
SI35	P 9	21	17	7	39.21	
SI35	P10	20	20	15	39.14	
SI35	P11	20	20	10	39.19	
SI35	P12	26	23	18	39.10	
SI35	P13	27	27	4	39.04	
SI38	P 1	17	17	26	38.82	
SI38	P 2	不明	不明	不明	不明	
SI38	P 3	30	30	37	38.88	
SI38	P 4	28	23	44	38.74	
SI38	P 5	30	30	48	38.76	
SI38	P 6	50	40	37	38.89	
SI38	P 7	37	35	49	38.79	
SI41	P 1	20	20	7	39.35	
SI41	P 2	24	20	8	39.35	
SI41	P 3	23	20	17	39.21	
SI41	P 4	20	16	9	39.28	
SI41	P 5	20	17	9	39.25	
SI41	P 6	22	12	7	39.38	
SI42	P 1	20	20	12	39.30	
SI42	P 2	20	18	7	39.38	
SI42	P 3	20	15	8	39.35	
SI42	P 4	*25	45	6	39.36	
SI42	P 5	*24	55	5	39.25	
SI42	P 6	87	*72	28	39.15	
SI43	P 1	20	20	17	39.24	
SI43	P 2	17	15	22	38.79	
SI43	P 3	17	13	17	39.16	
SI51	P 1	24	23	57.1	38.70	
SI51	P 2	32	28	57.7	38.70	
SI51	P 3	40	28	15.6	39.10	
SI51	P 4	50	32	17.8	39.10	
SI51	P 5	33	30	10.3	39.20	
SI51	P 6	18	16	8.8	39.20	
SI51	P 7	46	27	13.1	39.10	

*は残存部の数値である

第3表 A区竪穴住居跡柱穴観察表(2)

住居番号	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SI51	P 8	39	21	20.4	39.10	
SI51	P 9	* 19	22	12.4	39.10	
SI51	P 10	23	20	10.4	39.20	
SI51	P 11	16	15	10.3	39.00	
SI51	P 12	25	20	14	39.10	
SI51	P 13	24	18	14	39.10	
SI51	P 14	23	17	17.3	39.10	
SI55	P 1	27	20	11	39.24	
SI55	P 2	16	16	11	39.26	
SI55	P 3	20	20	9	39.28	
SI55	P 4	23	23	9	39.28	
SI55	P 5	30	30	18	39.20	
SI57	P 1	35	22	不明	不明	
SI57	P 2	30	22	不明	不明	
SI58	P 1	40	25	不明	不明	
SI58	P 2	21	11	不明	不明	
SI58	P 3	26	25	不明	不明	
SI58	P 4	25	10	不明	不明	
SI58	P 5	14	14	不明	不明	
SI58	P 6	16	15	不明	不明	
SI58	P 7	23	20	不明	不明	
SI58	P 8	22	18	不明	不明	
SI58	P 9	22	18	不明	不明	
SI58	P 10	21	11	不明	不明	
SI67	P 1	25	25	19	39.15	
SI67	P 2	30	26	24	39.05	
SI67	P 3	21	16	10	39.23	
SI67	P 4	* 40	30	12	39.21	
SI67	P 5	20	17	10	39.22	
SI67	P 6	32	25	23	39.10	
SI67	P 7	26	26	28	39.03	
SI67	P 8	22	20	10	39.20	
SI67	P 9	22	20	18	39.15	
SI67	P 10	25	20	14	39.20	
SI67	P 11	20	20	6	39.23	
SI69	P 1	22	20	8	39.23	
SI69	P 2	32	24	15	39.16	
SI69	P 3	24	22	11	39.19	
SI70	P 1	27	25	43	38.72	
SI70	P 2	21	20	39	38.72	
SI70	P 3	20	20	28	38.95	
SI79	P 1	40	22	56	38.37	
SI79	P 2	33	28	19	38.81	
SI79	P 3	24	22	11	38.77	
SI79	P 4	25	22	20	38.80	
SI79	P 5	22	18	11	38.92	
SI79	P 6	22	20	22	38.72	
SI79	P 7	18	18	3	38.76	
SI82	P 1	30	18	10	38.62	
SI82	P 2	26	26	35	38.59	
SI82	P 3	32	28	38	38.43	
SI82	P 4	31	30	55	38.44	
SI82	P 5	26	21	11	38.90	
SI82	P 6	25	20	20	38.80	
SI82	P 7	23	19	43	38.46	
SI82	P 8	17	14	10	38.78	
SI82	P 9	52	42	12	38.62	
SI82	P 10	60	42	不明	不明	

*は残存部の数値である

第4表 A区竪穴住居跡柱穴観察表(3)

住居番号	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SI82	P 11	29	24	22	38.75	
SI82	P 12	26	24	22	38.69	
SI82	P 13	29	26	29	38.68	
SI83	P 1	13	13	15	38.41	
SI83	P 2	16	13	7	38.51	
SI83	P 3	30	25	4	38.52	
SI83	P 4	32	22	39	38.45	
SI83	P 5	26	24	38	38.36	
SI83	P 6	44	35	38	38.46	
SI83	P 7	50	40	43	38.39	
SI83	P 8	44	30	49	38.34	
SI83	P 9	45	32	49	38.33	
SI83	P 10	45	40	31	38.54	
SI83	P 11	25	21	30	38.53	
SI83	P 12	54	42	45	38.47	
SI83	P 13	62	48	29	38.56	
SI83	P 14	24	17	7	38.82	
SI83	P 15	52	40	48	38.36	
SI86	P 1	16	16	18	不明	
SI86	P 2	40	37	54	38.38	
SI86	P 3	40	35	33	38.60	
SI86	P 4	21	20	25	不明	
SI86	P 5	20	20	不明	不明	
SI86	P 6	20	17	36	39.00	
SI86	P 7	17	15	44	39.01	
SI86	P 8	37	33	46	39.00	
SI86	P 9	52	47	61	38.30	
SI86	P 10	35	34	32	38.59	
SI86	P 11	48	40	38	38.54	
SI88	P 1	57	55	24.9	39.10	
SI88	P 2	28	22	12.6	39.20	
SI88	P 3	30	22	15	39.20	
SI88	P 4	22	18	9.6	39.30	
SI94	P 1	40	32	21	39.19	
SI94	P 2	21	21	14	39.24	
SI94	P 3	18	18	17	39.21	
SI96	P 1	44	42	20	38.71	
SI96	P 2	35	32	7	39.03	
SI96	P 3	25	20	4	39.04	
SI96	P 4	30	24	5	39.01	
SI96	P 5	25	20	3	39.06	
SI96	P 6	24	18	3	39.05	
SI96	P 7	18	15	5	38.97	
SI96	P 8	18	10	6	39.01	
SI99	P 1	47	36	29	38.78	
SI99	P 2	28	22	29	38.79	
SI99	P 3	35	35	26	38.86	
SI99	P 4	46	37	20	38.90	
SI99	P 5	36	31	8	38.89	
SI99	P 6	33	28	36	38.63	
SI99	P 7	25	24	39	38.60	
SI99	P 8	30	30	25	38.72	
SI108	P 3	20	20	35	38.87	
SI113	P 1	40	25	31	38.76	
SI113	P 2	31	25	24	38.90	
SI113	P 3	21	17	不明	不明	
SI113	P 4	40	37	25	38.91	
SI113	P 5	*32	35	18	38.93	

*は残存部の数値である

第5表 A区竖穴住居跡柱穴観察表(4)

住居番号	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SI113	P 6	22	20	7	39.05	
SI113	P 7	25	22	43	38.70	
SI113	P 8	27	25	30	38.84	
SI113	P 9	33	31	13	39.04	
SI113	P10	20	16	5	39.06	
SI116	P 1	40	38	25	38.30	
SI116	P 2	20	20	22	38.37	
SI116	P 3	不明	不明	11	38.66	
SI116	P 4	50	50	41	38.27	
SI116	P 5	28	28	31	38.39	
SI116	P 6	61	42	46	38.34	
SI116	P 7	72	50	51	38.34	
SI116	P 8	40	21	15	38.63	
SI116	P 9	45	45	19	38.60	
SI116	P10	34	30	37	38.45	
SI116	P11	50	32	37	38.48	
SI116	P12	56	46	46	38.32	
SI116	P13	70	48	44	38.40	
SI116	P14	25	15	36	38.41	
SI116	P15	38	32	36	38.41	
SI116	P16	55	32	33	38.49	
SI116	P17	56	48	31	38.49	
SI116	P18	52	50	50	38.32	
SI116	P19	21	20	11	38.68	
SI116	P20	23	20	24	38.54	
SI116	P21	54	45	24	38.60	
SI126	P 1	15	15	16	39.01	
SI142	P 1	45	37	16	39.04	
SI142	P 2	30	29	19	39.12	
SI142	P 3	44	30	38	39.01	
SI142	P 4	42	26	42	38.94	
SI142	P 5	43	40	32	39.10	
SI142	P 6	30	22	不明	不明	
SI142	P 7	26	25	13	39.34	
SI142	P 8	40	35	24	39.26	
SI142	P 9	32	22	11	39.35	
SI142	P10	48	27	18	39.25	
SI142	P11	47	36	22	39.21	
SI142	P12	38	30	40	39.10	
SI142	P13	75	41	10	39.30	
SI150	P 1	37	32	12	39.10	
SI150	P 2	44	40	53	28.72	
SI150	P 3	64	50	39	39.00	
SI150	P 4	40	29	40	38.86	
SI150	P 5	30	29	20	39.16	
SI150	P 6	28	25	15	39.16	
SI150	P 7	38	35	41	38.85	
SI151	P 1	32	26	16	38.94	
SI151	P 2	33	30	12	38.99	
SI151	P 3	20	20	19	38.93	
SI152	P 1	30	18	11	38.90	
SI152	P 2	27	23	41	38.78	
SI152	P 3	22	15	15	38.88	
SI152	P 4	15	14	9	39.11	
SI152	P 5	30	22	38	38.77	
SI152	P 6	31	21	6	39.12	
SI152	P 7	46	36	48	38.70	
SI152	P 8	45	24	49	38.68	

第6表 A区竪穴住居跡柱穴観察表(5)

住居番号	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SI152	P 9	62	57	55	38.59	
SI152	P 10	36	26	12	38.97	
SI152	P 11	27	27	30	38.82	
SI152	P 12	40	32	12	38.99	
SI152	P 13	60	47	38	38.74	
SI169	P 1	34	30	50	38.78	
SI169	P 2	26	23	7	39.00	
SI169	P 3	25	25	10	38.93	
SI186	P 1	38	38	38	38.79	
SI186	P 2	26	18	27	38.84	
SI186	P 3	20	18	27	38.73	
SI186	P 4	32	30	17	38.82	
SI207	P 1	36	32	19	39.07	
SI207	P 2	30	25	9	39.17	
SI207	P 3	23	18	20	39.20	
SI207	P 4	15	12	9	39.19	
SI207	P 5	18	16	15	39.18	
SI207	P 6	17	17	14	39.17	

第7表 A区掘立柱建物跡観察表

遺構名	位置(グリッド)	柱間	主軸方位	規模: cm	焼土規模: cm			掘形径: cm	深さ: cm	出土遺物
					長軸	短軸	厚さ			
SB03	KM・KL89・90	2×1	N-8°-E	西桁405、南梁270	A 200	83	10	31~55	19~34	縄文土器(137-684~690) 円蓋状土製品(154-941) 鋸齒状石器(185-S341) 有孔石製品(148-S3) フレックII(185-S334, S335, S337~339) フレックI(185-S336, 186-S342) 石核1点(185-S340)
					B 87	66	8			
SB13	KM・KN90	1×1	N-34°-W	西桁315、南梁250	118	65	20	35~62	30~40	磨製石斧(186-S334, S347) フレックI(186-S345) 石槍尖頭器(186-S346) 縄文土器(137-691) 円蓋状土製品(154-942)
SB20	KO89	1×1	N-53°-W	北桁255、西梁225	167	65	17	27~46	24~40	縄文土器(137-692, 693)
SB26A	KM・KN88	1×1	N-86°-E	桁340、梁200				30~64	24~57	無し
SB26B	KM・KN88	1×1	N-78°-E	桁405、梁200				60~106	44~48	縄文土器(137-694)
SB89	KI87・86	1×1	N-57°-E	桁255、西梁175				25~36	33~50	縄文土器(137-695) フレックII(186-S348)
SB130	KM90・KN90・91	1×1	N-40°-W	桁250、梁220	122	80	20	30~40	34~41	縄文土器(137-696~703) フレックI(187-S349)
SB135	KG81・82、KF81	2×1	N-77°-W	南桁430、西梁205	A 165	56	16	30~55	32~40	縄文土器(137-704~706, 138-707, 708) 搔器(187-S350, S351) フレックI(187-S352, S353) フレックII(187-S354)
					B 残存部70	44	9			
SB136	KI・HK83、84	2×1	N-19°-W	東桁520、南梁265	A 130	98	12	53~86	27~44	磨石(187-S355~S357) 敲石(187-S358) フレックI(188-S359) 縄文土器(138-709~715)
					B 180	135	13			
SB148	KH85・86、KI85	2×1	N-76°-E	桁265、東梁205	104	52	16	30~44	18~41	無し
SB165	KL~KN82・83	2×1	N-62°-E	桁510、梁225				55~85	35~52	石核(188-S360) 縄文土器(138-716~723)
SB177	KI、KJ86・87	2×1	N-70°-E	南桁390、東梁250	285	110	10	22~47	20~35	縄文土器(138-724~727) 石籠(188-S362) フレックII(188-S363, S364) 磨石(188-S361)
SB219	KK82~84、KJ83	1×1	N-37°-W	桁380、梁320				35~82	15~27	縄文土器(138-728, 729)
SB220	KK、KL82・83	2×1	N-29°-W	東桁270、北梁285				45~66	21~48	縄文土器(138-730~733)
SB227	KJ80~82、KK81	2×1	N-20°-W	西桁510、北梁250	A 56	41	10	20~34	10~31	縄文土器(138-736)
					B 71	41	4			
SB233	KK84、KJ83・84	1×1	N-19°-E	西桁300、南梁200				35~57	40~55	縄文土器(138-734, 735)
SB237	KG・KH80、81	2×1	N-25°-E	西桁415、南梁215				20~36	15~25	無し
SB242	KI・KJ86、87	2×1	N-68°-E	北桁385、西梁205				30~56	18~36	無し
SB246	KJ88	2×1	N-39°-E	北桁(300)、西梁215	A 82	35	10	14~33	50~56	無し
					B 54	35	10			
SB429	KI87・86	1×1	N-55°-E	北桁250、東梁170	50	34	20	25~51	30~47	無し

第8表 A区掘立柱建物跡柱穴観察表(1)

掘立柱建物跡	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SB03	P1	55	42	23	39.10	
SB03	P2	52	45	26	39.09	
SB03	P3	53	41	19	39.09	
SB03	P4	43	31	34	38.97	
SB03	P5	46	31	25	39.05	
SB03	P6	45	41	32	39.01	
SB13	P1	52	45	30	38.96	
SB13	P2	62	51	38	38.98	
SB13	P3	54	35	40	39.01	
SB13	P4	52	45	30	39.01	
SB20	P1	46	44	36	38.90	
SB20	P2	32	27	37	38.90	
SB20	P3	31	30	24	39.04	
SB20	P4	42	32	40	38.94	
SB26	P1	93	72	48	38.90	
SB26	P2	62	60	48	38.97	
SB26	P3	106	*53	48	38.88	
SB26	P4	106	62	44	38.97	
SB26	P5	51	51	52	38.87	
SB26	P6	64	59	57	38.81	
SB26	P7	35	30	24	39.17	
SB26	P8	40	33	26	39.26	
SB89	P1	36	30	38	39.07	
SB89	P2	28	25	47	38.99	
SB89	P3	30	28	33	39.07	
SB89	P4	*30	30	50	39.08	
SB429	P1	36	30	38	39.07	
SB429	P2	28	25	47	38.99	
SB429	P3	52	34	30	39.13	
SB429	P4	33	26	38	38.98	
SB130	P1	35	30	36	38.87	
SB130	P2	40	31	41	38.91	
SB130	P3	34	31	41	38.89	
SB130	P4	36	32	34	38.87	
SB135	P1	45	32	40	38.91	
SB135	P2	48	40	33	39.00	
SB135	P3	45	35	34	39.02	
SB135	P4	30	30	8	39.28	
SB135	P5	43	35	32	39.04	
SB135	P6	55	35	34	39.02	
SB136	P1	72	62	44	39.00	
SB136	P2	78	78	40	39.09	
SB136	P3	86	76	40	39.06	
SB136	P4	64	60	27	39.08	
SB136	P5	67	53	40	39.09	
SB136	P6	72	60	40	39.08	
SB148	P1	32	30	41	39.08	
SB148	P2	44	30	26	39.22	
SB148	P3	32	30	18	39.20	
SB148	P4	35	31	35	39.16	
SB165	P1	85	68	40	38.98	
SB165	P2	77	77	45	38.96	
SB165	P3	76	55	37	38.99	
SB165	P4	82	60	52	38.88	
SB165	P5	65	58	35	39.08	

*は残存部の数値である

第9表 A区掘立柱建物跡柱穴観察表(2)

掘立柱建物跡	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
SB165	P6	85	81	35	38.96	
SB177	P1	40	26	30	39.16	
SB177	P2	37	35	23	39.16	
SB177	P3	28	24	22	39.18	
SB177	P4	45	* 26	26	39.16	
SB177	P5	40	26	35	39.05	
SB177	P6	47	38	20	39.08	
SB242	P1	45	30	18	39.11	
SB242	P2	56	38	24	39.12	
SB242	P3	37	30	27	39.13	
SB242	P4	48	41	25	39.16	
SB242	P5	* 35	38	36	39.04	
SB242	P6	47	38	20	39.08	
SB219	P1	82	52	17	39.13	
SB219	P2	72	50	15	39.19	
SB219	P3	55	44	20	39.12	
SB219	P4	45	45	27	39.10	
SB220	P1	66	60	30	39.05	
SB220	P2	51	45	45	38.88	
SB220	P3	61	53	26	39.08	
SB220	P4	57	48	48	38.84	
SB220	P5	62	55	21	39.14	
SB227	P1	23	21	30	39.01	
SB227	P2	20	20	21	39.08	
SB227	P3	21	21	20	39.00	
SB227	P4	34	21	15	30.14	
SB227	P5	30	30	31	39.98	
SB227	P6	23	28	10	39.24	
SB233	P1	57	43	40	38.98	
SB233	P2	35	* 20	55	38.82	
SB233	P3	44	39	44	38.89	
SB233	P4	42	42	40	38.96	
SB237	P1	32	27	21	39.13	
SB237	P2	36	28	25	39.14	
SB237	P3	30	27	16	39.21	
SB237	P4	23	20	15	39.16	
SB237	P5	26	20	18	39.11	
SB237	P6	32	30	22	39.04	
SB246	P1	27	18	50	39.08	
SB246	P2	40	33	52	38.76	
SB246	P3	17	14	56	39.08	

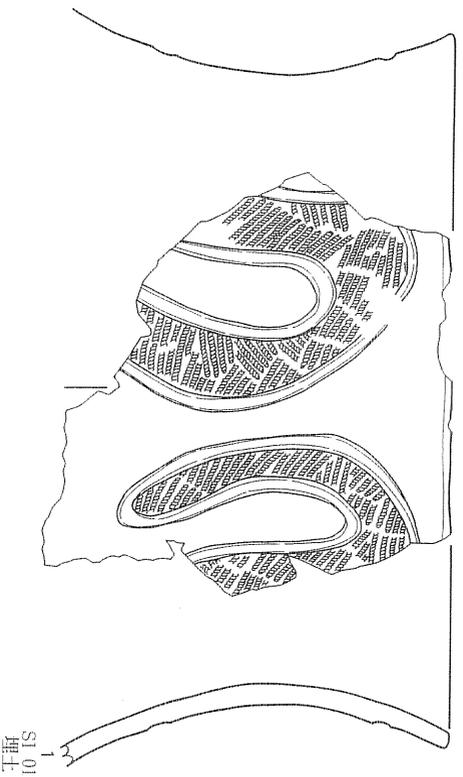
* は残存部の数値である

第10表 A区SKP（柱穴）計測表（1）

遺構番号	検出位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	出土遺物
P 33	KO87	楕円形	54	46	20	39.326	石槍尖頭器 (188-S365)
P 143	KO89・90	楕円形	65	42	36	38.920	
P 147	KO91	円形	35	35	37	38.926	
P 157	KN88	不整円形	85	85	33	39.120	
P 174	KN87	隅丸方形	80	80	33	39.141	縄文土器 (139-741)
P 243	KK84	円形	32	32	23	39.110	
P 244	KN82	円形	31	28	15	39.140	
P 245	KM・KL82	円形	40	40	16	39.480	
P 247	KN81	不整円形	49	48	32	38.892	
P 248	KN82	円形	40	35	19	39.061	
P 249	KN82	円形	30	25	17	39.068	
P 250	KN82	円形	29	29	13	39.092	
P 251	KN81	円形	37	37	36	38.709	
P 350	KM88	不整方形	57	36	22	39.210	
P 351	KN86	楕円形	52	36	15	39.360	
P 354	KN86	楕円形	60	50	22	39.280	
P 357	KO88	円形	30	30	20	39.200	
P 358	KM86	円形	43	33	23	39.260	
P 362	KP85	円形	47	45	18	39.160	土剣 (146-857)
P 364	KO79・80	楕円形	53	42	34	39.700	
P 367	KO84	不整円形	45	40	33	39.800	
P 368	KP84	楕円形	37	29	30	39.020	
P 369	KP84	円形	30	30	21	39.100	
P 370	KL86	円形	32	32	32	39.050	
P 373	KO・KP89	隅丸方形	45	45	26	38.900	
P 375	KO88	円形	23	21	22	39.160	
P 376	KN・KO88	円形	27	24	28	39.700	
P 377	KO90	楕円形	42	34	26	38.990	
P 378	KN86・87	楕円形	37	27	26	39.180	
P 379	KN86	円形	36	36	25	39.190	
P 380	KN86	楕円形	35	26	21	39.220	
P 381	KO・KN86	円形	50	45	23	39.200	
P 382	KM86	楕円形	40	30	31	39.070	
P 383	KM86	円形	37	34	32	39.170	
P 384	KM85・86	円形	41	37	28	39.190	
P 385	KP83・84	円形	36	36	20	39.800	
P 386	KP83	不整楕円形	56	45	29	38.940	
P 387	KP82	円形	37	33	25	38.950	

第11表 A区SKP（柱穴）計測表（2）

遺構番号	検出位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	出土遺物
P 388	KP82	円形	32	30	20	39.000	
P 389	KO84	円形	32	29	24	39.110	
P 391	KM88	円形	38	38	20	39.220	
P 392	KM88	橢円形	43	34	26	39.170	
P 393	KM87	円形	35	35	19	39.290	
P 394	KL87	円形	30	28	18	39.250	
P 395	KL87	円形	30	27	23	39.190	
P 396	KL86	橢円形	40	32	28	39.160	
P 397	KL86	円形	35	30	28	39.160	
P 399	KN85	円形	32	27	32	39.070	
P 400	KN85	円形	25	25	33	39.040	
P 401	KN85	円形	22	22	33	38.960	
P 402	KO85	円形	44	39	17	39.190	
P 403	KN85	円形	22	22	21	39.190	
P 404	KN85	円形	27	27	18	39.210	
P 405	KN85	円形	30	30	18	39.250	
P 406	KN・KO84	円形	27	27	15	39.120	
P 407	KL84	橢円形	33	26	21	39.180	
P 408	KN83	円形	38	33	15	39.190	石核 (188-S366)
P 409	KP82	橢円形	30	21	18	38.980	
P 410	KN83	円形	19	16	9	39.250	
P 411	KN83	円形	20	16	8	39.240	
P 412	KK84	円形	28	26	15	39.230	
P 413	KN84	円形	30	30	26	39.120	
P 425	KN・KO91	円形	32	26	33	38.840	
P 426	KH86	円形	30	30	18	39.320	
P 427	KI85	円形	30	27	26	39.140	
P 428	KH85	橢円形	42	37	20	39.320	
P 430	KI87	不整円形	35	30	21	39.214	
P 431	KL90	橢円形	52	40	35	39.086	
P 432	KL89	橢円形	50	46	33	39.069	
P 433	KM90	円形	35	35	19	39.043	



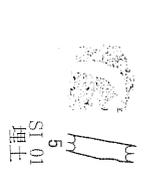
1
SI 01
埋土



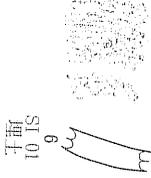
3
SI 01
埋土



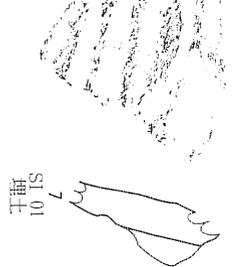
4
SI 01
埋土



5
SI 01
埋土



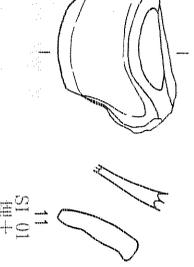
6
SI 01
埋土



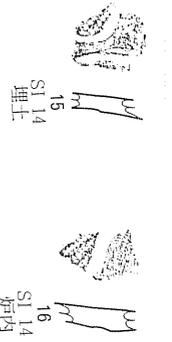
7
SI 01
埋土



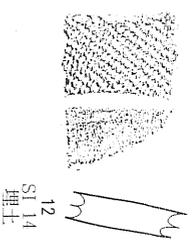
8
SI 01
埋土



9
SI 01
埋土



10
SI 01
埋土



11
SI 01
埋土



12
SI 14
埋土



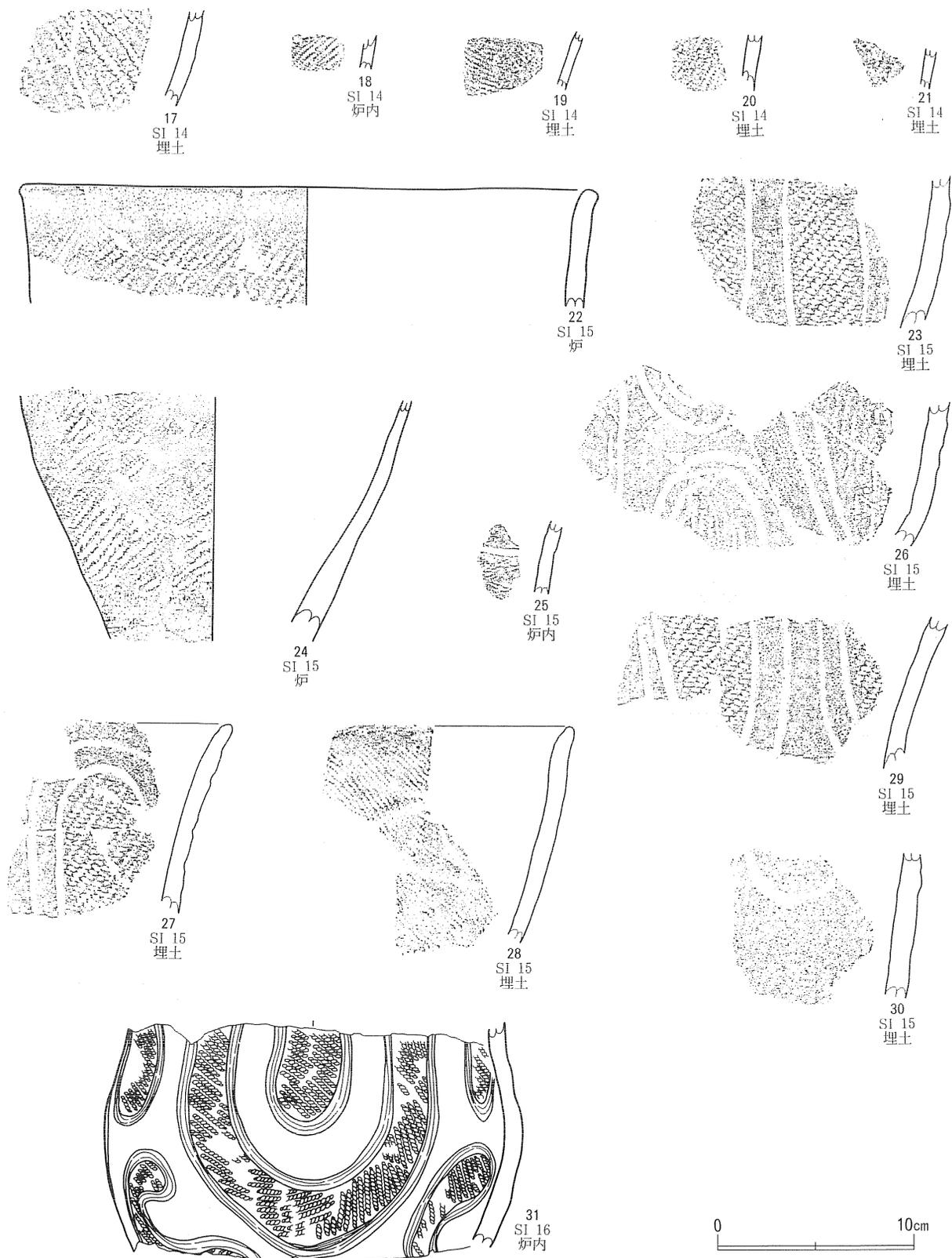
13
SI 14
埋土



14
SI 14
灰内

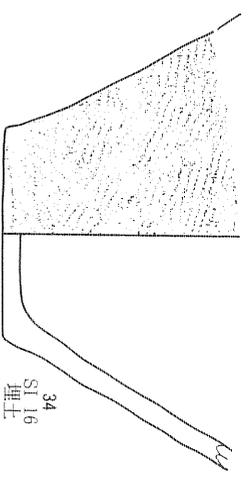
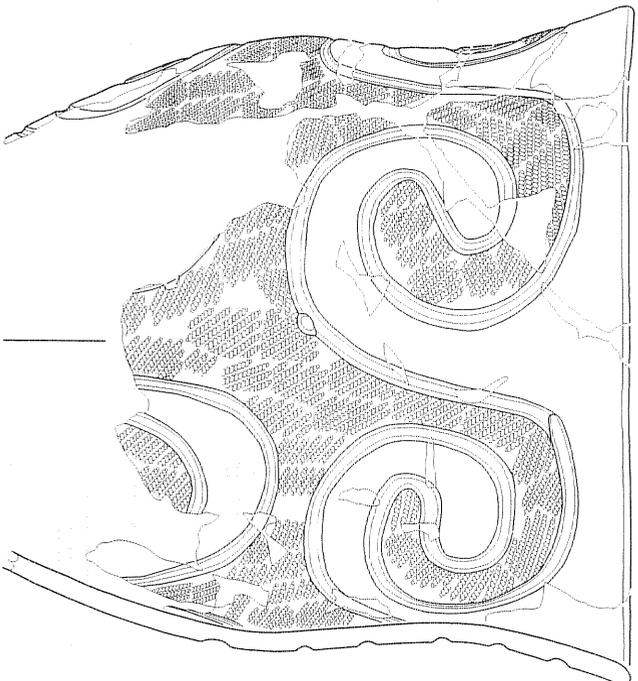
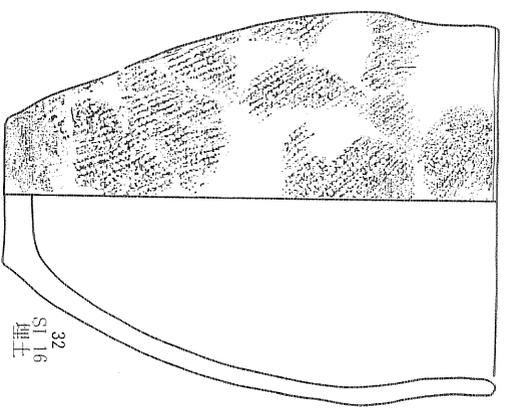
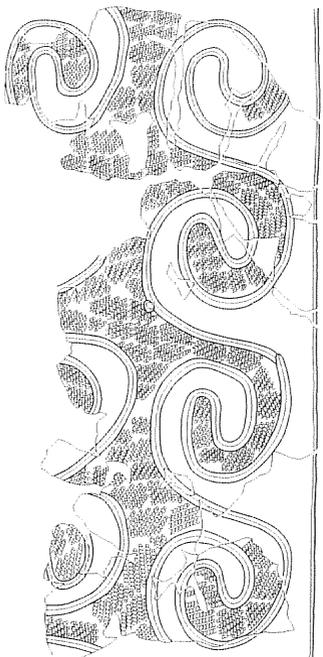
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
1	SI 01	深鉢形土器	28.6	-	(16.3)	精選	7.5YK7/6 内橙 外にSUV橙	
2	SI 01 灰	深鉢形土器	25.5	-	(19.8)	砂粒少量混入	7.5YK7/4 内 にSUV橙 外 黄橙 7.5YK7/8	

第88図 A区遺構内出土土器類(1)



番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
22	SI 15 炉	深鉢形土器	29.5	-	(6.0)	砂粒少量混入	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 10YR8/3 浅黄橙	
24	SI 15 炉	深鉢形土器	-	-	(12.2)	砂粒やや多く混入	内 10YR7/6 明黄褐 外 7.5YR7/8 黄橙	
31	SI 16 炉	深鉢形土器	-	-	(12.1)	細砂粒少量混入	内 7.5YR7/3 にぶい橙 外 7.5YR7/6 橙	金雲母少量

第89図 A区遺構内出土土器類(2)



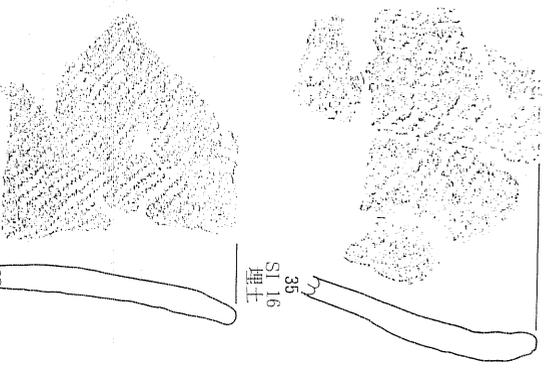
33
SI 16
埋土

32
SI 16
埋土

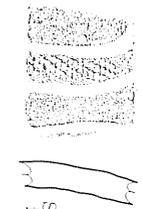
34
SI 16
埋土



36
SI 16
埋土



37
SI 16
埋土



38
SI 16
埋土



39
SI 16
埋土

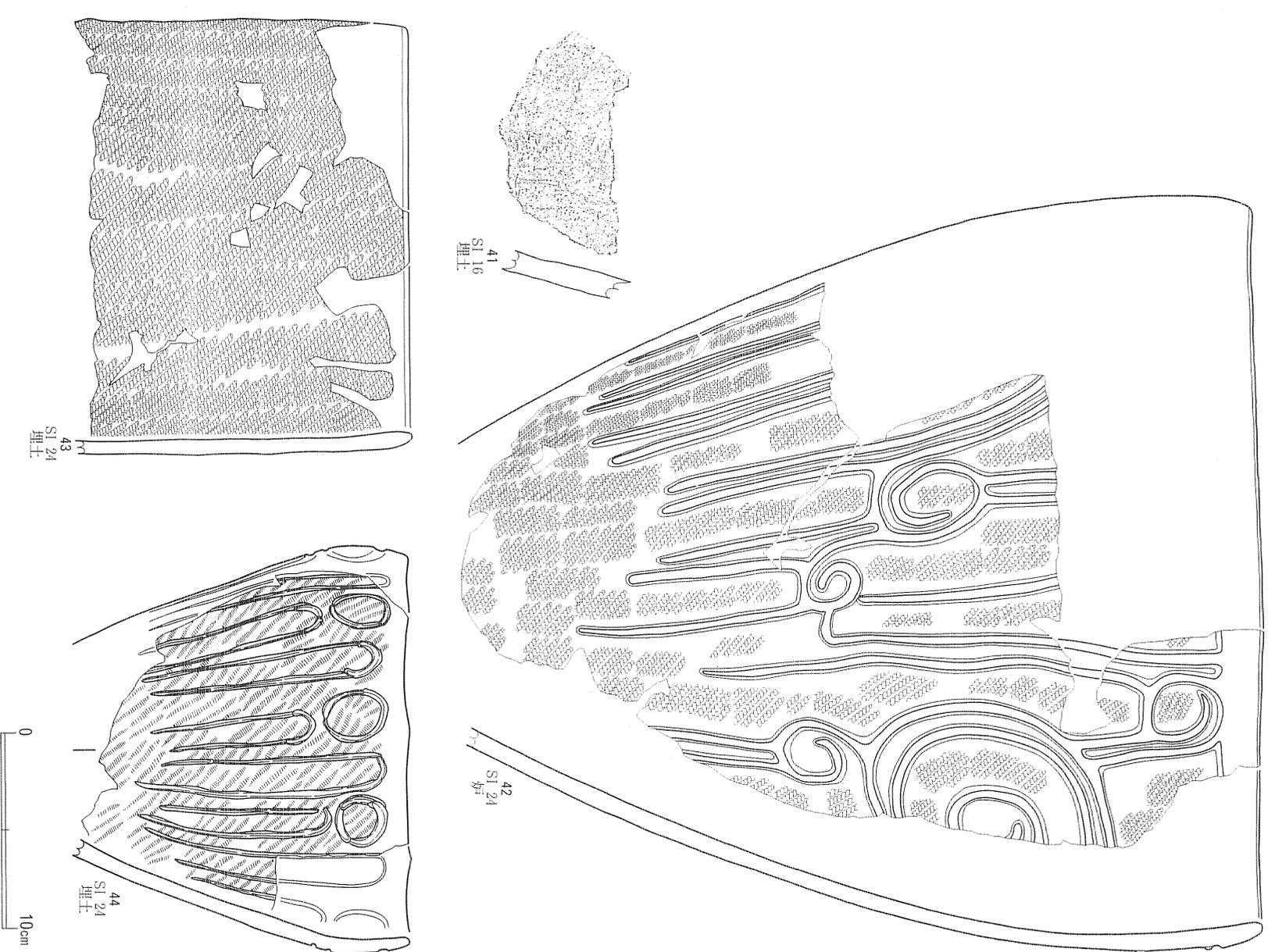


40
SI 16 0
埋土

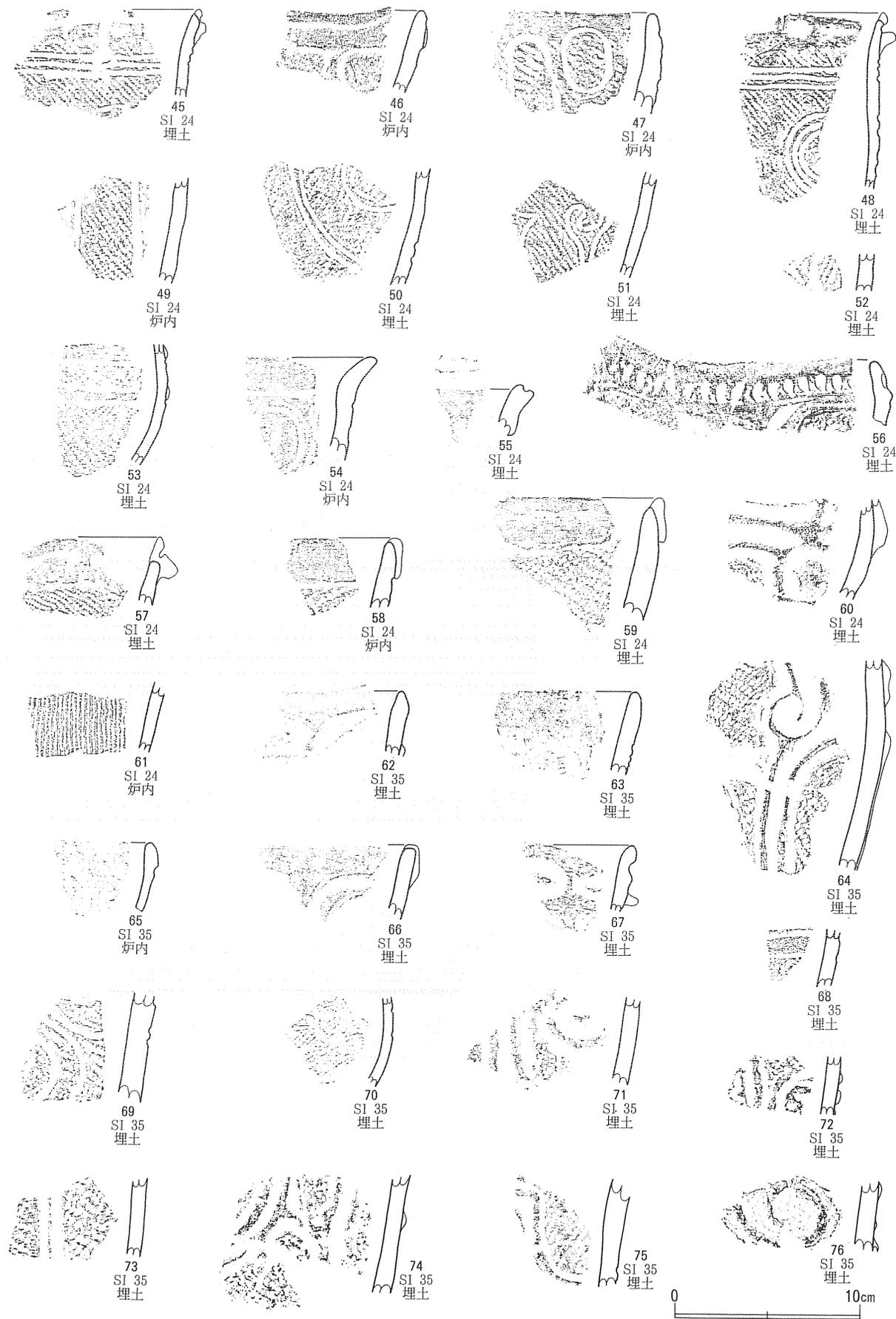
10cm

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	調	備考
32	SI 16	深鉢形土器	14.6	7.3	19.6	砂粒少量混入	内 7.5YR6/4 残黄褐色	外 7.5YR5/2 灰褐色	
33	SI 16	深鉢形土器	27.0	—	(25.0)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR4/2 灰褐色	外 10YR4/3 にぶい黄褐色	
34	SI 16	深鉢形土器	—	8.4	(9.3)	砂粒少量混入	内 10YR6/2 灰黄褐色	外 10YR8/8 黄褐色	

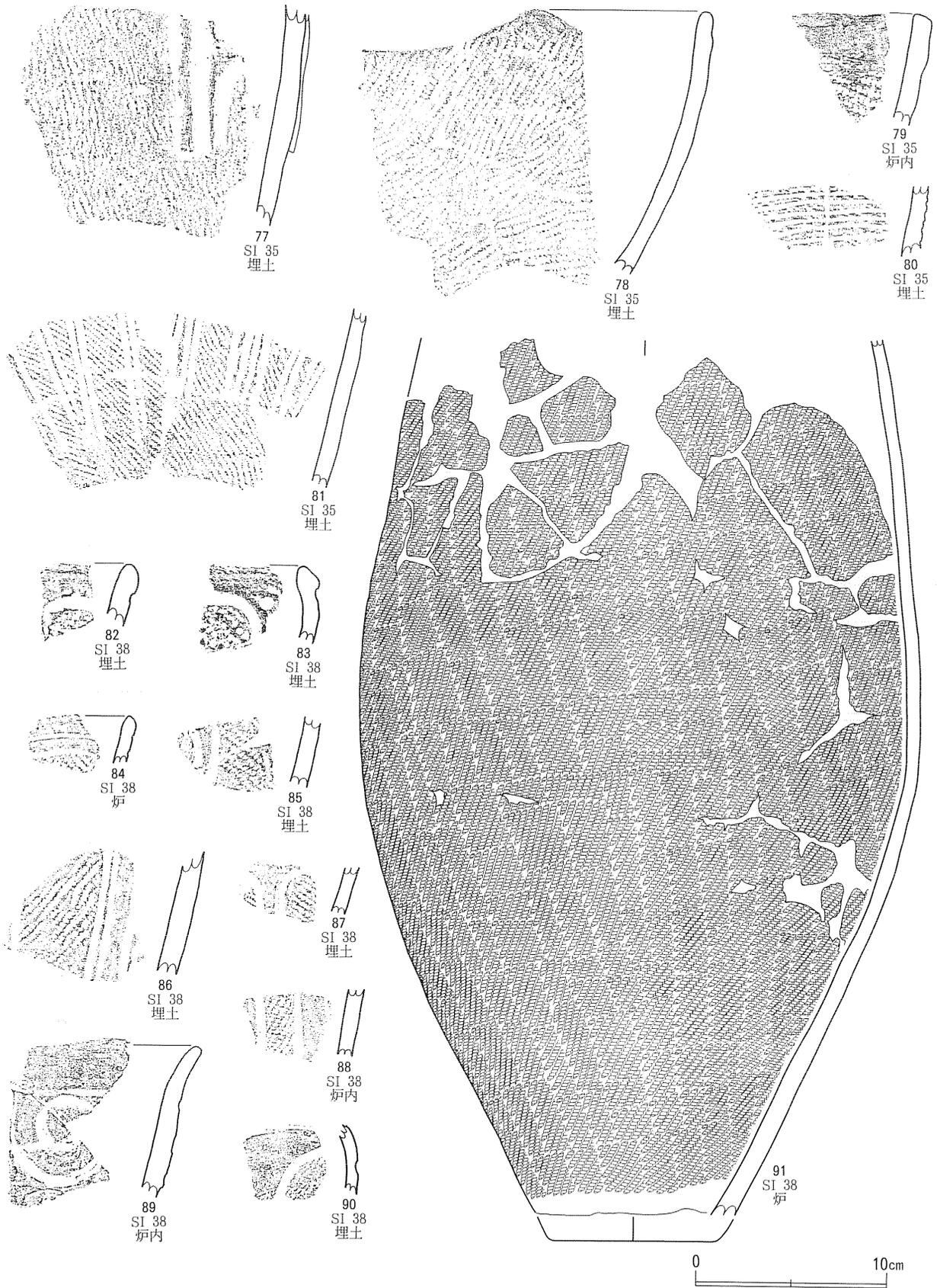
第90図 A区遺構内出土土器類(3)



第91図 A区遺構内出土土器類 (4)

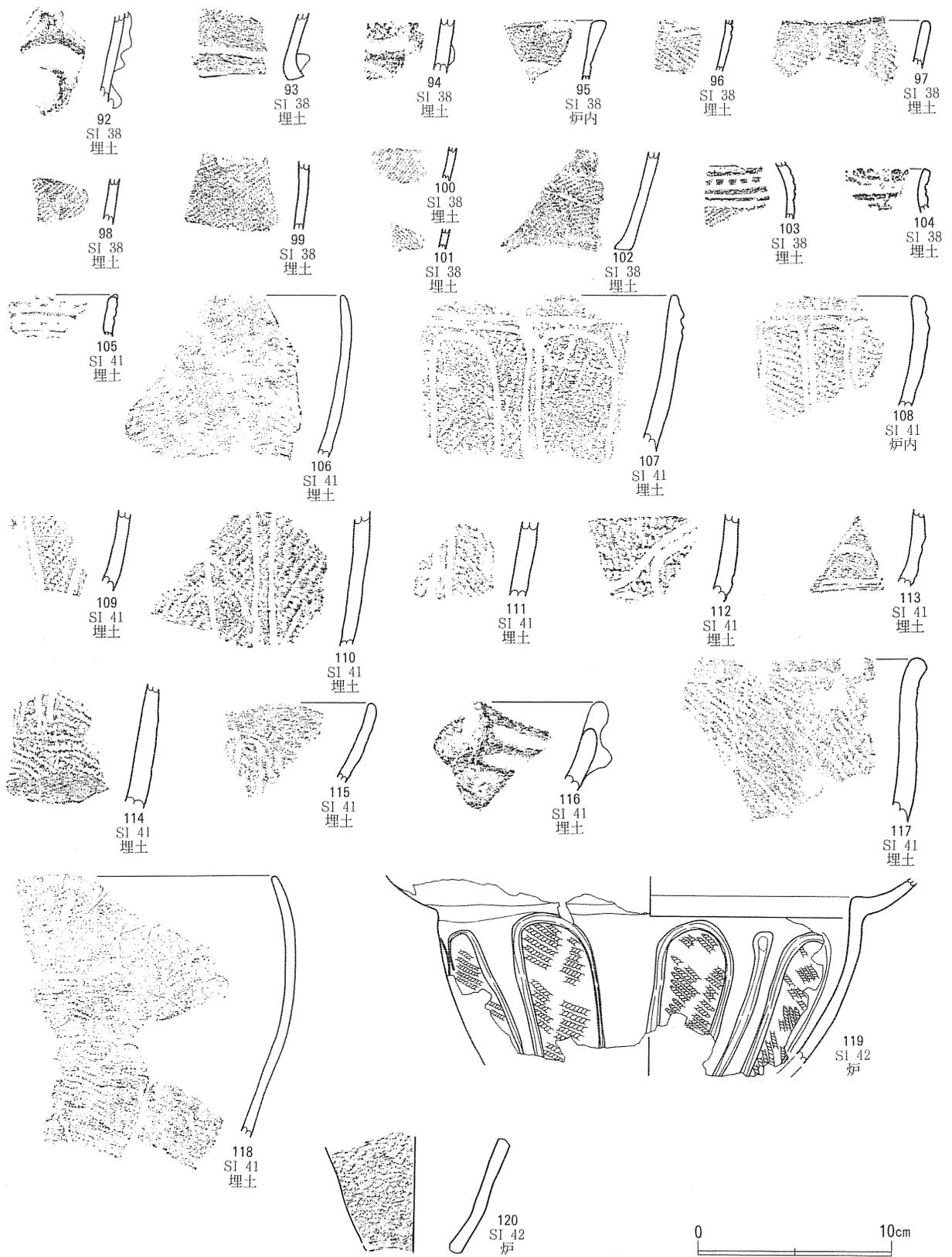


第92图 A区遺構内出土土器類(5)



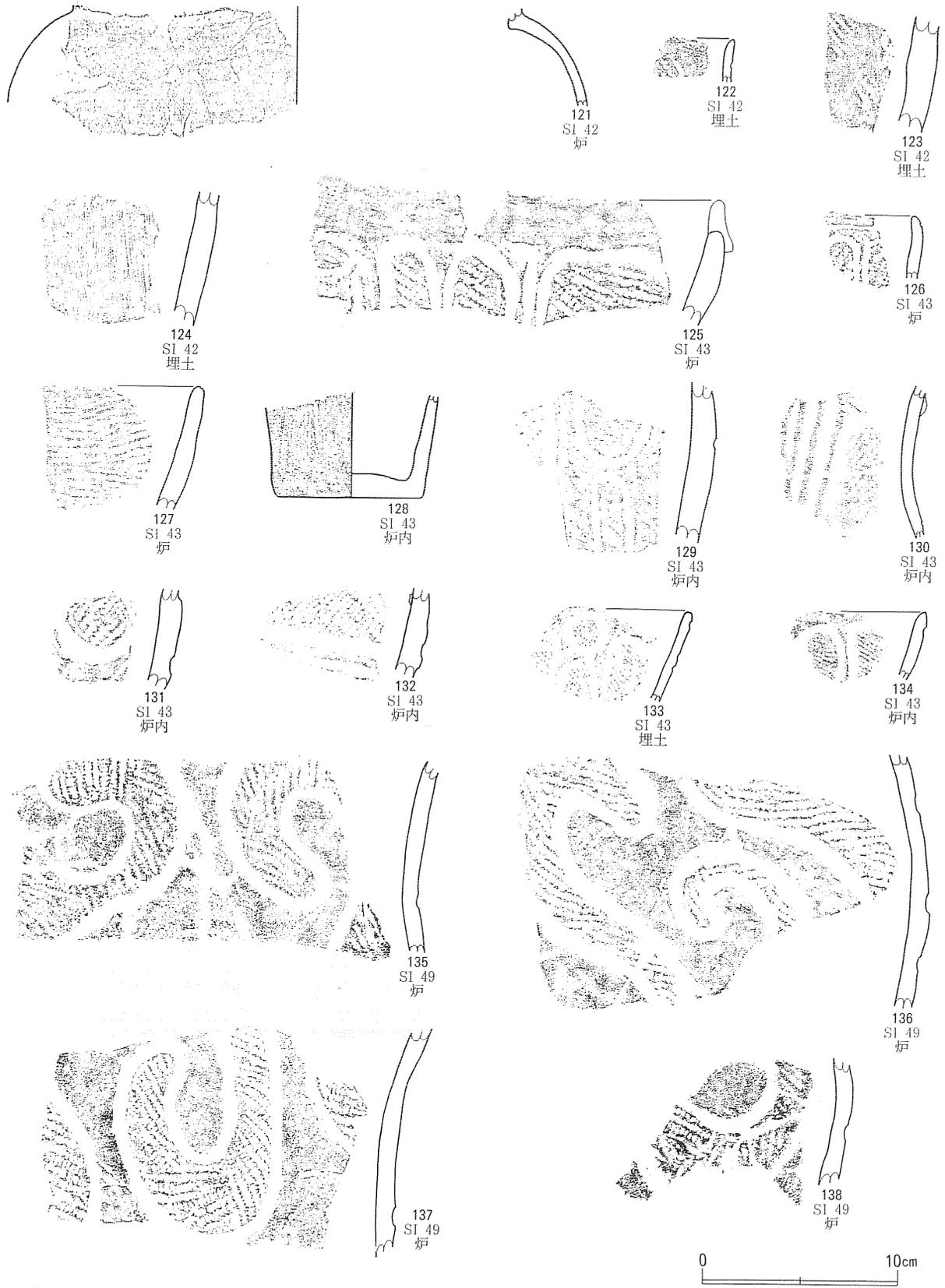
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
91	SI 38 炉	深鉢形土器	-	8.5	(47.3)	砂粒やや多く混入	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 25YR7/4 淡赤橙	

第93図 A区遺構内出土土器類(6)



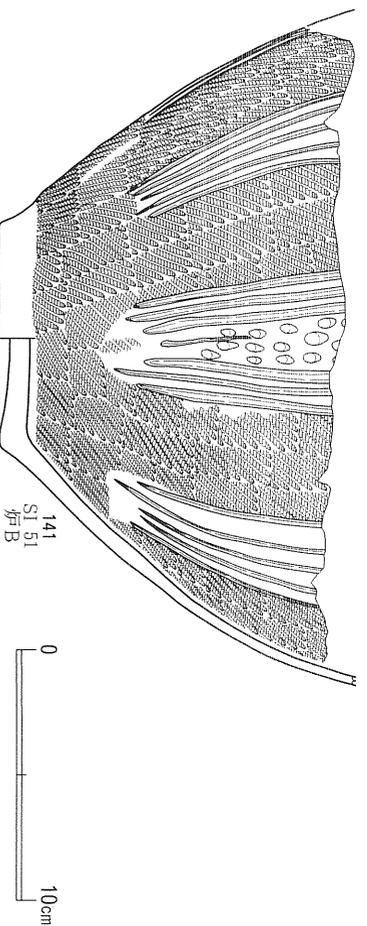
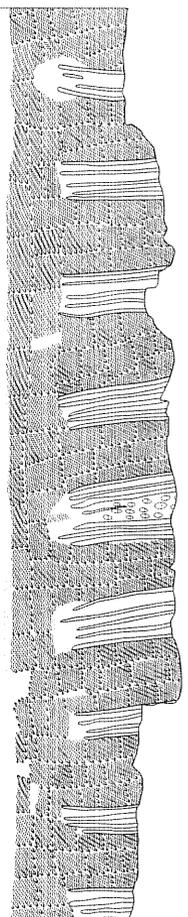
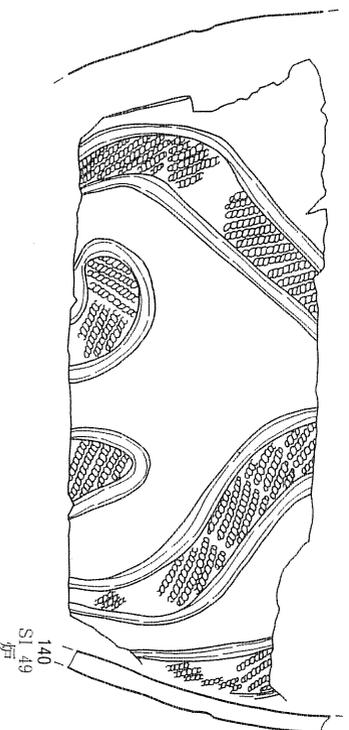
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
119	SI 42 炉	鉢形土器	-	-	(10.1)	砂粒少量混入	内 7.5YR8/4 浅黄橙 外 7.5YR8/6 浅黄橙	金雲母少量
120	SI 42 炉	深鉢形土器	-	-	(6.0)	精選	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR6/2 灰黄褐	

第94図 A区遺構内出土土器類(7)



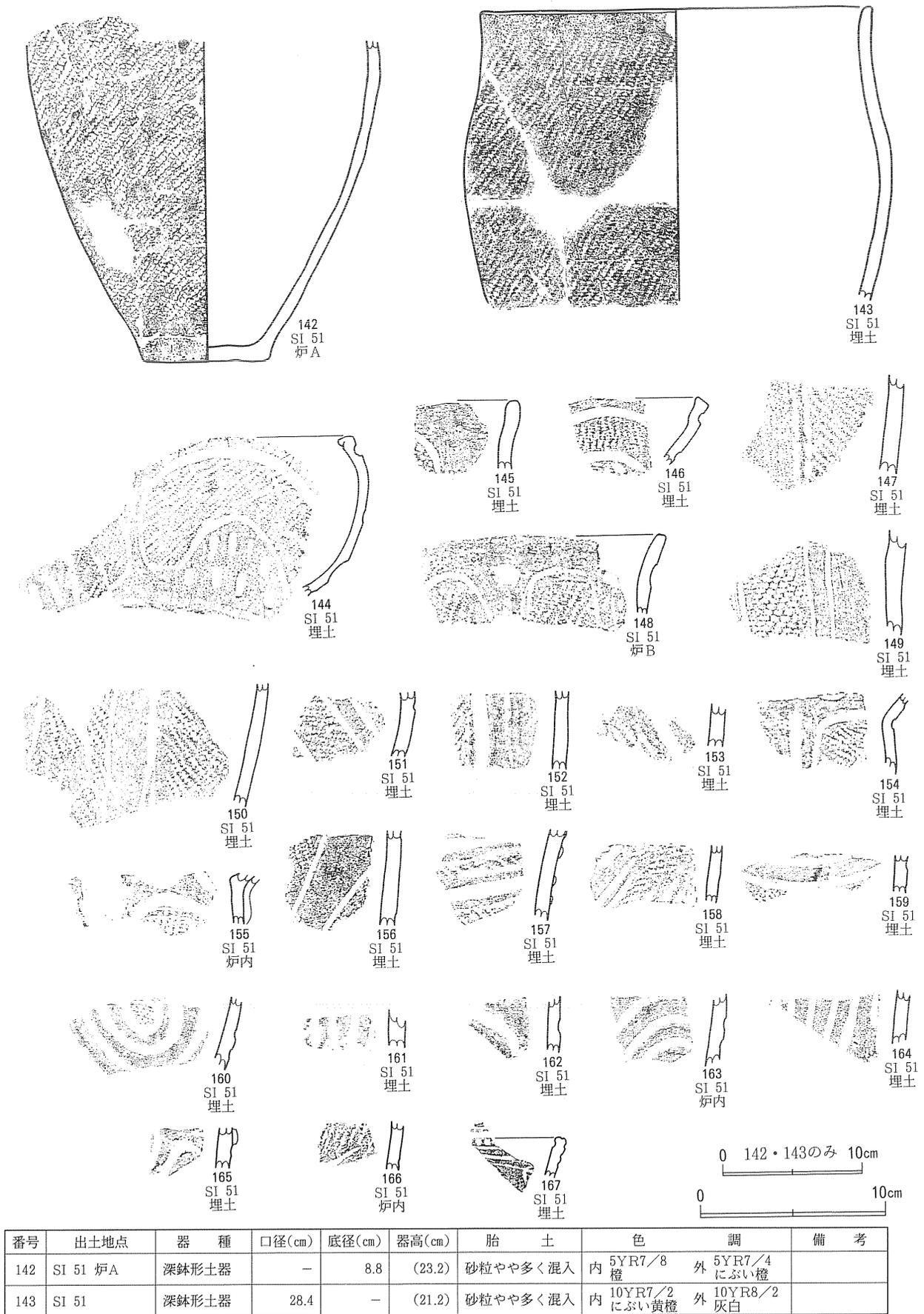
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
121	SI 42 炉	壺形土器	-	-	(5.1)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR5/3 にぶい褐 外 7.5YR6/4 にぶい褐	
128	SI 43 炉内	鉢?	-	7.3	(5.1)	砂粒少量混入	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 10YR7/3 にぶい黄橙	

第95図 A区遺構内出土土器類(8)

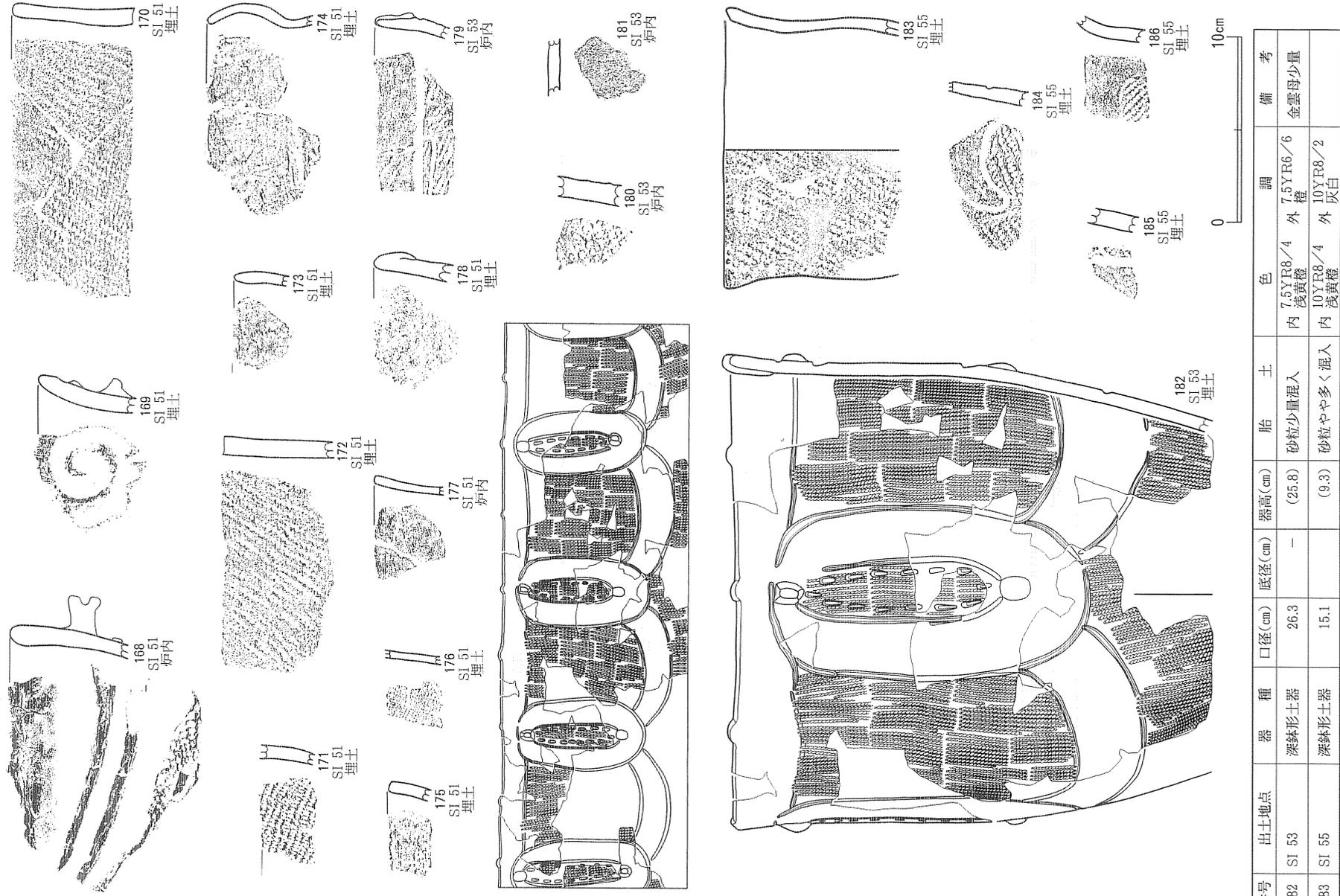


番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
140	SI 49 片	深鉢形土器	—	—	(10.4)	砂粒少量混入	内 10YR8/4 浅黄橙 外 10YR8/3 浅黄橙	
141	SI 51 片 B	深鉢形土器	—	9.0	(14.2)	精選	内 7.5YR8/4 浅黄橙 外 7.5YR7/4 黄橙	

第96图 A区遺構内出土土器類(9)

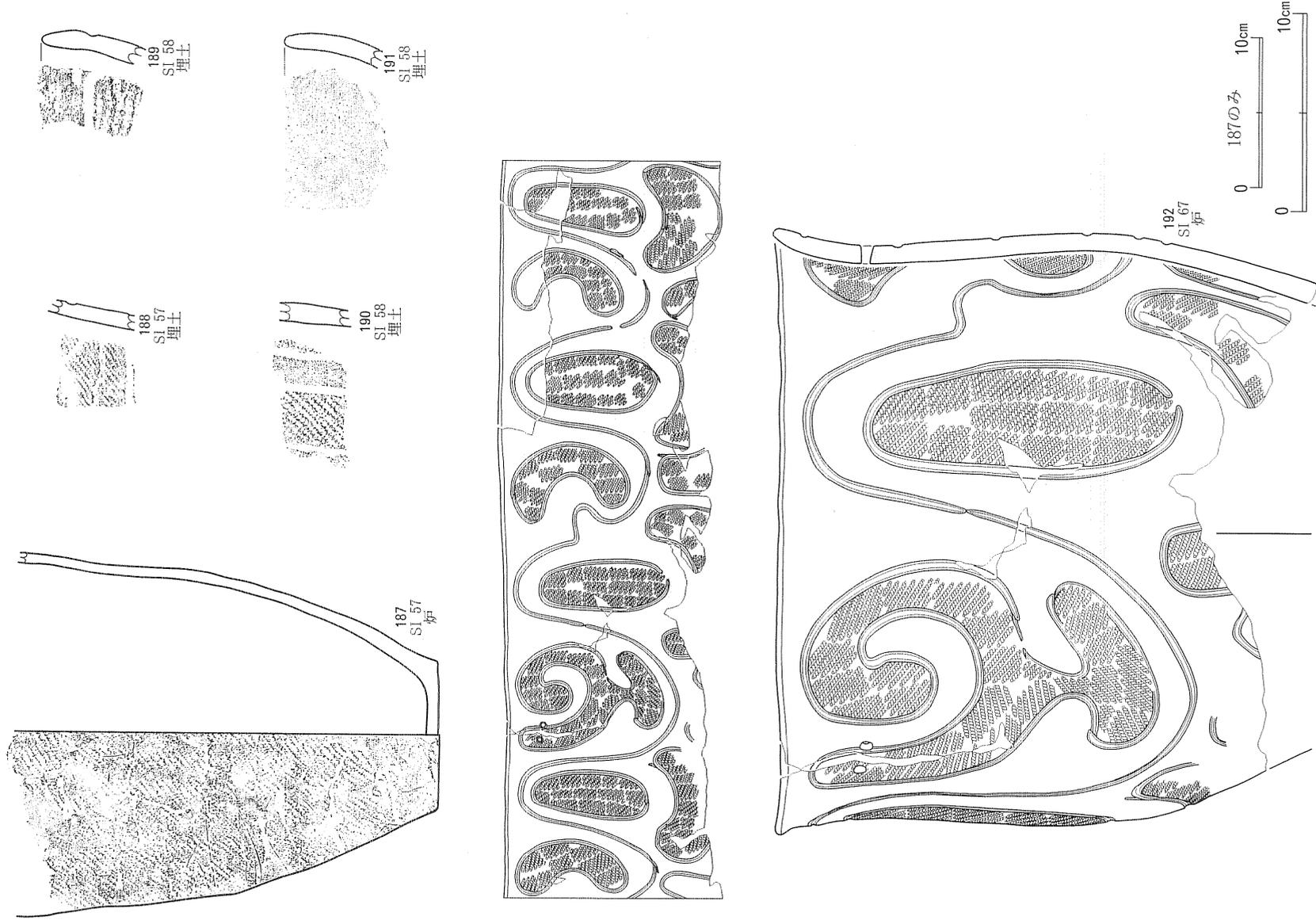


第97図 A区遺構内出土土器類 (10)



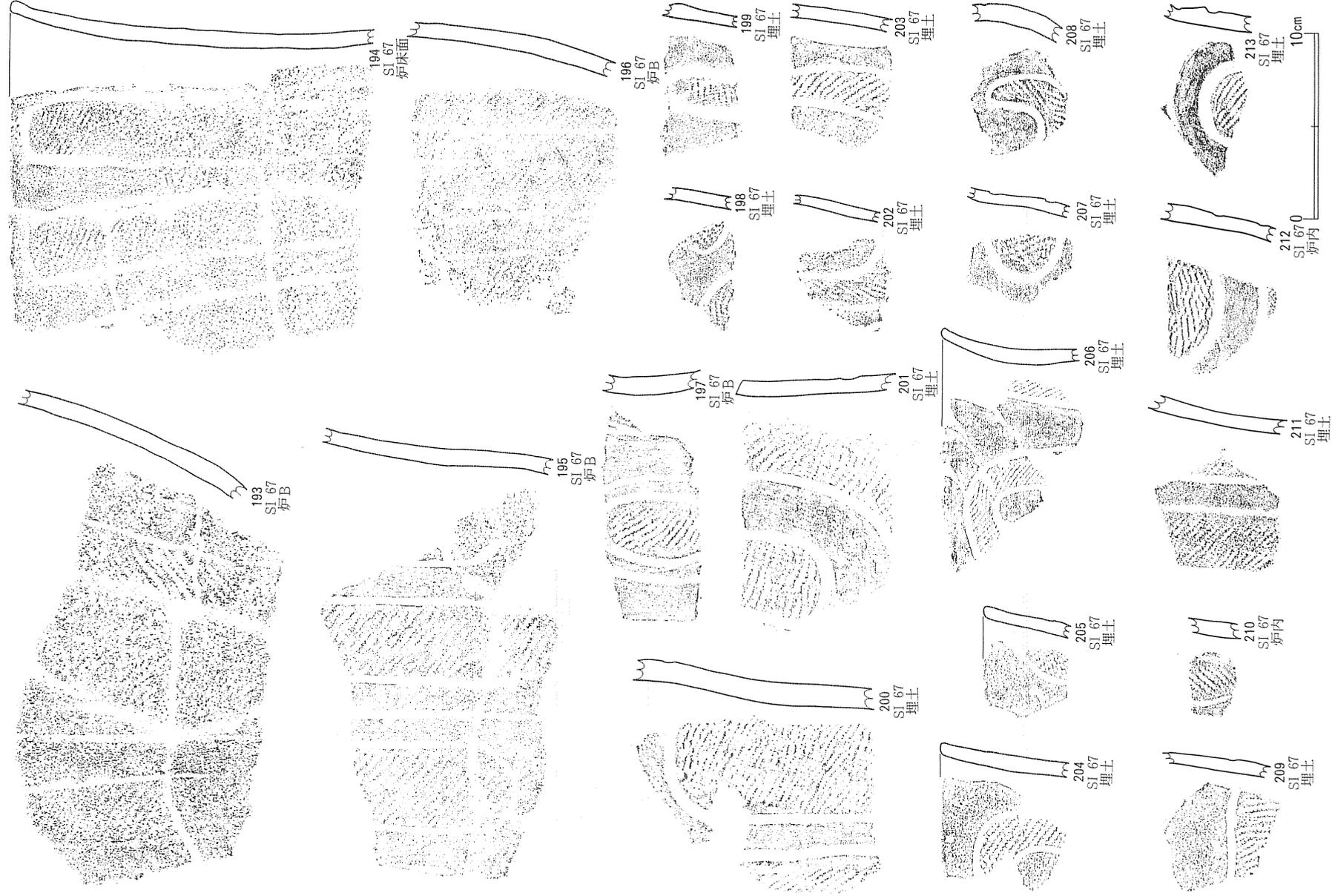
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	土	色	調	備考
182	SI 53	深鉢形土器	26.3	-	(25.8)	砂粒少量混入	内	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR6/6 外橙	金雲母少量
183	SI 55	深鉢形土器	15.1		(9.3)	砂粒やや多く混入	内	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 外灰白	

第98図 A区遺構内出土土器類 (11)



番号	出土地点	器種	底径(cm)	器高(cm)	口径(cm)	胎土	色	調考	備考
187	SI 57 炉	深鉢形土器	—	9.9	(28.5)	砂粒やや多く混入	7.5YR8/6 外 7.5YR8/8 内	7.5YR8/8 外 7.5YR8/8 内	
192	SI 67 炉	深鉢形土器	30.4	—	(26.9)	砂粒やや多く混入	7.5YR8/8 内 7.5YR8/8 内	7.5YR7/8 黄橙 7.5YR7/8 黄橙	

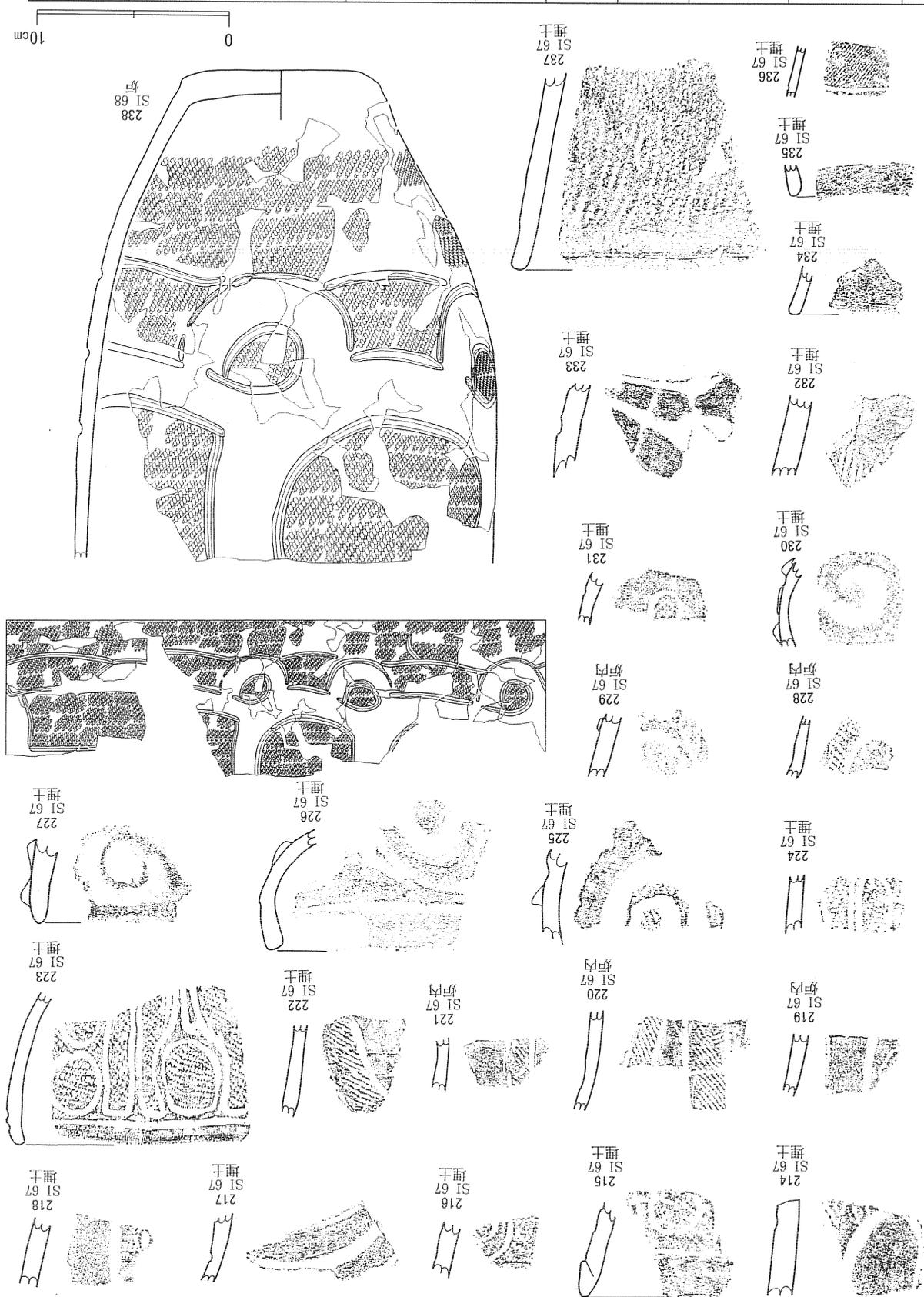
第99図 A区遺構内出土器類 (12)



第100图 A区遺構内出土土器類 (13)

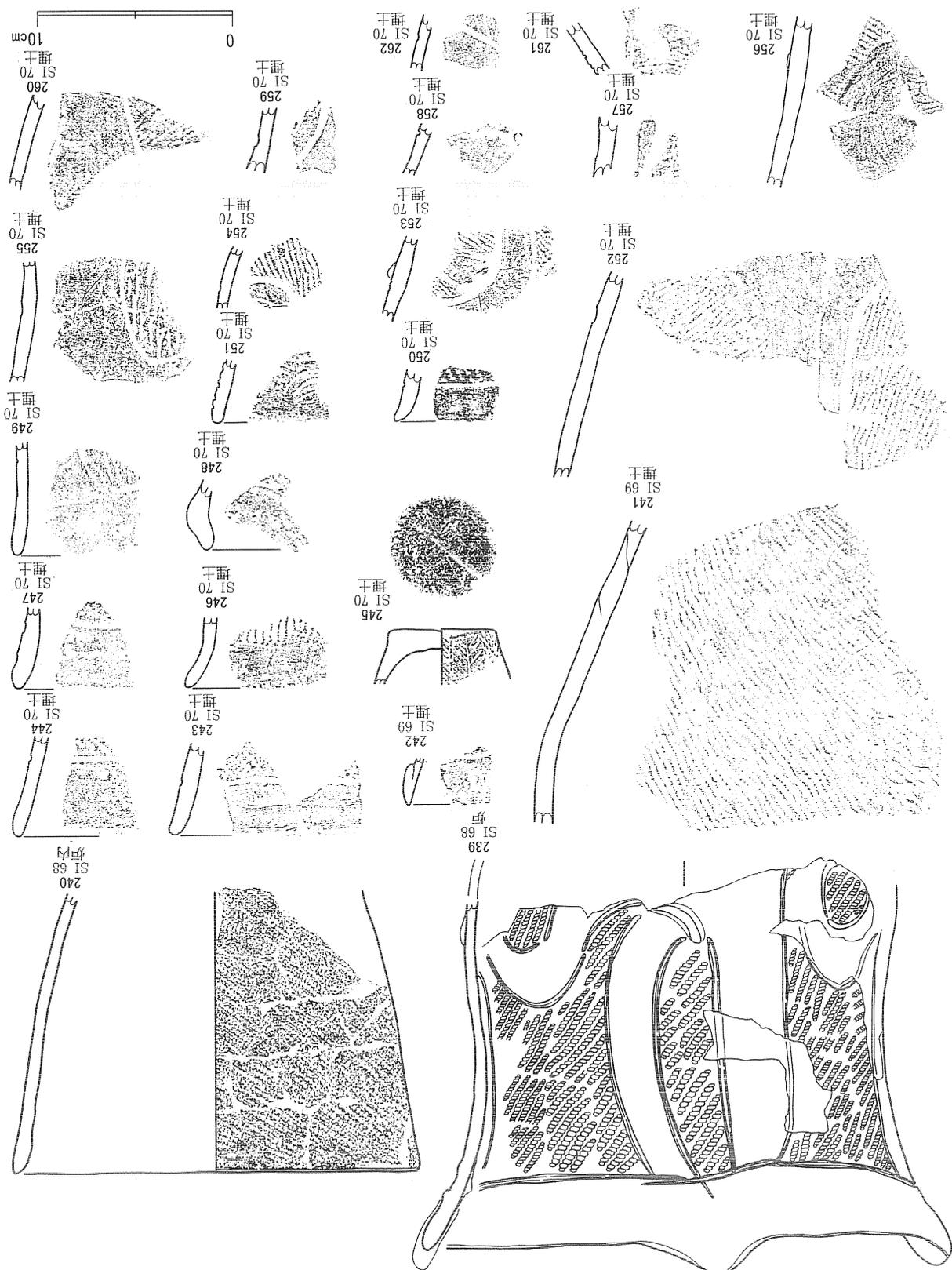
第101図 A区遺構内出土土器類 (14)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	備考
238	SI 68 炉	深鉢形土器	—	9.4	(25.4)	細砂粒少量混入	内 10YR7/3 外 10YR7/4 に多い黄褐色	金雲母少量

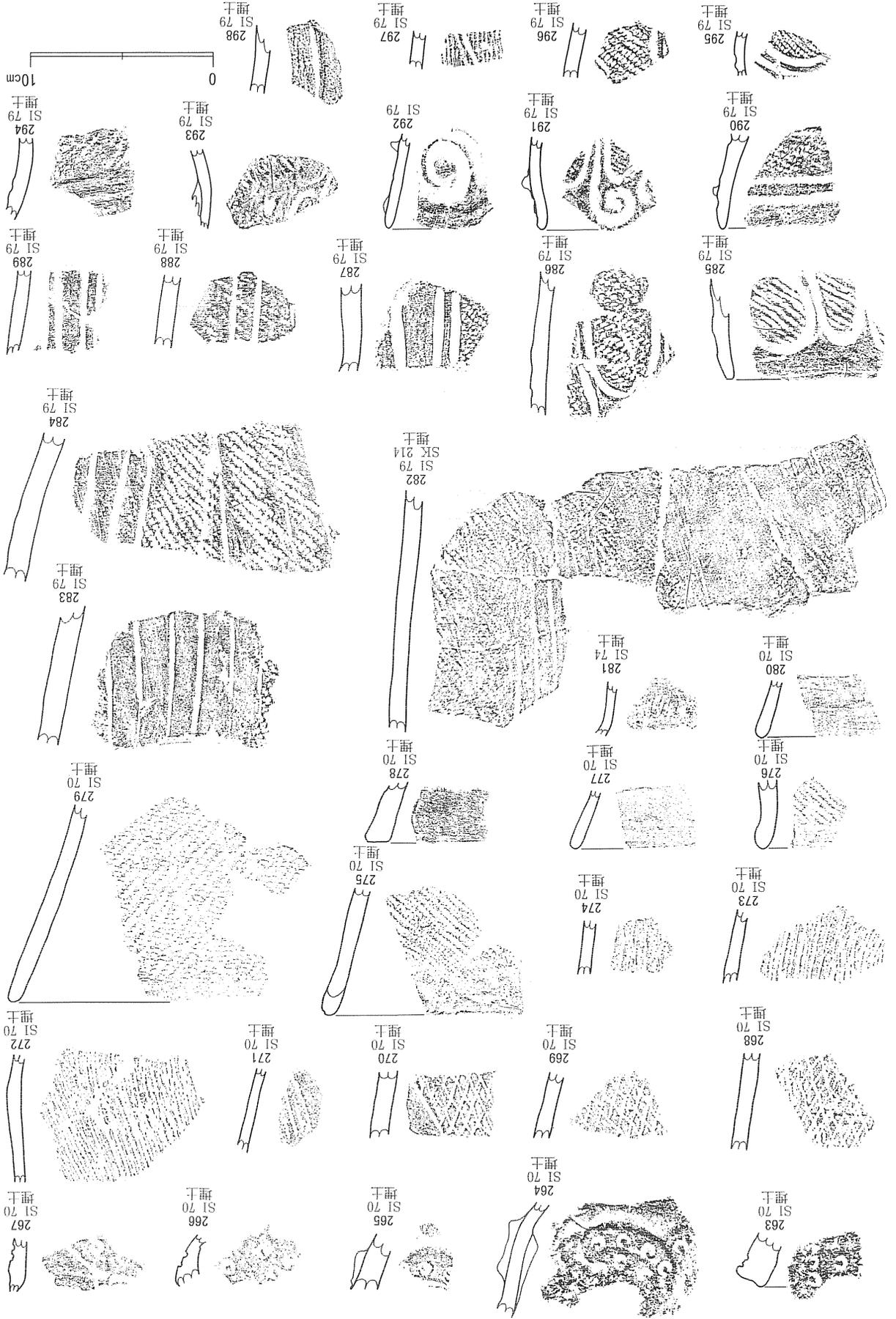


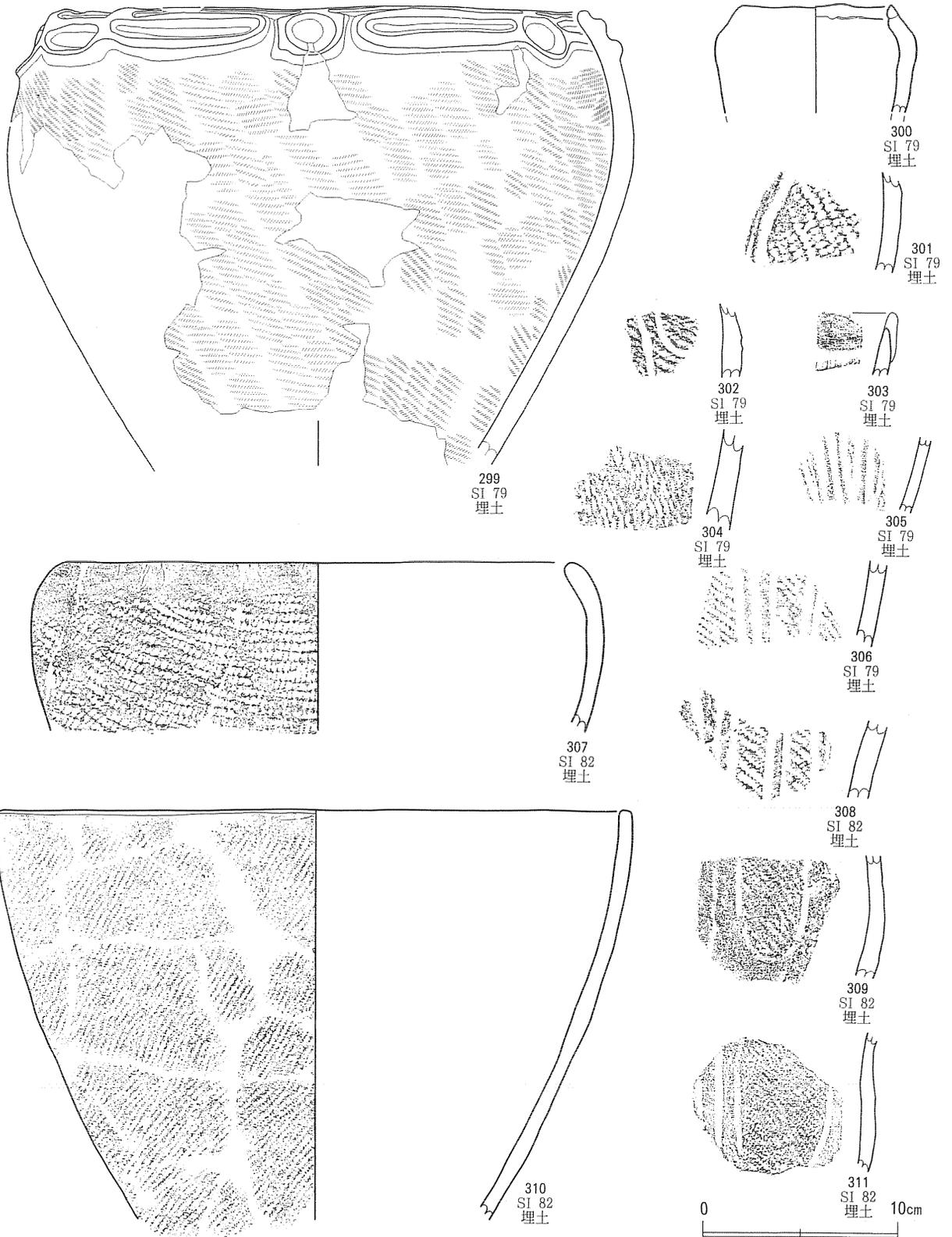
第102図 A区遺構内出土土器類 (15)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
245	SI 70	深鉢形土器	-	-	5.4	細砂粒や多く混入	内 浅黄褐色 7.5YR8/3 外 10YR7/4 に近い黄褐色	
240	SI 68 炉内	深鉢形土器	20.7	-	-	細砂粒や多く混入	内 浅黄褐色 7.5YR8/3 外 10YR7/4 に近い黄褐色	
239	SI 68 炉	深鉢形土器	27.5	-	-	砂粒少量混入	内 浅黄褐色 7.5YR8/4 外 7.5YR8/6	



第103図 A区遺構内出土土器類 (16)



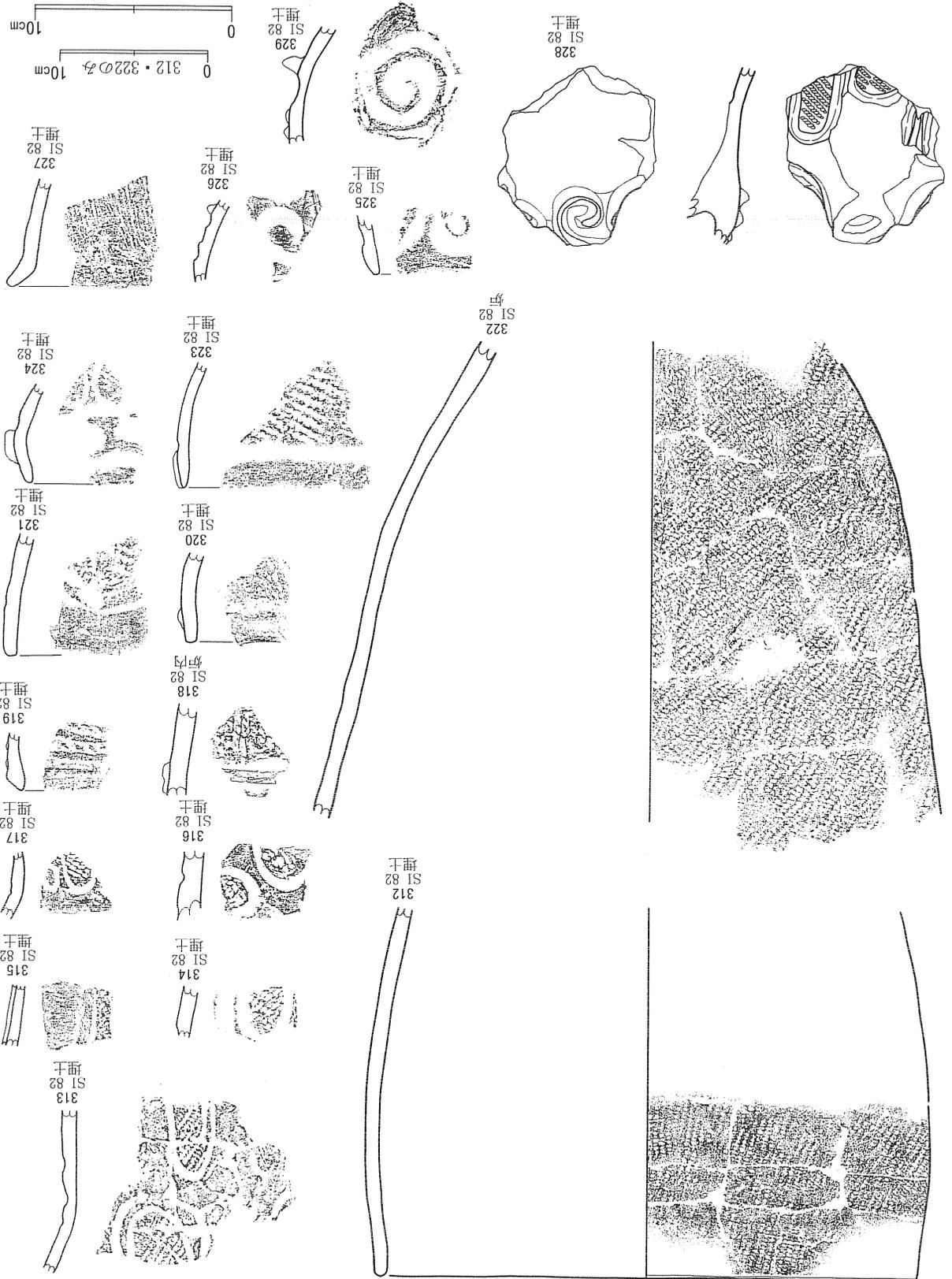


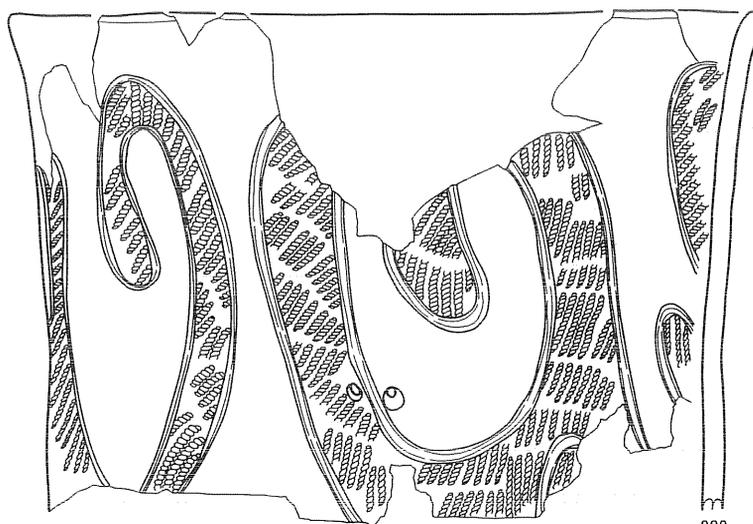
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
299	SI 79	深鉢形土器	27.7	-	(23.6)	砂粒少量混入	内 10YR8/4 浅黄橙 外 7.5YR8/6 浅黄橙	
300	SI 79	深鉢形土器	7.8	-	(5.6)	砂粒少量混入	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR7/1 灰白	
307	SI 82	深鉢形土器	26.4	-	(8.5)	砂粒少量混入	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	
310	SI 82	深鉢形土器	32.5	-	(20.7)	砂粒少量混入	内 10YR8/4 浅黄橙 外 10YR6/3 にぶい黄橙	

第104図 A区遺構内出土土器類 (17)

第105図 A区遺構内出土土器類 (18)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	備考
322	SI 82 炉	深鉢形土器	-	-	(32.8)	砂粒多く混入	内 浅黄褐色 7.5YR8/6	外 浅黄褐色 7.5YR8/6
312	SI 82	深鉢形土器	37.2	-	(25.2)	砂粒やや多く混入	内 5.5YR7/4 に多い機	外 褐色 7.5YR7/6





330
SI 83
炉B



331
SI 83
炉A



332
SI 83
埋土



333
SI 83
埋土



334
SI 83
埋土



335
SI 83
埋土



336
SI 83
埋土



337
SI 83
埋土



338
SI 83
埋土



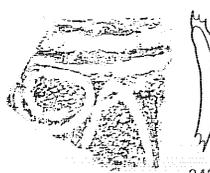
339
SI 83
埋土



340
SI 83
埋土



341
SI 83
埋土



342
SI 83
埋土



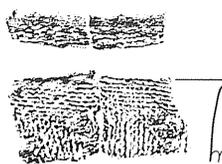
343
SI 83
埋土



344
SI 83
埋土



345
SI 83
埋土

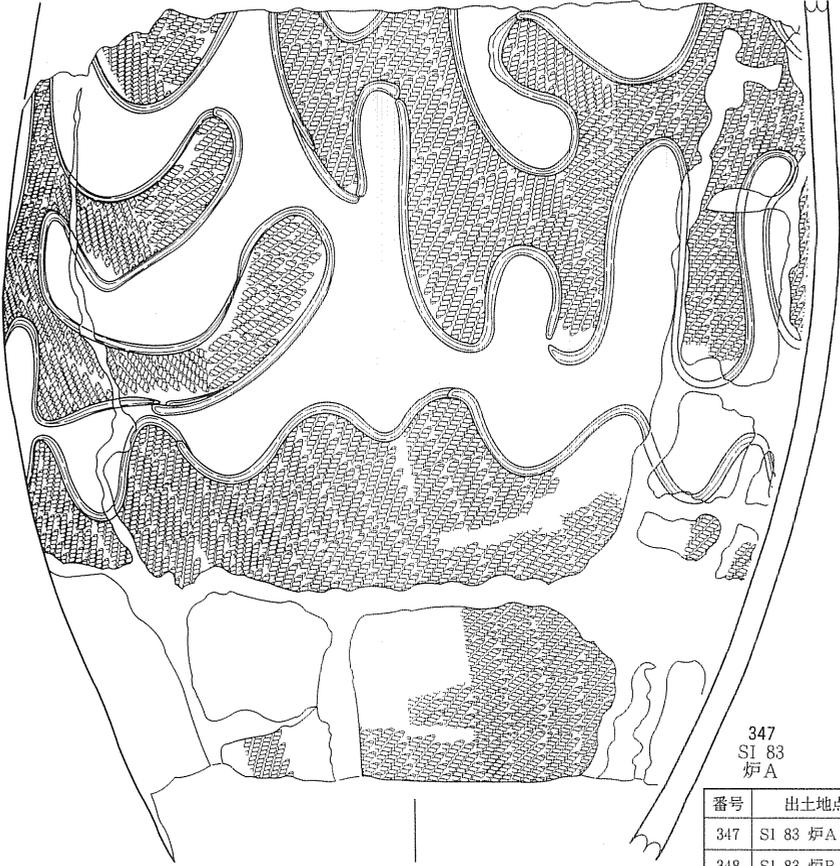
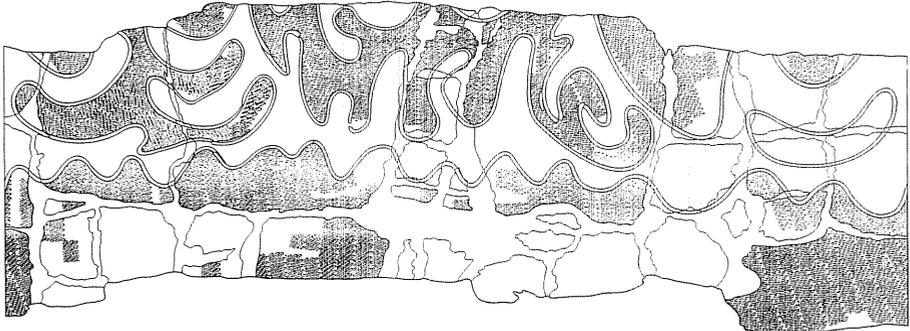


346
SI 83
埋土

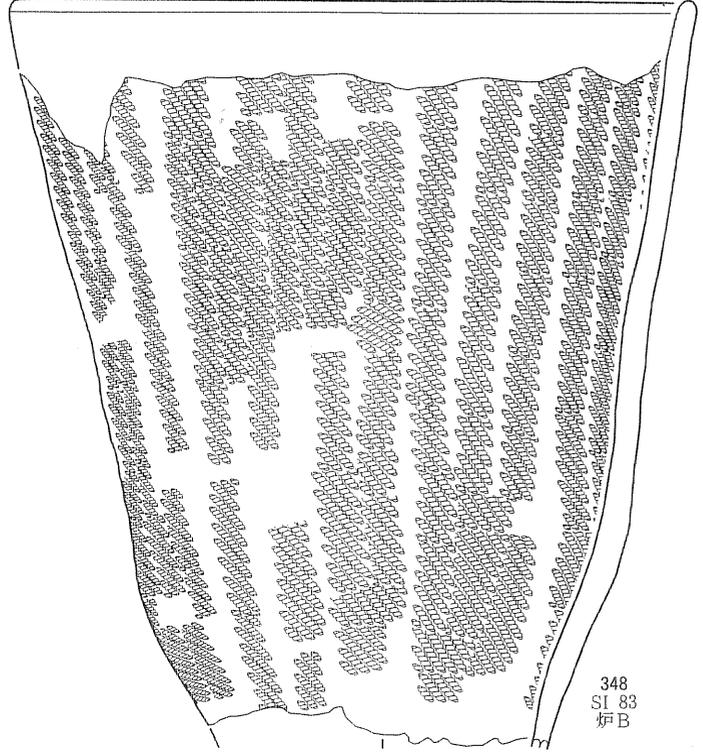


番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
330	SI 83 炉B	深鉢形土器	(30.0)	-	(20.4)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR8/8 黄橙	

第106図 A区遺構内出土土器類 (19)



347
SI 83
炉A



348
SI 83
炉B

0 10cm

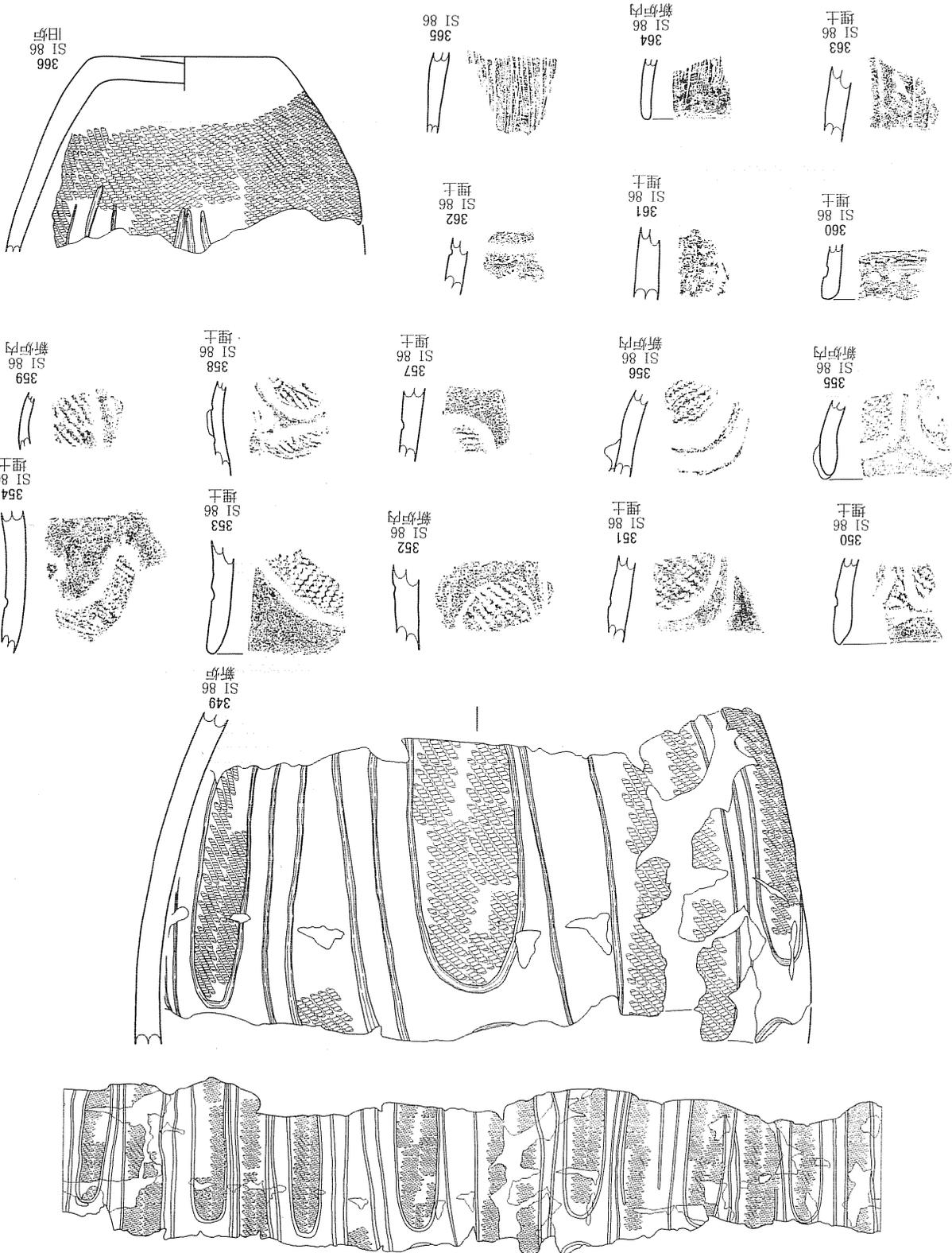
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
347	SI 83 炉A	深鉢形土器	—	—	(34.5)	砂粒多く混入	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 7.5YR7/6	
348	SI 83 炉B	深鉢形土器	27.3	—	(29.9)	砂粒少量混入	内 10YR7/6 橙 外 5YR7/8	金雲母少量

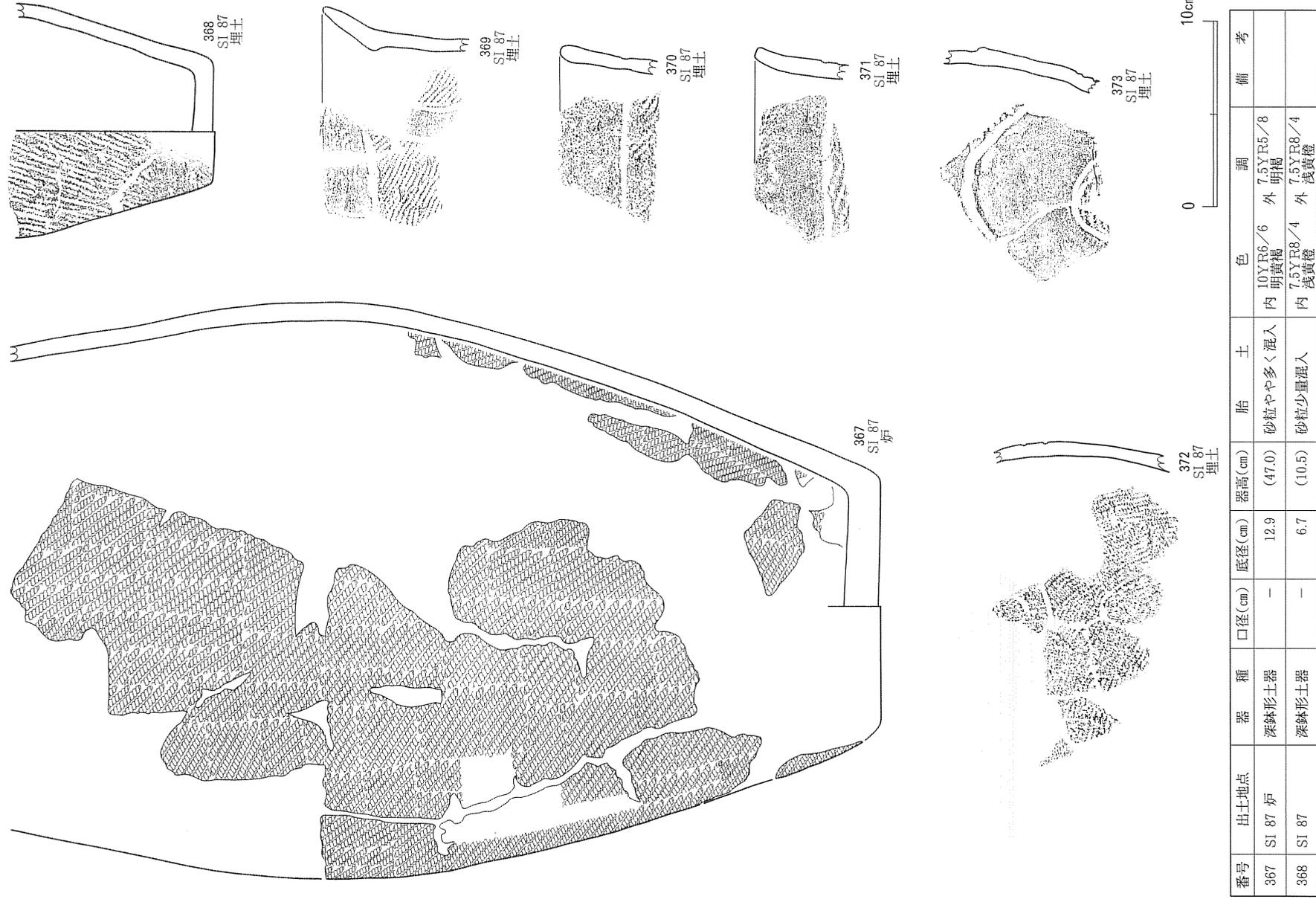
第107図 A区遺構内出土器類 (20)

第108図 A区遺構内出土土器類 (21)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
366	SI 86 旧炬	深鉢形土器	-	-	9.6	(10.0)	砂粒や多く混入	内 浅黄橙 7.5YR8/4 外 浅黄橙 7.5YR8/4 金雲母少量
349	SI 86 新炬	深鉢形土器	-	-	-	(16.9)	砂粒や多く混入	内 浅黄橙 10YR8/3 外 浅黄橙 10YR7/4

0 10cm



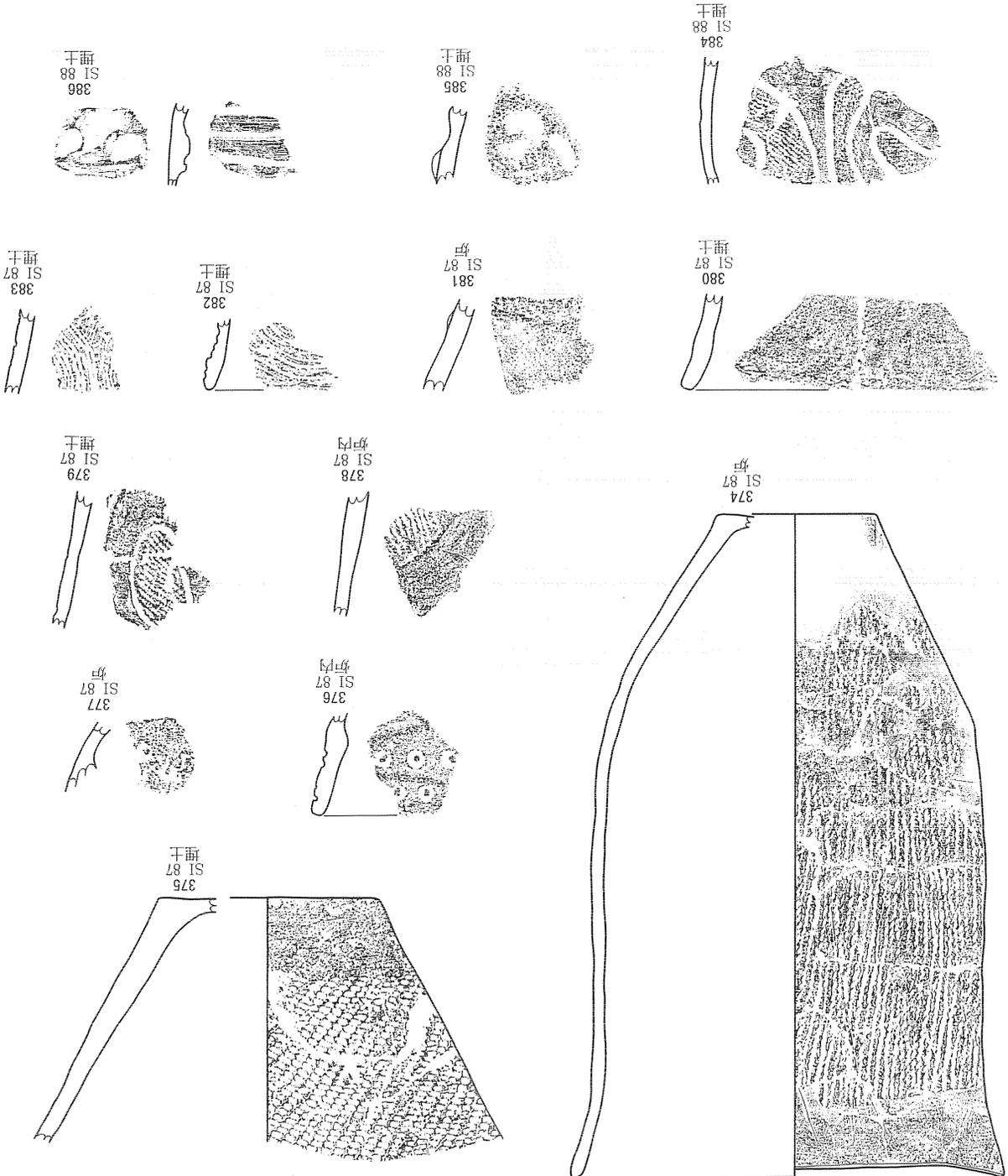
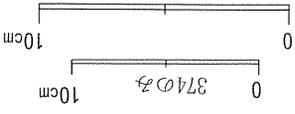


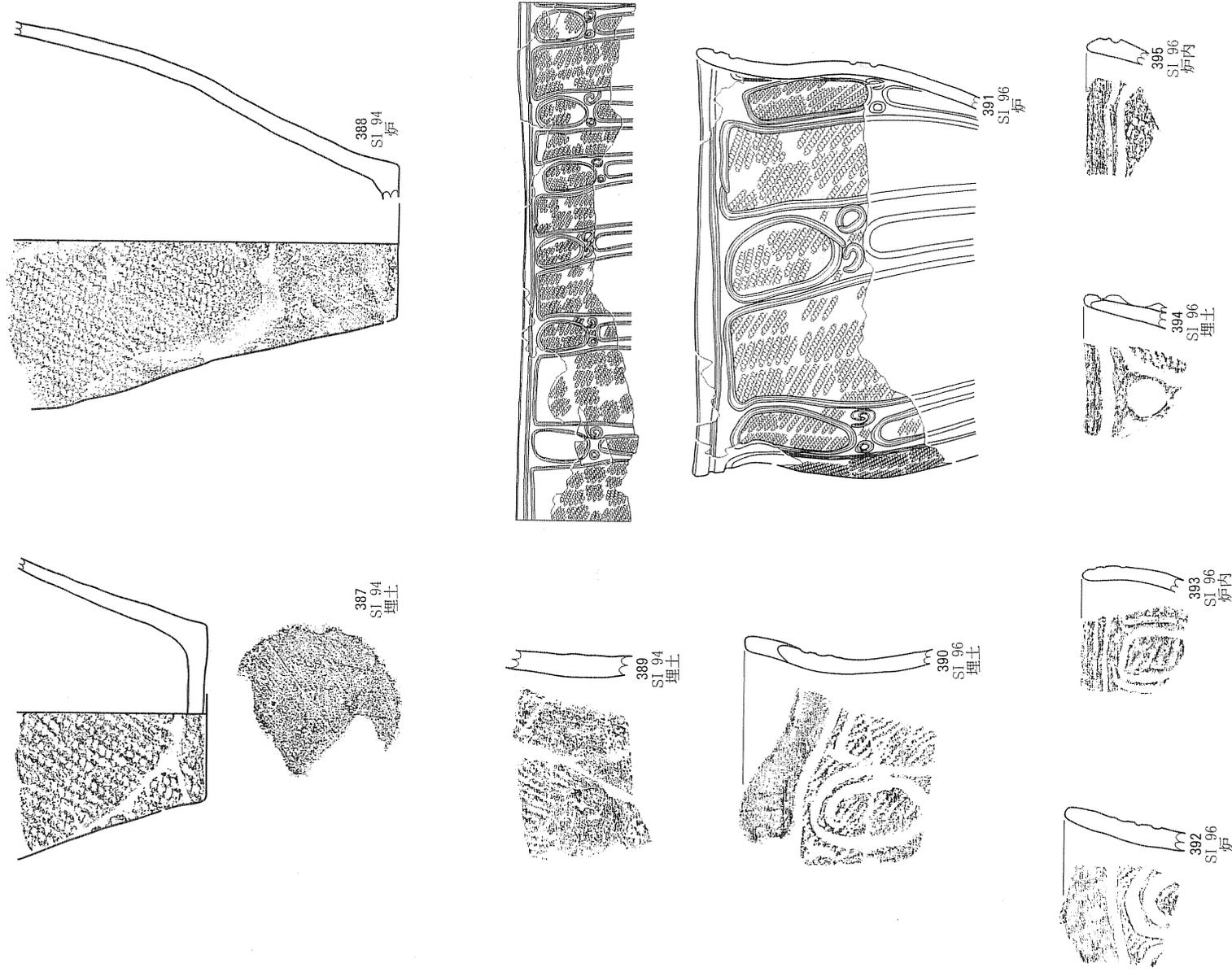
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	調	備考
367	SI.87 炉	深鉢形土器	-	12.9	(47.0)	砂粒やや多く混入	内 10YR6/6 外 7.5YR5/8 明褐色		
368	SI.87	深鉢形土器	-	6.7	(10.5)	砂粒少量混入	内 7.5YR8/4 外 浅黄橙		

第109図 A区遺構内出土器類 (22)

第110図 A区遺構内出土土器類 (23)

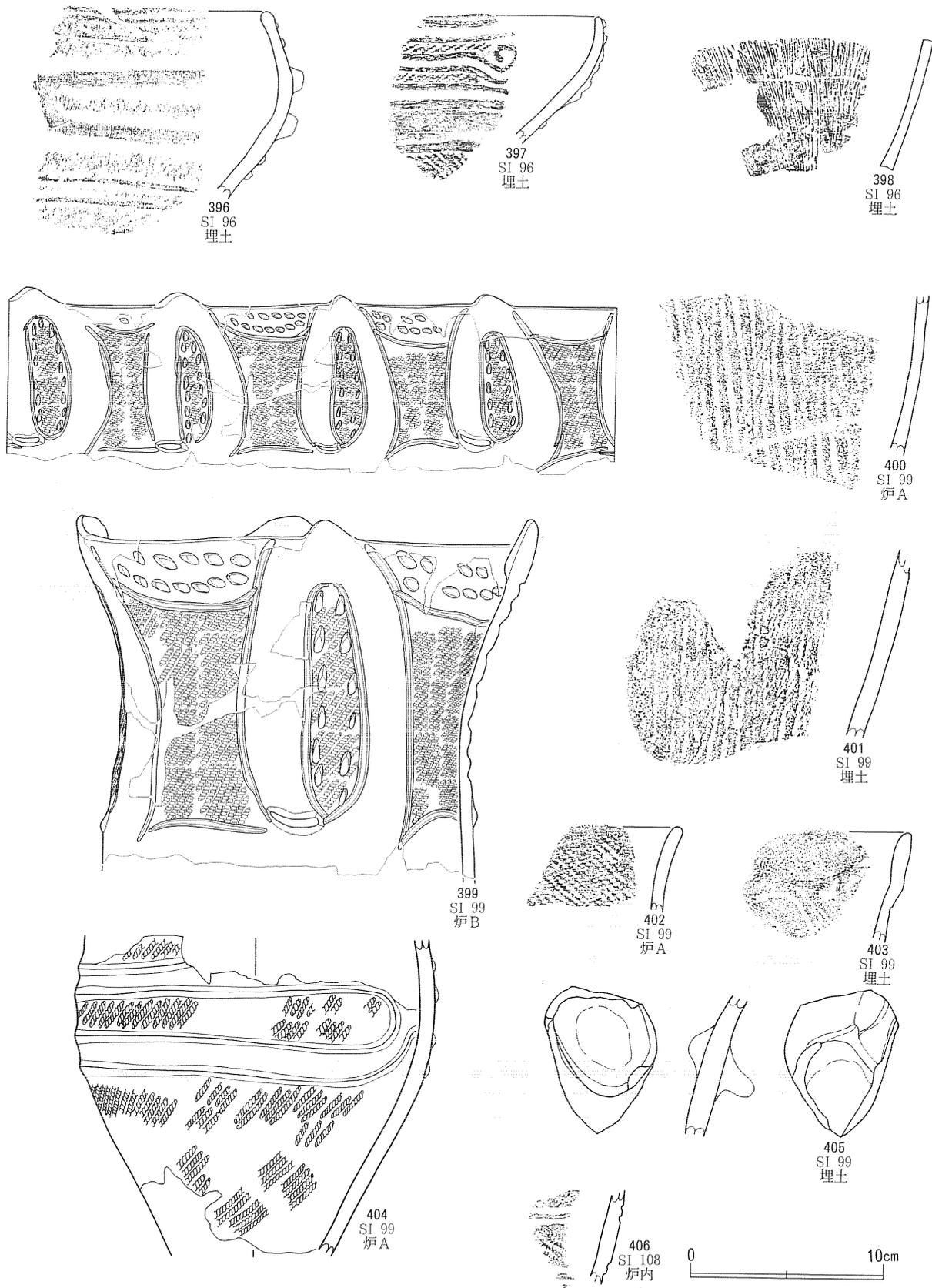
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	備考
374	SI 87 卯	深鉢形土器	27.6	10.3	42.0	砂粒少量混入	内 7.5YR5/4 外 7.5YR7/6 に5%黄橙	
375	SI 87	深鉢形土器	-	10.4	(11.3)	砂粒や多く混入	内 10YR7/3 外 10YR6/3 に5%黄橙	





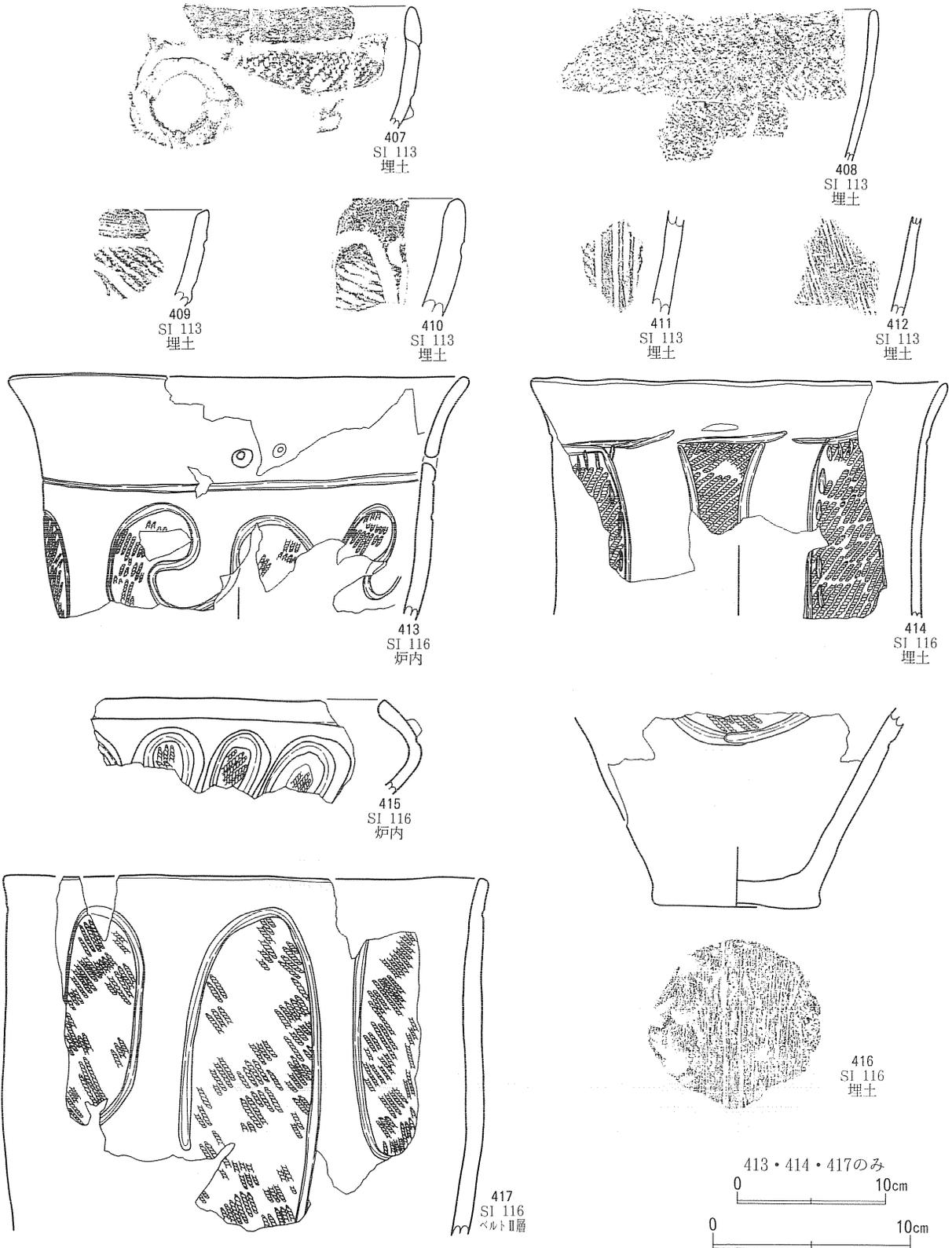
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色	調考	備考
387	SI 94	深鉢形土器	—	8.5	(10.7)	砂粒少量混入	10YR7/4 内にぶい黄橙	10YR6/6 外明黄褐	
388	SI 94 炉	深鉢形土器	—	7.6	(18.7)	砂粒少量混入	7.5YR6/8 内橙	7.5YR7/8 外黄橙	
391	SI 96 炉	深鉢形土器	21.0	—	(13.8)	砂粒少量混入	7.5YR7/6 内橙	5YR7/6 外橙	

第111図 A区遺構内出土器類 (24)



番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
399	SI 99 炉B	深鉢形土器	24.0	-	(18.4)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR6/8 橙	
404	SI 99 炉A	深鉢形土器	-	-	(16.4)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR8/3 浅黄橙 外 7.5YR8/4 浅黄橙	

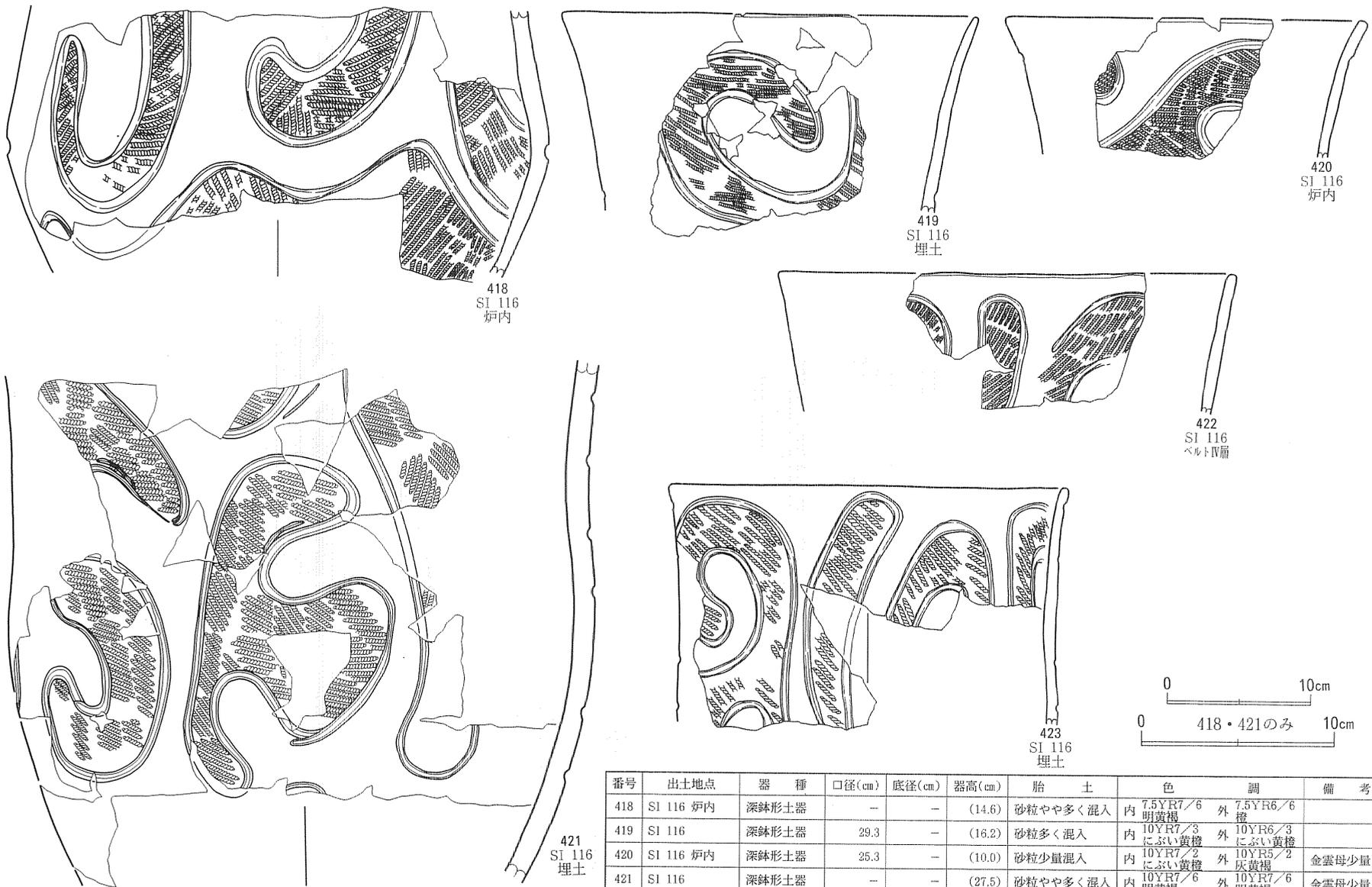
第112図 A区遺構内出土土器類 (25)



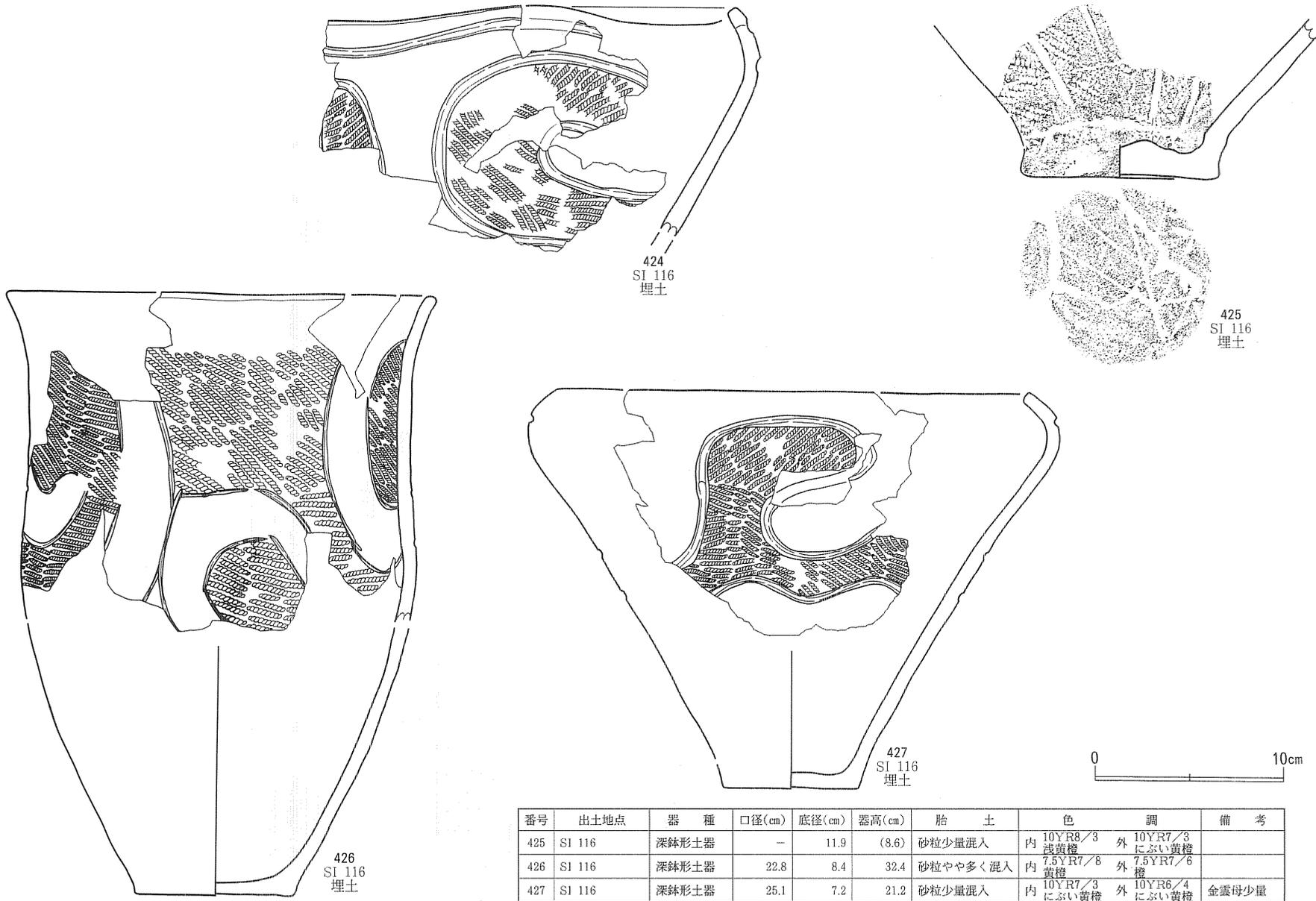
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調		備考
413	SI 116 炉内	深鉢形土器	31.4	-	(16.6)	砂粒少量混入	内 10YR7/3 にぶい黄橙	外 10YR7/2 にぶい黄橙	
414	SI 166	深鉢形土器	28.4	-	(16.1)	砂粒少量混入	内 10YR7/3 にぶい黄橙	外 10YR7/3 にぶい黄橙	金雲母少量
416	SI 166	深鉢形土器	-	8.6	(10.1)	砂粒やや多く混入	内 10YR8/3 浅黄橙	外 10YR8/3 浅黄橙	
417	SI 116 ベルトII層	深鉢形土器	33.2	-	(24.2)	細砂粒少量混入	内 7.5YR8/3 浅黄橙	外 7.5YR8/3 浅黄橙	

第113図 A区遺構内出土土器類 (26)

第114図 A区遺構内出土土器類 (27)

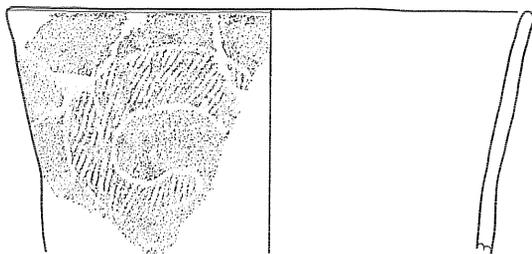


番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
418	SI 116 炉内	深鉢形土器	-	-	(14.6)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR7/6 明黄褐 外 7.5YR6/6 橙	
419	SI 116	深鉢形土器	29.3	-	(16.2)	砂粒多く混入	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 10YR6/3 にぶい黄橙	
420	SI 116 炉内	深鉢形土器	25.3	-	(10.0)	砂粒少量混入	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR5/2 灰黄褐	金雲母少量
421	SI 116	深鉢形土器	-	-	(27.5)	砂粒やや多く混入	内 10YR7/6 明黄褐 外 10YR7/6 明黄褐	金雲母少量
422	SI 116 ベルト層	深鉢形土器	32.2	-	(10.0)	砂粒少量混入	内 10YR7/3 にぶい黄褐 外 10YR7/4 にぶい黄褐	
423	SI 116	深鉢形土器	28.1	-	(17.3)	細砂粒少量混入	内 10YR7/4 にぶい黄褐 外 10YR8/3 浅黄橙	金雲母少量



番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調		備考
425	SI 116	深鉢形土器	-	11.9	(8.6)	砂粒少量混入	内 10YR8/3 浅黄橙	外 10YR7/3 にぶい黄橙	
426	SI 116	深鉢形土器	22.8	8.4	32.4	砂粒やや多く混入	内 7.5YR7/8 黄橙	外 7.5YR7/6 橙	
427	SI 116	深鉢形土器	25.1	7.2	21.2	砂粒少量混入	内 10YR7/3 にぶい黄橙	外 10YR6/4 にぶい黄橙	金雲母少量

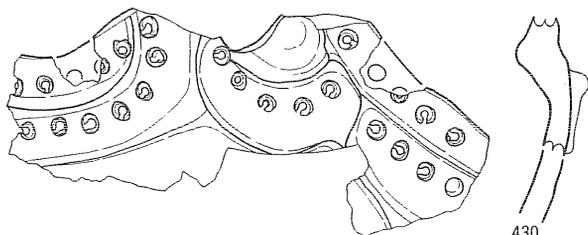
第115図 A区遺構内出土土器類 (28)



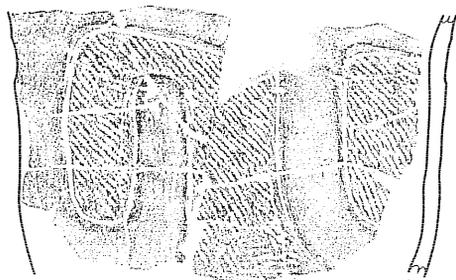
428
SI 116
埋土



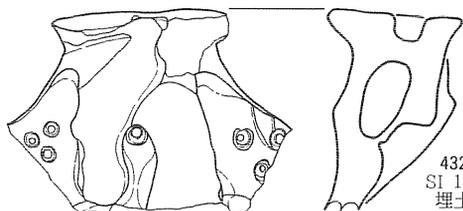
429
SI 116
埋土



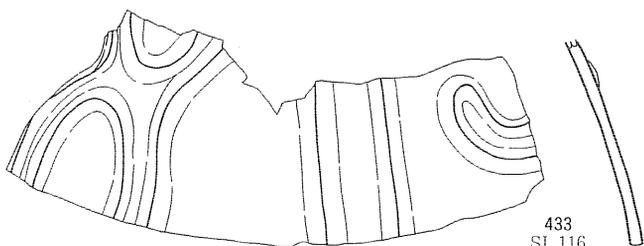
430
SI 116
埋土



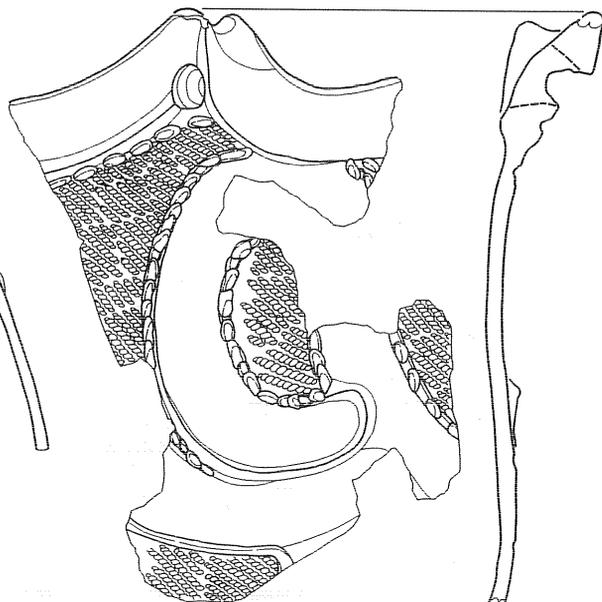
431
SI 116
埋土



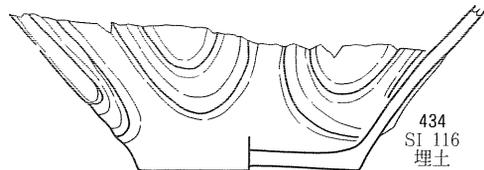
432
SI 116
埋土



433
SI 116
ベルトIV層



435
SI 116
炉内
ベルトV層



434
SI 116
埋土

428・429・431のみ

0 10cm

0 10cm

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
428	SI 116	深鉢形土器	28.2	-	(13.2)	砂粒少量混入	内 10YR8/2 灰白 外 10YR7/3 にぶい黄橙	
429	SI 116	深鉢形土器	-	-	(16.4)	精選	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR7/3 にぶい黄橙	
431	SI 116	深鉢形土器	-	-	(14.0)	砂粒少量混入	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 10YR6/6 明黄褐	
434	SI 116	深鉢形土器	-	8.9	(5.7)	精選	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 10YR6/3 にぶい黄橙	

第116図 A区遺構内出土土器類 (29)